平成22年度松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

公 開 数 量 内 訳 書

＜取扱上の注意事項＞

1　本内訳書に記載されている数量は参考数量であり、本内訳書は工事請負契約書に記載される設計図書には含まれない。

2　公開数量は、設計変更や出来高計算等の対象数量となるものではない。

3　公開数量は、平成19年基準国土交通省建築工事積算基準及び平成18年基準建築数量積算基準に準拠している。

4　本内訳書に質疑があるときは、公開数量に関する質問書に入札参加予定者が自ら作成した内訳書及びその根拠（部位別及び階別の集計表）を明示した数量見積書を添付して質問することができる。（細目は、工事担当者に問い合わせのこと。）

工 事 の 概 要

・ 主要用途　　小学校

・ 敷地面積

・ 施設規模　　RC造　地上3階　延床面積　2,458㎡

・ 工事の概要　　【耐震補強工事】

- ・ 外付けSRC補強ブレース　　5　箇所
- ・ 鉄骨ブレース補強　　2　箇所
- ・ RC壁新設補強　　2　箇所
- ・ RC壁開口閉塞補強　　1　箇所
- ・ 柱炭素繊維補強　　1　箇所
- ・ 鉄骨柱補強　　12　箇所

上記に伴う、電気設備工事一式及び機械設備工事一式

【外壁改修工事】

- ・ 既存塗膜撤去・補修の上、吹付け　　2,045　㎡

七　ヶ　浜　町

（数量公開用）

番　　号	調　査								設　計　者	検　査　者
七教第10-1653号	町長		副町長		財政課長		課長			

施工場所　七ヶ浜町松ヶ浜字神明裏　　地 内

平成 22 年度　松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事　　実施設計仕様書

事業費

一金　　円也

内消費税　　円也

期間

自

至　平成24年3月30日

「仕 様 概 要・そ の 他」

耐震補強工事

外付けSRC補強ブレース	5 箇所
鉄骨ブレース補強	2 箇所
RC壁新設補強	2 箇所
RC壁開口閉塞補強	1 箇所
柱炭素繊維補強	1 箇所
鉄骨柱補強	12 箇所

外壁改修工事

既存塗膜撤去・補修の上、吹付け	2045 ㎡

起　工　理　由

積　算　総　括　表			
工 事 名	松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事		
工 事 費	金　　円(消費税を含む)		
工事日数			
項　目	名　　称	金　　額　円)	摘　　要
A	直接工事費		
B	共通仮設費		
C	純工事費		
D	現場管理費		
E	工事原価		
F	一般管理費等		
G	同上(契約保証費)		
H	工事価格合計		
	改め		
	消費税等相当額		
	総　合　計		

項　目　別　内　訳　書

項目					名称	金額（円）	摘要
					耐震補強工事		
		A			指定仮設工事		
		B			直接工事費		
				1	耐震補強工事		
				2	改修工事		
					（合計）		

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考
					（円）	（円）	
A	指定仮設工事						
	交通誘導員B		150.0	人			
	仮囲い	H=2.0	50.6	m			
	仮囲い運搬	H=2.0	50.6	m			
	パネルゲート	W=5.4	1.0	か所			
	仮設間仕切下地	B種　軽鉄下地	501.0	m2			
	仮設間仕切	B種（片面） 石こうボード	501.0	m2			
	鉄板敷き		263.0	m2			
	（小計）						

七ヶ浜町

項　目　別　内　訳　書

項目					名称	金額（円）	摘要
		1			耐震補強工事		
				1	直接仮設工事		
				2	土工事		
				3	地業工事		
				4	耐震補強工事（鋼板内蔵RCﾌﾞﾚｰｽ）		
				5	耐震補強工事（柱炭素繊維補強）		
				6	耐震補強工事（RC壁増設）		
				7	耐震補強工事（鉄骨ブレース）		
				8	押出成形ｾﾒﾝﾄ板工事		
				9	防水工事		
				10	タイル工事		
				11	金属工事		
				12	左官工事		
				13	金属製建具工事		
				14	ガラス工事		
				15	塗装工事		
				16	内装工事		
				17	ユニット及びその他工事		
				18	撤去工事		
				19	発生材処分		
					（合計）		

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
1	耐震補強工事							
1	直接仮設工事							
	（外部）							
	養生（外壁改修）		43.0	m2				
	整理清掃（外壁改修）		43.0	m2				
	外部足場	枠組本足場　W900 （手すり先行方式）	471.0	m2				
	安全手すり	枠組本足場 （手すり先行方式）	43.0	m				
	ネット状養生シート	防炎Ｉ類	471.0	m2				
	仮設材運搬	枠組本足場　W900	471.0	m2				
	仮設材運搬	安全手すり	43.0	m				
	仮設材運搬	養生シート	471.0	m2				
	（内部）							
	墨出し（内部改修）		64.8	m2				
	養生（内部改修）		64.8	m2				
	整理清掃（内部改修）		64.8	m2				
	内部足場		64.8	m2				
	仮設材運搬	内部足場	64.8	m2				
	（小計）							

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
2	土工事							
	根切		23.2	m3				
	埋戻し		18.2	m3				
	床付け		11.4	m2				
	敷きならし	建設発生土	5.0	m3				
	土工機械運搬		1.0	往復				
	（小計）							

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
3	地業工事							
	砕石地業(再生材)	厚150(土間下)	0.7	m3				
	（小計）							

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
4	耐震補強工事	鋼板内蔵RCﾌﾞﾚｰｽ						
	あと施工アンカー打設	D19L-370　ナット共	244.0	ヶ所				
	あと施工アンカー打設	D19L-460　ナット共	604.0	ヶ所				
	あと施工アンカー打設	D22L-690　ナット共	8.0	ヶ所				
	鋼板 PL-12		1.54	t				
	鋼板 PL-22		16.77	t				
	角座金	50角 樹脂アンカー用	848.0	ヶ所				
	裏当て角座金	50角 位置固定用	216.0	ヶ所				
		等						
	ハイテンションボルト	HTB S10T	1,068.0	本				
	工場加工費	割裂防止筋仮止め費共	18.31	t				
	アンカー用孔明け		848.0	ヶ所				
	ボルト用孔明け		3,204.0	ヶ所				
	鉄骨取付費		13.34					
	鉄骨取付用重機費		13.34					
	鉄骨運搬		13.34					
	割裂防止筋　O型W440		876.0	本				
	割裂防止筋　O型W540		1,170.0	本				
	割裂防止筋　O型W640		435.0	本				
	割裂防止筋　U型W590		130.0	本				
	割裂防止筋　U型W690		252.0	本				
	割裂防止筋　U型W790		81.0	本				
	割裂防止筋　I型W840		76.0	本				
	割裂防止筋　I型W940		20.0	本				
	割裂防止メッシュ筋		2.0	ヶ所				
	割裂防止筋　U型		36.0	本				
	割裂防止筋取付費　O型		2,481.0	本				
	割裂防止筋取付費　U型		463.0	本				

明　細　書

名　　称	摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考
				（円）	（円）	
割裂防止筋取付費 I型		96.0	本			
割裂防止メッシュ筋 取付費		2.0	ヶ所			
割裂防止筋取付費 U型		36.0	本			
割裂防止筋運搬費		1.0	式			
乱れ防止筋		0.1	t			
乱れ防止筋 加工取付費		0.1	t			
割裂防止筋組立筋		0.89	t			
組立筋加工取付費		0.89	t			
鉄筋運搬費		0.99	t			
鉄筋場内小運搬費		0.99	t			
荷揚げ費		5.0	面			
打増部メッシュ筋補強		45.9	㎡			
コンクリート	FC30N/mm2 S21	29.6	m3			
高性能減水材		29.6	m3			
特殊ブレース型枠		174.0	m2			
既設取合目地取付		166.0	m			
打継目地		29.9	m			
誘発目地		58.0	m			
特殊ｾﾊﾟﾚｰﾀｰ取付用金物		174.0	m2			
耐震補強-既設取合 切付直し		166.0	m			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設費		29.6	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ車損料		3.0	回			
梁天端ｺﾝｸﾘｰﾄ均し		3.0	回			
はつり墨出し費		5.0	面			
既設躯体ｶｯﾀｰ		166.0	m			
既設ﾓﾙﾀﾙ撤去	発生材処分共	64.7	m2			
ｺﾝｸﾘｰﾄ面目荒し		64.7	m2			

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
	既設開口部養生費		119.0	m				
	既設目地取合ｼｰﾘﾝｸﾞ	PU-2 20×15	166.0	m				
	打継目地取合ｼｰﾘﾝｸﾞ	PU-2 20×15	29.9	m				
	誘発目地取合ｼｰﾘﾝｸﾞ	PU-2 20×15	58.0	m				
	梁天端防水下左官補修		25.3	m2				
	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放補修		174.0	m2				
	複層塗材E	RC面　下地調整(C-1)共 ゆず肌　ﾛｰﾗｰ塗り	174.0	m2				
	（小計）							

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
5	耐震補強工事	柱炭素繊維補強						
	養生費		8.0	m2				
	下地処理工	サンダーケレン	8.0	m2				
	面取工		11.0	m				
	プライマー工	エポキシプライマー	8.0	m2				
	不陸修正工	エポキシパテ又は樹脂モルタル	8.0	m2				
	墨出し工		8.0	m2				
	炭素繊維シート貼り付け	300g/㎡目付　3層貼	8.0	m2				
	CFアンカー設置	24K　108本　@150　φ 22	38.0	か所				
	試験費	引張・接着試験	1.0	式				
	インターネット貼付		8.0	m2				
	清掃片付け費		8.0	m2				
	（小計）							

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
6	耐震補強工事	RC壁増設						
	異形鉄筋	SD295AD10	0.3	t				
	異形鉄筋	SD295AD13	1.0	t				
	異形鉄筋	SD345D19	0.03	t				
	鉄筋加工組立	耐震改修	1.2	t				
	鉄筋運搬費	10t車、30km程度	1.2	t				
	鉄筋スクラップ控除		▲ 0.03	t				
	ｼｱｺﾈｸﾀｰ	D13	39.0	本				
	割裂防止ｽﾊﾟｲﾗﾙ筋	9φ @50径170φ	37.9	m				
	接着系ｱﾝｶｰ(横向き)	D10用、ｱﾝｶｰ筋L530共	16.0	本				
	接着系ｱﾝｶｰ(横向き)	D13用	150.0	本				
	接着系ｱﾝｶｰ(下向き)	D19用、ｱﾝｶｰ筋L610共	174.0	本				
	接着系ｱﾝｶｰ(横向き)	D19用、ｱﾝｶｰ筋L610共	136.0	本				
	接着系ｱﾝｶｰ(上向き)	D19用、ｱﾝｶｰ筋L610共	174.0	本				
	接着系ｱﾝｶｰ(下向き)	D19用、ｱﾝｶｰ筋L800共	4.0	本				
	接着系ｱﾝｶｰ(上向き)	D19用、ｱﾝｶｰ筋L800共	2.0	本				
	土間鉄筋溶接	D10、L=100	334.0	か所				
	外壁基礎 捨てｺﾝｸﾘｰﾄ	FC18-15-25	0.1	m3				
	耐震壁 普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	FC21+3-18-25	10.8	m3				
	柱増打 普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	FC30+3-18-25	0.7	m3				
	土間 普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	FC21+3-18-25	6.5	m3				
	機械基礎 普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	FC21+3-18-25	0.4	m3				
	外壁基礎 普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	FC21+3-18-25	0.4	m3				
	外壁基礎 捨てｺﾝｸﾘｰﾄ打設費（人力）		0.1	m3				
	耐震壁 ｺﾝｸﾘｰﾄ打設費	流込み工法	10.8	m3				
	柱増打 ｺﾝｸﾘｰﾄ打設費	流込み工法	0.7	m3				
	土間 ｺﾝｸﾘｰﾄ打設費（人力）	カート打	6.5	m3				
	機械基礎 ｺﾝｸﾘｰﾄ打設費（人力）	カート打	0.4	m3				
	外壁基礎 ｺﾝｸﾘｰﾄ打設費（人力）	カート打	0.4	m3				
	無収縮ﾓﾙﾀﾙ	Fc30N/mm2	0.9	m3				

明　細　書

名　　称	摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考
				（円）	（円）	
無収縮ﾓﾙﾀﾙ圧入用型枠	H200(両面)	17.0	m			
普通合板型枠	耐震改修用	11.3	m2			
打放し型枠	B種、耐震改修用	94.2	m2			
型枠運搬費	10t車、30km程度	105.0	m2			
打放し補修	B種　ｺｰﾝ処理	94.2	m2			
目荒し	床(梁天端)	3.6	m2			
目荒し	壁	3.5	m2			
目荒し	天井(梁底)	3.4	m2			
基礎　　天端ｺﾝｸﾘｰﾄ直均し		7.2	m			
（小計）						

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
7	耐震補強工事	鉄骨ブレース						
	切板鋼板(SS400)	PL-6	0.04	t				
	切板鋼板(SS400)	PL-9	0.2	t				
	切板鋼板(SS400)	PL-12	0.1	t				
	切板鋼板(SS400)	PL-16	0.5	t				
	H形鋼(SS400)	H-175×175×7.5×11	1.0	t				
	H形鋼(SS400)	H-175×90×5×8	0.1	t				
	角形鋼管(STKR400)	□-150×150×9	0.7	t				
	角形鋼管(STKR400)	□-75×75×3.2	0.1	t				
	等辺山形鋼(SS400)	L-50×50×6	0.2	t				
	頭付きｽﾀｯﾄﾞ	16φ、L=150	272.0	本				
	鉄骨工場錆止め塗装	鉄鋼面　工程B種 B種一般用1種	54.8	m2				
	鉄骨工場溶接	ｽﾐ肉6mm換算	329.0	m				
	鉄骨工場加工組立	鉄骨ﾌﾟﾚｰｽ	2.5	t				
	鉄骨運搬	6t車	2.5	t				
	鉄骨建方	鉄骨ﾌﾟﾚｰｽ	2.5	t				
	鉄骨スクラップ控除		▲ 0.1	t				
	高力ボルト	S10T　M20　L=60	288.0	本				
	高力ボルト	S10T　M20　L=50	72.0	本				
	高力ボルト締付	S10T	360.0	本				
	超音波探傷試験		14.0	か所				
	割裂防止ｽﾊﾟｲﾗﾙ筋	9φ @60径120φ	22.9	m				
	接着系ｱﾝｶｰ(下向き)	D19用､ｱﾝｶｰ筋L380共	46.0	本				
	接着系ｱﾝｶｰ(横向き)	D19用､ｱﾝｶｰ筋L380共	52.0	本				
	接着系ｱﾝｶｰ(上向き)	D19用､ｱﾝｶｰ筋L380共	46.0	本				
	無収縮ﾓﾙﾀﾙ	Fc30N/mm2	1.5	m3				
	無収縮ﾓﾙﾀﾙ圧入用型枠	H200	92.6	m				
	目荒し	床(梁天端)	2.2	m2				
	目荒し	天井(梁底)	1.3	m2				
	目荒し	壁	9.0	m2				

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称	摘　　要	数 量	単位	単 価 (円)	金 額 (円)	備　　考
あと施工アンカー	M16	48.0	本			
無収縮ﾓﾙﾀﾙ	厚30	12.0	ヶ所			
異形鉄筋	SD295AD10	0.1	t			
異形鉄筋	SD295AD16	0.07	t			
鉄筋スクラップ控除		▲ 0.004	t			
鉄筋溶接	D10 梁増し打ち	144.0	か所			
鉄筋加工組立	耐震改修	0.2	t			
鉄筋運搬費	10t車、30km程度	0.2	t			
接着系ｱﾝｶｰ(横向き)	D10用	528.0	本			
壁増打 普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	FC21+3-18-25	1.1	m3			
壁増打 ｺﾝｸﾘｰﾄ打設費	流込み工法	1.1	m3			
打放し型枠	B種、耐震改修用	12.0	m2			
打放し補修	B種　ｺｰﾝ処理	12.0	m2			
壁増打　　天 端ｺﾝｸﾘｰﾄ直均し		6.0	m			
（小計）						

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
8	押出成形ｾﾒﾝﾄ板工事							
	（外部）							
	壁 押出成形セメント板	ｱ60　横張り	13.3	m2				
	（小計）							

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
9	防水工事							
	（外部）							
	建具廻りシーリング	PU-2　10×10	12.7	m				
	笠木、水切りシーリング	PU-2　10×10	28.8	m				
	打ち継ぎ目地シーリング	PU-2　25×10	12.0	m				
	（内部）							
	壁シーリング	PU-2　10×10	47.0	m				
	（小計）							

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
10	タイル工事							
	（外部）							
	磁器質タイル	段鼻共	0.8	m				
	（内部）							
	床 磁器質タイル	150角	2.0	m2				
	（小計）							

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
11	金属工事							
	（外部）							
	壁 笠木	ｱﾙﾐ製	7.2	m				
	〃 水切り	ｱﾙﾐ製	7.2	m				
	（内部）							
	壁 軽鉄壁下地	65形　下地張りあり@450	17.5	m2				
	天井 軽鉄天井下地	19型@225　インサート含む	59.8	m2				
	（小計）							

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
12	左官工事							
	（外部）							
	床 ﾓﾙﾀﾙ金ごて	仕上、厚30	1.0	m2				
	階段 ﾓﾙﾀﾙ金ごて	仕上、厚30	10.4	m2				
	壁 複層塗材E	RC面　下地調整（C-1）共 ゆず肌　ﾛｰﾗｰ塗り	8.6	m2				
	〃 複層塗材E	押出成形ｾﾒﾝﾄ板面 下地調整共　ゆず肌　ﾛｰﾗｰ塗り	13.3	m2				
	現場発泡ウレタン吹付	厚25	13.3	m2				
	（内部）							
	床 ﾓﾙﾀﾙ金ごて	厚28、貼り物下	44.5	m2				
	〃 ﾓﾙﾀﾙ金ごて	仕上、厚30	13.8	m2				
	〃 ﾓﾙﾀﾙ木ごて	厚37、ﾀｲﾙ下	2.0	m2				
	壁 ﾗｽﾓﾙﾀﾙ		6.6	m2				
	柱型 ﾓﾙﾀﾙ金ごて	厚20	5.8	m2				
	（小計）							

七ヶ浜町

明　細　書

	名　　称	摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
13	金属製建具工事							
	ｱﾙﾐ製建具 AW104	W300×H600	2.0	か所				
	ｱﾙﾐ製建具 AW105	W870×H400	1.0	か所				
	ｱﾙﾐ製建具 AW106	W2870×H400	1.0	か所				
	運搬費		1.0	式				
	取付費		1.0	式				
	ｽﾁｰﾙﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝ SP101	W1925×H1800	3.0	ヶ所				
	運搬費		1.0	式				
	取付費		1.0	式				
	（小計）							

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価 （円）	金 額 （円）	備　　考	
14	ガラス工事							
	強化ｶﾞﾗｽ	シーリング、清掃共 厚4　2.00m2以下	4.0	m2				
	（小計）							

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
15	塗装工事							
	（内部）							
	壁 EP塗り	ケイカル板面 工程B種　素地B種	10.7	m2				
	〃 EP塗り	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 工程B種　素地B種	82.6	m2				
	〃 EP塗り	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ面（継目） 工程B種　素地A種	14.1	m2				
	〃 SOP塗り	鉄骨面　　工程B種 錆止工程A塗料B	0.5	m2				
	柱型 EP塗り	ﾓﾙﾀﾙ面 工程B種　素地B種	8.7	m2				
	建具枠 EP-G塗り	木部　素地A種	5.1	m2				
	（小計）							

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
16	内装工事							
	（内部）							
	床 ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ	厚2.0　熱溶接工法	46.3	m2				
	巾木 ﾋﾞﾆﾙ巾木	H100	25.9	m				
	壁 けい酸カルシウム板	厚6　突付け	10.7	m2				
	〃 合板	厚12　ラワンⅠ類	9.8	m2				
	〃 石膏ﾎﾞｰﾄﾞ	厚12.5　鋼製下地　継目処理	14.1	m2				
	〃 ｼｰｼﾞﾝｸﾞ石膏ﾎﾞｰﾄﾞ	厚12.5　鋼製下地　下地張り	0.9	m2				
	天井 化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ	厚9.5　不燃　ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ	35.8	m2				
	〃 有孔石膏ﾎﾞｰﾄﾞ	厚9.5　不燃紙裏打	24.0	m2				
	〃 廻り縁	塩ビ	31.7	m				
	建具枠 集成材	厚25	5.1	m2				
	（小計）							

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
17	ユニット及びその他工事							
	（外部）							
	竪樋新設	VP　100φ　カラー	63.3	m				
	ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装新設	A-3-10　再生密粒 再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ	5.2	m2				
	（内部）							
	ｶﾞﾗｽｹｰｽ取外し、再取付	1500×470×1000	1.0	か所				
	ﾛｯｶｰ取外し、再取付	900×450×1800	1.0	か所				
	下駄箱取外し、再取付	1880×330×1800	1.0	か所				
	掲示板取外し、再取付	1800×1350	2.0	か所				
	ポストフォーム	多目的トイレ	0.2	m2				
	手摺取外し	多目的トイレ	2.0	か所				
	手摺再取付	多目的トイレ	2.0	か所				
	（小計）							

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
18	撤去工事							
	（外部）							
	ｺﾝｸﾘｰﾄｶｯﾀｰ		70.1	m				
	上部ｺﾝｸﾘｰﾄ撤去	鉄筋切断共	7.0	m3				
	土間ｺﾝｸﾘｰﾄｶｯﾀｰ		37.4	m				
	土間ｺﾝｸﾘｰﾄ撤去	鉄筋切断共	6.7	m3				
	機械基礎撤去	無筋	0.4	m3				
	庇 ｺﾝｸﾘｰﾄｶｯﾀｰ		21.6	m				
	庇 ｺﾝｸﾘｰﾄ撤去	鉄筋切断共	5.8	m3				
	竪樋撤去	VP　100φ	63.3	m				
	ｱﾙﾐ製建具撤去		10.9	m2				
	ｶﾞﾗｽ撤去	厚4	10.9	m2				
	建具廻りはつり	RC15	23.1	m				
	ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装撤去		0.2	m3				
	タイル撤去	段鼻共	0.1	m2				
	建具廻りｼｰﾘﾝｸﾞ撤去		12.7	m				
	（内部）							
	床 ﾓﾙﾀﾙ撤去	厚30	13.8	m2				
	〃 ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ撤去	厚2	35.7	m2				
	〃 下地ﾓﾙﾀﾙ撤去	厚28	37.7	m2				
	〃 磁器質ﾀｲﾙ撤去	下地ﾓﾙﾀﾙ共	2.0	m2				
	〃 ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ撤去	厚15	10.9	m2				
	〃 下地ﾓﾙﾀﾙ撤去	厚15	10.9	m2				
	壁 木間仕切撤去		6.4	m2				
	柱型 ﾓﾙﾀﾙ撤去		6.8	m2				
	天井 化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ撤去	厚9.5	24.0	m2				
	〃 化粧有孔ﾎﾞｰﾄﾞ撤去	厚9	49.9	m2				
	〃 天井下地撤去	40×45　@450	73.9	m2				

明　細　書

名　　称	摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考
				（円）	（円）	
掲示板撤去	6100×1200	1.0	か所			
木製棚撤去	6100×470×750	1.0	か所			
木製ﾛｯｶｰ撤去	600×470×1920	1.0	か所			
煙突撤去（石綿管180φ ）	アスベスト含有建材	1.0	か所			
（小計）						

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
19	発生材処分							
	発生材積込み	ｶﾞﾗｽ	0.04	m3				
	発生材積込み	ｺﾝｸﾘｰﾄ	19.8	m3				
	発生材積込み	ﾀｲﾙ	0.01	m3				
	発生材積込み	ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ	0.2	m3				
	発生材積込み	ﾓﾙﾀﾙ	1.9	m3				
	発生材積込み	廃ﾌﾟﾗ	0.1	m3				
	発生材積込み	GB-R	0.7	m3				
	発生材積込み	木くず	1.1	m3				
	発生材運搬	ｶﾞﾗｽ DID区間有り　11.6km	0.04	m3				
	発生材運搬	ｺﾝｸﾘｰﾄ DID区間有　4.7km	19.8	m3				
	発生材運搬	ﾀｲﾙ DID区間有り　11.6km	0.01	m3				
	発生材運搬	ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ DID区間有り　11.0km	0.2	m3				
	発生材運搬	ﾓﾙﾀﾙ DID区間有り　4.7km	1.9	m3				
	発生材運搬	廃ﾌﾟﾗ DID区間有り　10.3km	0.1	m3				
	発生材運搬	GB-R DID区間有り　20.9km	0.7	m3				
	発生材運搬	木くず DID区間有り　10.3km	1.1	m3				
	発生材処分	ｶﾞﾗｽ 大成ロテック	0.04	m3				
	発生材処分	ｺﾝｸﾘｰﾄ NIPPOｺｰﾎﾟﾚｰｼｮﾝ 多賀城	19.8	m3				
	発生材処分	ﾀｲﾙ 大成ロテック	0.01	m3				
	発生材処分	ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ サイコー	0.2	m3				
	発生材処分	ﾓﾙﾀﾙ NIPPOｺｰﾎﾟﾚｰｼｮﾝ 多賀城	1.9	m3				
	発生材処分	廃ﾌﾟﾗ サイコー	0.1	m3				
	発生材処分	GB-R 宮城県環境事業公社	0.7	m3				
	発生材処分	木くず サイコー	1.1	m3				
	産廃税		0.7	t				
	（小計）							

七ヶ浜町

項　目　別　内　訳　書

項目					名称	金額（円）	摘要
		2			改修工事		
				1	直接仮設工事		
				2	タイル工事		
				3	金属工事		
				4	左官工事		
				5	塗装工事		
				6	内装工事		
				7	ユニット及びその他工事		
				8	撤去工事		
				9	発生材処分		
					（合計）		

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考
					（円）	（円）	
2	改修工事						
1	直接仮設工事						
	（内部）						
	墨出し（内部改修）		258.0	m2			
	養生（内部改修）		258.0	m2			
	整理清掃（内部改修）		258.0	m2			
	内部足場		258.0	m2			
	仮設材運搬	内部足場	258.0	m2			
	（小計）						

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
2	タイル工事							
	（内部）							
	床 磁器質タイル	150角	0.9	m2				
	（小計）							

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
3	金属工事							
	（内部）							
	壁 軽鉄壁下地	65形　下地張りあり @450	3.6	m2				
	天井 軽鉄天井下地	19型@225　インサート含む	234.0	m2				
	（小計）							

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
4	左官工事							
	（内部）							
	床 モルタル金ごて	厚28、貼り物下	180.0	m2				
	〃 モルタル金ごて	仕上、厚30	46.7	m2				
	〃 モルタル木ごて	厚37、タイル下	0.9	m2				
	（小計）							

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
5	塗装工事							
	（内部）							
	壁 EP塗り	ケイカル板面 工程B種　素地B種	6.0	m2				
	壁 EP塗り	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ面（継目） 工程B種　素地A種	16.3	m2				
	（小計）							

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
6	内装工事							
	（内部）							
	床 ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ	厚2.0　熱溶接工法	197.0	m2				
	巾木 ﾋﾞﾆﾙ巾木	H100	3.3	m				
	壁 けい酸カルシウム板	厚6　突付け	6.0	m2				
	〃 合板	厚12　ラワンⅠ類	6.0	m2				
	〃 石膏ﾎﾞｰﾄﾞ	厚12.5　鋼製下地　継目処理	16.3	m2				
	天井 化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ	厚9.5　不燃　ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ	206.0	m2				
	天井 有孔石膏ﾎﾞｰﾄﾞ	厚9.5　不燃紙裏打	28.3	m2				
	〃 廻り縁	塩ビ	190.0	m				
	（小計）							

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
7	ユニット及びその他工事							
	（内部）							
	下駄箱取外し、再取付	1350×550×1760	1.0	か所				
	下駄箱取外し、再取付	2500×350×1760	12.0	か所				
	下駄箱取外し、再取付	2700×350×1760	2.0	か所				
	下駄箱取外し、再取付	3600×300×1800	1.0	か所				
	木製棚取外し、再取付	5700×400×650	1.0	か所				
	（小計）							

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
8	撤去工事							
	（内部）							
	床 ﾓﾙﾀﾙ撤去	厚30	47.6	m2				
	〃 ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ撤去	厚2	55.8	m2				
	〃 下地ﾓﾙﾀﾙ撤去	厚28	66.5	m2				
	〃 磁器質ﾀｲﾙ撤去	下地ﾓﾙﾀﾙ共	19.6	m2				
	〃 ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ撤去	厚15	140.0	m2				
	〃 下地ﾓﾙﾀﾙ撤去	厚15	140.0	m2				
	壁 木間仕切撤去		8.2	m2				
	天井 化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ撤去	厚9.5	28.3	m2				
	天井 有孔石膏ﾎﾞｰﾄﾞ撤去	厚9	201.0	m2				
	〃 天井下地撤去	40×45　@450	229.0	m2				
	（小計）							

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
9	発生材処分							
	発生材積込み	ﾀｲﾙ	0.1	m3				
	発生材積込み	ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ	2.1	m3				
	発生材積込み	ﾓﾙﾀﾙ	5.4	m3				
	発生材積込み	廃ﾌﾟﾗ	0.1	m3				
	発生材積込み	GB-R	2.1	m3				
	発生材積込み	木くず	2.7	m3				
	発生材運搬	ﾀｲﾙ DID区間有り　11.6km	0.1	m3				
	発生材運搬	ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ DID区間有り　10.3km	2.1	m3				
	発生材運搬	ﾓﾙﾀﾙ DID区間有り　4.7km	5.4	m3				
	発生材運搬	廃ﾌﾟﾗ DID区間有り　10.3km	0.1	m3				
	発生材運搬	GB-R DID区間有り　20.9km	2.1	m3				
	発生材運搬	木くず DID区間有り　10.3km	2.7	m3				
	発生材処分	ﾀｲﾙ 大成ロテック	0.1	m3				
	発生材処分	ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ サイコー	2.1	m3				
	発生材処分	ﾓﾙﾀﾙ NIPPOｺｰﾎﾟﾚｰｼｮﾝ 多賀城	5.4	m3				
	発生材処分	廃ﾌﾟﾗ サイコー	0.1	m3				
	発生材処分	GB-R 宮城県環境事業公社	2.1	m3				
	発生材処分	木くず サイコー	2.7	m3				
	産廃税		2.1	t				
	（小計）							

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考
					（円）	（円）	
B	電気設備工事						
	直接工事費						
1-1	電灯設備	電灯分岐	1.0	式			
1-2	電灯設備	コンセント分岐	1.0	式			
2-1	動力設備	動力幹線	1.0	式			
2-2	動力設備	動力分岐	1.0	式			
3	自動火災報知設備		1.0	式			
	計						

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
1-1	電灯設備	電灯分岐						
	撤去品再取付							
	照明器具	A22	2.0	台				
	撤去品再取付							
	照明器具	A41	5.0	台				
	撤去品再取付							
	照明器具	A43	8.0	台				
	撤去品再取付							
	照明器具	B42	4.0	台				
	撤去(再取付有)							
	照明器具	A22	2.0	台				
	撤去(再取付有)							
	照明器具	A41	5.0	台				
	撤去(再取付有)							
	照明器具	A43	8.0	台				
	撤去(再取付有)							
	照明器具	B42	4.0	台				

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
1-2	電灯設備	コンセント分岐						
	電線管	PF22 ｲﾝﾍﾟｲ	5.0	m				
	メタルﾓｰﾙ	MM1-A	14.0	m				
	スイッチボックス	MM1-A	5.0	個				
	アウトレットボックス	102°×44　C付	3.0	個				
	ケーブル	EM-EEF 2.0-3C　PFﾅｲ	5.0	個				
	ケーブル	EM-EEF 2.0-3C　ｺﾛｶﾞｼ	14.0	m				
	埋込コンセント	2P 15A × 2	9.0	個				
	埋込コンセント	2P 15A × 1 (WP)	1.0	個				
	撤去処分							
	埋込コンセント	2P 15A × 2	9.0	個				
	撤去処分							
	埋込コンセント	2P 15A × 1 (WP)	1.0	個				

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
2-1	動力設備	動力幹線						
	撤去品再取付							
	電線管	E63 ﾛｼｭﾂ	72.0	m				
	撤去品再取付							
	電線	IV 60°×1 ｶﾝﾅｲ	216.0	m				
	プルボックス	SS300°×200 SUS WP	3.0	個				
	撤去(再取付有)							
	電線管	E63 ﾛｼｭﾂ	72.0	m				
	撤去(再取付有)							
	電線	IV 60°×1 ｶﾝﾅｲ	216.0	m				
	撤去処分							
	プルボックス	SS300°×200 SUS WP	3.0	個				

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
2-2	動力設備	動力分岐						
	電線管	G22 ﾛｼｭﾂ	16.0	m				
	ケーブル	EM-CE 3.5°-3C ｶﾝﾅｲ	20.0	m				
				m				
	撤去処分							
	電線管	25 ﾛｼｭﾂ	14.0	m				
	撤去処分							
	ケーブル	CV 3.5°-3C ｶﾝﾅｲ	17.0	m				

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
3	自動火災報知設備							
	差動式スポット型感知器	2種	3.0	個				
	撤去処分							
	差動式スポット型感知器	2種	3.0	個				

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考
					（円）	（円）	
C	機械設備設備工事						
	直接工事費						
1	校舎						
	1-1　空調･暖房設備		1.0	式			
	1―2　衛生器具設備		1.0	式			
	1-3　給水設備		1.0	式			
	1-4　排水設備		1.0	式			
	1-5　消火設備		1.0	式			
	計						

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
1	校舎							
1-1	空調･暖房設備							
	ルームクラー屋外機	取外再取付	2.0	台				
	温風暖房機取外再取付	6,370kcal/h	6.0	台				
	油　配　管　更　新	被覆銅管8Φ	20.0	m				
	油　配　管　撤　去	被覆銅管8Φ	20.0	m				
	冷　媒　配　管	12.7Φ	9.0	m				
	冷　媒　配　管	6.4Φ	9.0	m				
	冷　媒　配　管　撤　去	12.7Φ	9.0	m				
	冷　媒　配　管　撤　去	6.4Φ	9.0	m				
	パイプファン取外再取付		1.0	個				
	はつり補修	100Φ	4.0	ヶ所				
	小計							

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
1-2	衛生器具設備							
	洋風大便器取外		1.0	組				
	洗面器取外		1.0	組				
	傾斜鏡取外		1.0	組				
	化粧棚取外		1.0	組				
	洋風大便器再取付		1.0	組				
	洗面器再取付		1.0	組				
	傾斜鏡再取付		1.0	組				
	化粧棚再取付		1.0	組				

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
1-3	給水設備							
	給水管接続	保温有り 20A	2.0	m				
	給水管接続	保温有り 25A	1.0	m				
		屋内一般						
	ﾎﾟﾘ粉体ﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管	PB20A	14.0	m				
		便所						
	ﾎﾟﾘ粉体ﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管	PD20A	4.0	m				
		便所						
	ﾎﾟﾘ粉体ﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管	PD25A	3.0	m				
		埋設						
	ポリエチレン管	PP20A	1.0					
	保温	屋内隠蔽 20A	14.0	m				
	水栓	13-F6	1.0	個				
	水抜栓	20A-0.4	1.0	個				
	水抜栓ボックス	VC-P	1.0	個				
	配管撤去	給水管 20A	18.0	m				
	配管撤去	給水管 25A	18.0	個				
	水栓撤去		1.0	個				

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
1-4	排水設備							
	既設管接続	樹脂管　65A　保温なし	3.0	ヶ所				
	小口径塩ビ桝	UTK100×75-150　-400	1.0	個				
	小口径塩ビ桝	UT100×75-150　-430	1.0	個				
	小口径塩ビ桝	45YS　100×150　-460	1.0	個				
	小口径塩ビ桝	UT100×75-150　-480	1.0	個				
	小口径塩ビ桝	UT100×75-150　-490	1.0	個				
	インバー桝改修	600口以下	1.0	ヶ所				
	床上掃除口	COA100	1.0	個				
		便所						
	硬質塩化ビニル管	VP　100A	2.0	m				
		便所						
	硬質塩化ビニル管	VP　75A	1.0	m				
		便所						
	硬質塩化ビニル管	VP　65A	3.0	m				
		便所						
	硬質塩化ビニル管	VP　40A	2.0	m				
		埋設						
	硬質塩化ビニル管	VP　100A	4.0	m				
	根切	機械0.13m3	1.2					
	砂埋め戻し		0.2					
	残土処分		0.2					
	埋め戻し	機械0.13m3	1.0					

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
1-5	消火設備							
		保温有り						
	消火管切断	65A	2.0	ヶ所				
		保温有り						
	消火管接続	65A	2.0	ヶ所				
		屋内一般						
	配管用炭素鋼鋼管	65A	14.0	m				
		埋設						
	外面被服鋼管	VS　65A	17.0	m				
	保温	屋内露出65A	10.0	m				
	保温	屋外ﾗｯｷﾝｸﾞ露出65A	4.0	m				
	可とう継ぎ手	FJ65	2.0	個				
	配管撤去	65A	26.0	m				
	可とう継ぎ手撤去	FJ65	2.0	個				
	根切	機械0.13m3	6.1					
	砂埋め戻し		2.2					
	残土処分		2.2					
	埋め戻し	機械0.13m3	3.9					

項　目　別　内　訳　書

項目					名称	金額（円）	摘要
					松ヶ浜小学校校舎外壁改修工事		
		A			指定仮設工事		
		B			外壁改修工事		
				1	直接仮設工事		
				2	防水工事		
				3	左官工事		
				4	金属製建具工事		
				5	ガラス工事		
				6	ユニット及びその他工事		
				7	下地補修工事		
				8	撤去工事		
				9	発生材処分		
					（合計）		

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考
					（円）	（円）	
1	外壁改修工事						
1	直接仮設工事						
	（外部）						
	養生（外壁改修）		214.0	m2			
	整理清掃（外壁改修）		214.0	m2			
	養生（屋上防水改修）		6.8	m2			
	整理清掃（屋上防水改修）		6.8	m2			
	外部足場	枠組本足場　W900 （手すり先行方式）	2,010.0	m2			
	安全手すり	枠組本足場 （手すり先行方式）	289.0	m			
	ネット状養生シート	防炎Ｉ類	2,010.0	m2			
	仮設材運搬	枠組本足場　W900	2,010.0	m2			
	仮設材運搬	安全手すり	289.0	m			
	仮設材運搬	養生シート	2,010.0	m2			
	（小計）						

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価 （円）	金 額 （円）	備　　考	
2	防水工事							
	（外部）							
	屋上 ウレタン塗膜防水	平部	9.1	m2				
	建具 建具廻りシーリング	PU-2　10×10	919.0	m				
	壁 シーリング	外壁目地　PU-2　25×10	474.0	m				
	（小計）							

七ヶ浜町

明　細　書

	名　　称	摘　　要	数 量	単位	単 価 (円)	金 額 (円)	備　　考	
3	左官工事							
	(外部)							
	壁 複層塗材E	RC面　下地調整(C-1)共 ゆず肌　ローラー塗り	1,923.0	m2				
	軒天 外装薄塗材E	RC面　下地調整(C-1)共 砂壁状　吹付け	122.0	m2				
	建具廻り防水モルタル詰め	外部	321.0	m				
	壁 モルタル金ごて	厚25	32.1	m2				
	(内部)							
	壁 モルタル金ごて	厚20	32.1	m2				
	(小計)							

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
4	金属製建具工事							
	ｱﾙﾐ製建具 AW101	W14110×H1230	6.0	か所				
	ｱﾙﾐ製建具 AW102	W10470×H1230	5.0	か所				
	ｱﾙﾐ製建具 AW103	W8700×H1230	1.0	か所				
	運搬費		1.0	式				
	取付費		1.0	式				
	（小計）							

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価 （円）	金 額 （円）	備　　考	
5	ガラス工事							
	強化ｶﾞﾗｽ	シーリング、清掃共 厚4　2.00m2以下	166.0	m2				
	（小計）							

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価 （円）	金 額 （円）	備　　考	
6	ユニット及びその他工事							
	（外部）							
	屋上 ﾈｯﾄﾌｪﾝｽ新設	H=1500　亜鉛めっき品	158.0	m				
	竪樋新設	VP　100φ　カラー	31.7	m				
	（内部）							
	額縁	65×25　米つが	321.0	m				
	額縁 EP-G塗り	木部　糸幅300以下　素地A種	321.0	m				
	壁 EP塗り	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 工程B種　素地B種	32.1	m2				
	（小計）							

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
7	下地補修							
	（外部）							
	既存塗膜除去	ｻﾝﾀﾞｰ工法	2,045.0	m2				
	施工数量調査	仕上塗材改修	2,045.0	m2				
	水洗い		2,045.0	m2				
	浮き　0.25㎡未満	ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ部分エポキシ樹脂注入	6.0	m2				
	浮き　0.25㎡以上	ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面エポキシ樹脂注入	93.7	m2				
	ｸﾗｯｸ　0.2～1.0mm以下	ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法（低速低圧式）	409.0	m				
	ｸﾗｯｸ処理補修	既存ｼｰﾙ撤去、ｼｰﾙ再充填	266.0	m				
	欠損（鉄筋露出）　0.2m×0.2m以下	防錆処理、ｴﾎﾟｷｼ樹脂充填	6.0	ヶ所				
	欠損　0.2m×0.5m以上	脆弱部除去、浸透性ﾌﾟﾗｲﾏｰ塗布、ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ充填	3.0	m				
	欠損　0.2m×0.5m以下	脆弱部除去、浸透性ﾌﾟﾗｲﾏｰ塗布、ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ充填	12.0	ヶ所				
	欠損　0.2m×0.2m以下	脆弱部除去、浸透性ﾌﾟﾗｲﾏｰ塗布、ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ充填	3.0	ヶ所				
	凍害　深さ10mm程度	脆弱部除去、浸透性ﾌﾟﾗｲﾏｰ塗布、ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ充填	15.0	m2				
	（小計）							

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
8	撤去工事							
	（外部）							
	庇 ｺﾝｸﾘｰﾄｶｯﾀｰ		24.6	m				
	庇 ｺﾝｸﾘｰﾄ撤去	鉄筋切断共	5.9	m3				
	屋上 ﾌｪﾝｽ撤去	H=1200	158.0	m				
	竪樋撤去	VP　100φ	31.7	m				
	ｱﾙﾐ製建具撤去		179.0	m2				
	ｶﾞﾗｽ撤去	厚4	179.0	m2				
	壁 ﾓﾙﾀﾙｶｯﾀｰ	建具廻り	321.0	m				
	〃 ﾓﾙﾀﾙ撤去	建具廻り	32.1	m2				
	建具廻りはつり		321.0	m				
	建具廻りｼｰﾘﾝｸﾞ撤去		919.0	m				
	壁 ﾓﾙﾀﾙｶｯﾀｰ		948.0	m				
	〃 ﾓﾙﾀﾙ撤去	外壁目地	11.8	m2				
	〃 ｼｰﾘﾝｸﾞ撤去	外壁目地	474.0	m				
	（内部）							
	壁 ﾓﾙﾀﾙｶｯﾀｰ		321.0	m				
	〃 ﾓﾙﾀﾙ撤去		32.1	m2				
	（小計）							

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価	金 額	備　　考	
					（円）	（円）		
9	発生材処分							
	発生材積込み	ｶﾞﾗｽ	0.7	m3				
	発生材積込み	ｺﾝｸﾘｰﾄ	5.9	m3				
	発生材積込み	ﾓﾙﾀﾙ	1.7	m3				
	発生材積込み	廃ﾌﾟﾗ	0.3	m3				
	発生材運搬	ｶﾞﾗｽ DID区間有り　11.6km	0.7	m3				
	発生材運搬	ｺﾝｸﾘｰﾄ DID区間有　4.7km	5.9	m3				
	発生材運搬	ﾓﾙﾀﾙ DID区間有り　4.7km	1.7	m3				
	発生材運搬	廃ﾌﾟﾗ DID区間有り　10.3km	0.3	m3				
	発生材処分	ｶﾞﾗｽ 大成ロテック	0.7	m3				
	発生材処分	ｺﾝｸﾘｰﾄ NIPPOｺｰﾎﾟﾚｰｼｮﾝ 多賀城	5.9	m3				
	発生材処分	ﾓﾙﾀﾙ NIPPOｺｰﾎﾟﾚｰｼｮﾝ 多賀城	1.7	m3				
	発生材処分	廃ﾌﾟﾗ サイコー	0.3	m3				
	（小計）							

七ヶ浜町

平成22年度松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

設計図

七　ヶ　浜　町

株式会社　構　建築設計事務所

図面リスト

図面番号	図面名	縮尺	図面番号	図面名	縮尺	図面番号	図面名	縮尺	図面番号	図面名	縮尺
意匠			構造			電気設備			機械設備		
	表紙		Ｓ－１	耐震補強特記仕様書１		Ｅ－１	電気設備改修工事特記仕様書		Ｍ－１	機械設備改修工事特記仕様書	
Ａ－１	図面リスト		Ｓ－２	耐震補強特記仕様書２		Ｅ－２	案内図・配置図	1/500	Ｍ－２	案内図・配置図	1/500
Ａ－２	改修特記仕様書１		Ｓ－３	鋼板内臓ＲＣブレース仕様書－１		Ｅ－３	電気設備　１階平面図	1/100	Ｍ－３	空調・暖房設備　改修前・改修後　１階平面図	1/100
Ａ－３	改修特記仕様書２		Ｓ－４	鋼板内臓ＲＣブレース仕様書－２					Ｍ－４	衛生設備　改修前・改修後　１階平面図	1/50・100
Ａ－４	改修特記仕様書３		Ｓ－５	基礎及び基礎梁伏図・２階梁伏図（補強計画図）	1/200						
Ａ－５	改修特記仕様書４		Ｓ－６	３階梁伏図・Ｒ階梁伏図・ＰＨ階梁伏図（補強計画図）	1/200						
Ａ－６	各工事の区分表		Ｓ－７	軸組図－１（補強計画図）	1/200						
Ａ－７	案内図・配置図	1/500	Ｓ－８	軸組図－２（補強計画図）	1/200						
Ａ－８	仮設計画図	1/500	Ｓ－９	基礎・柱リスト（既存）	1/30・50						
Ａ－９	仕上表		Ｓ－１０	大梁リスト（既存）	1/30・50						
Ａ－１０	改修前・改修後　１階平面図	1/100	Ｓ－１１	各部材リスト（既存）	1/30・50						
Ａ－１１	改修前・改修後　２階平面図	1/100	Ｓ－１２	補強壁（W15A・W20A）リスト（既存）	1/20・30						
Ａ－１２	改修前・改修後　３階平面図	1/100	Ｓ－１３	ＲＣ新設壁（HW25）詳細図	1/40						
Ａ－１３	改修前・改修後　Ｒ階平面図	1/100	Ｓ－１４	鉄骨ブレース補強（KB175）詳細図	1/40						
Ａ－１４	改修前　南、東立面図	1/100	Ｓ－１５	部分補強配筋詳細図	1/20・40						
Ａ－１５	改修前　北、西立面図	1/100	Ｓ－１６	鋼板内臓ＲＣブレース補強詳細図	1/50						
Ａ－１６	改修後　南、東立面図	1/100	Ｓ－１７	鋼板内臓ＲＣブレース補強部材リスト	1/20・30						
Ａ－１７	改修後　北、西立面図	1/100	Ｓ－１８	鉄骨柱新設（SP）詳細図	1/20・30						
Ａ－１８	改修前・改修後　矩計図	1/30									
Ａ－１９	改修前・改修後　昇降口平面詳細図、矩計図	1/30・50									
Ａ－２０	改修前・改修後　階段室１平面詳細図、矩計図	1/30・50									
Ａ－２１	改修前・改修後　階段室２平面詳細図、矩計図	1/30・50									
Ａ－２２	改修前・改修後　１階天井伏図	1/100									
Ａ－２３	改修前・改修後　２階天井伏図	1/100									
Ａ－２４	改修前・改修後　３階天井伏図	1/100									
Ａ－２５	建具表１	1/50									
Ａ－２６	建具表２	1/50									

JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

図面リスト

DATE　SCAL　DRAWN　CHEK　Ａ－１

株式会社 構 建築設計事務所

一級建築士　第 295317 号　徳田　伸治

特記仕様書

Ⅰ 工事概要

1 工事番号・名称　平成22年度松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事
2 工事場所　宮城県七ヶ浜町松ヶ浜字神明裏52番地
3 用途地域等
都市計画区域（⊙ 内 ・ 外）　用途地域（　　）
防火地域等（・ 防火 ・ 準防火 ・ 指定なし ⊙ ２２条 ）
その他の地域・地区（　　）
4 主要用途　小学校
5 敷地面積　㎡
6 工事の概要

7 別途工事

8 その他

9 特記仕様書の範囲
特記仕様書は、本特記仕様書のほか以下の○印もので構成する。
⊙ 構造特記仕様書 ・ 外構工事特記仕様書 ・ 植栽工事特記仕様書
・ 解体工事特記仕様書 ⊙ 電気設備工事特記仕様書 ⊙ 機械設備工事特記仕様書
・

Ⅱ 建築工事仕様

1．共通仕様
図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房営繕部監修の「公共建築改修工事標準仕様書(平成19年版)」（以下、「改修標準仕様書」という。）による。
ただし，「改修標準仕様書」に記載されていない事項は，「公共建築工事標準仕様書（平成19年版）」(以下「標準仕様書」という。）及び「建築物解体工事共通仕様書(平成18年版）」（以下「解体共通仕様書」という。）による。
なお、施工条件明示書は特記仕様書に含める。
2．特記仕様
1）項目は、番号に○印のついたものを適用する。
2）特記事項は、⊙印のついたものを適用する。⊙印のつかない場合は※印のついたものを適用する。⊙印と※印のついた場合は、共に適用する。
3）特記事項に記載の＜ ＞、（ ）及び［ ］内の表示番号は、それぞれ「改修標準仕様書」及び「標準仕様書」及び「解体共通仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。

章	項目	特記事項
1 一般共通事項	①. 一般事項	⊙ 工事施工中に予期せぬ事態や疑義が生じた場合には、監督職員に報告の上、指示に従うこと。 ⊙ 請負業者は、監督職員と随時打合せを行い、工程の確認・調整及び工事の円滑な進捗をはかること。 ・ 工事着手前及び完成時に，以下に示す調査範囲の近隣家屋等の内外の状況（地盤，擁壁，内外壁，床，建具等）を調査・記録し，報告書を監督職員に提出すること。 調査範囲　※ 図示
	②. 適用基準等	⊙ 建設工事執行規則(昭和39年3月宮城県規則第9号) ⊙ 宮城県建設工事元請・下請関係適正化要綱（平成21年4月1日施行） ⊙ 建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　平成17年版） ⊙ 宮城県建築工事写真撮影要領（宮城県土木部制定　平成12年版）
	3．概成工期	工事工期より　日前　<1.1.2>
	④. 工事実績情報(CORINS)の登録	※ 適用する（請負精算額が500万円以上の場合）　<1.1.4> 受注時、変更時及び完了時にあらかじめ監督職員の確認を受け、登録手続きを行い、工事カルテの受領書を、監督職員に提出すること。 （請負額が2,500万円未満の場合は、受注時のみ） ・ 適用しない
	⑤. 発生材の処理等	発生材の処理　<1.3.8> ・引渡しを要するもの（　　） ・特別管理産業廃棄物（　　） 受入れ施設名・所在地(km) ・現場において再利用を図るもの（　　） ・再生資源化を図るもの

種類	受入施設名	所在地(Km)	備考
⊙ コンクリート塊	㈱ＮＩＰＰＯコーポレーション多賀城	多賀城市笠2-217-6　5.3km	
・ アスファルトコンクリート塊			
⊙ 建設発生木材	㈱サイコー	仙台市宮城野区蒲生2-2-1　11.0km	
・ コンクリートから成る建設資材			

⊙その他の廃棄物（安定型）

種類	受入施設名	所在地(Km)	備考
石こうボード	(財)宮城県環境事業公社	黒川郡大和町鶴巣小鶴沢字大沢5　17.6km	
廃プラスチック	㈱サイコー	仙台市宮城野区蒲生2-2-1　11.0km	
ガラス・陶器	大成ロテック	仙台市若林区荒浜字東5-1-36　12.2km	

・その他の廃棄物（管理型）

種類	受入施設名	所在地(Km)	備考

上記の処理、処分は設計積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。なお、上記によらない場合は、監督職員と協議すること。
また、処理、処分に先立ち処分場等の受入の可否を確認すること

PCB（ポリ塩化ビフェニール）含有機器　・ 有（数量：　）　[5.4.3]
・ 無

PCB含有シーリング材　・ 有（施工範囲は図示）[5.4.4]
・ 無

PCBを含有する機器等については、飛散、流出がないように適切な容器に納め、適切な場所に保管し、工事完了後、監督職員に引き渡す。

アスベストの処理
吹き付けアスベスト除去工事　・有(図示　)　・無
受け入れ施設名・所在地(km)
アスベスト成形板除去工事　⊙有(図示　)　・無
受け入れ施設名・所在地(km)　(財)宮城県環境事業公社　17.6km

ヒ素又はカドミウム含有石膏ボードの処理
ヒ素又はカドミウムボード　・有(図示　)　・無
次に該当する場合は、指定する場所に処分すること。
＜対象となる石膏ボード＞
小名浜吉野石膏（株）　いわき工場　昭和48年10月～平成9年4月の間に製造されたもの
日東石膏ボード（株）　八戸工場　平成4年10月～平成9年4月の間に製造されたもの
指定する処分場
【名称：　所在地(km)　】

⑥. 電気保安　・ 適用する　※ 適用しない　<1.3.3>

⑦. 事故報告　<1.3.10>
工事の施工中に事故が発生した場合は，直ちに監督職員に通報するとともに，別に指示する「事故報告書」を指示する期日までに監督職員に提出する。

⑧. 建築材料等
材料の品質等　<1.4.2>
※ 本工事に使用する材料は，設計図書に定める品質及び性能を有するものとし，その材料にJIS又はJASのマークの表示のある場合を除いて監督職員の承諾を受ける。
特定のものが特記された場合は，設計図書に規定するもの又は，これと同等のものとする。ただし，同等のものとする場合は，監督職員の承諾を受ける。

環境への配慮　<1.4.1>
※ 本工事に使用する材料の選定及び施工に当たっては，「県有施設のシックハウスマニュアル」に留意し，揮発性有機化合物の放散による健康への影響に配慮する。

※ ホルムアルデヒド仕様
使用する材料のホルムアルデヒド仕様は以下のとおりとする。
普通合板，複合フローリング等　：日本農林規格(JAS)F☆☆☆☆
パーティクルボード，MDF（中質繊維板）：日本工業規格(JIS)F☆☆☆☆
クロス類　：日本工業規格(JIS)F☆☆☆☆
内装工事に使用する塗料及び接着剤　：化学物質等製品安全データシート(MSDS)等にホルマリン不使用が明示されたもの

⑨. 室内の空気中の化学物質濃度の測定
※ ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物の測定　<1.6.9>（1.5.9）
試料採取及び測定は，厚生労働省の「室内空気中化学物質の採取方法と測定方法」の新築住宅の例に準拠するほか，拡散方式ではサンプラー製造所の定める仕様により行う。

測定対象物質　※ ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ（濃度指針値　100μg/m3 ・ 0.08ppm）
※ ｽﾁﾚﾝ（濃度指針値　220μg/m3 ・ 0.05ppm）
※ ﾄﾙｴﾝ（濃度指針値　260μg/m3 ・ 0.07ppm）
※ ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ（濃度指針値　3,800μg/m3 ・ 0.88ppm）
※ ｷｼﾚﾝ（濃度指針値　870μg/m3 ・ 0.20ppm）

測定する室等：（職員室、給食配膳室　）

採取方法：吸引方式又は拡散方式とし，拡散方式では８時間採取する。

測定結果等報告書の提出
次の事項を記載した報告書を２部提出する。
・測定結果
・試料採取時の状況（気温・湿度（室外・室内），天候，風の状況，日射進入状況，測定年月日・時間，窓の開閉状況，機械換気量，工事完成時から測定日までの日数）
・試料採取方法，測定方法，使用した測定機器

測定対象物質が指針値を超える濃度で検出された場合は，引渡は受けない。

・ 総揮発性有機化合物の測定
測定方法，測定物質及び測定か所等については，別図に定める総揮発性有機化合物測定仕様書による。

※ 室内ＶＯＣ濃度の測定結果に関する書面の当該施設への提示については，施設管理者に依頼する。

⑩. 特別な材料の工法
「改修標準仕様書」及び「標準仕様書」に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法とする。

11. 建築基準法による風圧力等の指定　<3.5.4><3.9.3><5.12.5>

適用工事	建築基準法の指定
・ 合成高分子系ルーフィングシート	風速(V0)　※３０
・ アルミニウム笠木　・ 金属板屋根葺	地表面粗度区分　・Ⅱ　⊙Ⅲ
・ 折板葺　・ ガラスブロック	多雪地域の指定　・有　⊙無

12. 設計ＧＬ
※ 図示　・ 現状平均地盤高

⑬. 施工調査
施工数量調査　<1.5.2>
⊙ 既存部分の破壊を行った場合の補修方法は、図示による。　<1.5.3>

調査項目	調査範囲	調査方法	成果品
外壁劣化	外壁、軒天	目視及び打診	調査結果図、数量表

⑭. 技能士
・ 下表で技能士を適用することとした職種に、１級又は単一級技能士を配置する。　<1.6.2>
※ 下表で技能士を適用することとした職種に、１級、２級又は単一級技能士を配置する。

適用工事種別	適用技能士検定職種（作業）
以下の該当工事	・ 該当する作業がある以下の職種（作業）のすべて
鉄筋工事	⊙ 鉄筋施工（鉄筋工事作業）
コンクリート工事	⊙ 型枠施工（型枠工事作業） ⊙ コンクリート圧送（コンクリート圧送工事作業）
鉄骨工事	⊙ とび（とび作業）
ブロック	・ ブロック建築（補強コンクリートブロック作業）
ALCパネル工事	・ ＡＬＣパネル施工（ＡＬＣパネル工事作業）
防水工事	・ 防水施工（ ・ アスファルト防水工事作業 ・ 合成ゴム系シート防水工事作業 ・ 塗膜防水工事作業 ・ シーリング防水工事作業 ）
石工事	・ 石材施工（石張り作業）
タイル工事	・ タイル張り（タイル張り作業）
木工事	・ 建築大工（大工工事作業）
屋根及びとい工事	・ 建築板金（内外装板金作業） ・ スレート施工（石綿スレート工事作業） ・ かわらぶき（かわらぶき作業）
金属工事	・ 内装仕上施工（鋼製下地作業）
左官工事	・ 左官作業
建具工事	⊙ サッシ施工（ビル用サッシ施工作業） ⊙ ガラス施工（ガラス工事作業） ・ 自動ドア施工（自動ドア施工作業）
カーテンウォール工事	・ ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ施工（ ・ 金属製ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事作業 ・ ＰＣｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事作業 ）
塗装工事	・ 塗装（建築塗装作業）
内装工事	・ 内装仕上施工（ ・ ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ系床仕上工事作業 ・ 鋼製下地工事作業 ・ ボード仕上工事作業 ・ カーテン工事作業 ）
植栽工事	・ 造園（造園工事作業）

技能士を適用しないとした職種でも、１級、２級又は単一技能士の配置に努めること。

⑮. 完成図等　<1.8.1><1.8.2><1.8.3>
営繕工事完成引渡要領（平成９年11月14日宮城県土木部営繕課・設備室制定）により作成する。
※ 完成原図　１部
※ マイクロフィルム（県指定様式）　１部
※ 青焼２つ折製本　１部
※ 青焼Ａ４版折製本（黒表紙金文字入）　１部
※ 青焼縮小（Ａ３版）２つ折製本　１部
※ 完成図面電子データJWW形式又はDXF形式
若しくはTIFF形式（解像度300DPI程度）　CD1枚

⑯. 完成写真
※ 作成する
宮城県建築工事写真撮影要領により，次のものを原版（ネガ等）とともに監督職員に提出する。

分類	サイズ	撮影箇所数	部数	提出様式
※カラー ・白黒	※Ｌ ・２Ｌ ・六切り	※宮城県写真撮影要領の完成写真程度 ・ 箇所 枚	※１部 ・ 部	※工事用アルバムA4版 ポケット式程度 ・フリーアルバム （台紙寸法323×270程度）

・ 作成しない

⑰. 設備工事との取合い
施工範囲　各工事の区分表による。
施工図　設備機器の位置，取り合い等が検討できる施工図を提出して監督職員の承諾を受ける。

⑱. 火災保険等
工事目的物及び工事材料等について，次により保険に付す。
保険の種類　※ 火災保険　※ 建設工事保険
保険期間　※ 工事着手から工事目的物引き渡しまで

2 仮設工事

①. 仮囲い
※ 設ける
仮囲いの位置及び延長は図示による。
⊙万能鋼板（H=2.0 ）・波形鉄板（H=　）・単管シート（H=　）
⊙パネルゲート（H=4.5，W=5.4）×　1箇所
・ 設けない

②. 交通誘導員　⊙ 配置する（ 4ヶ月 × 1人 ＝ 4人月）　・ 配置しない

③. 工事表示板　※ 設置する　設置枚数　１枚
営繕工事における工事及びコスト表示要領（平成１４年２月６日宮城県土木部営繕課・設備室制定）による。
・ 設置しない

④. 足場その他
内部足場　※ 脚立、足場板等　<2.2.1>
外部足場　※ Ａ種 ・ Ｂ種 ・ Ｃ種 ・ Ｄ種 <表2.2.1>
防護シート　※ 設ける ・ 設けない
材料の運搬　・ Ａ種 ・ Ｂ種 ・ Ｃ種　<表2.2.2>
・ Ｄ種 ※ Ｅ種

枠組足場を設ける場合は，「手すり先行工法等に関するガイドライン（厚生労働省平成21年4月策定）」によるものとし，二段手すり及び幅木の機能を有するものでなければならない。

⑤. 養生
家具の移動　⊙ 行う(図示)　・ 行わない　<2.3.1>
既存ブラインド・カーテン等の養生及び保管
・ 行う　・ 行わない
養生の方法
保管場所

2 仮設工事

⑥. 仮設間仕切り　⊙ 設ける(図示)　<2.3.2><表2.3.1>
・ Ａ種　⊙ Ｂ種　※ Ｃ種

⑦. 監督職員事務所　※ 設けない（請負者事務所に打合せ会議室を確保する）
・ 設ける（規模　㎡程度　請負者事務所と同棟　・可　・否）
備品（　）

⑧. 工事用水　構内既存の施設　※ 利用できる（・ 有償　※ 無償）
⊙ 利用できない

⑨. 工事用電力　構内既存の施設　※ 利用できる（・ 有償　※ 無償）
※ 溶接などの消費電力の大きな機器を除く
⊙ 利用できない

⑩. 工事用通路　※ 指定しない　・ 指定する（図示）

3 防水改修工事

1．アスファルト防水　改修工法の種類　<3.1.4><3.3.3><表3.1.1><表3.3.3～10>

新規防水層の種別	改修工法の種類	施工箇所

アスファルトの種類　※ ４種　<3.2.2>
脱気装置　・ 設ける　・設けない　<3.3.3>
種類　・ 平面部脱気型　・ 立ち上がり部脱気型
施工業者　防水層製品の製造所又はその指定業者とする。

2．伸縮調整目地　<3.3.2><3.3.5>
※ 成型伸縮目地（天端　ＥＰＴゴム、サイド　ブチルゴム製）

3．改質アスファルトシート防水　改修工法の種類　<3.1.4><4.3><表3.1.1><表3.4.1～2>

ＳＭ－２	改修工法の種類	施工箇所	仕上塗料
			※ カラー
			・ シルバー

脱気装置　・ 設ける　・設けない　<3.4.3>
種類　・ 平面部脱気型　・ 立ち上がり部脱気型
施工業者　防水層製品の製造所又はその指定業者とする。

4．合成高分子系ルーフィングシート防水　改修工法の種別　<3.1.4><3.5.3><表3.1.1><表3.5.1>

新規防水層の種別	改修工法の種類	施工箇所	仕上塗料
			※ カラー
			・ シルバー

脱気装置　・ 設ける　・設けない　<3.5.3>
種類　・ 平面部脱気型　・ 立ち上がり部脱気型
施工業者　防水層製品の製造所又はその指定業者とする。

5．塗膜防水　改修工法の種別　<3.1.4><3.6.3><表3.1.1><表3.6.1>

新規防水層の種別	改修工法の種類	施工箇所	仕上塗料
Ｘ－２	Ｌ４Ｘ	屋上フェンス基礎	※ カラー
			・ シルバー

脱気装置　・ 設ける　・設けない　<3.6.3>
種類　・ 平面部脱気型　・ 立ち上がり部脱気型
施工業者　防水層製品の製造所又はその指定業者とする。

6．シーリング材の種別及び施工箇所　<3.7.2><表3.7.1>
※ 被着体に応じたものとし、改修標仕表３．７．１を標準とする。
・ 改修標仕表３．７．１によらない箇所及びシーリング材料

改修標仕表３．７．１によらない箇所	シーリング材料

7．シーリング改修工法　改修工法の種別　<3.1.4～7><表3.1.2>

改修工法の種類	施工箇所
・ シーリング充てん工法	
⊙ シーリング再充てん工法	建具廻り
・ 拡幅シーリング充てん工法	
・ ブリッジ工法（　）	

8．とい　<3.8.2><表3.8.1>

材種	防露
・ 配管用鋼管（ＳＧＰ）	※ 改修標仕表３．８．４～５により行う
⊙ 硬質塩化ビニル管（ＶＰ）	

特記無き限り既存のとい受け金物を使用する。
鋼管製といの防露巻き　<3.8.3><表3.8.5>
※ 表３．８．５による。

9．ルーフドレイン　※ 鋳鉄製　<3.8.3(h)>
※ 縦型　・ 横型

10．アルミニウム製笠木　部材の種類　<3.9.2><表3.9.1>
・ 押出 ２５０形 ・ 押出 ３００形 ・ 押出 ３５０形
・ 板材折曲げ形
付属部品の材料、角各部並びに突当り部等の役物は、笠木本体製作所の仕様による。
表面処理　<3.9.2><表5.2.2>
※ Ｂ－１種　・ Ｂ－２種

11．防水保証
・ アスファルト防水，改質アスファルトシート防水及び合成高分子系ルーフィングシート防水の保証期間は，引渡しの日から10年間とし，施工業者との連名の保証書を提出する。
塗膜防水については，メーカー・防水業者が通常定めている期間として，作成し提出する。

JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事　改修特記仕様書１
DATE　SCAL　DRAWN　CHEK　A－２

株式会社 構 建築設計事務所　一級建築士 第295317号 徳田 伸治

4 外壁改修工事

①. ひび割れ部改修

・ コンクリート打放し仕上げ

工法	材料	ひび割れの幅(mm)	延べ長さ(m)
※ シール工法	※ パテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂	０．２未満	
※ 樹脂注入工法	※ 硬質形エポキシ樹脂 ・ 軟質形エポキシ樹脂	０．２～０．３未満 ０．３～０．５未満 ０．５～１．０未満	
※ Ｕカットシール材充てん工法	※ 可とう性エポキシ樹脂	０．２～０．３未満 ０．３～０．５未満 ０．５～１．０未満	
	・ シーリング材ＰＵ－２ ・ 可とう性エポキシ樹脂	１．０～１．５未満 １．５～２．０未満 ～未満	

⊙ モルタル塗り仕上げ

工法	材料	ひび割れの幅(mm)	延べ長さ(m)
※ シール工法	※ パテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂	０．２未満	
※ 樹脂注入工法	※ 硬質形エポキシ樹脂 ・ 軟質形エポキシ樹脂	０．２～０．３未満 ０．３～０．５未満 ０．５～１．０未満	408.3
※ Ｕカットシール材充てん工法	※ 可とう性エポキシ樹脂	０．２～０．３未満 ０．３～０．５未満 ０．５～１．０未満	
	・ シーリング材ＰＵ－２ ・ 可とう性エポキシ樹脂	１．０～１．５未満 １．５～２．０未満 ～未満	

・ タイル張り仕上げ

工法	材料	ひび割れの幅(mm)	延べ長さ(m)
※ シール工法	※ パテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂	０．２未満	
※ 樹脂注入工法	※ 硬質形エポキシ樹脂 ・ 軟質形エポキシ樹脂	０．２～０．３未満 ０．３～０．５未満 ０．５～１．０未満	
※ タイル貼り除去後・Ｕカットシール材充てん工法・樹脂注入工法の上タイル張替え工法	※ 可とう性エポキシ樹脂	０．２～０．３未満 ０．３～０．５未満 ０．５～１．０未満	
	・ シーリング材ＰＵ－２ ・ 可とう性エポキシ樹脂	１．０～１．５未満 １．５～２．０未満 ～未満	
・ タイル部分張替え工法	・ ポリマーセメントモルタル ・ エポキシ樹脂		
・ 目地ひび割れ改修工法	※ 既製調合目地材		

・ 樹脂注入工法 〈4.3.4(c)〉

ひび割れの幅(mm)	０．２～０．３未満	０．３～０．５未満	０．５～１．０以下
注入孔の間隔(mm)	２００程度	３００程度	３００程度
注入量(cc/m)			

コアの抜取り検査 ・ 行う ※ 行わない 〈4.3.4(f)〉

②. 欠損部改修

・ コンクリート打放し仕上げ

工法	材料	平均深さ(mm)	延べ面積(㎡)
※ 充てん工法	エポキシ樹脂モルタル	２０～３０未満	
		３０～４０未満	
	ポリマーセメントモルタル	５～１０未満	
		１０～１５未満	
		１５～２０未満	

⊙ モルタル塗り仕上げ

工法	材料	平均深さ(mm)	延べ面積(㎡)
※ 充てん工法	エポキシ樹脂モルタル	２０～３０未満	
		３０～４０未満	
	ポリマーセメントモルタル	５～１０未満	15.0
		１０～１５未満	
		１５～２０未満	
・ モルタル塗替え工法	・改修標仕表４．４．１による	２０程度	
	・ポリマーセメントモルタル	ﾗｽ下地２５程度	

・ タイル張り仕上げ

工法	材料	平均深さ(mm)	延べ面積(㎡)
※ タイル部分張替え工法	エポキシ樹脂モルタル	２０～３０未満	
		３０～４０未満	
	ポリマーセメントモルタル	１０～１５未満	
		１５～２０未満	
		～	
・ タイル張替え工法			

4 外壁改修工事

③. 浮き部改修

⊙ モルタル塗り仕上げ 〈4.1.4〉

工法	1箇所の面積(㎡)	浮き代(mm)	アンカーピン(本/㎡) 一般部	アンカーピン(本/㎡) 指定部	注入口(箇/㎡) 一般部	注入口(箇/㎡) 指定部	延べ面積(㎡) 一般部	延べ面積(㎡) 指定部
⊙アンカーピニング部分エポキシ樹脂注入工法	0.25未満		※16	・※25			6.0	
⊙アンカーピニング全面エポキシ樹脂注入工法	0.25以上	1.0以下	※13	・※20	※12	・※20	93.7	
・アンカーピニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	0.25以上	1.0を越える	※13	・※20	※12	・※20		
・注入口付アンカーピニング部分エポキシ樹脂注入工法	0.25未満		※ 9	・※16				
・注入口付アンカーピニング全面エポキシ樹脂注入工法	0.25以上	1.0以下	※ 9	・※16	※ 9	・※16		
・注入口付アンカーピニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	0.25以上	1.0を越える	※ 9	・※16	※ 9	・※16		
・充てん工法	0.25未満							
・モルタル塗替え工法								

・ タイル張り仕上げ 〈4.1.4〉

工法	1箇所の面積(㎡)	浮き代(mm)	アンカーピン(本/㎡) 一般部	アンカーピン(本/㎡) 指定部	注入口(箇/㎡) 一般部	注入口(箇/㎡) 指定部	延べ面積(㎡) 一般部	延べ面積(㎡) 指定部
・アンカーピニング部分エポキシ樹脂注入工法	0.25未満		※16	・※25				
・アンカーピニング全面エポキシ樹脂注入工法	0.25以上	1.0以下	※13	・※20	※12	・※20		
・アンカーピニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	0.25以上	1.0を越える	※13	・※20	※12	・※20		
・注入口付アンカーピニング部分エポキシ樹脂注入工法	0.25未満		※ 9	・※16				
・注入口付アンカーピニング全面エポキシ樹脂注入工法	0.25以上	1.0以下	※ 9	・※16	※ 9	・※16		
・注入口付アンカーピニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	0.25以上	1.0を越える	※ 9	・※16	※ 9	・※16		
・タイル部分張替え工法	0.25未満							
・タイル張替え工法								

アンカーピンの材質
※ 改修標仕４．２．２（ｅ）（ｆ）による。
アンカーピン固定用エポキシ樹脂
※ ＪＩＳ Ａ６０２４による硬質・高粘度形
注入用エポキシ樹脂
※ 改修標仕４．２．２（ａ）による。

④. 浮き部改修

タイルの種類 〈6.16.3〉

施工箇所	形状寸法(mm)	き じ 磁器	き じ 陶器	き じ せっ器	うわぐすり 施ゆう	うわぐすり 無ゆう	役物 有	役物 無	色 標準	色 注文	再生材利用タイル	備考

タイル張替え工法のタイル張り工法は、改修標仕表４．５．３により、小口タイル以上二丁掛け以下は密着張りとする。

⑤. 塗り仕上げ外壁

〈4.1.4(d)〉〈4.2.2(j)〉〈表4.2.3～4〉

規格名称	種類(呼び名)	仕上の形状	工法	上塗り材
・薄付け仕上げ塗材	・外装薄塗材E	・砂壁状 ・砂壁状じゅらく	※吹付け ・ローラー	
・厚付け仕上げ塗材	・外装厚塗材C ・外装厚塗材E		※吹付け ・こて	
※複層仕上げ塗材	・複層塗材CE ⊙複層塗材E ・複層塗材RS ※複層塗材RE ・複層塗材Si ・防水形複層塗材E ・防水形複層塗材RS	⊙ゆず肌 ・凸部処理 ・凸凹模様	※吹付け ⊙ローラー	溶剤 ※水系 ・溶剤系 ・弱溶剤系 外観 ※つやあり ・メタリック 樹脂 ※アクリル系 ・シリカ系 ・ポリウレタン系
※可とう形改修用仕上塗材	※可とう形改修塗材E ・可とう形改修塗材RE ・可とう形改修塗材CE	※ゆず肌 ・さざ波	※吹付け ・ローラー	※アクリルシリコン系（可とう形改修用塗材の場合） ・フッ素系
・軽量骨材仕上塗材	・吹付用軽量塗材 ・こて塗用軽量塗材		・吹付け ・こて塗り	

複装仕上塗材の耐候性 ※ １種 （可とう形改修塗材の場合）
・ ２種
※ ３種 （可とう形改修塗材以外の場合）

⑥. 壁仕上げ既存塗膜等の除去及び下地処理

〈4.6.3〉

塗膜の劣化部の除去工法	処理範囲
⊙ サンダー工法 ※ 高圧水洗工法 ・ 塗膜はく離剤工法 ・ 水洗い工法	⊙ 既存仕上面全体（可とう形改修塗材以外の場合） ※ 既存仕上面全体（可とう形改修塗材の場合）

5 建具改修工事

①. 一般事項

改修工法 〈5.1.3〉
・ かぶせ工法 ⊙ 撤去工法
新規建具周囲の補修方法及び範囲は図示による。

見本の作成等 〈5.1.5〉
製 作 ※ 行わない ・ 行う（建具表による）
仮 組 ※ 行わない ・ 行う（建具表による）

防犯建物部品 ※ 使用しない ・ 使用する（建具表による）

②. アルミニウム製建具

〈5.2.2〉〈5.2.4〉〈表5.3.2〉

外部に面する建具

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法(mm)
⊙ Ａ 種	Ｓ－４	Ａ－３	Ｗ－４	７０（引違い，片引き，上げ下げ窓で複層ガラスの場合では性能が確保できない場合は，１００）
・ Ｂ 種	Ｓ－５			
・ Ｃ 種	Ｓ－６	Ａ－４	Ｗ－５	１００

※ 適用箇所は図示による

表面処理		
	外部に面する建具	※ Ｂ－１種 ・ Ｂ－２種
	内 部 建 具	※ Ｃ－１種 ・ Ｃ－２種

Ｂ－２種，Ｃ－２種の場合 ・ブロンズカラー（※標準色 ・濃色）
・ステンカラー

防音ドアセット，防音サッシ ・ 適用する（適用範囲は図示による）
※ 適用しない
適用する場合の遮音性の等級 ・ Ｔ－１ ・ Ｔ－２ ・ Ｔ－３

断熱ドアセット，断熱サッシ ・ 適用する（適用範囲は図示による）
※ 適用しない
適用する場合の断熱性の等級 ・ Ｈ－２ ・ Ｈ－３

耐震ドアセット，耐震サッシ ・ 適用する（適用範囲は図示による）
※ 適用しない
適用する場合の面内変形追随性の等級 ・ Ｄ－１ ・ Ｄ－２

③. 網戸

使用方法による区分 ※外面納まりの可動式 ・内部納まりの開き式 〈5.2.3〉

防虫網（線径0.25mm 網目16-18メッシュ）
・ガラス繊維入り合成樹脂 ※ｽﾃﾝﾚｽ(SUS 316) ・合成樹脂

防鳥網
※ステンレス（SUS304）線径1.5mm ピッチ15mm

４．鋼製建具

簡易気密型ドアセット 〈5.3.2〉〈5.3.4〉〈5.3.6〉〈表5.3.2〉
※ 使用する（適用範囲は図示とする）
気密性 ※ Ａ－３
水密性 ※ Ｗ－１
・ 使用しない

外部に面する建具の耐風圧性 ※ Ｓ－４ ・ Ｓ－５

建具寸法が「標準仕様書」16.3.4(a)を超える又は図示された建具に使用する鋼板類の厚さ

区分		使用箇所	厚さ(mm)
窓	枠類	枠，方立，無目	表１６．３．２に同じ
出入口	枠類	一般部分	２．３
	戸	中骨	２．３
上記以外			表１６．３．２に同じ

⑤. 鋼製軽量建具

標準型鋼製建具 ※ 使用する ・ 使用しない

簡易気密型ドアセット 〈5.4.2〉〈5.4.6〉
※ 使用する（適用箇所は図示による）
気密性 ※ Ａ－３
⊙ 使用しない

戸の鋼板 ※ 表面処理亜鉛めっき鋼板
・ ビニル被覆鋼板
・ カラー鋼板

標準型鋼製軽量建具 ※ 使用する ・ 使用しない

標準型鋼製軽量建具の小窓枠，がらり ※ 鋼製 ・ アルミ製

６．ステンレス製建具

簡易気密型ドアセット 〈5.5.2〉
※ 使用する（適用範囲は図示とする）
気密性 ※ Ａ－３
水密性 ※ Ｗ－１
・ 使用しない

外部に面する建具の耐風圧性 ※ Ｓ－４ ・ Ｓ－５

表面処理 ・ ＨＬ 〈5.5.4〉
鋼板の曲げ加工 ※ 普通曲げ ・ かど出し曲げ 〈5.5.6〉

5 建具改修工事

⑧. 建具用金物

〈5.6.2〉〈表5.6.1〉

金物の種類	型式	製造所
モノロック		
本締り付きモノロック		
シリンダー箱錠		
シリンダー本締り錠		
ドアクローザー		
フロアヒンジ		
ヒンジクローザー	内蔵型	
ピボットヒンジ		JISによる。
レバーハンドル	アルミ合金 レバー長さ L=130程度	錠前類と同一製造所とする。

標準型鋼製建具及び標準型軽量鋼製建具（準標準型共）のドアクローザー、シリンダー箱錠は公共工事標準型とする。

マスターキーの作成 ・ 要 ・ 不要
・ 不要（既存マスターキーで施解錠可能とする。）

９．自動ドア開閉装置

性能 ・ スライディングドア 〈5.7.2〉〈表5.7.1～2〉
・ スイングドア

センサーの種類 ・ 光線式（反射）スイッチ 〈5.7.3〉〈表5.7.3〉
・ マットスイッチ式
・ タッチスイッチ
・ 補助センサ併用

凍結防止装置 ・ 要 ※ 不要
全半開装置 ※ 設ける（半開幅＝ ）
・ 設けない

10. 重量シャッター

〈5.9.2〉〈表5.9.1〉

種類	シャッターケース	耐風圧性能	開閉方式	保護装置
・ 一般シャッター	※ 設ける ・ 設けない	・ 50 ・ 80 ・ 120	※ 上部電動式（手動併用） ・ 上部手動式	障害物感知装置（自動閉鎖型） ※ 設ける ・ 設けない
・ 防火シャッター ・ 外部用 ・ 内部用	※ 設ける	（JIS A 4705による強さの区分）	※ 上部電動式（手動併用）	障害物感知装置（自動閉鎖型）を設ける。
・ 防煙シャッター				

11. 軽量シャッター

〈5.10.2〉〈5.10.4〉

開閉形式	シャッターケース	耐風圧性能	スラットの形状	保護装置
※ 手動式 ・ 上部電動式（手動併用）	※ 設ける ・ 設けない	・ 50 ・ 65 ・ 80 （JIS A 4705による強さの区分）	※ インターロッキング型 ※ オーバーラッピング型	障害物感知装置（自動閉鎖型） ※ 設ける ・ 設けない

12. オーバーヘッドドア

〈5.11.2〉〈5.11.3〉

材質	開閉方式	収納形式	耐風圧性能	ガイドレール
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	※ バランス式 ・ チェーン式 ・ 電動式	※ スタンダード形 ・ ローヘッド形 ・ ハイリフト形 ・ バーチカル形	・ ５０ ・ ７５ ・１００ ・１２５	※ 溶融亜鉛メッキ鋼板 ・ ステンレス鋼板

保護装置
障害物感知装置 ※ 設ける ・ 設けない
アルミニウム形材の表面処理 陽極酸化塗装複合被膜（種類Ｂ）
耐風圧性能（JIS4715による強さの区分）
・ ５０ ・ ７５ ・ １００

14. 木製建具

13. ガラス

〈5.12.2〉〈5.12.3〉〈表5.12.1〉

※ 外部の建具に使用するガラスは、建築基準法に基づく耐風圧性能を有すること。

※ ガラスの材料、厚さ、それぞれの種類等は建具表及び図示による。
合わせガラスの特性
・ Ⅰ類 ・ Ⅱ－１類 ・ Ⅱ－２類 ・ Ⅲ類
強化ガラスの特性
・ Ⅰ類 ・ Ⅲ類
熱線吸収板ガラス
性能 ・ １類 ・ ２類
色調 ・ ブルー ・ グレー ・ ブラウン
複層ガラス
性能 ・ １種 ・ ２種
・ ３種 （・ Ｕ３－１ ・Ｕ３－２）
・ ４種 ・ ５種
封止の加速耐久性による区分
・ Ⅰ類 ・ Ⅱ類 ・ Ⅲ類
熱線反射ガラス
日射遮へい性 ・ １種 ・ ２種 ・ ３種
耐久性 ・ Ａ類 ・ Ｂ類
色調 ・ ブルー ・ グレー ・ ブロンズ
・ シルバー
反射皮膜 ・ 内側 ・ 外側
映像調整 ・ 行う ・ 行わない
ガラスの留め材
⊙ シーリング ・ ガスケット（可動アルミ建具に限る）
防火戸のガラスの留め材は建築基準法の認定を受けたシーリング材とする。
ガラスの溝幅については、標仕(表16.13.1)による。ただし強化ガラス、合わせガラス及び倍強度ガラスの溝幅は図示による。

JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事 改修特記仕様書２
DATE SCAL DRAWN CHEK Ａ－３

株式会社 構 建築設計事務所
一級建築士 第295317号 徳田 伸治

5 建具改修工事

19. ガラスブロック（中空）

ＪＩＳによる区分 〈5.12.5〉

表面形状による区分	モジュール呼び寸法による区分（長さ×高さ）	厚さによる区分
正方形	・１６０×１６０　・２００×２００ ・３２０×３２０	・８０ ・９５
長方形	・２５０×１２５　・３２０×１６０	・１２５

品質等

ガラスの種別	柄	目地色	金属枠	耐火性能
・一般ガラス ・乳白ガラス ・カラーガラス ・熱線反射ガラス	・無 ・有	・白 ・グレー	・アルミニウム製（表面処理　） ・ステンレス製（表面仕上　）	・規定しない ・有（　分間）

6 内装改修工事

① 改修範囲
既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井、壁、床の改修範囲 〈6.1.3〉
※ 壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う。
・〈図示の範囲　　〉
天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井の改修範囲
※ 壁面より両側６００mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う。
・〈図示の範囲　　〉
天井の撤去に伴う取合部の壁面の改修
※ 既存のまま
・〈図示の範囲　　〉

② 既存床の撤去並びに下地補修
合成樹脂塗床の除去方法 〈6.2.2(a)〉
・目荒工法　・機械的除去工法

③ 改修後の床の清掃範囲
⊙ 当該室全体　・図示の範囲 〈6.2.2(c)〉

④ 既存壁の撤去並び下地補修
間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修方法 〈6.3.2(a)〉
※ 改修標仕４．４．９による　・（　　）

⑤ 木材
表面仕上げ程度　・Ａ類　※Ｂ類　・Ｃ類 〈6.5.1(c)〉
含水率 〈6.5.2(a)〉〈表6.5.2〉
構造材（※ Ａ種　・ Ｂ種 ）
下地材（※ Ａ種　・ Ｂ種 ）
造作材（※ Ａ種　・ Ｂ種 ）
造作材の材面の品質　※Ａ類　・Ｂ類 〈6.5.2(a)〉〈表6.5.3〉
・代用樹種を使用しない箇所 〈表6.5.4〉
※ なし　・ あり（　　）

⑥ 集成材
造作用集成材は改修標仕６．５．２（ｂ）（ｉｉ）による。 〈6.5.2〉

等級	見掛かり	その他
	※ １等　・ ２等	・１等　※ ２等
単材の樹種		
単材の厚さ(mm)	１０～１５	１０～１５

⑦ 軽量鉄骨天井下地材
野縁などの種類
屋内　※ １９型　・ ２５型 〈6.6.2〉〈表6.6.1〉
屋外　・ １９型　※ ２５型
インサート 〈6.6.4〉
・既存インサートを使用する
・あと施工アンカーを設ける
あと施工アンカーの引抜き試験 〈6.6.4〉
・行う
※ 行わない
耐震性を考慮した補強
・行う
※ 行わない
耐風圧性を考慮した補強（ピロティ、軒天井等）
・行う
※ 行わない

⑧ 軽量鉄骨壁下地材
スタッド，ランナーなどの種類は、改修標仕表６．７．１による。 〈6.7.2〉〈表6.7.1〉

9. 体育館の鋼製床下地
※ JIS A 6519の規格品

10. ビニル床シート張り 〈6.8.2〉〈6.8.3〉

種類(JIS A5705)	記号	色柄	厚さ(mm)	特殊機能	工法
※ 発泡層のないもの	※ＮＣ	※無地 ・マーブル	※ 2.0 ・ 2.5	・帯電防止 ・帯動荷重	※熱溶接 ・突付け
・ 発泡層のあるもの					

11. ビニル床タイル張り 〈6.8.2〉

種類(JIS A 5705)	記号	寸法	厚さ(mm)	特殊機能
※ コンポジションビニル床タイル	※ ＣＴ（半硬質） ・ ＣＴＳ（軟質）	※ 300×300	※ 2.0	・帯電防止 ・耐動加重
・ ホモジニアスビニル床タイル	・ ＨＴ	・ 300×300 ・ 450×450	・ 2.0 ・ 4.0又は4.5	・帯電防止 ・耐動加重

12. ビニル床タイル・ビニル床シートの特殊機能
帯電防止
・帯電防止性能評価（JIS A 1445）1.2～3.1程度
又は耐電圧（JIS L 1023)3kv以下
・帯電防止性能評価（JIS A 1445）3.2～5.1程度
又は漏えい抵抗値(JIS A 1454)0.1×1010オーム未満
・帯電防止性能評価（JIS A 1445）5.2以上
又は漏えい抵抗値(JIS A 1454)0.1×107オーム未満
耐動加重
JIS A 1454によるへこみ試験、残留へこみ試験、滑り性試験、層間剥離強度試験(発泡層のあるビニルシートのみ)およびキャスター性試験等の試験後異常がないこと

13. 視覚障害者用床タイル 〈6.8.2〉

材質	寸法(mm)
・塩化ビニル系　・せっ器質タイル系	３００×３００

⑭ ビニル幅木
材種　※ 軟質・硬質・溶接 〈6.8.2〉
厚さ(mm) ※ 2
高さ(mm) ※ ６０・７５⊙１００

15. カーペット敷き

・タフテッドカーペット 〈6.9.3〉〈表6.9.1〉

施工箇所	パイル形状	パイル長さ(mm)	工法	品質	帯電性
	・（　）	・（　）	※全面接着工法 ・グリッパー工法		・6.9.3(c)(3)による

・タイルカーペット 〈6.9.3〉

施工箇所	種類	パイル形状	工法	総厚さ	帯電性
	※第１種 ・第２種	※ループパイル ・カットパイル	※全面接着工法	※ 6.5	製造所の仕様による

16. フローリング張り

・単層フローリング 〈6.11.2～7〉〈表6.11.3〉

種別	樹種	厚さ(mm)	大きさ(mm)	工法	塗装
・フローリングボード	※ナラ	・１５	幅７５ 長さ500以上	・モルタル埋込み工法 ・釘止め工法 ・接着工法	・ウレタン樹脂ワニス塗り ・オイルステン塗りの上ワックス ・生地のままワックス ・既塗装品
・フローリングブロック	※ナラ	・１５	303×303		
・モザイクパーケット	※ナラ	・１５			

・複層フローリング

種別	樹種	種別	防湿処理	工法	塗装
※ 複合１種フローリング ・ 複合２種フローリング ・ 複合３種フローリング ・ 大型積層フローリング	※ナラ ・サクラ ・ヒノキ	・Ａ種 ・Ｂ種 ※Ｃ種	・行う ※行わない	・釘止め工法 ・接着工法 ・特殊貼り工法（体育館床）	・ウレタン樹脂ワニス塗り ・オイルステン塗りの上ワックス ・生地のままワックス ・既塗装品

17. 畳敷き
畳の種別　・Ａ種　・Ｂ種　※Ｃ種　・Ｄ種 〈6.12.2〉〈表6.12.1〉

18. 石こうボード その他ボード張り 〈6.13.2〉〈6.13.3〉〈表6.13.5〉

種類又は記号	種別など	厚さ(mm)		規格番号
けい酸カルシウム板(繊維強化セメント板)0.8ＦＫ又は1.0ＦＫ		壁	⊙ 6(不燃) ・ 8(不燃) ・ 10(不燃)	JIS A 5430(タイプ2)
		天井	・ 6(不燃) ・ 12(不燃)	
グラスウール吸音ボード（吸音材料）ＧＷ－Ｂ	ガラスクロス(JIS A 3414 EP18程度)額縁張り品		25(不燃)	JIS A 6301(32K)
ロックウール化粧吸音板（吸音材料）ＤＲ	※ 内部用 ・ 軒天用	普通	※ 9(不燃) ・ 12(不燃)	JIS A 6301
		立体模様	・ 12(不燃) ・ 15(不燃) ・ 19(不燃)	
せっこうボード(せっこうボード製品)ＧＢ－Ｒ		壁	・ 9.5(準不燃) ※12.5(不燃) ・ 15(不燃)	JIS A 6901
		天井	⊙ 9.5(準不燃) ※12.5(不燃)	
シージングせっこうボード(せっこうボード製品)ＧＢ－Ｓ		壁	12.5(準不燃)	JIS A 6901
		天井	・ 9.5(準不燃) ※12.5(不燃)	
化粧せっこうボード(せっこうボード製品)ＧＢ－ＮＣ	トラバーチン模様 色　※白 ・黄		9.5(不燃)	JIS A 6901
化粧せっこうボード(せっこうボード製品)ＧＢ－Ｄ	木目模様 木目模様（裏桟付き） 特殊模様	壁	・ 9.5(準不燃) ※12.5(不燃)	JIS A 6901
		天井	・ 9.5(準不燃) ※12.5(不燃)	

せっこうボードの目地処理　・継目処理工法　・突き付けＶ目地工法
・突き付け工法　・目透し工法

19. 遮音シール材
・アクリル系シーリング材 ※ ジョイントコンパウンド 〈6.13.2〉〈表3.7.1〉

20. 壁紙張り 〈6.14.2〉

施工箇所	品質	防火性能の級別
		・１級・２級
		・１級・２級
		・１級・２級
		・１級・２級

21. タイル張り
タイルの種類 〈6.16.3〉

施工箇所	形状寸法(mm)	きじ				うわ薬		役物		色		再生材利用	備考
		磁器	せっ器	陶器	無釉	施釉	あり	なし	標準	注文			
昇降口床	150×150	○			○			○	○		○		

タイルの見本焼き　※ 行わない　・ 行う
内装タイルの工法 〈6.16.5〉〈表6.16.5〉
・積み上げ張り　施工箇所（　　）
・接着剤張り　施工箇所（　　）

22. セルフレベリング材塗り
・石こう系　・セメント系 〈6.17.2〉
塗厚　※ 10mm

7 塗装改修工事

① 防火材料 〈7.1.3〉
※ 屋内の壁及び天井の仕上げは、建築基準法に基づく基材同等の認定表示のあるものとする。
・ 次の箇所を除き防火材料とする。（　　）

② 錆止め塗料塗り 〈7.3.2〉〈表7.2.2～3〉〈表7.3.3～4〉

下地種別	下地調整	塗装種別
鉄鋼面 新規	※ＲＡ種 ・ＲＢ種 ・ＲＣ種	・Ａ種 ・Ｂ種 ※Ｃ種
鉄鋼面 塗替え	・ＲＡ種 ※ＲＢ種 ・ＲＣ種	・Ａ種 ・Ｂ種 ※Ｃ種
塗料の種別	屋外Ａ種	屋内Ｂ種
亜鉛めっき鋼面 新規建具	・ＲＡ種 ・ＲＢ種 ※ＲＣ種	※Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種
亜鉛めっき鋼面 新規	※ＲＡ種 ・ＲＢ種 ・ＲＣ種	・Ａ種 ・Ｂ種 ※Ｃ種
亜鉛めっき鋼面 塗替え	・ＲＡ種 ※ＲＢ種 ・ＲＣ種	・Ａ種 ・Ｂ種 ※Ｃ種

③ 合成樹脂調合ペイント塗り 〈7.4.1～5〉〈表7.2.1～3〉〈表7.4.1～3〉

下地種別	下地調整	塗装種別
木部 新規	・ＲＡ種 ※ＲＢ種 ・ＲＣ種	※Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種
木部 塗替え	・ＲＡ種 ※ＲＢ種 ・ＲＣ種	・Ａ種 ※Ｂ種 ・Ｃ種
鉄鋼面 新規	〈表7.3.3〉による	・Ａ種 ※Ｂ種 ・Ｃ種
鉄鋼面 塗替え	〈表7.3.3〉による	・Ａ種 ※Ｂ種 ・Ｃ種
亜鉛めっき鋼面 新規及び鋼製建具の塗替え	〈表7.3.4〉による	※Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種
亜鉛めっき鋼面 塗替え	〈表7.3.4〉による	・Ａ種 ※Ｂ種 ・Ｃ種

④ 合成樹脂エマルションペイント塗り 〈7.13.1,2〉〈表7.2.4～7〉〈表7.13.1〉

下地種別	下地調整	塗装種別
コンクリート面 新規	・ＲＡ種 ※ＲＢ種 ・ＲＣ種	※Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種
コンクリート面 塗替え	・ＲＡ種 ※ＲＢ種 ・ＲＣ種	・Ａ種 ※Ｂ種 ・Ｃ種
ＡＬＣパネル面		
押出成形セメント板面		
モルタル面 新規	・ＲＡ種 ※ＲＢ種 ・ＲＣ種	※Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種
プラスター面 塗替え	・ＲＡ種 ※ＲＢ種 ・ＲＣ種	・Ａ種 ※Ｂ種 ・Ｃ種
石こうボード 新規	・ＲＡ種 ※ＲＢ種 ・ＲＣ種	※Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種
その他の ボード等の面 塗替え	・ＲＡ種 ※ＲＢ種 ・ＲＣ種	・Ａ種 ※Ｂ種 ・Ｃ種

8-1 耐震改修工事（鉄筋工事）

① 鉄筋の種類 〈8.2.1〉

規格名称	種類の記号	径(mm)
鉄筋コンクリート用棒鋼	※ ＳＤ２９５Ａ ※ ＳＤ３４５	※ Ｄ１６以下 ※ Ｄ１９以上

② 溶接金網 ※JIS G 3551規格品（ ※ 6.0φ×100×100 ・　） 〈8.2.2〉
③ 鉄筋の継手 径 19 mm 以上　※ ガス圧接　・ 重ね継手 〈8.3.4〉
④ 柱の帯筋 ・Ｈ型　※ Ｗ－Ⅰ型　・ Ｗ－Ⅱ型 〈8.3.4〉〈図8.3.4〉
⑤ 圧接完了後の抜取試験 ※ 超音波探傷試験　・ 引張り試験 〈8.3.9〉

8-2 耐震改修工事（コンクリート工事）

① 設計基準強度 普通コンクリート（Ｎ/mm2） 〈8.1.3〉

設計基準強度	適用箇所
※ ２１	ＲＣ増設壁、躯体
⊙ ３０	柱増打ち部

② レディーミクストコンクリート 類別　※ Ⅰ類　・ Ⅱ類 〈8.1.3〉〈表8.1.1〉

③ 打放し仕上げの種別 〈8.1.4〉〈表8.1.3〉

種別	適用箇所
・Ａ種	
※ Ｂ種	ＲＣ増設壁
・Ｃ種	

④ セメントの種類 ※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのＡ種 〈8.2.5〉
⑤ 骨材 細骨材の塩分含有量（NaCl換算）　※ 0.04 %wt 以下 〈8.2.5〉
⑥ 混和材料 混和剤　※ AE剤又はAE減水剤標準形Ⅰ種 〈8.2.5〉
⑦ 軽量コンクリート 〈8.10.1〉〈表8.10.1〉

種別	適用箇所	気乾単位容積質量(ton/m3)

⑧ 無筋コンクリート 適用箇所は〈6.14.1〉によるほか、下記による。 〈6.14.1〉

適用箇所

⑨ 型枠 せき板の種類　※ 合板 〈8.2.6〉
せき板の塗料　※ 無　・ 有
⑩ コンクリートの打込み工法 ※ 流込み工法　・ 圧入工法 〈8.19.8〉〈8.21.5〉
⑪ 既存部分の撤去 既存仕上げの撤去範囲　※ 図示 〈8.19.2.3〉
既存躯体の撤去範囲　※ 図示

8-3 耐震改修工事（あと施工アンカー工事）

① あと施工アンカー 〈8.2.4〉
※ 接着系アンカー D22〔引張耐力 133.5（KN），せん断耐力 93.5（KN）〕
D19〔引張耐力 54.4（KN），せん断耐力 69.2（KN）〕
接着剤　※ 有機系　・ 無機系
・ 金属系アンカー打込み方式　〔引張耐力　（KN），せん断耐力　（KN）〕
※ 本体打込み式
性能確認試験　※ 行わない　・ 行う 〈8.2.4〉
施工確認試験　※ 行う　・ 行わない 〈8.11.5〉

② あと施工アンカーの試験

8-4 耐震改修工事（鉄骨工事）

① 鉄骨製作工場
※ 下記のグレード以上の性能評価機関の性能評価を受けて，国土交通省の認定を受けた工場 〈8.1.5〉
・Ｓ　・Ｈ　・Ｍ　⊙Ｒ　・Ｊ
・ 本物件と同等規模構造の施工実績を有している工場で，監督職員の承諾する工場

② 鋼材の種類 〈8.2.7〉〈表8.2.5〉

材質	規格等
⊙ SS400	※規格品（JIS G 3101）・8.2.12(a)に合格するもの
・ SSC400	※規格品（JIS G 3350）・8.2.12(a)に合格するもの
⊙ STK400	※規格品（JIS G 3444）・8.2.12(a)に合格するもの
・ STKR400	※規格品（JIS G 3466）・8.2.12(a)に合格するもの
・ SN400	※規格品（JIS G 3136）
・ SN490	※規格品（JIS G 3136）

③ 高力ボルト 〈8.2.8〉

ボルト種別	セットの種類
※トルシア形高力ボルト	※２種(S10T)
・ＪＩＳ形高力ボルト	※２種(F10T)
・溶融亜鉛メッキ高力ボルト	※１種(F8T相当)

④ 溶接部の試験 ※超音波探傷試験 〈8.14.11〉〈8.14.12〉
⑤ 錆び止め塗装 〈7.3.2〉による。 〈8.16.3〉
⑥ 耐火被覆 〈8.17.2〉〈8.17.4～7〉

種別	材料及び工法製造所	備考
・ラス張モルタル	標仕15章2節による	
・耐火材吹付け	建築基準法に基づく指定又は認定を受けたもの	※半乾式　・湿式
・耐火板張り		
・耐火材巻付け		

⑦ アンカーボルト 材質　※ＳＳ４００　・ＳＮＲ４００Ｂ (7.2.4)
⑧ 既存部分の撤去 撤去範囲　※ 図示 〈8.20.2〉

8-5 耐震改修工事（柱補強工事）

① 工法
・ 溶接金網巻き及び溶接閉鎖フープ巻き工法 〈8.21.5〉
溶接金網の継ぎ手　※ 重ね継ぎ手
コンクリート及び構造躯体用のモルタルの打設
・ 圧入工法　・ 流し込み工法
・ 鋼板巻き工法 〈8.21.6〉
・ 帯板巻き付け工法 〈8.21.6〉
⊙ 連続繊維補強工法 〈8.21.7〉
製造所（　　）
接着性試験及び耐久性試験
⊙ 行う　・ 行わない

② 既存部分の撤去 撤去範囲　※ 図示 〈8.21.2〉

8-6 耐震改修工事（その他）

① グラウト材 無収縮モルタル材は、製造所で調合された材料を使用する。 〈8.2.10〉
圧縮強度(N/mm2)：３０以上
コンシステンシー J_{14} ロート値(秒)：６～１０
乾燥収縮（×１０$^{-4}$）：０

② 柱底等の均しモルタル 無収縮モルタル材　・ 使用する　・ 使用しない 〈8.2.10〉

③ スリットの種類 ※ 完全スリット　・ 部分スリット 〈8.22.1〉

④ スリットの充填材 耐火材の使用　・ 使用する　・ 使用しない 〈8.22.2〉
適用箇所　※ 図示
遮音材の使用　・ 使用する　・ 使用しない
適用箇所　※ 図示

JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事　改修特記仕様書３　Ａ－４
DATE　SCAL　DRAWN　CHEK
株式会社 構 建築設計事務所　一級建築士 第295317号 徳田 伸治

9－1 環境配慮改修工事（アスベスト含有建材の処理工事）

① 一般事項

石綿等の取扱については、石綿障害予防規則（平成17年2月24日厚生労働省令第21号）（以下、「石綿則」という。）を遵守すること。

施工調査 〈9.1.1(d)〉

※ 行う （調査結果は図面等に記録し、監督職員に提出すること。
調査の結果、設計図書と異なる場合は監督職員と協議する。）

調査箇所 ※ 図示 ・（ ）

調査事項
※ アスベスト含有建材等の使用部位
※ アスベスト含有建材等の種類、厚さ
※ 施工範囲と工事範囲区分
※ 廃棄物などの搬出方法

・ 行わない。

アスベスト含有分析 〈9.1.1(d)〉

・ 行う（分析結果は監督職員に提出する。）
分析方法 ※ JIS A 1481「建材製品中のアスベスト含有測定法」による。

材料名	定性分析	定量分析
	・（試料数： ）	・（試料数： ）
	・（試料数： ）	・（試料数： ）
	・（試料数： ）	・（試料数： ）
	・（試料数： ）	・（試料数： ）

・ 行わない

アスベスト粉じん濃度測定 〈9.1.1(e)〉

※ 行う（測定する時期・場所等は下表による）
「JIS K 3850-1 空気中の繊維状粒子測定方法－第1部－
：光学顕微鏡法及び走査電子顕微鏡法」による位相差、分散顕微鏡法による。

適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点（各施工箇所ごと）	室名等
	測定１	処理作業前	処理作業室内（注１）	※２点 ・ 点 ※２点 ・ 点 ※２点 ・ 点 ※２点 ・ 点	
	測定２		施工区画周辺又は敷地境界	※２点 ・ 点 ※２点 ・ 点	
	測定３	処理作業中	処理作業室内（注１）	※２点 ・ 点 ※２点 ・ 点 ※２点 ・ 点 ※２点 ・ 点	
○	測定４		セキュリティゾーン入口（空気の流れを確認）	※１点 ・ 点 ※１点 ・ 点 ※１点 ・ 点	
○	測定５		負圧・粉じん装置の排出吹出口（除じん装置の性能確認）	※１点 ・ 点 ※１点 ・ 点 ※１点 ・ 点	
○	測定６		施工区画周辺又は敷地境界	※２点 ・ 点 ※２点 ・ 点	
○	測定７	処理作業後シート撤去前	処理作業室内	※２点 ・ 点 ※２点 ・ 点 ※２点 ・ 点 ※２点 ・ 点	
	測定８		施工区画周辺又は敷地境界	※２点 ・ 点 ※２点 ・ 点	
○	測定９	処理作業後シート撤去後	処理作業室内	※２点 ・ 点 ※２点 ・ 点 ※２点 ・ 点 ※２点 ・ 点	
			測定点総計	点	

注１：周囲状況により上記によりがたい場合は、監督職員と協議する。

・ 行わない。

（例）アスベスト粉じん濃度測定方法

	測点３	測点１，２，４，６，７，８	測点５
数計機器	位相差・分散顕微鏡		
メンブレンフィルタの直径	２５㎜		４７㎜
試料の吸引流量	１Ｌ／min	５Ｌ／min	１０Ｌ／min
試料の吸引時間	5min	１２０min	２４０min
試料の透明化	アセトン固定－有機物灰化－屈折率浸液法		
計数条件	総合倍率４００倍、アスベスト繊維総数、通常５０視野		
計数アスベスト	幅３μm未満、長さ５μm以上、アスペクト比（長さ／幅）３以上		
定量限界	５０本／L	０．４７本／L	０．３本／L

記録する項目
ア．測定結果
イ．測定時間
ウ．測定位置（測定高さとともに図面上に記載する。）
エ．サンプリング条件
（メンブレンフィルタ直径、吸引時間、吸引空気量）
オ．マウンティング法
カ．顕微鏡視野面積、計数視野数
キ．測定時（各測定場所ごと）の
天候、温度、湿度、外気の風速及び風量

測定機関 〈9.1.1(e)〉
都道府県労働局に登録されている作業環境測定機関

施工記録報告書の提出
１．施工計画書
２．工事記録及び工事写真
３．産業廃棄物処理記録（廃石綿）
４．施工調査等記録（条規施行調査、含有分析、粉じん濃度測定等）
５．作業者の作業記録、各種健康診断記録、安全衛生教育記録
６．その他必要事項

提出部数 ３部作成

② 除去工事共通事項

専門工事業者 〈9.1.2(a)〉
アスベスト含有建材の除去を直接行う専門業者については、工事に相応した技術を有することを証明する書類を監督員に提出する。

作業主任者の選出 〈9.1.2(b)〉
石綿作業主任技能講習又は平成18年3月以前の特定化学物質等作業主任者技能講習を終了したものの中から、「石綿作業主任者」を選任しなければならない。

除去作業者の教育 〈9.1.2(c)〉
作業者は、就業時に石綿則第27条に基づく教育を受けたものとする。
また、一般健康診断、じん肺健康診断を受診したものとし、肺機能に異常のないものとする。

特別管理産業廃棄物管理責任者の選出 〈9.1.2(d)〉
排出業者は、特別管理産業廃棄物管理責任者の資格を有するものを選任し管理しなければならない。
ただし、アスベスト含有成形板の処理工事を除く。

表示及び掲示
更衣室など見やすい箇所に次の表示及び掲示を行う。 〈9.1.2(f)〉
※ アスベスト作業主任者名と職務内容
※ 関係者以外立入禁止
※ 喫煙・飲食の禁止
※ 「アスベスト除去作業中」の表示
※ アスベストの有害性
※ 取り扱い上の注意事項
※ 使用すべき保護具

周辺住民の見やすい箇所に以下の表示を行う。
※ 「建築物等の解体等の作業に関するお知らせ（労働基準監督署への届出内容、粉じん飛散抑制装置、曝露防止措置等）」

保護具、保護衣 〈9.1.2(g)〉
作業内容に応じた、呼吸用保護具、保護めがねを使用すること。

除去したアスベスト含有物の保管、運搬等 〈9.1.3(c)〉×〈9.1.4(c)〉×〈9.1.5(C)〉
※ 他の内装材、廃棄物等と分別保管
※ 保管場所での飛散防止を施す。また、アスベスト成形板を運搬する場合は、運搬車両の荷台全体をシート等で覆い、飛散防止に努める。
※ アスベスト等の保管場所である旨の表示を行う。

③ アスベスト含有吹付け材の除去

アスベスト含有吹き付け材の除去工事 〈9.1.3(b)〉
・ 行う
・ 行わない

適用範囲 ※ 図示

作業場等の隔離等 〈9.1.3(a)〉
※ 作業場は以下によるものとし負圧除じん機にて負圧状態により飛散防止をすること。

隔離シートの性能

※ 床面	※ 0.15㎜以上のプラスチックシート等で二重
※ 壁面	※ 0.08㎜以上のプラスチックシート等

ただし、（財）日本建築センターの「建設技術審査証明事業」による「吹き付けアスベスト粉じん飛散防止処理技術（除去）」の審査証明書（以下、「審査証明書」という。）を取得している工法と同等の飛散防止処理技術を有する工法とすることができる。その際には監督員の承諾を得ること。

セキュリティーゾーンの設置 〈9.1.3(a)〉
※ 下表による

適用	室名	状態	
※	更衣室		※ 更衣ロッカー ※ 新品の保護具 ※ 呼吸用保護具保管箱 ※ 洗顔、うがい設備
※	洗浄室	負圧	※ エアシャワー（温水シャワー）
※	前室	負圧	・ 高性能真空掃除機 ・ 使用済み保護衣保管かご

ただし、（財）日本建築センターの「建設技術審査証明事業」による「吹き付けアスベスト粉じん飛散防止処理技術（除去）」の審査証明書（以下、「審査証明書」という。）を取得している工法と同等の飛散防止処理技術を有する工法とすることができる。その際には監督員の承諾を得ること。

除去物及び汚染等 〈9.1.3(b)〉
処理方法
※ 密封処理（二重袋梱包）
隔離養生に用いたシート、使用した使い捨て保護衣、高性能真空掃除機フィルタ、除じん機フィルタについても密封処理を行う。
・ セメント固化

④ アスベスト含有保温材等の除去

アスベスト含有保温材の除去工事 〈9.1.4(b)〉
・ 行う
・ 行わない

適用範囲 ※ 図示

養生等 〈9.1.4(a)〉
※ 養生シート等を用いて区画し、場外への飛散防止を行う。

掻き落とし、破砕、切断による除去方法
※ 行わない
・ 行う…この場合は改修標仕〈9.1.3〉「アスベスト含有吹き付け材の除去」によること。

除去工法 〈9.1.4(b)〉
※ 粉じん飛散抑制剤などにより湿潤化したあとに、手ばらしによること。
※ 除去物については改修標仕〈9.1.3(b)〉により、密封処理とする。

⑤ アスベスト含有成形板の除去

アスベスト含有成形板の除去工事 〈9.1.5(b)〉
⊙ 行う
・ 行わない

適用箇所 ※ 図示（煙道 石綿管180φ）

⊙ 作業場等の隔離等及び、セキュリティーゾーンの設置 〈9.1.3(a)〉

除去工法 〈9.1.5(b)〉
※ 作業場は、散水等により湿潤化し、手ばらしによること。
※ やむを得ず破壊しなければならない場合には、十分に湿潤化した状態で行うこと。
※ 除去物については、粉じんの飛散防止に努め、特に破砕されたアスベスト含有成形板については、湿潤化の上、丈夫なプラスチック袋に入れる等の飛散防止措置を講ずること。

9－2 環境配慮改修工事（断熱材工事）

〈9.5.2～3〉

			厚さ(mm)	
※ ポリスチレンフォーム（発泡プラスチック保温材）	・A種ビーズ法 ※A種押出法 2種b	下記以外	※ 25	JIS A 9511の規格品
	※A種押出法 3種b（スキン層付き）	接地部分及び屋根防水部分 ビット内部		
・ 硬質ウレタンフォーム保温材	※A種			
・ 吹付け硬質ウレタンフォーム保温材	※A種1		※ 20	JIS A 9526による難燃性 ・2級 ※3級

※ 施工範囲は建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 平成17年度版）７－０１－１による

10 土工事

① 埋戻し及び盛土の種別

・ A種 ※ B種 ・ C種 ・ D種 (3.2.3)(表3.2.1)
C種の場合 建設発生土受入れ量 m3
発生場所
受入条件

② 建設発生土の処理

・ 構外に搬出し適切に処理する。
・ 構外指示の場所に搬出する。
受入れ施設名・住所（km）
⊙ 構内指示の場所に敷きならす。
・ 構内指示の場所にたい積する。

11 コンクリート・押出成形セメント板工事

1. コンクリートブロック帳壁及び塀

ブロックの種類 (8.3.2)(表8.3.1)
※ 空洞ブロック １６
（ただし、設備配管用裏積等は空洞ブロック08とすることができる。）

12 舗装工事

①	再生材	※ 使用する ・ 使用しない	(22.1.3)
2.	盛土材料	路床の盛土材料 ・（ ）種	(22.2.2)(表3.2.1)
3.	遮断層及び凍上抑制層用材料	遮断層 ※ 川砂・海砂又は良質な山砂 凍上抑制層 ※ 再生クラッシャラン ・ 切込砂利又は切込砕石 ・ 路盤用鉄鋼スラグ	(22.2.3)
④	路床土の支持力比（CBR）試験	※ 行わない ・ 行う（※ 乱した土 ・ 乱さない土）	(22.2.5)
⑤	路床締固め度の試験	※ 行わない ・ 行う	(22.2.5)
			(22.3.3)(表22.3.1)
⑥	路盤材料	※ 再生クラッシャラン RC－４０（透水性舗装の場合を除く） ・ クラッシャラン C－４０ ・ クラッシャランスラグ CS－４０	
⑦	アスファルト舗装	加熱アスファルト混合物の種類 (22.4.4)(表22.4.6) 表層 ※ 再生密粒度アスファルト混合物（１３） ・ 密粒度アスファルト混合物（１３） ・ 細粒度アスファルト混合物（１３） 基層 ※ 再生粗粒度アスファルト混合物（２０） ・ 粗粒度アスファルト混合物（２０）	
⑧	コンクリート舗装	早強セメント ・ 使用する ※ 使用しない 溶接金網 ※ あり ・ なし	(22.5.3)
9.	ブロック系舗装	・ コンクリート平板舗装 ※ 砂目地 ・ モルタル目地 ・ インターロッキングブロック舗装 ・ 舗石基層 ※ コンクリート舗装 ・ アスファルト舗装	(22.8.2)(表22.8.1)
10.	縁石及び側溝		(22.9.2)
11.	砂利敷き	・ A種(通路) ※ B種(建物周辺)	(22.10.2)
12.	区画線	※ ３種１号白	

13 ユニット及びその他の工事

1. フリーアクセスフロア

(20.2.2)

施工場所	工法	仕上り高(mm)	適用地震時水平力(Ks)	耐荷重性能(N)	表面仕上げ
	・溝工法（置敷工法）		・ 1.0G ※ 0.6G	・ 3,000 ・ 5,000	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット
	・支柱一体型パネル工法（置敷工法）				
	・支柱分離型パネル工法（独立支柱工法）				

ボーダー部 ※ 一般部分の仕様に準ずる ・ 図示による
床表面仕上げ材の品質は第6章による。
配線取出し用切り欠きパネルは１枚／㎡以上とする。
空調用吹き出し（吸い込み）パネル ※ なし
・ 有り（※固定式 ・可変式）
施工箇所は図示

2. 可動間仕切（パーテーション）

(20.2.3)

構造形式による種類	スタッド式密閉形
構成材の種類	アルミニウム合金系又はスチール系
パネル表面材	焼付塗装鋼板（標準色） t＝０．５以上
遮音性	３６dB以上
防火性能	不燃

3. 移動間仕切（スライディングドア）

(20.2.4)

パネルの操作方法による種類	規定しない
パネル表面材の材質及び仕上げ	製造所仕様の化粧鋼板（標準色） t＝０．５以上
パネル圧接装置の操作方法	ハンドル回転式又はワンタッチ上下式
遮音性	３６dB以上
防火性能	不燃
取り付け用あと施工アンカー	材質，寸法等は図示又は製造所の仕様による

4. トイレブース

(20.2.5)

表面材	メラミン化粧板（標準色）
幅木	ステンレス製 H＝６０
フレーム	アルミ製
扉	厚４０中心吊りアール形アルミ製エッジ，帽子掛け戸当たり付き

5. 階段滑り止め（ノンスリップ）

(20.2.6)

材種	ステンレス（ＳＵＳ３０４）
	ビニールタイヤ入り（幅約35㎜）
取り付け方法	※ 接着工法 ・ 埋込み工法

6. 床目地棒

(20.2.7)

ステンレスＦＢ（ＳＵＳ３０４） ５～６×１２
（床仕上げが異なる場合に設ける。但し、建具部は建具表による。）

7. 鏡

耐湿鏡 t＝５ ステンレスフレーム付き (20.2.9)

8. 点検口

施工箇所	材種	寸法	形式
天井	※ アルミニウム製	※ ４５０×４５０ ・ ６００×６００	※ 目地タイプ ・ 額縁タイプ
床	※ アルミニウム製	・ ４５０×４５０ ※ ６００×６００	※ 一般型貼物用 ・ 一般型充填用
屋外	※ コンクリート製 ・ 磁器質タイル（※１００角 ・１５０角）		

9. 視覚障害者用誘導ブロック

10. 手すり

各工事の区分表

工事項目	建築	電気	衛生	空調	昇降	外構		備考
構造躯体の貫通スリーブ及び箱入れ	○	○	○	○	○			各工事に必要なｽﾘｰﾌﾞは各々の工事とする（予備は建築工事）
同上貫通の開口補強	○							
同上スリーブ及び箱入れの穴埋め補修	○	○	○	○	○			
工場製作間仕切及び同左の天井，床，各種設備器具の穴開け，取付枠及び補強								
天井付各種設備器具の穴開け，取付枠及び補強・補修	※	○	○	○				※下地補強のみ建築
設備関係諸室のシンダーコンクリート	○							
屋上、屋外及び屋内設置機器及び水槽類の基礎	○							
同上　仕上（防水）	○							
同上　用架台及びアンカーボルト箱入れ，埋込み		○	○	○				
自動ドア・防火扉（シャッター含む）	○	※						※煙感からの信号、１次配線
台所用ｼﾝｼﾞﾌｰﾄﾞﾌｧﾝ及び浴室天井扇及び取付調整			○					ﾕﾆｯﾄﾊﾞｽ除く
同上ダクト接続				○				
同上電源用配管，配線及び接続		○						
ユニットバス（ﾕﾆｯﾄｼｬﾜｰ含む以下同じ）墨出し及び据付工事	○							
浴槽及び据付	○							浴槽パン共建築工事
ユニットバス内シャワー水栓及び取付	○							
同上廻りシーリング打ち	○							
同上への配線及び配管接続		○	○					※１次側のみ
キッチンキャビネット及び据付工事	○							
同上への配管接続			○					
吊戸棚，水切棚及び取付（バックガード共）	○							
同上への照明用電源配線及び接続		○						
洗面台及び据付			○					
洗面台カウンター表面板仕上げ（製作物のみ）	○							
同上配管接続			○					
同上への照明用及びヒーター用電源配線及び接続		○						
洗濯パン			○					
設備機器用スリーブ，給気用スリーブ及び取付			○	○				
ダクト用ベントキャップ及び取付				○				
床、壁、天井点検口（下地補強共）	○							設備盤用扉は各設備工事
換気扇及び取付枠への取付，配線		※		○				※配線は電気
換気扇取付枠及び躯体への取付				○				
床暖房工事	※1	※2	※2					※１仕上げは建築　※２電気又は空調は電気式・温水式区分による
非常用照明及び誘導灯		○						
消火器			○					
同上表示及び収納箱	○							
各種配管，ダクトの雨掛り躯体貫通部のｼｰﾘﾝｸﾞ打ち		○	○	○				
エレベーター各階出入口躯体穴開け・吊りフック	○							
エレベーター出入口三方枠・扉上部幕板					○			
三方枠廻りのノロ詰め					○			
エレベーター機械室床，穴開け復旧工事	○							
資材搬入口の仮設並びに復旧工事	○							
機器類取付後の出入口廻り（壁・床・枠等）仕上工事	○							
竪樋・ドレン・受け樋	○							
竪樋から第一桝までの接続	○							
同上第一桝以降の排水設備（桝・側溝等）						○		
マンホール、ハンドホール等の化粧蓋及びタラップ	※1	○	○					※1タラップは建築工事（躯体に設置する場合）
ＴＶアンテナ、アンカーボルト取付工事		○						
屋上点検口、各種タラップ工事	○	※	※	※				※図面特記により電気、衛生又は空調
ゴミ集積所工事（屋外）		※				○		※照明器具の設置及び配線
自転車置場（屋外）						○		
同上照明器具及び接続		○						
プロパンボンベ庫	○	※	※					
同上配管工事			○					
便所の目皿・手摺り	○							便器一体の手摺り除く
便所のペーパーホルダー			○					
手洗い乾燥機			○					
浄化槽・受水槽・オイルタンク躯体	※		○					※特殊基礎は建築工事
屋外駐車場，歩道工事						○		
雨水排水側溝設置工事						○		
同上排水管接続			○					

工事項目	建築	電気	衛生	空調	昇降	外構		備考

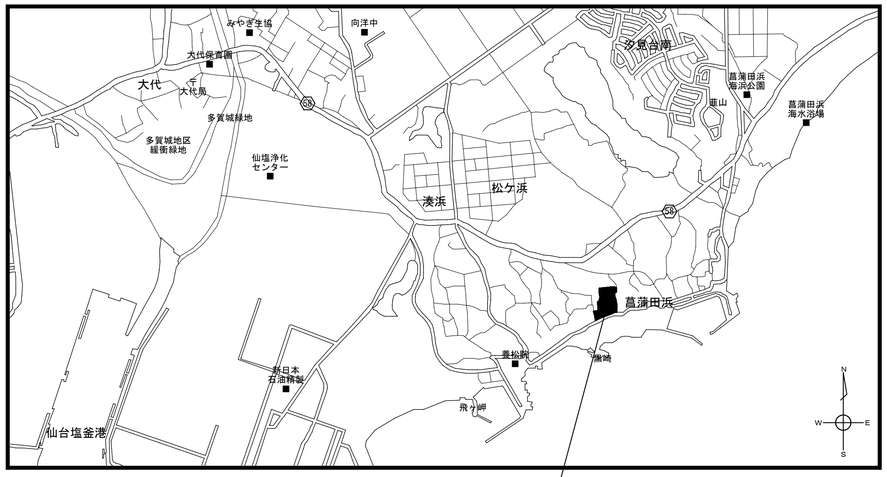
	工事項目	建築	電気	衛生	空調	昇降	外構		別途	備考
1	・仮設用の上下水道・ガス・電気等の加入金，	○	○	○	○	○	○			
2	・仮設用の上下水道・ガス・電気等に要する費	○	○	○	○	○	○			
3	１，２以外の工事及び調整等に要する上下水電気等に要する費用	○	○	○	○	○	○			
4	上下水道・ガス・電気等の加入金，負担金								○	

JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

各工事の区分表

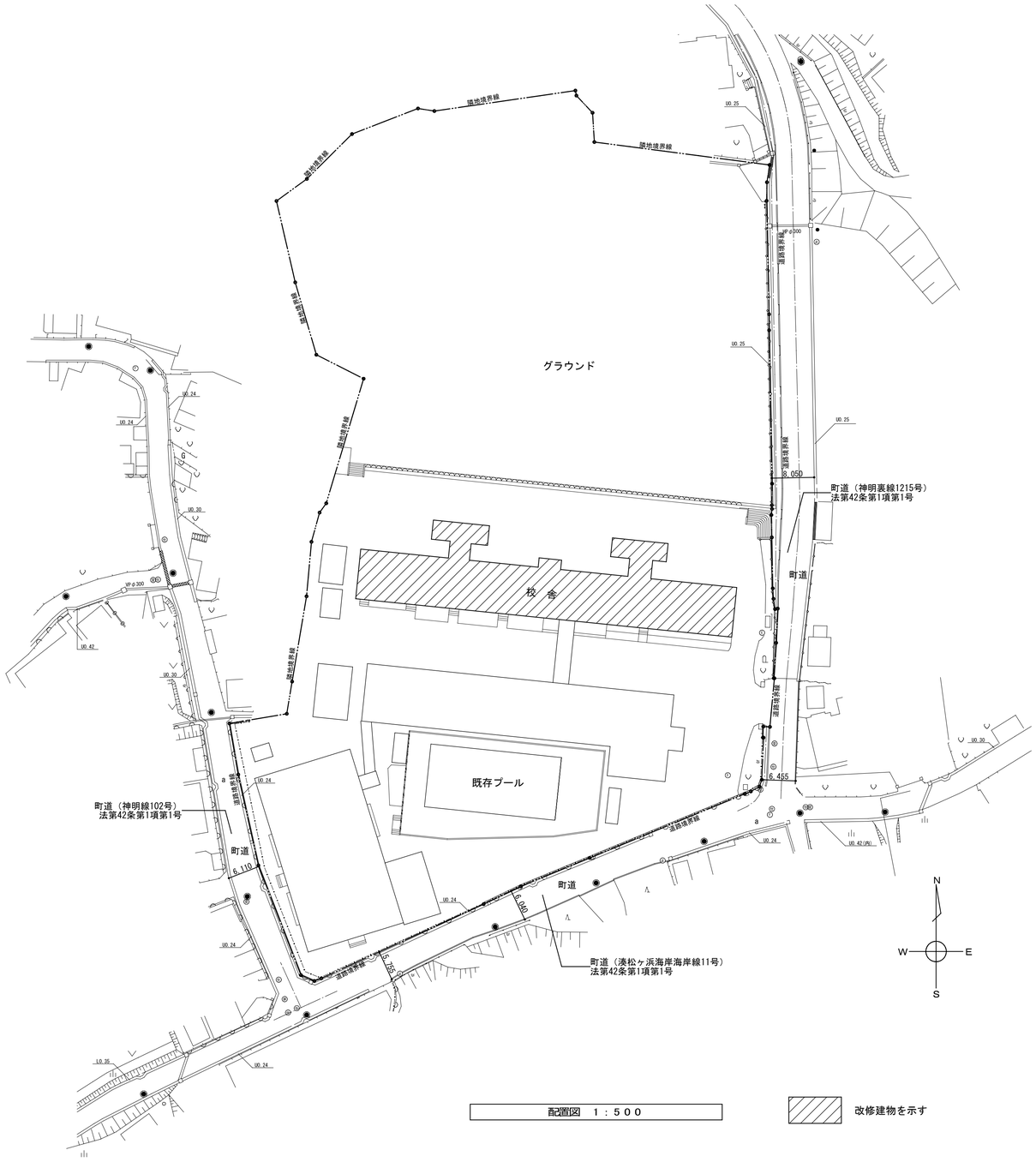
DATE　SCAL　DRAWN　CHEK　A－６

株式会社 構 建築設計事務所
一級建築士　第 295317 号　徳田　伸治



施行場所：宮城県宮城郡七ヶ浜町松ヶ浜字神明裏５２

案内図



配置図　１：５００

改修建物を示す

JOBNO

平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

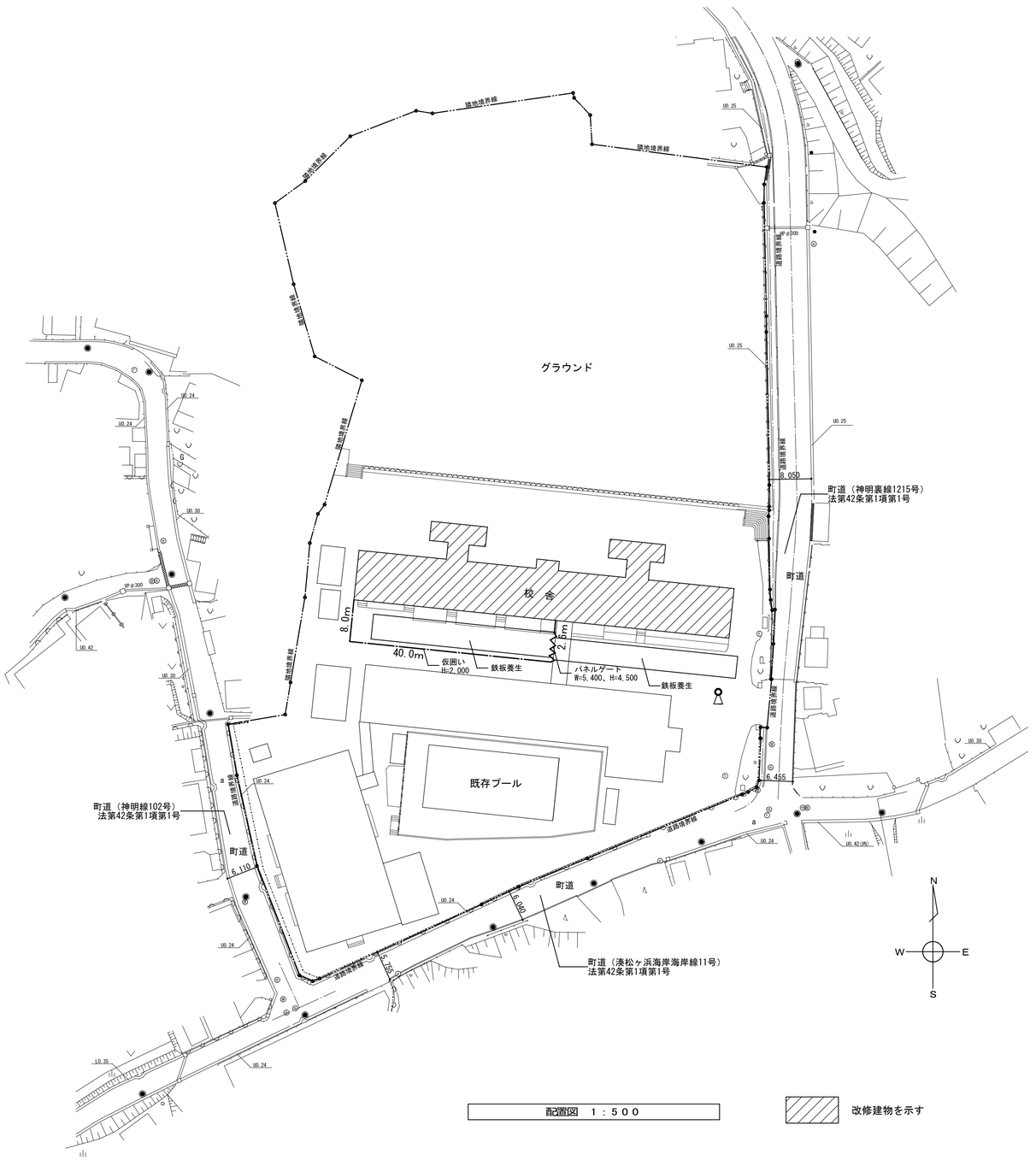
案内図・配置図

A－７

DATE　SCALE 1:00　DRAWN　CHEK

株式会社 構 建築設計事務所

一級建築士　第 295317 号　徳田　伸治



配置図　１：５００

改修建物を示す

特記事項

仮囲可能鋼板（H=2,000　L=50.6m）

工事仮設使用範囲

シートゲート　W=5,400、H=4,500　１か所

鉄板養生（ｔ＝22　263㎡）

交通整理員（工事期間中常駐）　1人

工事範囲

出入口

JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

仮設計画図

DATE　SCAL 1/500　DRAWN　CHEK　A－8

株式会社 構 建築設計事務所

一級建築士　第 295317 号　徳田　伸治

外部仕上表

区　分		テラス	犬走り	巾木	外壁	バルコニー	屋　根	備　考
校　舎	改修前	コンクリート舗装版	コンクリートコテ仕上：撤去 土間コンクリート　ァ１００：撤去	モルタル刷毛引き ：水洗い、下地補修	モルタルの上外装薄塗材Ｅ：下地処理（サンダー工法）、下地補修 モルタル：撤去 ＲＣ壁　ｔ＝１２０（周囲カッター入れ）：撤去 ＲＣ庇ｔ＝１００、梁共：撤去（周囲カッター入れ）	床・立ち上がり　防水モルタル塗（目地切） 壁・軒天　外壁と同じ	屋　上　シート防水（機械固定） フェンス基礎　ウレタン塗膜防水：撤去 スチールフェンス：撤去 軒　天　コンクリート打放し外装薄塗材Ｅ：下地処理（サンダー工法）、下地補修	
	改修後	既存のまま	コンクリート直均し：新設 土間コンクリート　ァ１００：新設	下地補修のみ	複層塗材Ｅ （鋼板内臓コンクリート外付けブレース）コンクリート打放し　複層塗材Ｅ：新設 （鉄骨ブレース）押出成形セメント板　ァ６０　複層塗材Ｅ：新設 （ＲＣ補強壁）コンクリート打放し　複層塗材Ｅ	床・立ち上がり　既存のまま 壁・軒天　外壁と同じ	屋　上：既存のまま フェンス基礎　ウレタン塗膜防水：新設 スチールフェンス：新設 軒　天　外装薄塗材Ｅ：新設	

内部仕上表

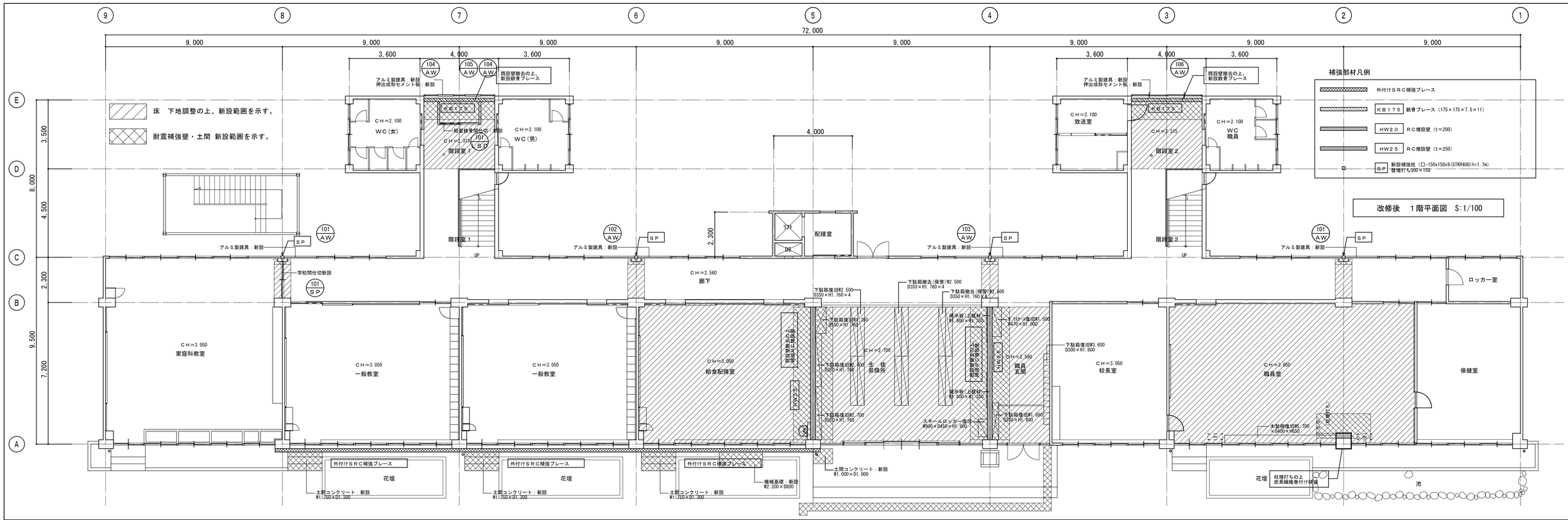
階	室　名		床 仕上	床 下地	床 床レベル	幅木 仕上	幅木 H	壁 仕上	壁 H	壁 腰壁	壁 小壁	壁 柱型	壁 梁型	天井 仕上	天井高	備　考
１　階	生徒昇降所	改修前	モルタル金ゴテ　ァ３０：撤去 土間コンクリート　ァ１００：撤去	モルタル	±０	モルタル金ゴテ ＥＰ　一部撤去	１００		１００	モルタル金ゴテＥＰ		モルタル金ゴテＥＰ	モルタル金ゴテＥＰ	有孔石膏ボード　ア）９　目透し　ＥＰ　下地共撤去	２７００	下駄箱：取外し スチールロッカー：取外し
																掲示板：取外し ＲＣ壁：撤去
		改修後	モルタル金ゴテ　ァ３０　目地切@９００：新設 土間コンクリート　ァ１００：新設	既存のまま		モルタル金ゴテ ＥＰ　一部新設		ビニル幅木 新設		既存のまま、一部補修		既存のまま 一部補修	既存のまま 一部補修	化粧石膏ボード　ァ９．５ 軽鉄下地共新設	２７００	下駄箱：再取付 スチールロッカー：再取付
																掲示板：再取付
	職員玄関	改修前	ビニル床シート　ァ２．５　モルタル共：撤去 一部　土間コンクリート　ァ１００：撤去	モルタル	±０	モルタル金ゴテ ＥＰ				モルタル金ゴテ　ＥＰ ＲＣ壁：撤去		モルタル金ゴテＥＰ		有孔石膏ボード　ア）９　目透し　ＥＰ　下地共撤去	２５６０	掲示板：撤去
			磁器質床タイル　モルタル共：撤去 一部　土間コンクリート　ァ１００：撤去													
		改修後	ビニル床シート　ァ２．５：新設 土間コンクリート　ァ１００：新設	モルタル		既存のまま		ビニル幅木 新設		コンクリート打放し　ＥＰ：新設 既存のまま		既存のまま 一部補修	既存のまま 一部補修	化粧石膏ボード　ァ９．５ 軽鉄下地共新設		
			磁器質床タイル　モルタル共：新設 土間コンクリート　ァ１００：新設													
	職員室	改修前	ビニル床シート　ァ２．５ 一部　床仕上撤去	モルタル	±０	モルタル金ゴテ ＥＰ				モルタル金ゴテ　ＥＰ ＲＣ壁：撤去		モルタル金ゴテＥＰ	モルタル金ゴテＥＰ	有孔石膏ボード　ア）９　目透し　ＥＰ　下地共撤去	３０５０	ＲＣ壁・煙突：撤去
		改修後	既存のまま 一部　下地調整の上ビニル床シート　ァ２．５新設	既存のまま		既存のまま		ビニル幅木 新設		コンクリート打放し　ＥＰ：新設 既存のまま		既存のまま	既存のまま	化粧石膏ボード　ァ９．５ 軽鉄下地共新設		
	給食配膳室	改修前	フローリングブロック　ァ１５　モルタル共：撤去 一部　土間コンクリート　ァ１００：撤去	モルタル	±０	モルタル金ゴテ ＥＰ				モルタル金ゴテＥＰ		モルタル金ゴテＥＰ	モルタル金ゴテＥＰ	有孔石膏ボード　ア）９　目透し　ＥＰ　下地共撤去	３０５０	木製ロッカー：撤去、木製棚：撤去 掲示板：撤去
		改修後	ビニル床シート　ァ２．５：新設 土間コンクリート　ァ１００：新設	モルタル		既存のまま		ビニル幅木 新設		既存のまま		既存のまま	既存のまま	化粧石膏ボード　ァ９．５ 軽鉄下地共新設		
	階段室１	改修前	ビニル床シート　ァ２．５ 一部　床仕上撤去	モルタル	±０	モルタル金ゴテ ＥＰ				モルタル金ゴテＥＰ		モルタル金ゴテＥＰ	モルタル金ゴテＥＰ	石膏ボード　ア）９　目透し　ＥＰ 下地共撤去	２３１５	
										石こうボード　ァ１２．５　ＥＰ　木下地共：撤去						
		改修後	既存のまま 一部　下地調整の上ビニル床シート　ァ２．５新設	既存のまま		既存のまま		ビニル幅木 新設		既存のまま		既存のまま	ＥＰ塗替	化粧石膏ボード　ァ９．５ 軽鉄下地共新設		
										石こうボードァ１２．５　ＥＰ ＬＧＳ下地Ｗ６５共：新設						
	多目的トイレ	改修前	ビニル床シート　ァ２．５ 一部　床仕上撤去	モルタル	±０	モルタル金ゴテ ＥＰ				石こうボード　ァ１２．５　ＥＰ　木下地共：撤去		モルタル金ゴテＥＰ	モルタル金ゴテＥＰ	石膏ボード　ア）９　目透し　ＥＰ 下地共撤去	２３１５	
		改修後														
		改修後	既存のまま 一部　下地調整の上ビニル床シート　ァ２．５新設			既存のまま		ビニル幅木 新設		構造用合板ァ１２の上げい酸カルシウム板ァ６　ＥＰ ＬＧＳ下地Ｗ６５共：新設		既存のまま	ＥＰ塗替	化粧石膏ボード　ァ９．５ 軽鉄下地共新設		
	階段室２	改修前	ビニル床シート　ァ２．５ 一部　床仕上撤去	モルタル	±０	モルタル金ゴテ ＥＰ				モルタル金ゴテＥＰ		モルタル金ゴテＥＰ	モルタル金ゴテＥＰ	石膏ボード　ア）９　目透し　ＥＰ 下地共撤去	２３１５	
			既存のまま 一部　下地調整の上ビニル床シート　ァ２．５新設													
						既存のまま		ビニル幅木 新設		既存のまま		既存のまま	ＥＰ塗替	化粧石膏ボード　ァ９．５ 軽鉄下地共新設		
										石こうボードァ１２．５　ＥＰ ＬＧＳ下地Ｗ６５共：新設						
各階共通	廊　下	改修前	ビニル床シート　ァ２．５ 一部　床仕上撤去			モルタル金ゴテ ＥＰ				モルタル金ゴテＥＰ　一部撤去				有孔石膏ボード　ア）９　目透し　ＥＰ 一部下地共撤去	２５００	
		改修後	既存のまま 一部　下地調整の上ビニル床シート　ァ２．５新設			既存のまま		ビニル幅木 新設		打増し壁　コンクリート打放しＢ種　ＥＰ新設				有孔石膏ボード　ア）９．５　目透し　ＥＰ 一部軽鉄下地共新設		

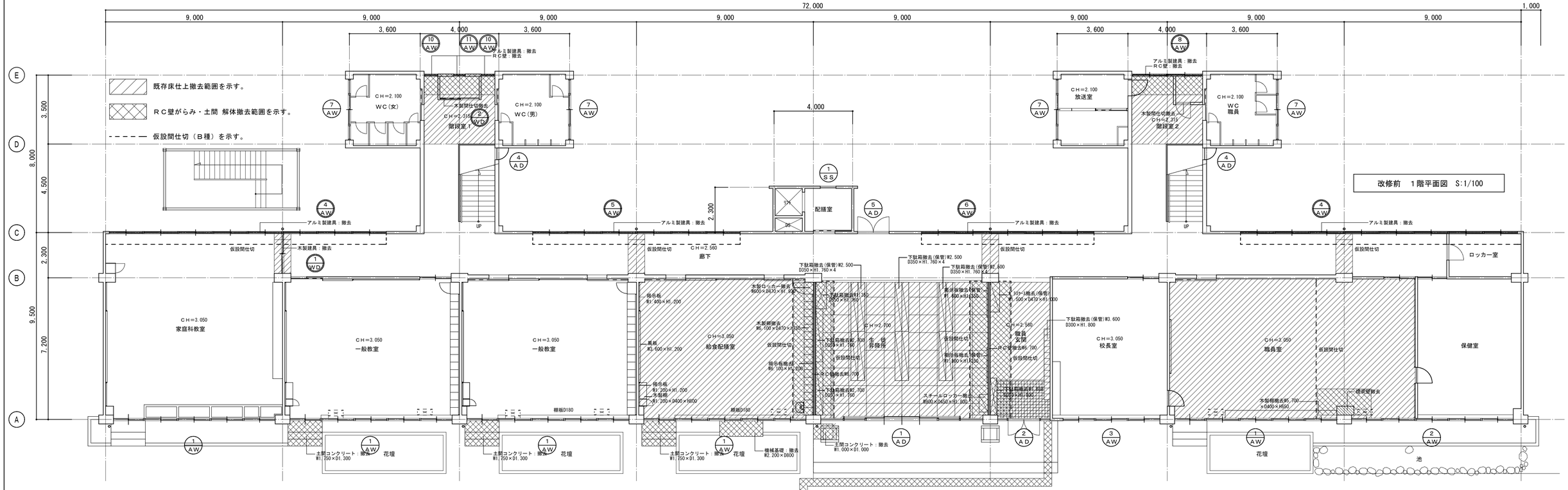
JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

仕上表

DATE　SCALE　DRAWN　CHEK　Ａ－９

株式会社 構 建築設計事務所　一級建築士　第２９５３１７号　徳田　伸治





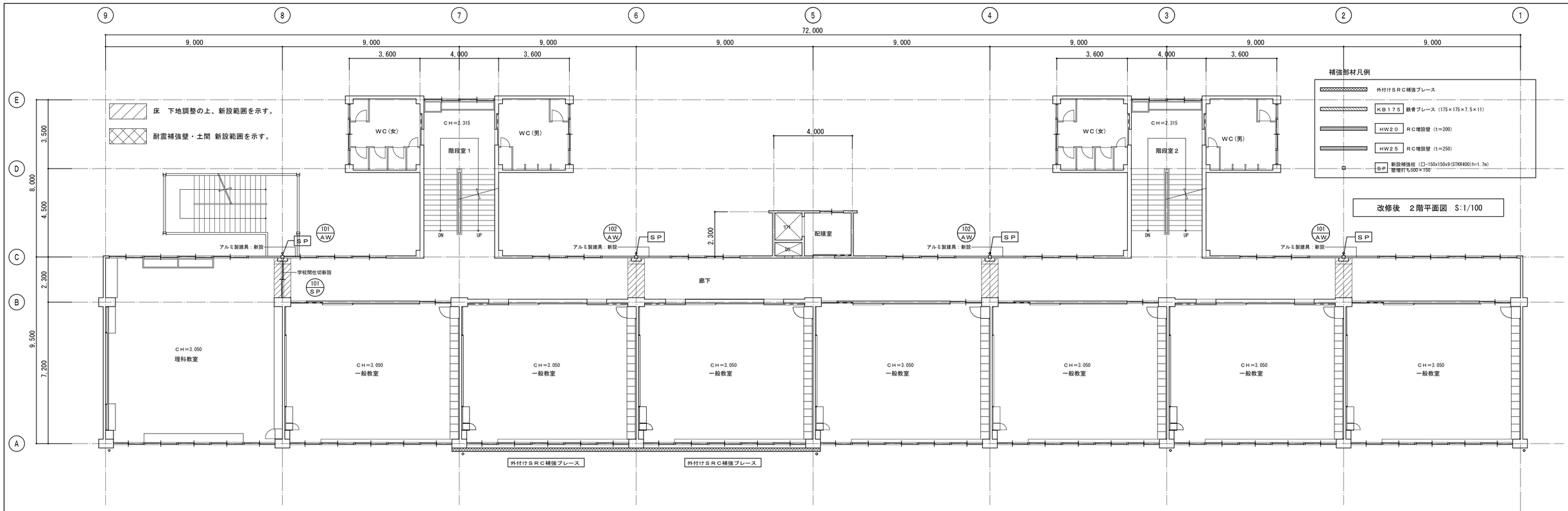
JOB NO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

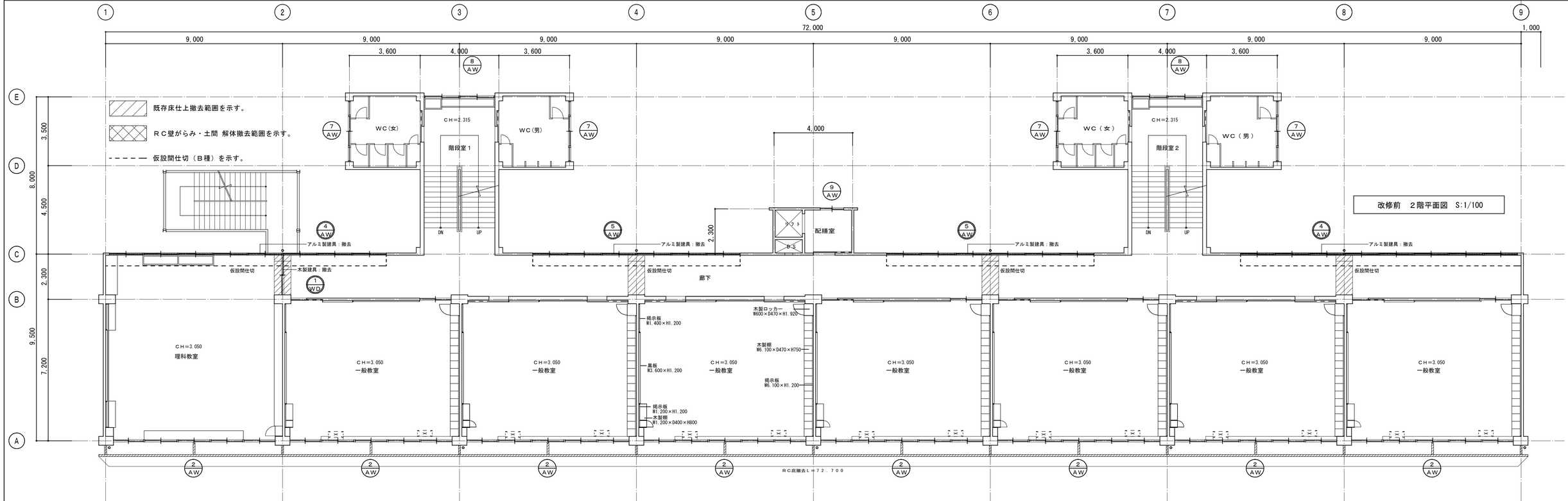
改修前・改修後　１階平面図

DATE　SCALE 1/100　DRAWN　CHEK　A－１０

株式会社 構 建築設計事務所

一級建築士 第295317号　徳田　伸治





JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

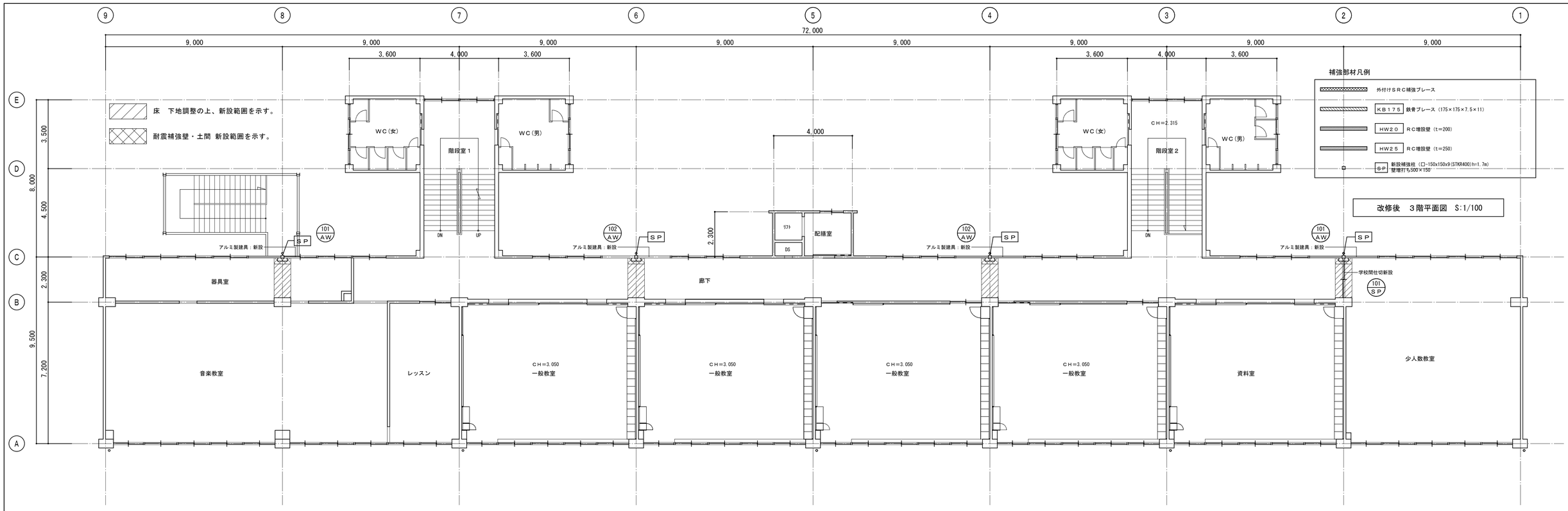
改修前・改修後　２階平面図

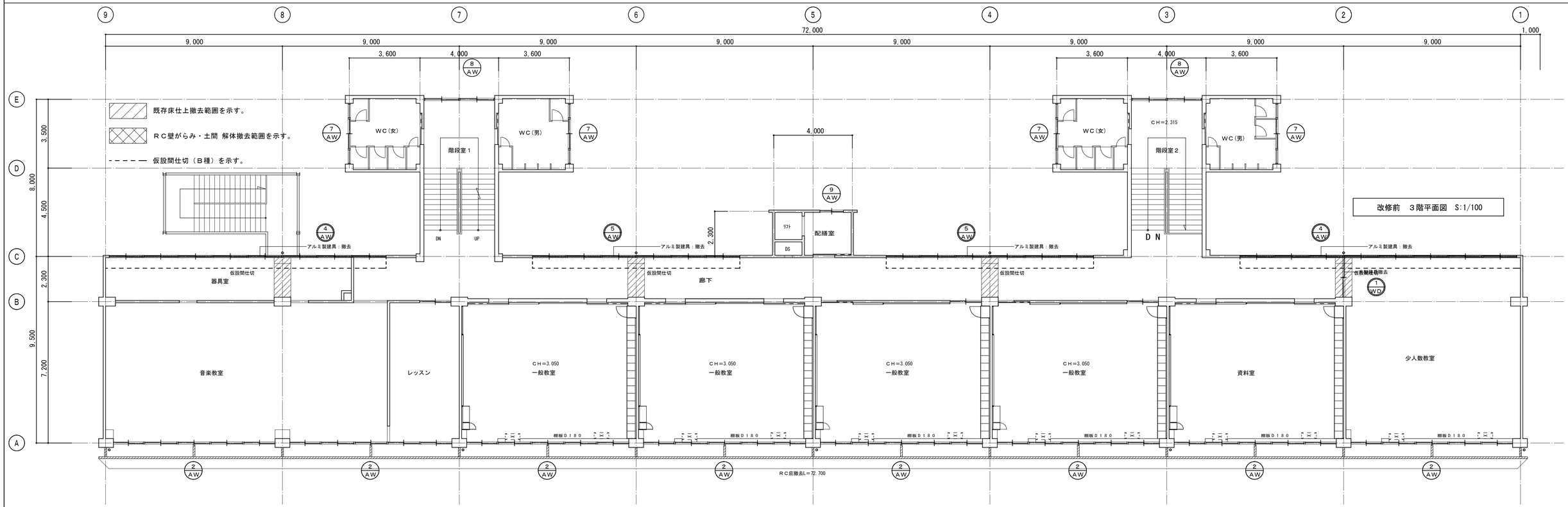
A－１１

DATE　SCALE 1/100　DRAWN　CHEK

株式会社 構 建築設計事務所

一級建築士 第295317号　徳田　伸治





JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

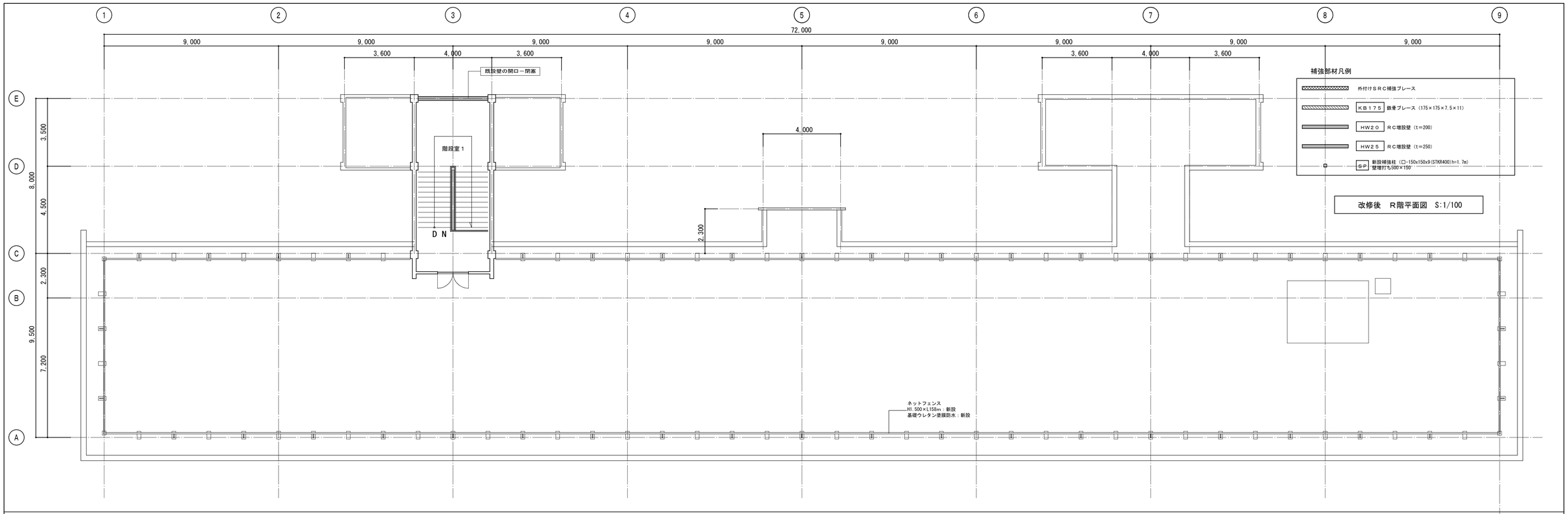
改修前・改修後　３階平面図

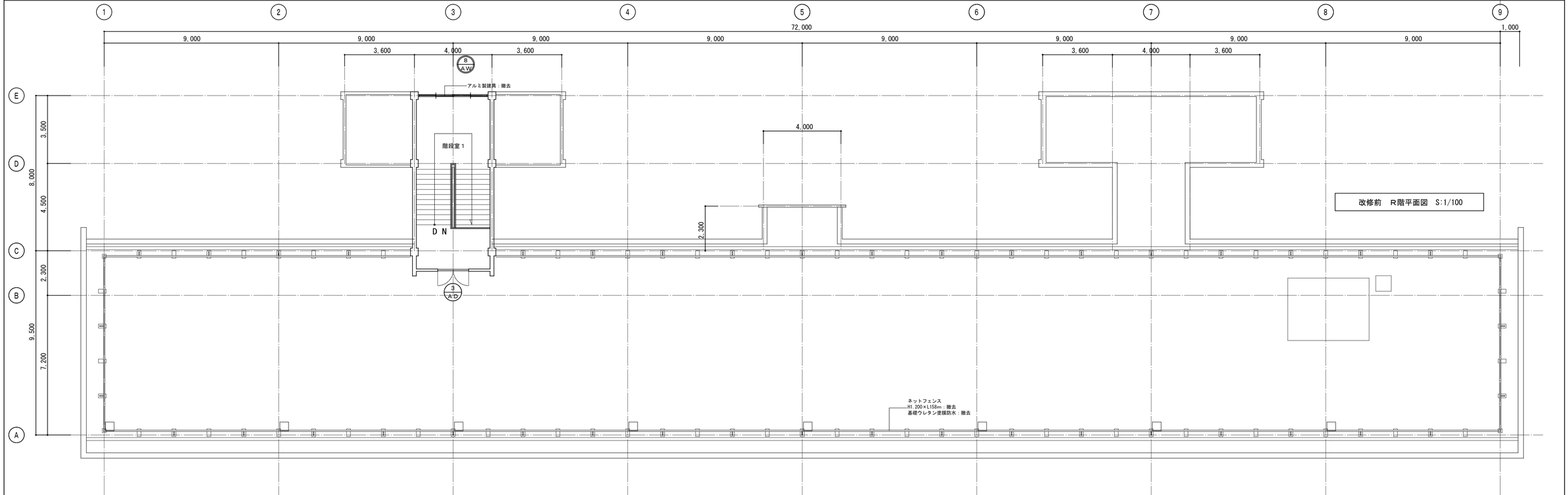
DATE　SCAL 1/100　DRAWN　CHEK

A－１２

株式会社 構 建築設計事務所

一級建築士 第295317号　徳田　伸治





JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

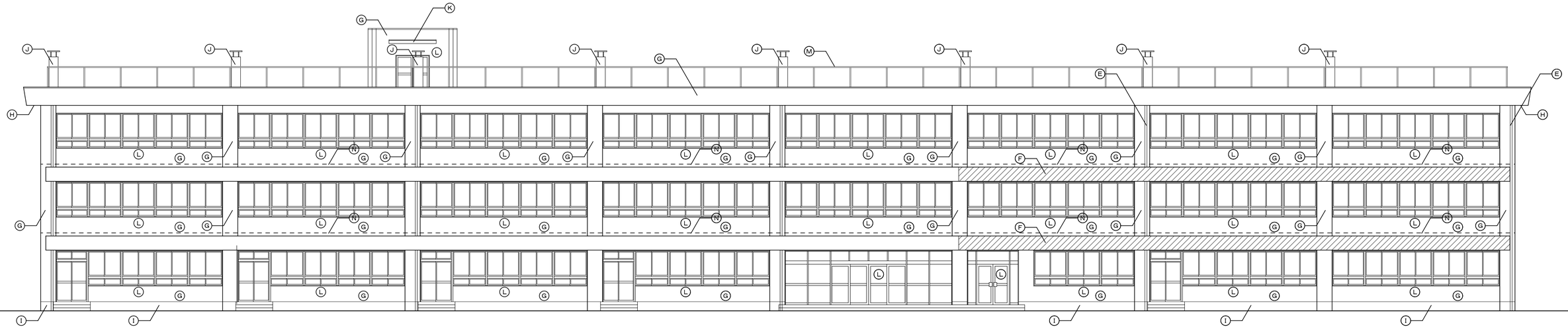
改修前・改修後　R階平面図

DATE　SCAL 1/100　DRAWN　CHEK

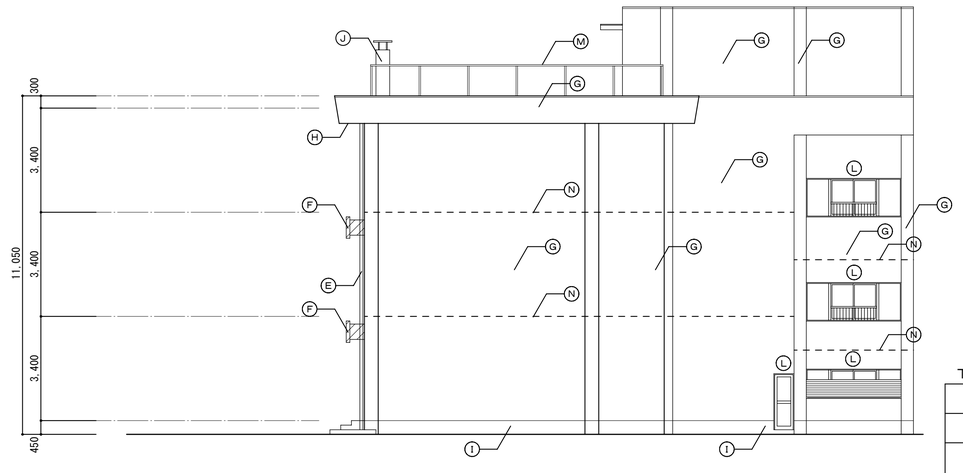
A－１３

株式会社 構 建築設計事務所

一級建築士 第295317号 徳田 伸治



改修前　南立面図　１：１００



改修前　東立面図　１：１００

外部撤去　凡例

	耐震改修
A	外壁　モルタルの上外装薄塗材Ｅ：モルタル撤去（周囲カッター入れ）
B	幅木　モルタル塗り：モルタル撤去（周囲カッター入れ）
C	外壁　ＲＣ壁ｔ=120：撤去（周囲カッター入れ）
D	アルミ製建具：撤去
E	竪樋　ＶＰ100φ：撤去
F	ＲＣ庇ｔ=100、梁共：撤去（周囲カッター入れ）
G	外壁　外装薄塗材Ｅ：下地処理（サンダー工法）
H	軒天：外装薄塗材Ｅ：下地処理（サンダー工法）
I	幅木　モルタル塗り：水洗い
J	煙突　外装薄塗材Ｅ：下地処理（サンダー工法）
K	屋上庇　水洗い、軒天　外装薄塗材Ｅ：下地処理（サンダー工法）
L	外部建具周囲シーリング：撤去
M	屋上ネットフェンス：撤去、フェンス基礎　ウレタン塗膜防水：撤去
N	打継ぎ目地　モルタル（カッター入れ）、シーリング　25×10：撤去

下地補修集計表

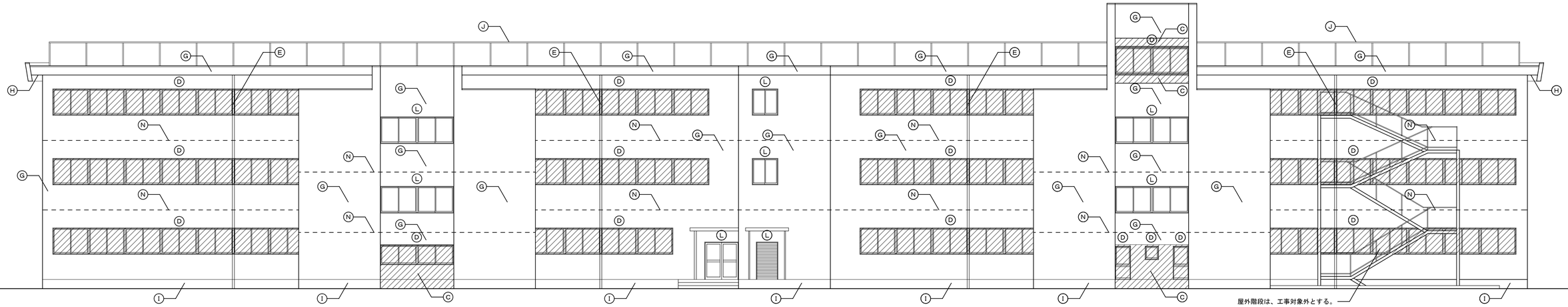
劣化項目	規　模	外壁数量 東面	西面	南面	北面	合計		補修方法
浮　き	0.25㎡未満	2.1	1.9	1.7	0.3	6.0	㎡	アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法（16本/㎡）
	0.25㎡以上	17.3	16.7	26.9	32.8	93.7	㎡	アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法（25穴/㎡）
クラック	0.2mm～0.3mm未満	26.1	—	101.1	171.3	298.5	m	エポキシ樹脂注入工法（低速低圧）
	0.3mm～0.5mm未満	14.4	23.7	24.6	42.6	105.3	m	
	0.5mm～1.0mm以下	—	—	4.5	—	4.5	m	既存シール材撤去、シール材再充填（可とう性エポキシ樹脂）
クラック補修済ヵ所の再補修	—	72.0	83.1	70.8	39.9	265.8	m	
鉄筋露出	大規模細幅（幅0.2m×長さ0.5m以上）	—	—	—	—	—	m	防錆処理後エポキシ樹脂充填
	中規模（幅0.2m×長さ0.5m以下程度）	—	—	—	—	—	ヶ所	
	小規模（幅0.2m×長さ0.2m以下程度）	—	—	6.0	—	6.0	ヶ所	
欠　損	大規模細幅（幅0.2m×長さ0.5m以上）	—	—	—	3.0	3.0	m	脆弱部撤去、浸透プライマー塗布、カチオンタイト埋め戻し
	中規模（幅0.2m×長さ0.5m以下程度）	—	—	9.0	3.0	12.0	ヶ所	
	小規模（幅0.2m×長さ0.2m以下程度）	—	—	3.0	6.0	9.0	ヶ所	
凍　害	深さ10mm程度	—	—	—	15.0	15.0	㎡	脆弱部撤去、浸透プライマー塗布、カチオンタイト埋め戻し

JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

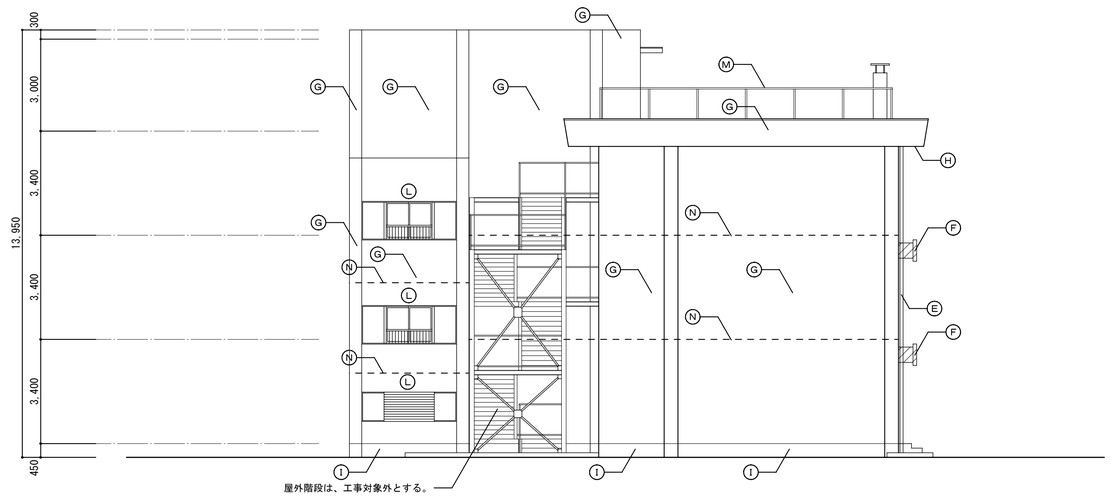
改修前　南、東立面図

DATE　SCAL　1/100　DRAWN　CHEK　A－１４

株式会社 構 建築設計事務所
一級建築士　第295317号　徳田　伸治



改修前　北立面図　１：１００



改修前　西立面図　１：１００

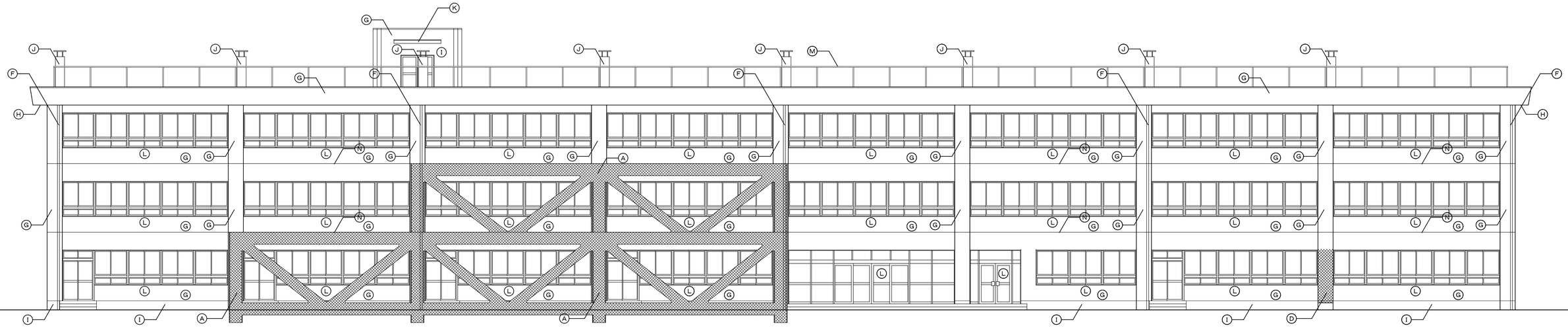
JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

改修前　北、西立面図

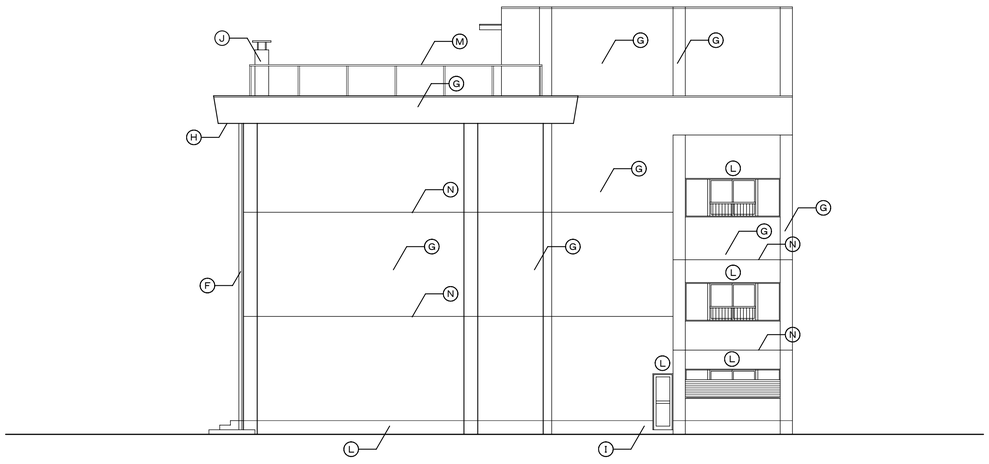
DATE　SCALE 1/100　DRAWN　CHEK　A－１５

株式会社 構 建築設計事務所

一級建築士　第 295317 号　徳田　伸治



改修後　南立面図　１：１００



改修後　東立面図　１：１００

外部改修　凡例

A	柱・梁ＲＣブレース、コンクリート打放し（Ａ種）の上複層塗材Ｅ：新設
B	外壁　押出成形セメント板ｔ-60　複層塗材Ｅ：新設
C	外壁　ＲＣ壁ｔ-200　コンクリート打放し（Ｂ種）の上複層塗材Ｅ：新設
D	炭素繊維巻付け補強、ラスモルタルの上複層塗材Ｅ
E	アルミ製建具：新設
F	竪樋　ＶＰ100φカラー：新設
G	外壁　下地補修、複層塗材Ｅ
H	軒天：下地補修、外装薄塗材Ｅ
I	幅木：下地補修
J	煙突　下地補修、複層塗材Ｅ
K	屋上庇　下地補修、ウレタン塗膜防水、軒天：下地補修、外装薄塗材Ｅ
L	外部建具周囲シーリング：新設　ＰＵ－２　10×10
M	屋上ネットフェンス：新設、フェンス基礎　ウレタン塗膜防水：新設
N	打継ぎ目地シーリング：新設　ＰＵ－２　25×10

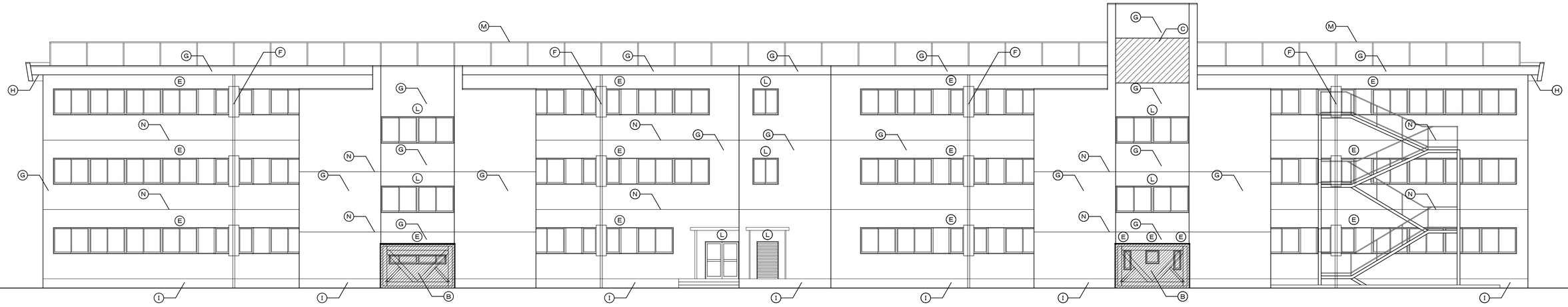
JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

改修後　南、東立面図

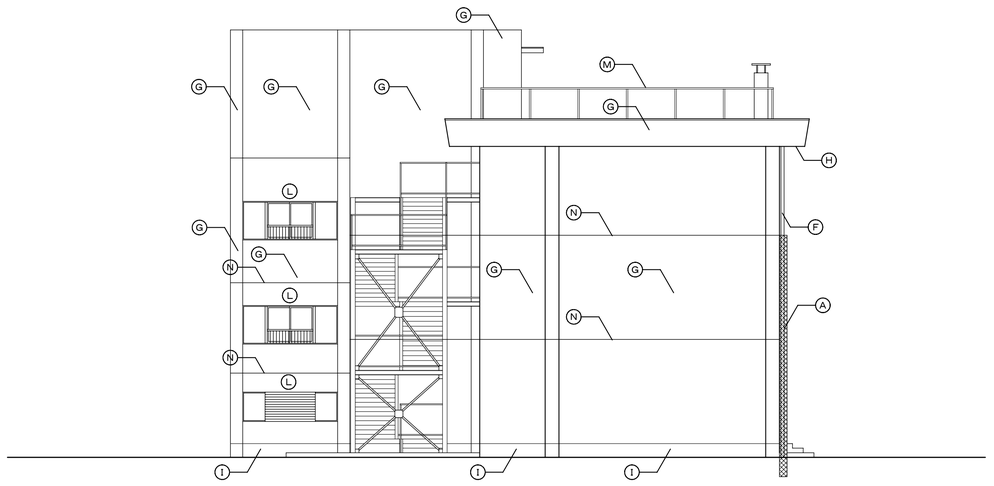
DATE　SCAL 1/100　DRAWN　CHEK　A－１６

株式会社 構 建築設計事務所

一級建築士　第295317号　徳田　伸治



改修後　北立面図　１：１００



改修後　西立面図　１：１００

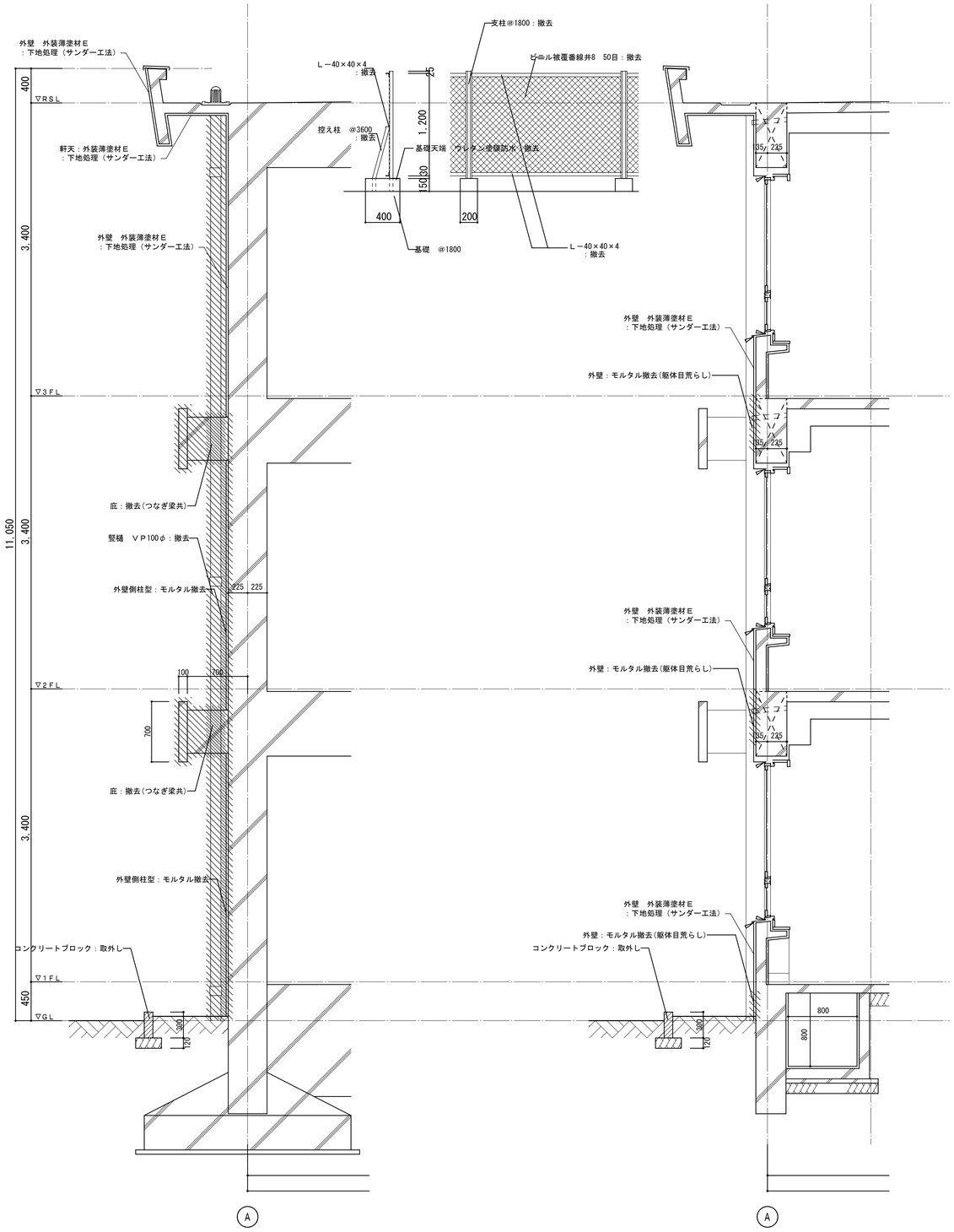
JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

改修後　北、西立面図

DATE　SCALE 1/100　DRAWN　CHEK　A－１７

株式会社 構 建築設計事務所

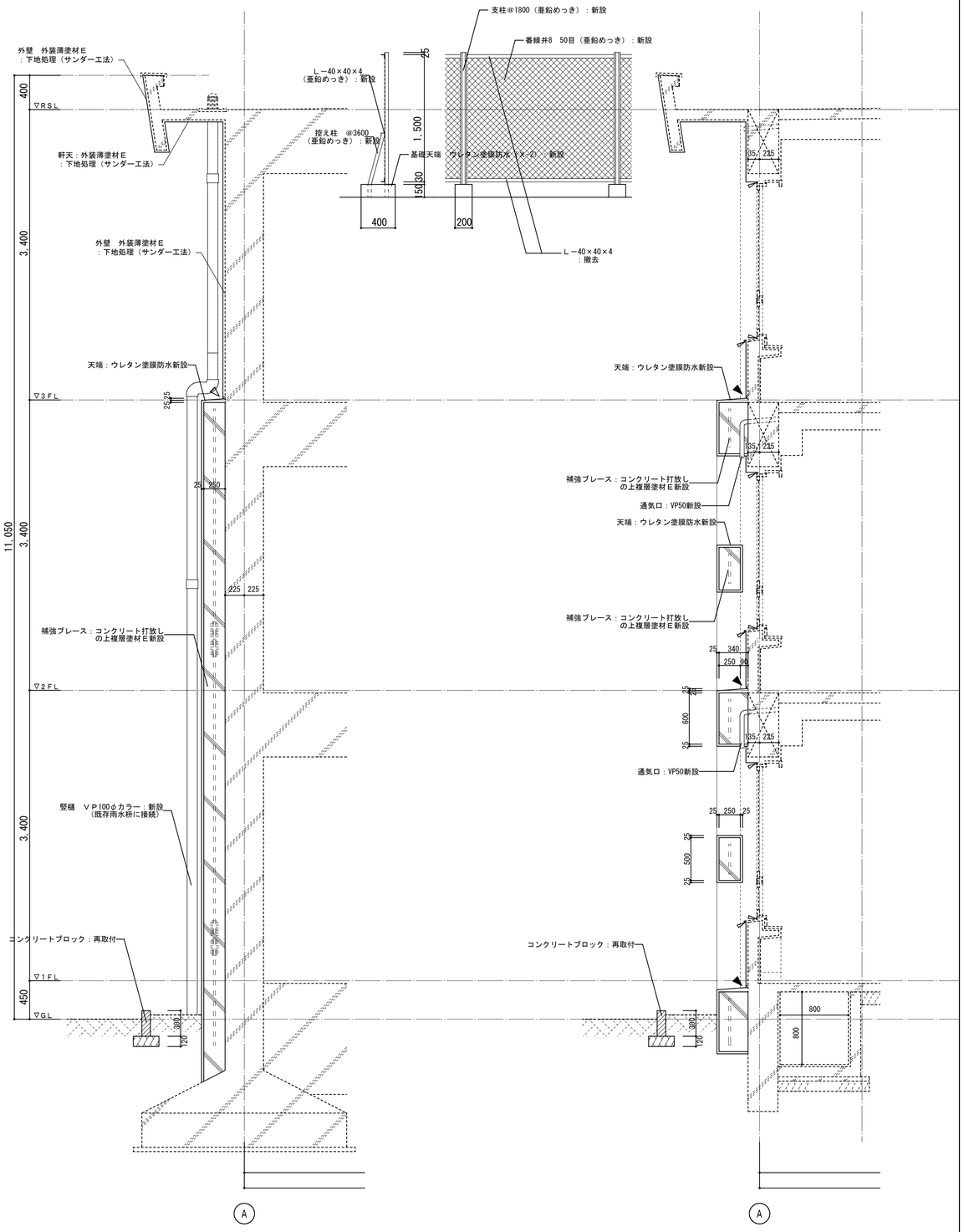
一級建築士　第２９５３１７号　徳田　伸治



改修前　矩計図　１：３０

撤去範囲を示す。

シーリング：撤去を示す。



改修後　矩計図　１：３０

シーリング：新設を示す。ＰＵ－２　１５×１５

シーリング：新設を示す。ＰＵ－２　１０×１０

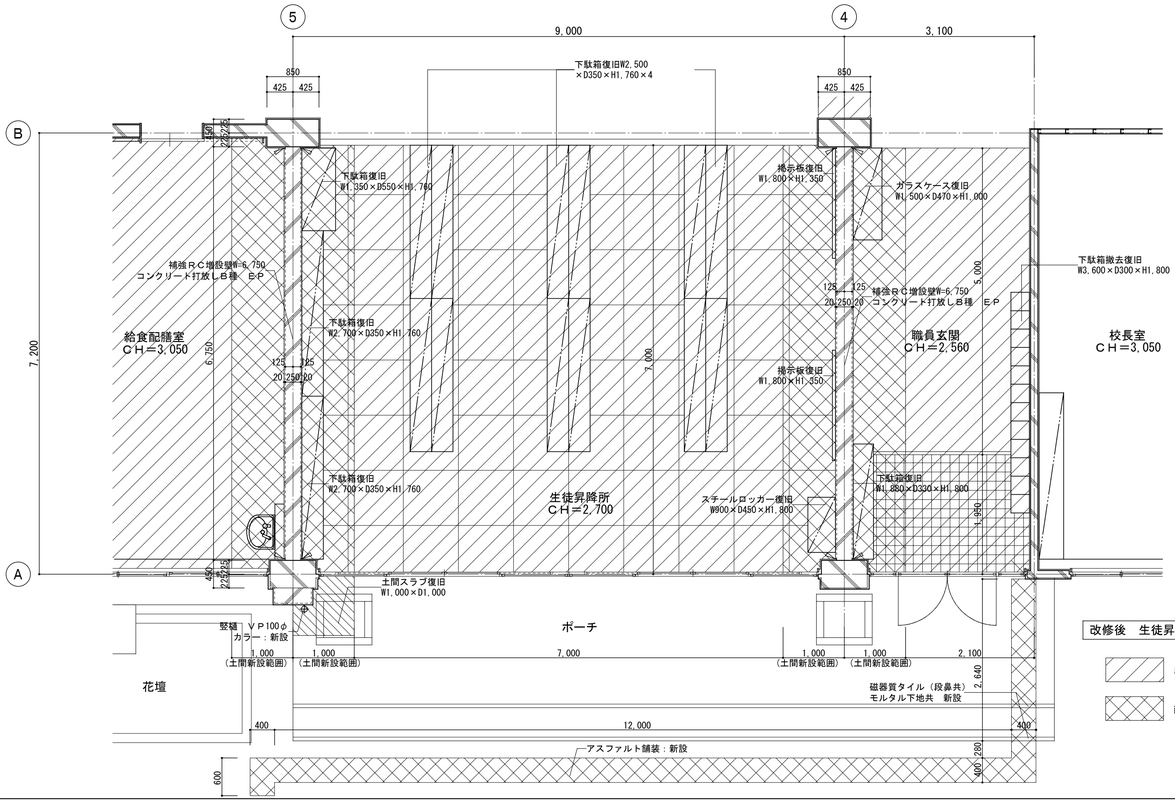
JOBNO　平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

改修前・改修後　矩計図

DATE　SCAL　1/30　DRAWN　CHEK　Ａ－１８

株式会社　構　建築設計事務所

一級建築士　第295317号　徳田　伸治



改修後　生徒昇降口廻り平面詳細図　１：５０

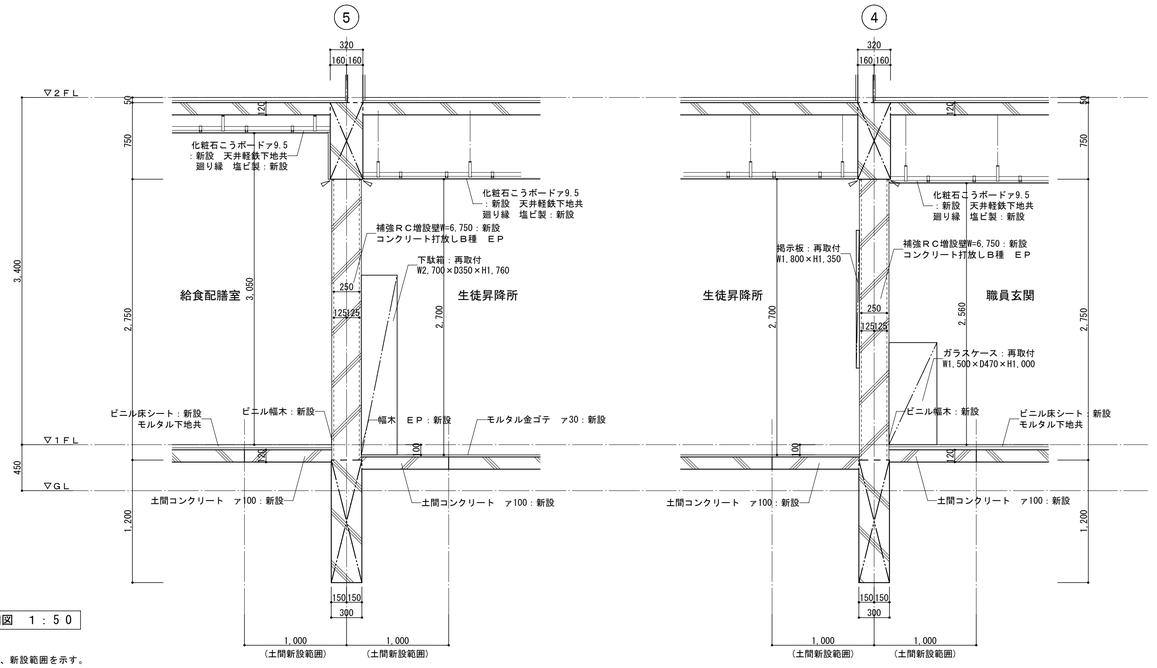
床・天井下地調整の上、新設範囲を示す。

耐震補強壁・土間　新設範囲を示す。

※　特記部分は新設範囲を示す。

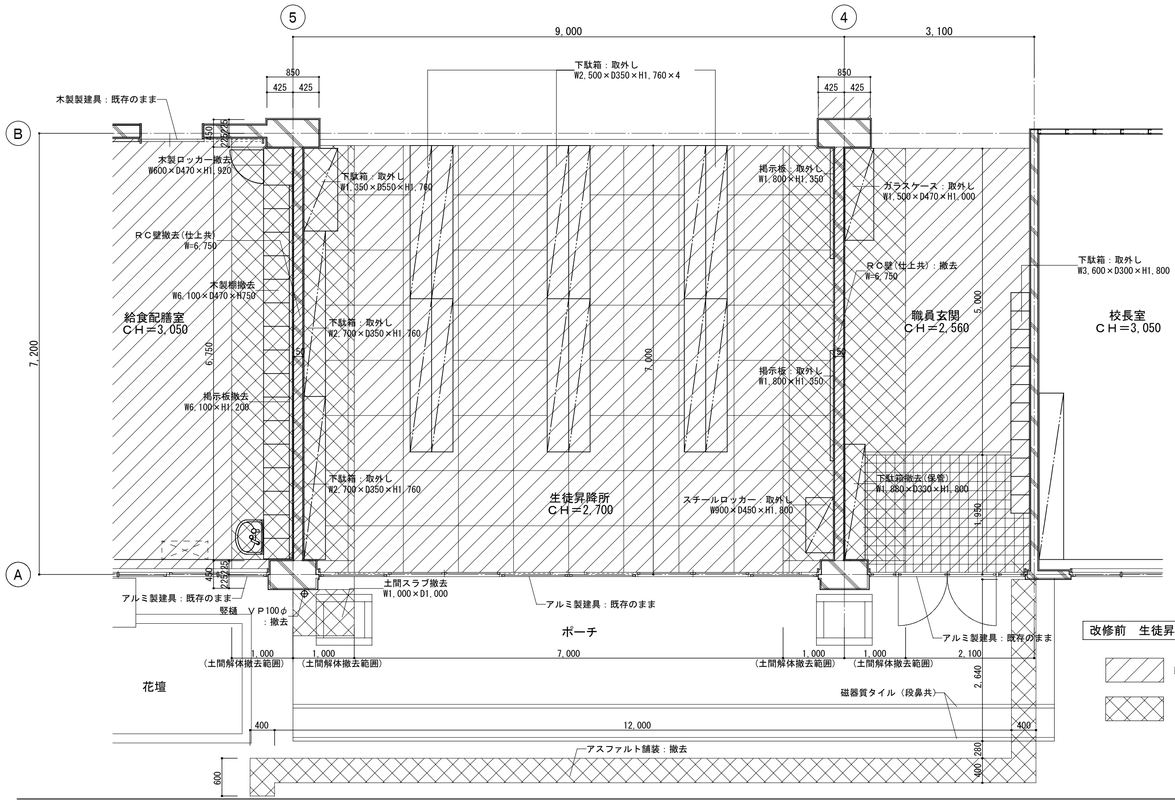
※　既存壁撤去部分の柱型のモルタル補修範囲は、既存壁面より１００とする。

▻　シーリング：新設を示す。ＰＵ－２　１０×１０



改修後　生徒昇降口廻り矩計図　１：３０

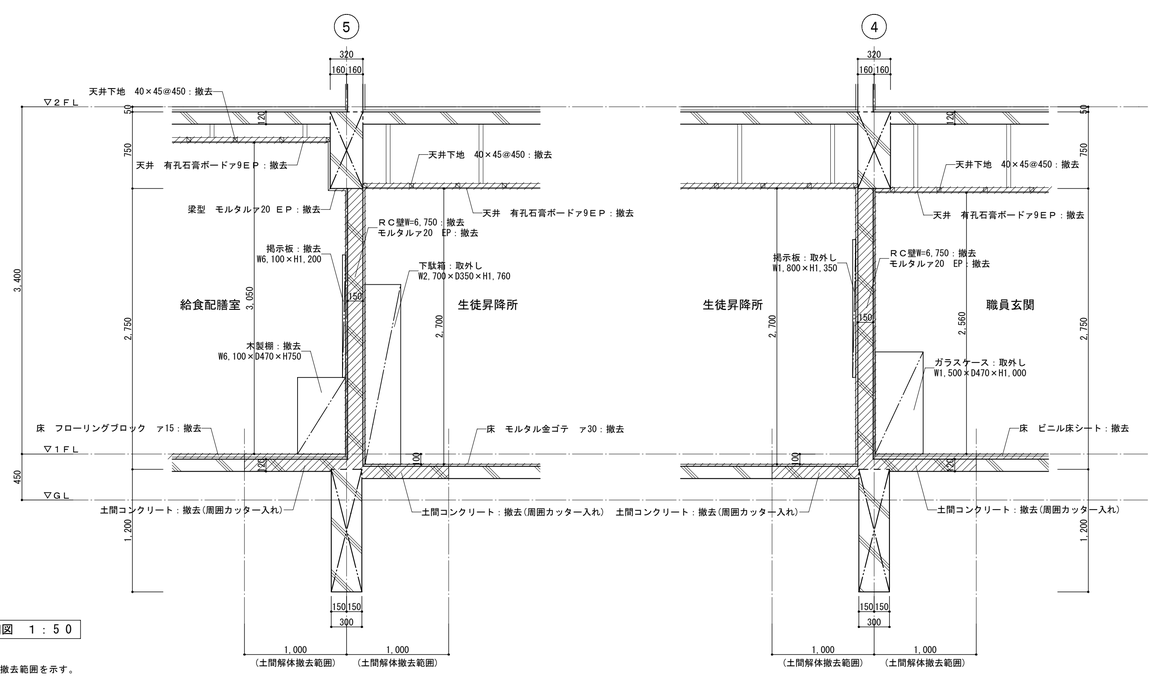
▻　シーリング：新設を示す。ＰＵ－２　１０×１０



改修前　生徒昇降口廻り平面詳細図　１：５０

既存床仕上・天井仕上撤去範囲を示す。

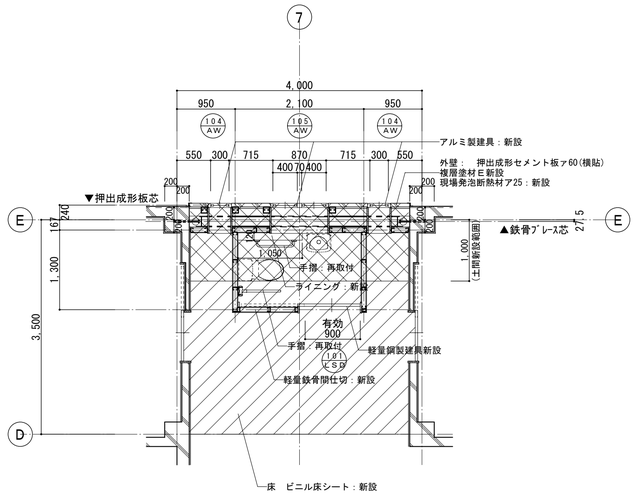
ＲＣ壁がらみ・土間　解体撤去範囲を示す。

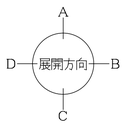


改修前　生徒昇降口廻り矩計図　１：３０

JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事
改修前・改修後　昇降口
平面詳細図、矩計図
Ａ－１９
DATE　SCALE 1/50　DRAWN　CHECK

株式会社 構 建築設計事務所
一級建築士 第295317号 徳田 伸治





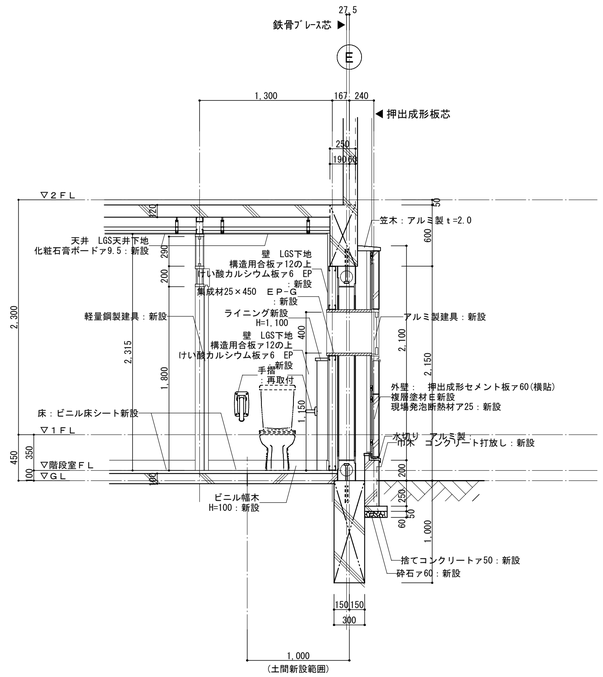
改修後　階段室平面詳細図　１：５０

床・天井下地調整の上、新設範囲を示す。

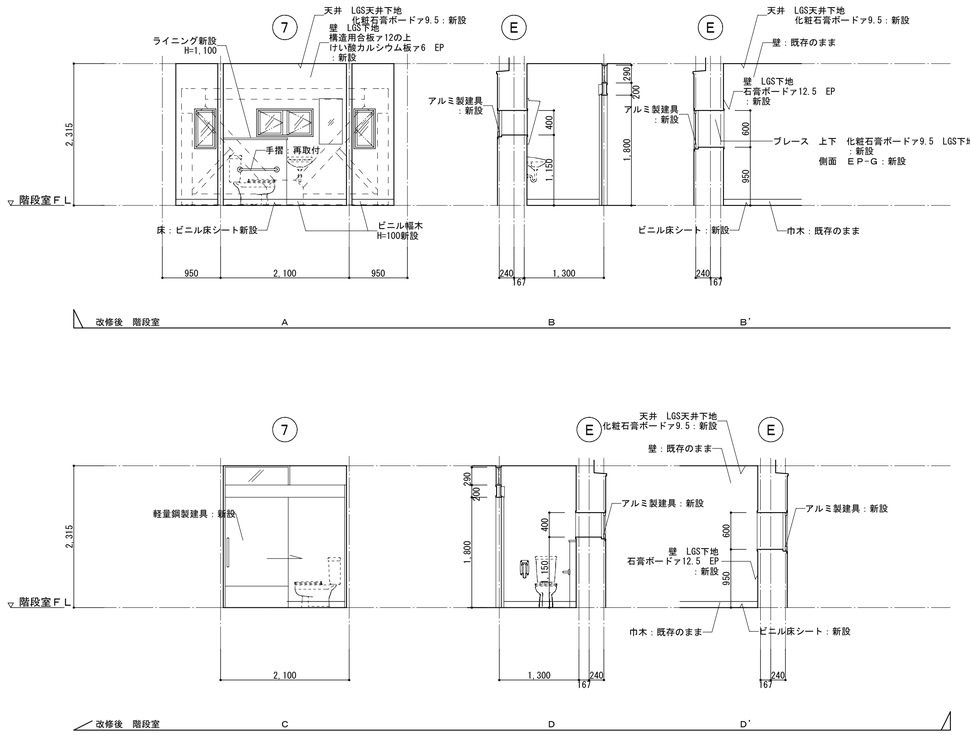
耐震補強壁・土間　新設範囲を示す。

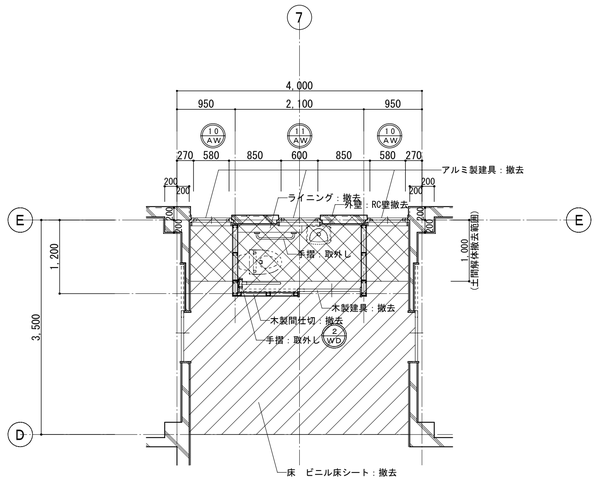
※　特記部分は新設範囲を示す。

※　既存壁撤去部分の柱型のモルタル補修範囲は、既存壁面より１００とする。



改修後　階段室矩計図　１：３０

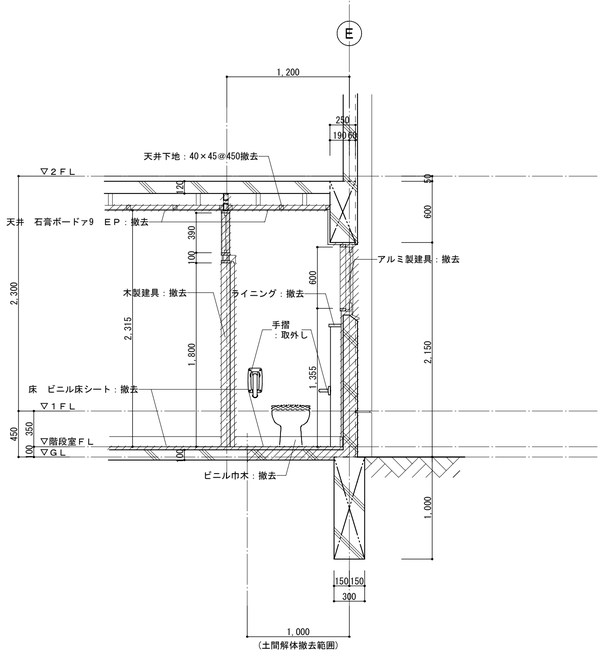




改修前　階段室平面詳細図　１：５０

既存床仕上・天井仕上撤去範囲を示す。

ＲＣ壁がらみ・土間　解体撤去範囲を示す。



改修前　階段室矩計図　１：３０

JOB NO　平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

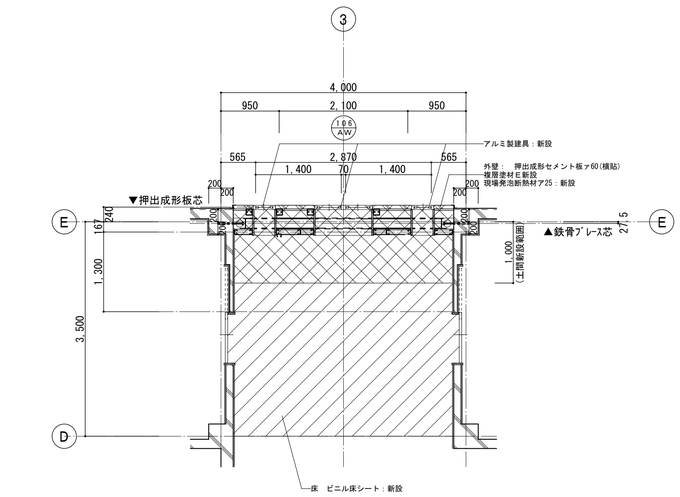
改修前・改修後　階段室１
平面詳細図、矩計図

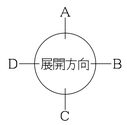
DATE　SCALE　1/50　DRAWN　CHECK

A－２０

株式会社 構 建築設計事務所

一級建築士　第 295317 号　徳田　伸治





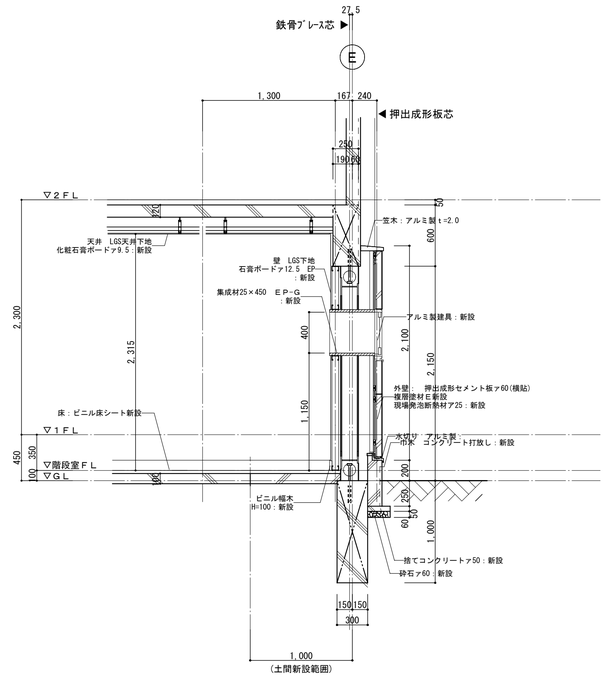
改修後 階段室平面詳細図 １：５０

床・天井下地調整の上、新設範囲を示す。

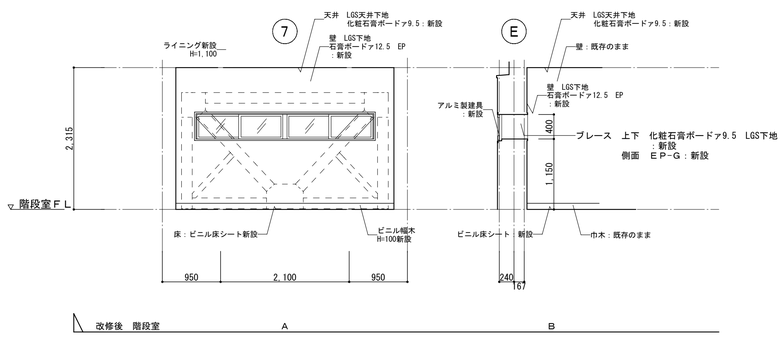
耐震補強壁・土間 新設範囲を示す。

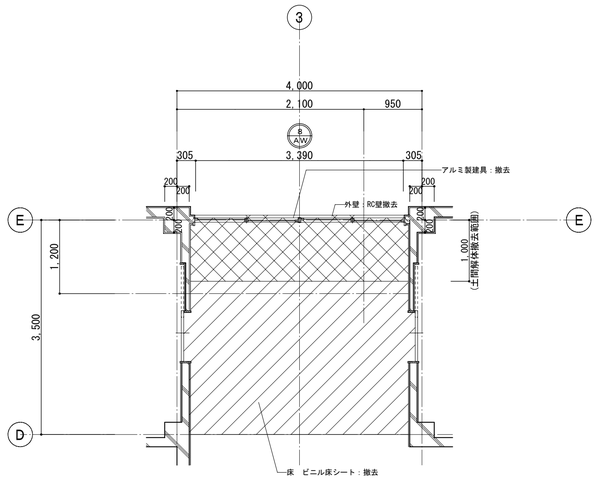
※ 特記部分は新設範囲を示す。

※ 既存壁撤去部分の柱型のモルタル補修範囲は、既存壁面より１００とする。



改修後 階段室矩計図 １：３０

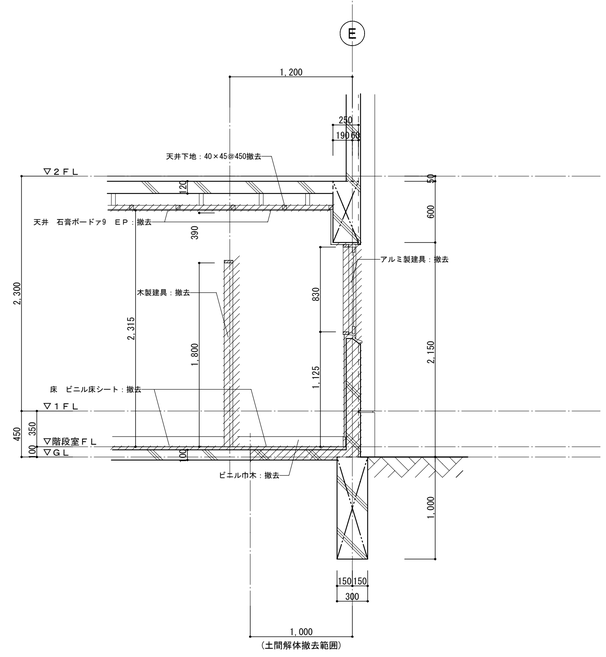




改修前 階段室平面詳細図 １：５０

既存床仕上・天井仕上撤去範囲を示す。

ＲＣ壁がらみ・土間 解体撤去範囲を示す。



改修前 階段室矩計図 １：３０

JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

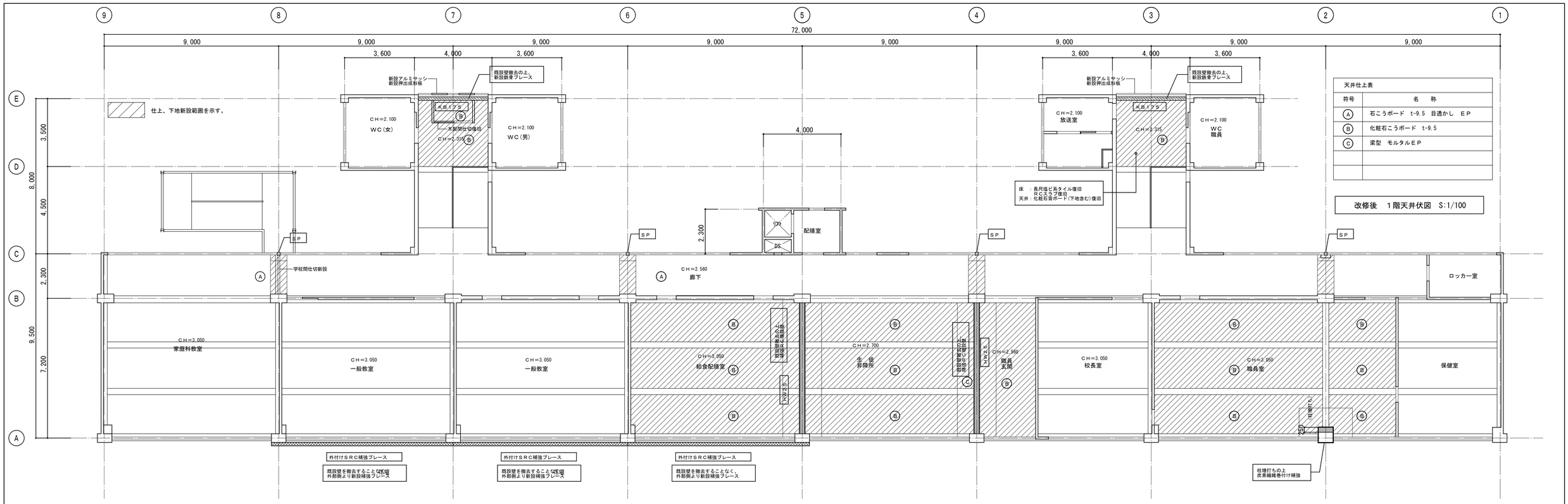
改修前・改修後 階段室２
平面詳細図、矩計図

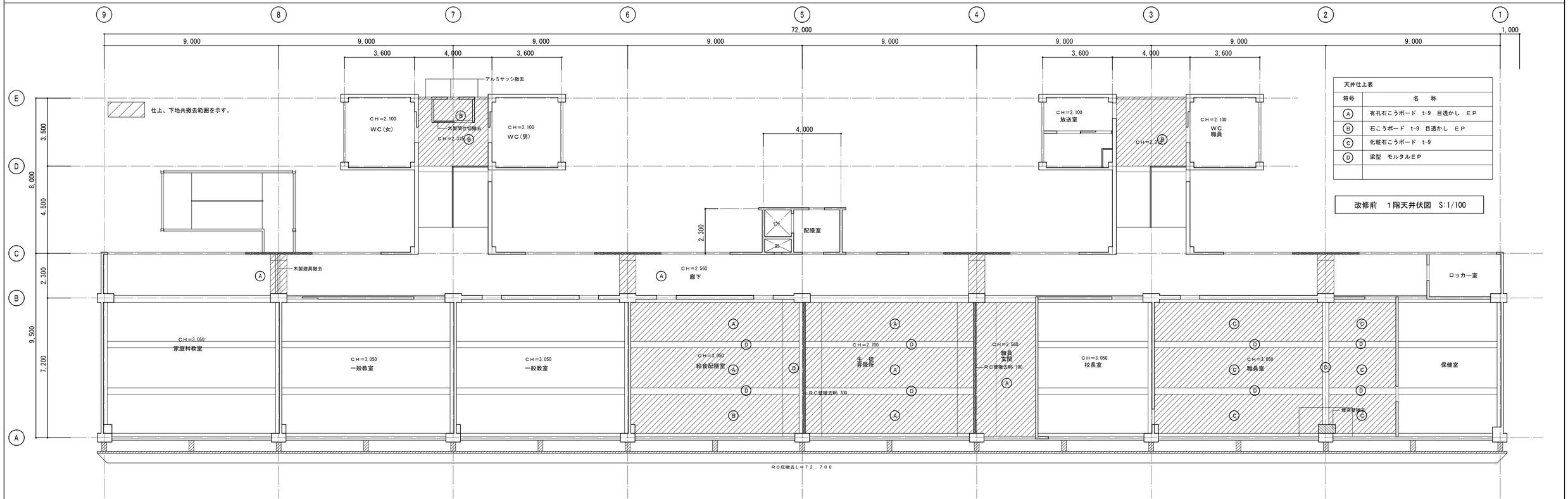
A－２１

DATE
SCALE 1/50
DRAWN
CHECK

株式会社 構 建築設計事務所

一級建築士 第 295317 号 徳田 伸治





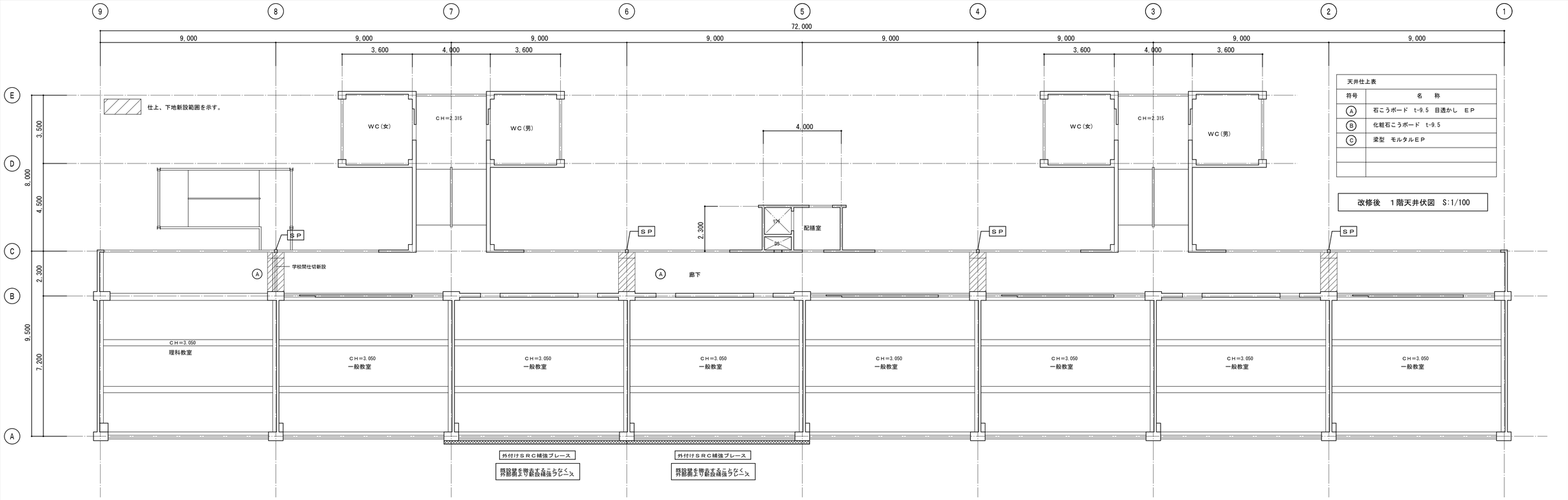
JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

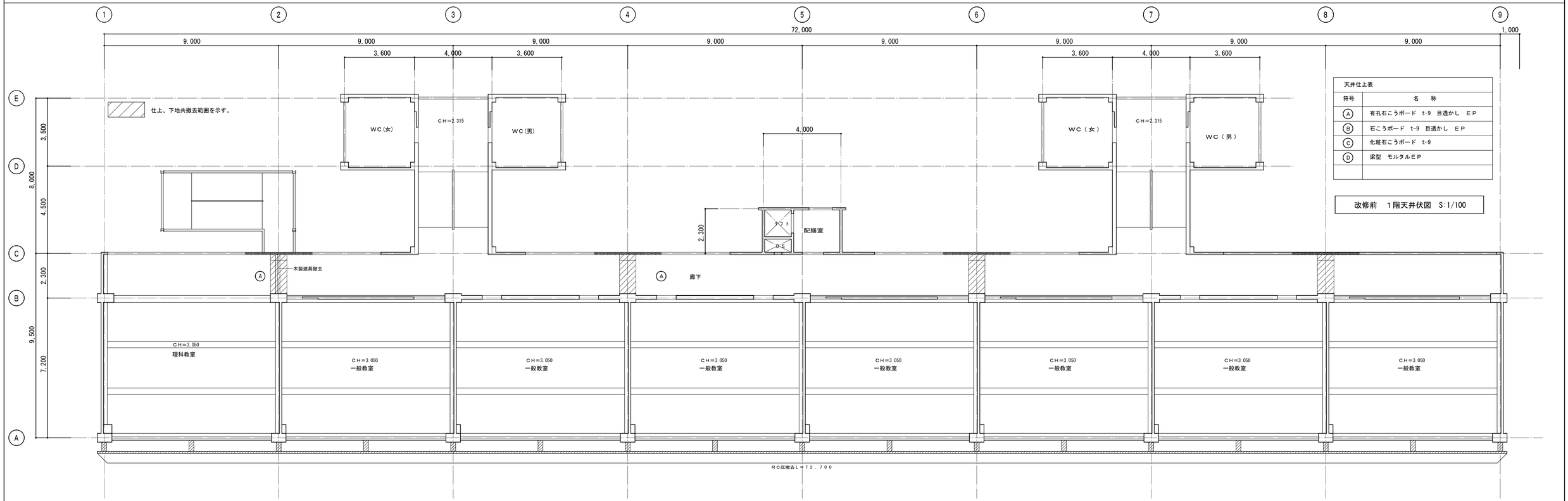
改修前・改修後 1階天井伏図

DATE SCALE 1/100 DRAWN CHEK A－22

株式会社 構 建築設計事務所

一級建築士 第295317号 徳田 伸治





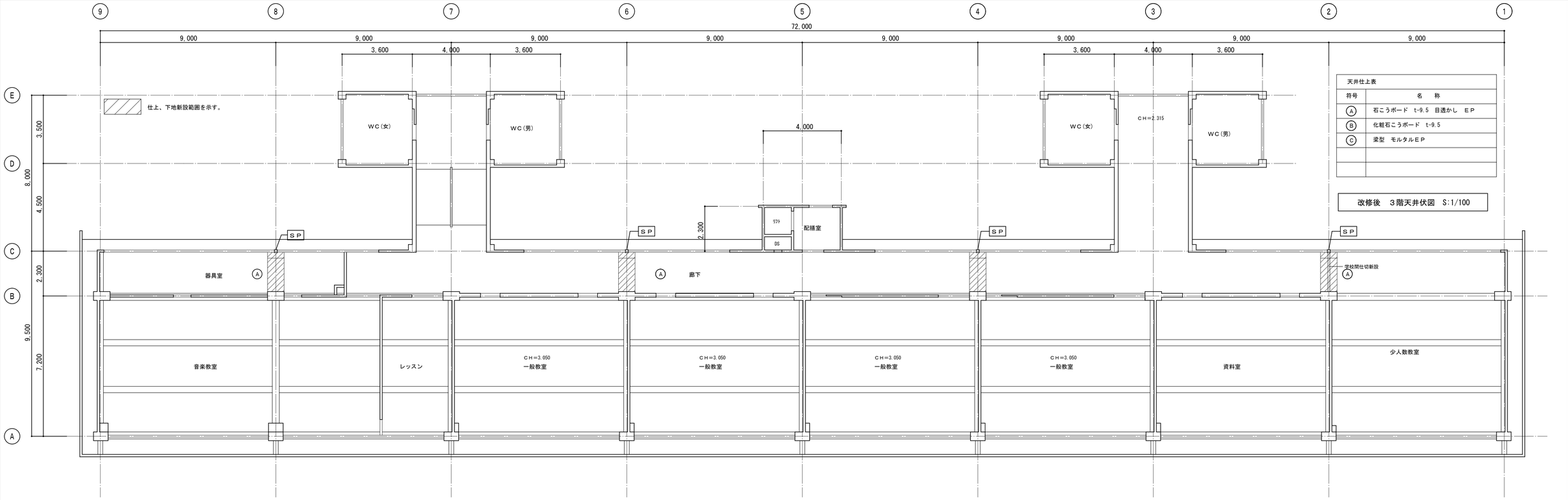
JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

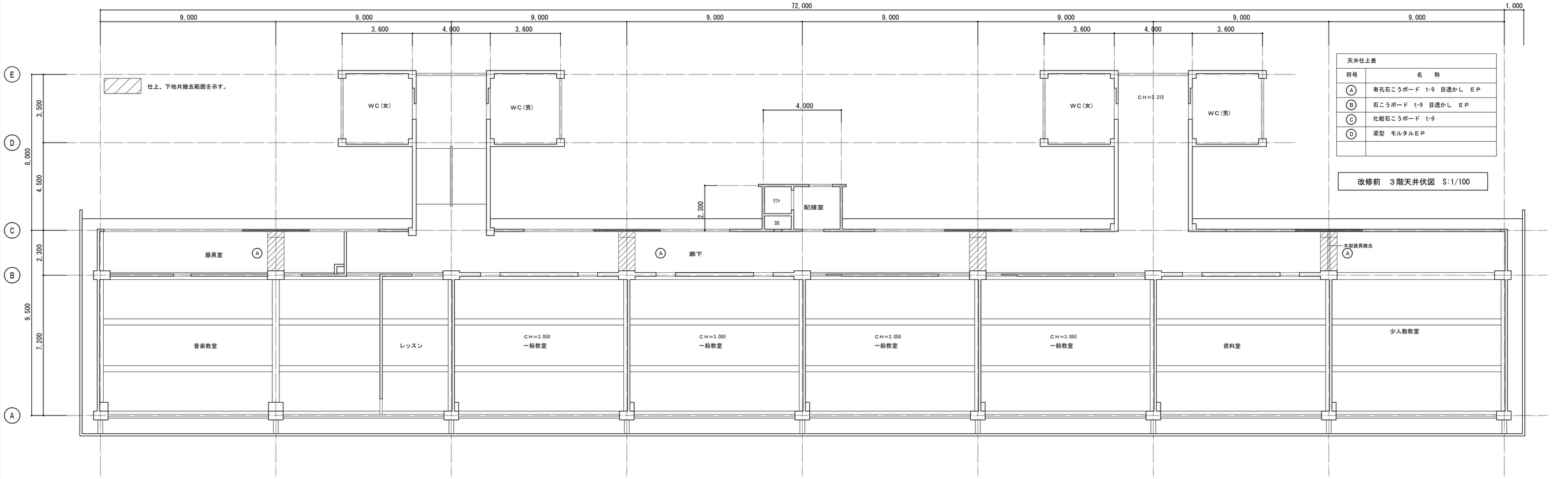
改修前・改修後 2階天井伏図

DATE SCALE 1/100 DRAWN CHEK A－23

株式会社 構 建築設計事務所

一級建築士 第295317号 徳田 伸治





JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

改修前・改修後　３階天井伏図

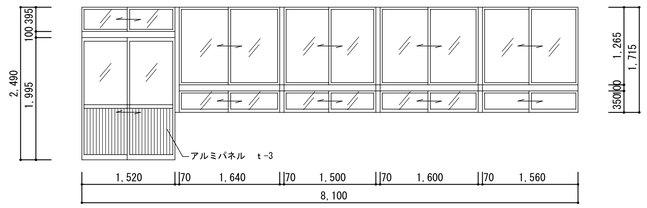
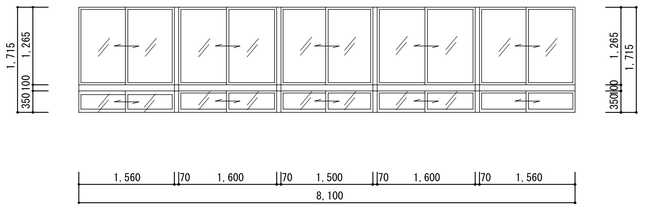
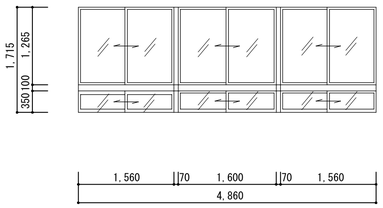
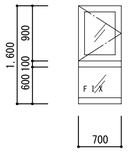
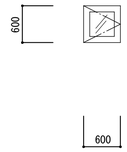
DATE　SCALE 1/100　DRAWN　CHEK

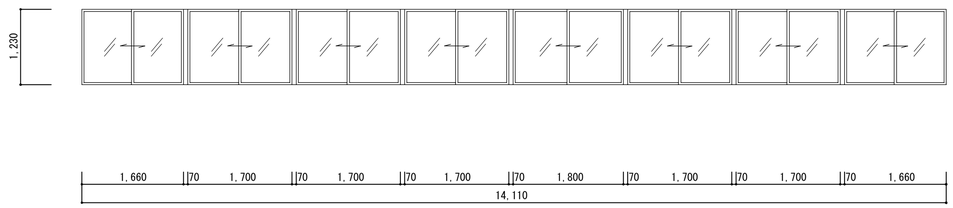
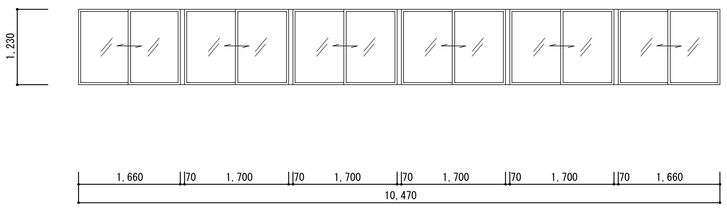
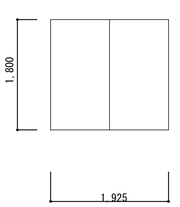
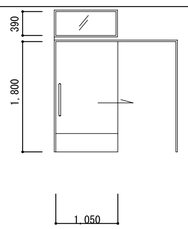
A－２４

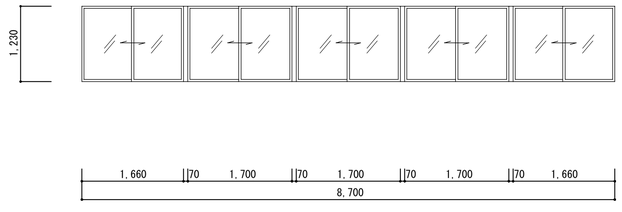
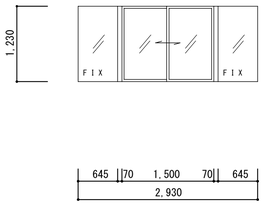
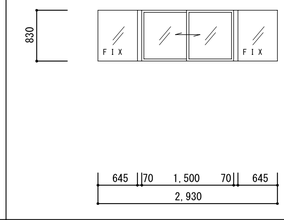
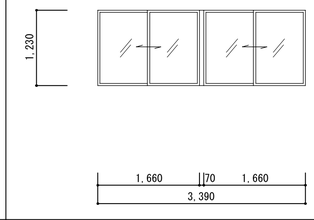
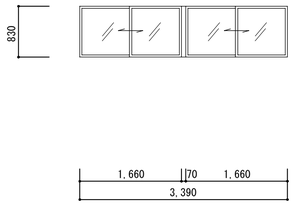
株式会社 構 建築設計事務所

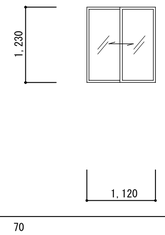
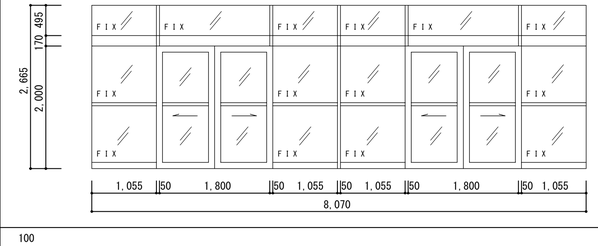
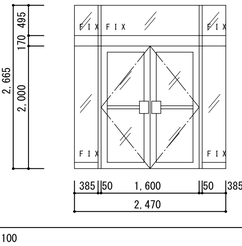
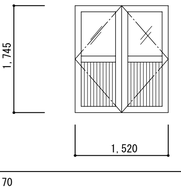
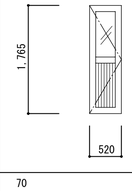
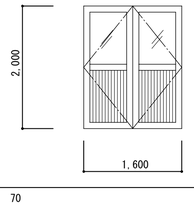
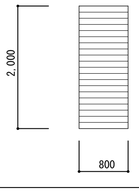
一級建築士　第295317号　徳田　伸治

既　存　建　具

記号	1 AW ×５箇所	2 AW ×１７箇所	3 AW ×１箇所	10 AW ×２箇所	11 AW ×１箇所
名　称	ランマ付引き違い戸・引き違い窓				
姿　図					
見　込	70	70	70	70	70
仕　上	アルミ　シルバー	アルミ　シルバー	アルミ　シルバー	アルミ　シルバー	アルミ　シルバー
ガラス	透明ガラス　t-3	透明ガラス　t-3	透明ガラス　t-3	透明ガラス　t-3	透明ガラス　t-3
金　物	付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式
備　考	建具廻りシーリング改修	建具廻りシーリング改修	建具廻りシーリング改修	撤去	撤去

記号	4 AW ×６箇所	5 AW ×５箇所	1 WD ×3箇所	2 WD ×1箇所
名　称	ランマ付引き違い戸・引き違い窓			
姿　図				
見　込	70	70	40	40
仕　上	アルミ　シルバー	アルミ　シルバー	ＯＰ	ＯＰ
ガラス	透明ガラス　t-3	透明ガラス　t-3		透明ガラス　t-3
金　物	付属金物一式	付属金物一式	戸車・レール・引手	ハンガーレール・引手
備　考	撤去	撤去	撤去	撤去

記号	6 AW ×１箇所	7 AW ×１箇所	7A AW ×１箇所	8 AW ×１箇所	8A AW ×１箇所
名　称	ランマ付引き違い戸・引き違い窓				
姿　図					
見　込	70	70	70	70	70
仕　上	アルミ　シルバー	アルミ　シルバー	アルミ　シルバー	アルミ　シルバー	アルミ　シルバー
ガラス	透明ガラス　t-3	透明ガラス　t-3	透明ガラス　t-3	透明ガラス　t-3	透明ガラス　t-3
金　物	付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式
備　考	撤去	建具廻りシーリング改修	建具廻りシーリング改修	撤去	建具廻りシーリング改修

記号	9 AW ×１箇所	1 AD ×１箇所	2 AD ×１箇所	3 AD ×１箇所	4 AD ×２箇所	5 AD ×１箇所	1 SS ×１箇所
名　称							
姿　図							
見　込	70	100	100	70	70	70	
仕　上	アルミ　シルバー	アルミ　シルバー	アルミ　シルバー	アルミ　シルバー	アルミ　シルバー	アルミ　シルバー	スチール　ＯＰ
ガラス	透明ガラス　t-3	透明ガラス　t-3	透明ガラス　t-3	透明ガラス　t-3	透明ガラス　t-3	透明ガラス　t-3	
金　物	付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式
備　考	建具廻りシーリング改修	建具廻りシーリング改修	建具廻りシーリング改修	建具廻りシーリング改修	建具廻りシーリング改修	建具廻りシーリング改修	建具廻りシーリング改修

JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

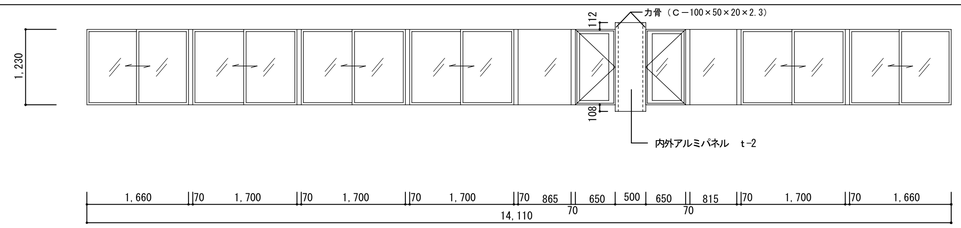
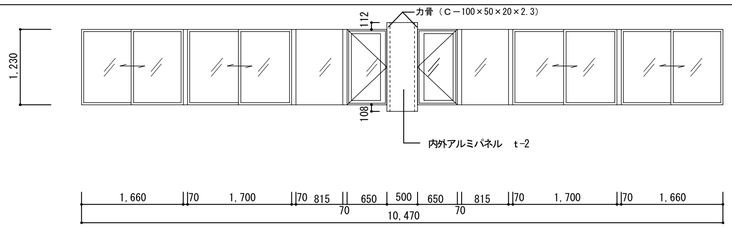
建具表１

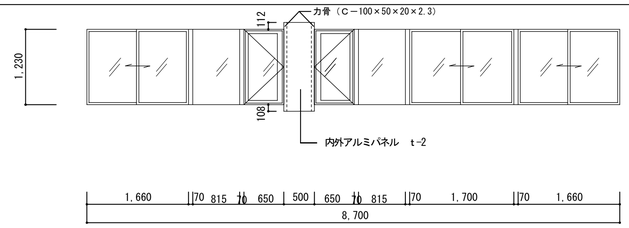
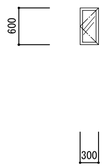
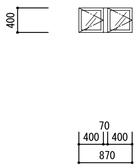
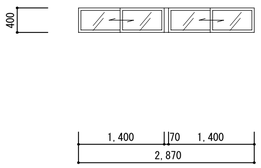
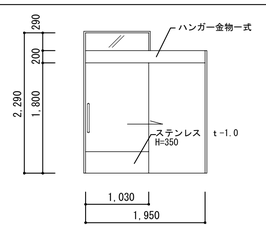
DATE　SCALE 1/50　DRAWN　CHEK　A－２５

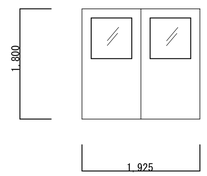
株式会社 構 建築設計事務所

一級建築士 第295317号　徳田　伸治

新　設　建　具

記号	101 AW ×６箇所	102 AW ×５箇所	
名　称	ＦＩＸ・アルミパネル・片開き窓・引き違い窓・	ＦＩＸ・アルミパネル・片開き窓・引き違い窓・	
姿　図			
見　込	70	70	
仕　上	アルミ　シルバー	アルミ　シルバー	
ガラス	学校用強化ガラス　7）4	学校用強化ガラス　7）4	
金　物	付属金物一式・アルミパネル　t-2	付属金物一式・アルミパネル　t-2	
備　考	力骨（Ｃ－100×50×20×2.3）	力骨（Ｃ－100×50×20×2.3）	

記号	103 AW ×１箇所	104 AW ×２箇所	105 AW ×１箇所	106 AW ×１箇所	101 SD ×１箇所	
名　称	ＦＩＸ・アルミパネル・片開き窓・引き違い窓・					
姿　図						
見　込	70	70	70	70	36	
仕　上	アルミ　シルバー	アルミ　シルバー	アルミ　シルバー	アルミ　シルバー	ＳＯＰ	
ガラス	学校用強化ガラス　7）4	学校用強化ガラス　7）4	学校用強化ガラス　7）4	学校用強化ガラス　7）4	学校用強化ガラス　7）4	
金　物	付属金物一式・アルミパネル　t-2	付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式	非常解除装置、内締り表示錠、ステンレスプレート 付属金物一式	
備　考	力骨（Ｃ－100×50×20×2.3）	鉄骨用サッシ	鉄骨用サッシ	鉄骨用サッシ		

記号	101 SP ×３箇所	
名　称	スチールパーティション	
姿　図		
見　込	80	
仕　上	亜鉛めっき鋼板　焼付塗装	
ガラス	学校用強化ガラス　7）4	
金　物	大型引手（4ヶ所），戸車，引違い錠，戸当り，附属金物一式	
備　考		

記号	
名　称	
姿　図	
見　込	
仕　上	
ガラス	
金　物	
備　考	

JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

建具表２

A－２６

DATE　SCALE 1/10　DRAWN　CHEK

株式会社 構 建築設計事務所

一級建築士　第２９５３１７号　徳田　伸治

耐震補強特記仕様書

１．一般事項

１．共通仕様
図面及び特記仕様書に記載されてない事項は、すべて「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計指針同解説」（日本建築防災協会）による。

２．使用材料
コンクリート：　設計基準強度　下表による。

適用箇所	種　　類	設計基準強度	スランプ
躯体一般	普　通	２１Ｎ／ｍｍ²	１８ｃｍ
躯　体（柱増打ち部）	普　通	３０Ｎ／ｍｍ²	１８ｃｍ
無　筋（土間コン）	普　通	２１Ｎ／ｍｍ²	１８ｃｍ

コンクリートは塩化総量規制適合品（塩化物含有量３Ｎ／m³ 以下）とする
構造躯体は調合強度＝（Ｆｃ＋３＋構造体強度補正値）Ｎ／ｍｍ²

鉄　　筋：　Ｄ１６以下　　ＳＤ２９５Ａ（規格品）
Ｄ１９以上　　ＳＤ３４５　（規格品）

スパイラル筋：　ＪＩＳ　Ｇ３５３２に規格される普通鉄線

グラウト材：　無収縮モルタル　設計基準強度σＭ＝３０Ｎ／ｍｍ² 以上

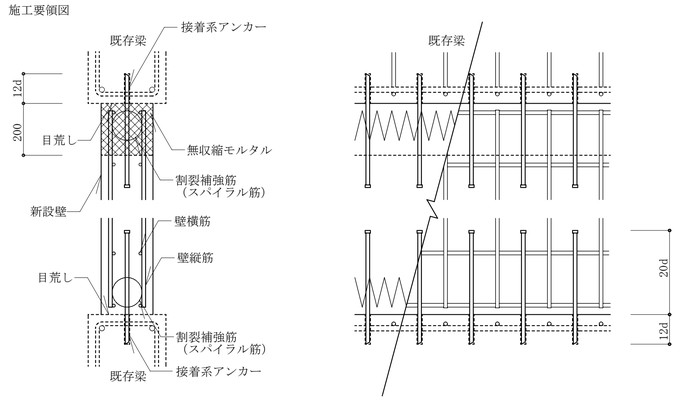
接着系アンカー：接着剤は樹脂カプセル型のポリエステル系、エポキシアクリレート系、ビニールウレタン樹脂系、エポキシ系でメーカーにより付着強度が保証されたもの。

３．補強壁には、原則として埋込み配管は行わない。

４．工事概要
ＲＣ補強壁新設及び鉄骨枠付ブレース壁新設を行う。

２．補強壁新設（既存壁開口閉塞（耐震壁）増打壁もこれに倣う）

１．施工要領図



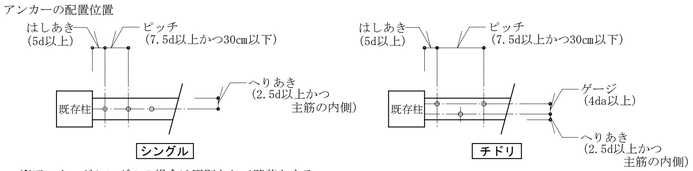
２．仕上材の撤去およびコンクリートのはつり
ａ）補強壁の増設に先立ち、既存柱・梁・床の打継ぎ面は仕上材を完全に撤去する。
ｂ）打継ぎ面の目荒しは、残存部分に亀裂等を与えないように行う。目荒しは、深さ０．５～１．０ｃｍ程度の凹凸で全体を荒らすようにする。
ｃ）はつり面は水洗いし、はつり粉末を完全に撤去する。
ｄ）撤去材及びはつり屑等は、速やかに場外へ搬出し、作業環境を整備した上で、次の工程にかかる。
ｅ）騒音、粉塵、落下物危険防止等充分考慮して施工するものとし、工程については監督官との協議の上、決定する。

３．接着系アンカーの施工（サイレントアンカー工法とする）
ａ）穿孔前に、既存鉄筋の位置を鉄筋探査器等により確認し、既存部の損傷を極力避ける。
ｂ）施工に際し、アンカーの径・深さ・位置を確認し、アンカー埋込み前には穿孔内の切り粉等を除去する。
ｃ）アンカーが既存鉄筋に当たった場合や斜め打ち込み、穿孔を失敗した場合は、アンカーピッチを守り打ち直しとする。
ｄ）現場施工されたあとの施工アンカーは、全数の打音調査により、その固着度を確認する。これらは原則として監督官立会いのもとで行うものとする。
また、壁１枚当たりアンカー数の３．０％以上かつ３本以上について、非破壊引張試験により固着度を確認する。
載荷は、設計用引き抜き耐力の３分の２の荷重までとし、抜け出さないものを合格と判定する。
尚、部位は柱・梁上下が全体でほぼ同数となるようにサンプリングする。

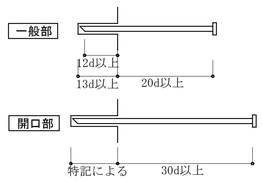
アンカー筋	Ｄ１９	Ｄ１０	ピッチ
確認荷重	66.0 kN (6.73t)		@150
		9.5 kN (0.97t)	@200

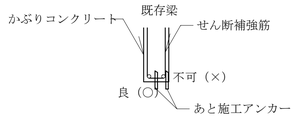
ｅ）　固着力検査の結果、不合格となった場合はアンカーピッチを守り打ち直しとする。
ｆ）　あと施工アンカーの埋込み長さは、接着系１２ｄ以上とする。ただし、開口補強筋は特記による。
ｇ）　アンカー筋の有効定着長さは、２０ｄ（ナット付異径棒鋼）以上とする。ナット取付のためにネジ切りを行う場合には先端より５０㎜以下とする。
ｈ）　アンカーは所定の位置、深さに垂直に取付るものとし、ピッチおよび配置方法は次による。
ｉ）　アンカー技能士はＩ種とする。

・アンカーの配置位置



※アンカーがシングルの場合は原則として壁芯とする

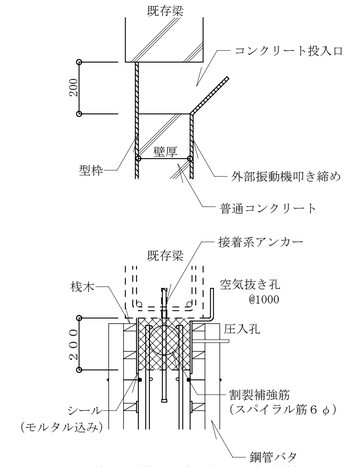




４．型枠・鉄筋
ａ）型枠は、コンクリート側圧、打設方法、セパレーターの取付方法等を考慮の上設計する。
ｂ）型枠の組立は、打ち上がりコンクリート部材の位置および断面寸法の精度が保たれるよう充分注意して行う。
ｃ）型枠は、できるだけ型枠振動機が使用しやすいように組み立てる。
ｄ）材料の加工に先立ち躯体寸法を実測し実状にあった寸法に加工する。

５．コンクリート打設
ａ）増設部材と既存コンクリート躯体との接触面については既存コンクリート躯体面を目荒しとし、コンクリート打設前に充分な水浸しを行う。
ｂ）コンクリートの打設にはバイブレーターの使用、またはタタキにより密実なコンクリートとなるように充分な施工計画をたてる。
ｃ）コンクリートの強度発現期間内は充分な湿潤状態で養生する。また養生期間中は振動等を与えないようにする。

６．無収縮モルタルの品質管理
ａ）グラウト材は、原則としてプレミックスタイプの無収縮モルタルとする。
無収縮モルタルの圧縮強度は、実際に圧入・注入するモルタルを採取して作成した供試体（φ5x10cm）の材令２８日の圧縮強度とする。供試体はＪＡＳＳ５及び関連指針等に準じて作成し、打ち込んだ無収縮モルタルと同じ条件となるように現場封かん養生する。
ｂ）コンシステンシーは、Ｊ₁₄ロート（日本道路公団ＫＯＤＡＮ　３０４_１９７６　無収縮モルタル品質管理試験方法）試験を行い、確認する。
ｃ）圧入・注入前に先立ち、試し練りを行う。



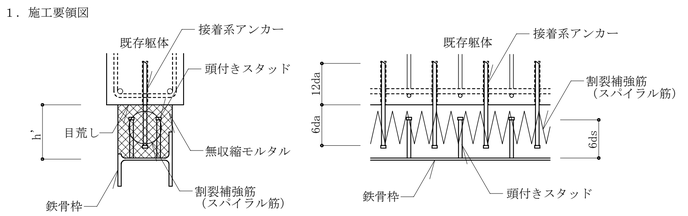
※片面の型枠は、流用する。　（２本抱）

図３　無収縮モルタル充填要領

７．無収縮モルタル充填
ａ）コンクリート打設は２段打ちとし、２段目に無収縮モルタルを充填する。
充填に先立ち１段目打設天端は、レイタンス等が残らないように十分にケレン清掃を行う。
また、無収縮モルタル充填は、空気抜きパイプよりオーバーフローを確認する。
ｂ）型枠は充填時の圧力で破損、変形のない堅固な構造とし、圧入モルタルの噴出のないように組立てる。
ｃ）圧入に先立ち既設コンクリート表面および吸水性のせき板表面は充分に水浸しを行う。
ｄ）圧入は、適切な圧力で中断しないように行う。
ｅ）無収縮モルタルの充填は、空気抜き孔を設け、無収縮モルタルが全ての空気孔から出てくる事により確認する。
ｆ）無収縮モルタルの強度発現期間内は充分な湿潤状態で養生する。また養生期間中は振動等を与えないようにする。

３．鉄骨枠付ブレース壁新設

１．施工要領図



＊「仕上げ材の撤去およびコンクリートのはつり」「接着系アンカーの施工」「無収縮モルタルの品質管理および充填」については、補強壁新設の各項目に準じる。

２．鉄骨ブレースの施工
１）鉄骨の加工に先立ち、既存躯体の寸法等の実測を行い、工作図を作成する。
２）施工されたあと施工アンカー位置と、工場製作された鉄骨ブレースの納まりを考慮して墨出しを行う。
２）現場への進入路や出入口には、必要に応じて誘導員を配置するなど、第三者災害への対策を行う。
仮置場や現場組立、吊込み作業範囲には、バリケード・ロープ等で囲い関係者以外の立ち入りを禁止する。
４）鉄骨ブレースの玉掛けは、有資格作業者が行う。鉄骨ブレースは、最初にチェーンブロック等を使用して引込み仮止めし、次に同様な方法により上部を引込んで仮設置する。
５）鉄骨ブレースのセンターの調整・高さ、また出入口の調整を順次確認する。
６）鉄骨ブレースの固定は、柱に仮の固定用アンカー筋（Ｍ１６程度）を左右２本づつ打設したものに溶接して鉄骨ブレースを固定し、設置作業を完了する。
７）現場における塗装は、建方完了後にジョイント部のＨ形鋼、ガセットプレート、高力ボルトに錆止め塗装を行う。
８）割裂防止筋（スパイラル筋）の施工
・鉄骨ブレース設置完了後、図面に従い既存躯体と鉄骨ブレースの間に、アンカー筋とスタッドボルトを交互に梁、柱とも既存躯体と鉄骨ブレースの全周に設置する。
・施工順序は、はじめに上下の梁部分をセットする。左右に柱ではコーナー部分に先に設置した後に中央部に設置する。
・スパイラル筋の継手のラップ長は、ピッチの２倍以上とする。結束線で緊結する。
・スパイラル筋が鉄骨ブレースの幅のセンターに設置されるように結束線でアンカーやスタッドボルトに緊結し固定した上、グラウトのかぶり厚を確保する。
９）錆止め塗装仕様は JIS K 5625、塗装回数　２回（工場１回、現場１回）とする。
１０）鉄骨工場は、社団法人全国鉄鋼工業協会（Ｒグレード以上）とする。

３．使用材料
・鉄骨ブレース　：　SS400
・鉄骨柱　　：　STKR400

JOBNO　平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事
耐震補強特記仕様書１
S－01
DATE　SCAL　1/－　DRAWN　CHEK
株式会社　構　建築設計事務所
一級建築士　第295317号　徳田　伸治

4.　じゃんか等における施工計画について

あと施工アンカー施工位置にじゃんか等がある場合や、それ以外の既存主要構造部にじゃんか等がある場合には、十分に調査・検討を行い、監督職員と協議の上対処する。

じゃんかの程度（建築改修工事 監理指針　表８．７．２）

	じゃんかの程度	強度(%)	備　　考
A	なし	100とする	
B	表面に出来るものがあるが、軽微。 砂利はたたいても落ちない。	80	補修により90%程度 強度が回復する。
C	表面はかなりひどいが、内部には大きな空洞はない。砂利はたたいたら落ちるものもある。しかし砂利は互いに相当強く結ばれていて、連続的にバラバラに落ちることはない。	60～40	補修により10～20% 程度強度が回復する。
D	内部にも空洞が多くなる。砂利がセメントペーストでまぶされたような状態で露出し、表面から内部まで、砂利相互がわずかの部分のみで連続されているような状態である。	30以下	根本的な補修の必要 がある。

１．あと施工アンカー施工位置にじゃんかがある場合

（１）補修を必要としない場合

補修を伴わないで、不良部分をはつることにより、あと施工アンカーの施工が可能な場合には、健全部分を傷めないように不良部分をはつり、はつり出した表面から規定の深さの穿孔をする。

（２）補修箇所又は補修を必要とする場合

ａ）　補修をする場合は、建築改修工事監理指針　第８章　８．７．６の打込み後の確認等により、じゃんか等の補修を行う。じゃんかの程度は、上記表による。

ｂ）　上記表のじゃんかの程度がＢの場合は、規定の埋め込み深さを確保すればよい。但し、状況によっては、アンカーの強度が若干低下する。この場合は、金属系・接着系のアンカーを使用できる。

ｃ）　上記表のじゃんかの程度がＣの場合は、じゃんかの深さに応じて深く埋めこむ。補修による強度回復が10～20%と低いため、アンカーの強度が若干低下する。この場合は、埋め込み深さの変更が容易な接着系アンカーの仕様となる。
　接着系アンカーの埋め込み時に、内部に空洞があり、接着剤がコンクリート表面まであふれ出てこない場合アンカーを引き抜き、カプセルを追加して接着剤があふれ出るようにアンカー筋を埋めこむ。

ｄ）　上記表のじゃんかの程度がＤの場合は、無収縮モルタルの打ち直し後、規定の埋め込み深さとする。

２．既存主要構造部にじゃんか等がある場合の補修方法について

（A）　じゃんかの程度が上記表８．７．２のＢである場合
　　ポリマーセメントモルタル充填工法

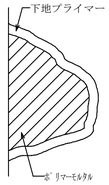
（１）使用材料
ａ）ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙについて　：　セメント（ＪＩＳ Ｒ 520「ポルトランドセメント」の普通ポルトランドセメント）
　　：　骨材（４号～７号の硅砂又は軽量グラスマイクロバルーン）
　　：　混合用ポリマーディスパージョン（ＪＩＳ Ａ 6203「セメント混和用ポリマーディスパージョン」による）

ｂ）プライマーについて　：　ポリマーセメントモルタル製造所の指定する製品で、ポリマーセメントモルタルの付着性に支障のないもの。

２．施工内容及び手順

補修範囲の確認 → 監督職員と補修範囲等の打ち合わせを行う。

下　地　調　整 → 脆弱部をタガネ等で斫り取った後、ほこり等をブラシや圧縮空気等で除去し、強固なコンクリート下地を出す。
鉄筋が露出している場合は、ワイヤーブラシ、ディスクサンダー等により錆を完全に除去する。



プライマーの調整 → 仕様に沿ったプライマーの調整を行う。

プライマーの塗布 → 下地面及び鉄筋に刷毛等を用いてプライマーを塗布する。鉄筋が露出している場合は、防錆剤を塗布する。

ポリマーセメントモルタルの調合 → ポリマーセメントモルタルの調合は、製造所の仕様に基づき行い、充分混練する。

ポリマーセメントモルタルの充填 → 補修部の状況に合わせ、数層に分けてポリマーセメントモルタルを充填又は塗り付ける。各層の塗り厚は７㎜程度とする。

表面仕上げ → 表面を金ゴテ等で加圧しながら、平滑に仕上げる。

養　　生 → 各層とも急激な乾燥を避けて、ポリマーセメントモルタルが硬化するまでは損傷等しないようにし、また雨水等からも７日以上適切な養生を行う。

清　　掃 → 補修部以外に付着した材料や汚れ等を除去し、清掃する。

自　主　検　査 → ポリマーセメントモルタルの仕上がり状態及び後片付けを確認する。

（B）　じゃんかの程度が上記表８．７．２のＣ又はＤである場合
　　エポキシ樹脂モルタル充填工法

（１）使用材料
ａ）ｴﾎﾟｷｼ樹脂ﾓﾙﾀﾙについて　：　特記製造所の指定する製品
ｂ）プライマーについて　：　エポキシ樹脂モルタル製造所の指定する製品で、エポキシ樹脂モルタルの付着性に支障のないもの。

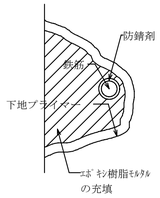
２．施工内容及び手順

補修範囲の確認 → 監督職員と補修範囲等の打ち合わせを行う。

下　地　調　整 → 脆弱部をタガネ等で斫り取った後、ほこり等をブラシや圧縮空気等で除去し、強固なコンクリート下地を出す。
鉄筋が露出している場合は、ワイヤーブラシ、ディスクサンダー等により錆を完全に除去する。

プライマーの計量及び混練 → 主剤と硬化剤を規定量どおり正確に計量し、均一になるまで充分混練する。

プライマーの塗布 → 下地面及び鉄筋に刷毛等を用いてプライマーを塗布する。鉄筋が露出している場合は、鉄筋に防錆剤を塗布してからプライマーを塗布する。



エポキシ樹脂モルタルの計量・混練 → 主剤と硬化剤を規定量どおり正確に計量し、均一になるまで充分混練する。

エポキシ樹脂モルタルの充填 → プライマーの付着力があるうちに、エポキシ樹脂モルタルを充分押え込みながら充填する。
欠損部が大きい場合は、アンカーピンなどを併用する。

表面仕上げ → 表面を金ゴテ等で加圧しながら、平滑に仕上げる。

養　　生 → エポキシ樹脂モルタルが硬化するまでは（夏季１５時間、冬期２４時間以上）損傷、汚染等ないようにし、また雨水等からも養生する。

清　　掃 → 補修部以外に付着した材料や汚れ等を除去し、清掃する。

自　主　検　査 → エポキシ樹脂モルタルの仕上がり状態、硬化状態及び後片付けを確認する。

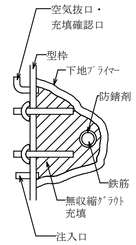
（C）　じゃんかの程度が上記表のＤである場合
　　無収縮グラウト充填工法

（１）使用材料
ａ）防錆処理剤
ｂ）下地プライマー
ｃ）充填剤　　無収縮グラウト

２．施工内容及び手順

補修範囲の確認 → 監督職員と補修範囲等の打ち合わせを行う。

下　地　調　整 → 脆弱部をタガネ、電動ピック等で斫り取った後ほこり等をブラシや圧縮空気等で除去し、健全なコンクリート下地を出す。
鉄筋が露出し、錆が発生していた場合は、ワイヤーブラシ、ディスクサンダー等により錆を完全除去する。



清　　掃 → 補修箇所に付いている斫り屑、鉄粉等をエアーブロー、ダスター刷毛にて清掃する。

プライマーの塗布（防錆処理剤兼用） → 補修箇所の下地コンクリートと充填仕上げ剤をより接着固定するためにプライマー処理を行う。塗布してからプライマーを塗布する。

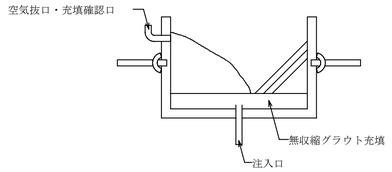
無収縮モルタル充填仕上げ剤 → 型枠取付後、モルタル漏れ防止の為シールを処理し、下部から上部にかけて充填し、空気抜口からあふれ出るのを確認し充填完了とする。

養　　生 → 養生中（２４時間以上）は、大きな衝撃を与えないように注意する。

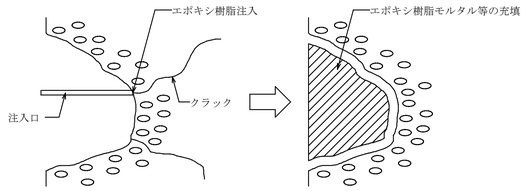
清　　掃 → 補修部分以外に付着した材料や汚れ等を除去し、清掃する。

自　主　検　査 → エポキシ樹脂モルタルの仕上がり状態、硬化状態及び後片付けを確認する。

（D）　梁下に大欠損が発生している場合



（E）　じゃんか内にひび割れが発生している場合



鋼板内蔵コンクリート構造による補強工法　特記仕様書　その１　（’06,11,14 更新版）

’09,07,14 改訂

〇総則〇

特記仕様書の運用方法

（１）□印を付した事項は■印を付した事項のみを適用する。

（２）表中の数字、文字、または記号を記入する事項は記入してある事項のみを適用する。

（３）═══ で抹消した章および項目の当該特記事項はすべて適用しない。

（４）特記された材料、製造所、製品名、施工業者などの取扱いは、特記されたもの又は同等品以上のものとする。ただし、同等品以上のものを使用する場合は、工事監理者の承諾を受ける。

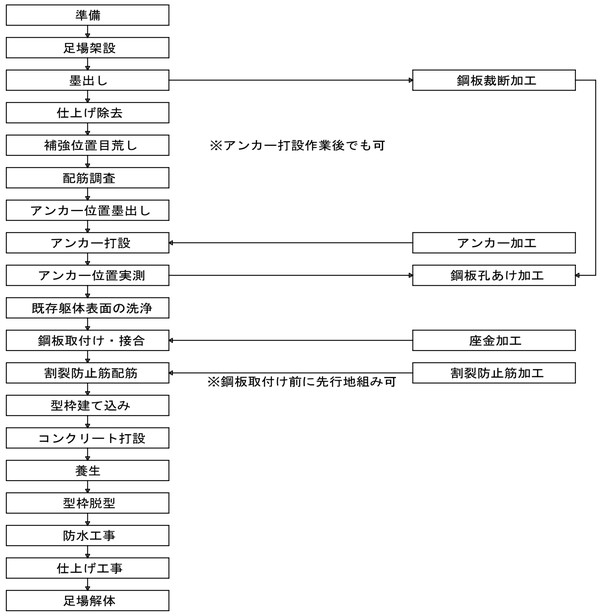
〇鋼板内蔵コンクリート構造による補強工法コンセプト〇

（１）鋼板内蔵コンクリート構造による補強工法とは既存鉄筋コンクリート構造建物躯体の外面に、鋼板を内蔵したＲＣ部材を固着力およびあと施工アンカーにて固定・一体化し、既存建物の靭性改善・耐力向上をはかる工法をいう。

〇鋼板内蔵コンクリート構造による補強工法施工手順〇

（１）標準的な施工手順を以下に示す。なお作業上の都合により手順が入れ替わってもよいものとする。

＜現場施工手順＞　　＜工場加工＞



１．使　用　材　料

１．１補強鋼板

（１）材質　ＪＩＳＧ３１３６　■ＳＮ４００Ｂ　□ＳＮ４００Ｃ　□他（　　）

ＪＩＳＧ３１０１　□ＳＳ４００　□他（　　）

ＪＩＳＧ３１０６　□ＳＭ４００Ｂ　□ＳＭ４００Ｃ　□他（　　）

（２）板厚　□9㎜　□１２㎜　□１６㎜　□１９㎜　■２２㎜　□２５㎜

（３）接合方法　■高力ボルト接合（Ｓ１０Ｔ）□溶接接合

１．２座金

（１）材質　ＳＳ４００相当

１．３鉄筋

（１）アンカー筋　径　□Ｄ１６　■Ｄ１９　■Ｄ２２

材質　ＳＤ３４５

（２）組立筋　径　Ｄ１３

材質　ＳＤ２９５Ａ．Ｂ

（３）乱れ防止筋　径　Ｄ１０

材質　ＳＤ２９５Ａ．Ｂ

（４）割裂防止筋　径　Ｄ６

材質　ＳＤ２９５Ａ．Ｂ

径　Φ６（JIS G 3551 に適合するもの）

材質　ＷＦＰ，ＷＦＣ，ＢＦＳＲ２３５，ＢＦＳＲ２９５，ＢＦＳＤ２９５

（５）打増し部アンカー筋　材質　ＳＤ２９５Ａ．Ｂ

その他補強詳細図による。

打増し部補強筋　材質　ＳＤ２９５Ａ．Ｂ

その他補強詳細図による。

１．４コンクリート

（１）種類　■普通コンクリート　□流動化コンクリート

□その他（　　）

（２）設計基準強度　（　３０　）Ｎ／mm^2

（３）最大粗骨材寸法　２０㎜又は、２５㎜

（４）使用混和剤　高性能ＡＥ減水剤

（５）スランプ　２１ｃｍ

（６）その他、コンクリートに関する規定はＪＡＳＳ５に準ずるものとする。

１．５あと施工アンカー

（１）種類　接着系あと施工アンカー

（２）下記メーカーもしくは同等品以上、またはＪＣＡＡ認証品とする

・日本ヒルティ株式会社　ＨＶＵアンカー，ＨＩＴアンカー（ＲＥ型）

・旭化成ケミカルズ株式会社　ＡＲケミカルセッター［ＡＰシリーズ，ＨＰシリーズ］

・日本デコラックス株式会社　ケミカルアンカー［Ｒタイプ，ＣＥタイプ，Ｈタイプ，ＲＳタイプ］

・前田工繊株式会社　ボルトメイト［ＴＧシリーズ］

・フィッシャー　フィッシャーレジンアンカー［ＲＭタイプ］

・エヌパット株式会社　パーフィクス［レジンカプセル，ハーモニックアンカー］

・サンコーテクノ株式会社　サイズミックカプセル［ＶＥタイプ］

２．部　材　規　定

２．１　あと施工アンカー

（１）鋼板取付き側端部処理

□ Ｄ１６……Ｍ１６（５／８”）のネジ加工

■ Ｄ１９……Ｍ２０（３／４”）のネジ加工

□ Ｄ２２……Ｍ２２（７／８”）のネジ加工

（２）有効埋め込み深さ　１０ｄａ　※ｄａは鉄筋の呼び径

（３）へりあき　２．５ｄａ以上かつ既存躯体の主筋の内側

（４）ふちあき　あと施工アンカーの有効埋込み深さの２倍以下

（５）ピッチ　７．５ｄａ以上かつあと施工アンカーの有効埋込み深さの２倍以下

（６）ゲージ　通常は５．５ｄａ以上、千鳥状配置の場合は４ｄａ以上かつあと施工アンカーの有効埋込み深さの２倍以下

（７）配列　配列は２列以上とし、部材に均等ピッチで配置する

２．２　鋼板

（１）入り隅処理　ｒ＝３０mm以上のコーナー加工

（２）アンカー用孔

□Ｄ１６……Φ３５mm以下　■Ｄ１９……Φ４０mm以下　□Ｄ２２……Φ４５mm以下

２．３　割裂防止筋

（１）形状など　形状　□楕円　■長円のループ形状（■閉鎖型　□スパイラル）

■Ｕ型形状　■柱梁接合部（　□Ｉ型形状　□ メッシュ筋　■ 両方可）　□ 図面による

（２）ループ形状の場合の端部処理

■重ね継手　□ フラッシュバット溶接

※重ね継手の場合は、重ね長さ１０ｄａ以上とし、溶接長さは片面６ｄａとする

（３）下記メーカーもしくは同等品以上とする

・株式会社テクノサポート　製作品

・ジャパンライフ株式会社　製作品

・有限会社東洋建材工業所　製作品

２．４　組立筋

（１）本数

補強部材せい（βD）mm	本数
■　βD＜６００	４本
■　６００≦βD＜９００	６本
□　９００≦βD＜１２００	８本
□　１２００≦βD	３００ピッチ以下

２．５　座金

（１）形状　□Φ５０以上　■□４５×４５以上

（２）厚み　９mm

３．施　工

３．１　既存部下地処理工事

（１）補強部材が取付く部分の既存躯体表面は構造体コンクリートを露出させ、適切な目荒しなどの処理を行う。

（２）目荒し深さと範囲

ａ）チッパーの場合

目荒し深さは既存躯体面から５mm程度の凹みとし、目荒し面積は接合面の全面に渡り面積比で３０～５０%の目荒しを行う。

ｂ）ビシャン、水圧（ウォータージェット）の場合

目荒し深さは既存躯体面から５mm程度の凹みとし、目荒し面積は接合面の全面に渡り面積比で１００%の目荒しを行う。（水圧による目荒しを実施する場合には、試験にて水圧を調整すること。）

（３）目荒しは他の部分に影響を与えないよう、目荒しの境界にカッターを入れ、不要な範囲の損傷は避ける。また、目荒しは、必要最小限となるような方法とし、鉄筋が露出するほど斫りすぎないように注意する。

３．２　アンカー工事

（１）あと施工アンカーの施工に際し、ＪＣＡＡの資格取得者（主任技士，第１種施工士，特２種施工士のいずれか）を現場毎に１名以上配置し、その指導の下、施工を行なう。

（２）既存躯体の鉄筋その他の埋設物を損傷しないよう、穿孔する。

（３）既存躯体内の埋設物（鉄筋・配線・配管等）に当たる場合は以下の対応を行う。

ａ）主筋に当たる場合：最外端の主筋の内側へ納まるよう再穿孔する。

ｂ）せん断補強筋に当たる場合：上下左右いずれかの方向へ再穿孔する。

ｃ）配線，配管に当たる場合：最外端の主筋の内側へ納まるよう、再穿孔する。

ｄ）穿孔に失敗した孔の処理は原則として、工事監理者の指示によりコンクリートと同等の性状が得られる材料（モルタル，樹脂）を充填することとする。

（４）アンカーの埋め込み深さを確認するため、穿孔時に深さを実測し確認する。確認数量は工事監理者の指示による。

（５）アンカーの検査は以下により行う。

ａ）打音検査は、アンカーの全数について行う。

ｂ）引張試験は、１ロットに対して本数の０．５%以上かつ３本以上とし、ロットから無作為に抜き取る。１ロットは棟ごと、アンカー径ごと、既存コンクリート強度の異なる層ごとに、当該作業員が１日に施工したものとする。

引張試験荷重は下記程度とする。（引張荷重は接着系アンカー1本当りの引張耐力の２／３程度とする。）

尚、打増し部あと施工アンカー及び基礎上部ずれ防止用あと施工アンカーについては引張試験は行わないものとする。

ｃ）有効埋込み深さが１０ｄａ以外のアンカー及び引張力を期待するアンカーについては、別途詳細図にて引張荷重を示す。

柱の引張試験荷重	既存コンクリート強度（Ｎ／mm^2）			
アンカー径	１０	１０．５	１８	２１
Ｄ１６	□３７　（　階）	□３８　（　階）	□４６　（　階）	□４６　（　階）
Ｄ１９	■５３　（2階）	■５４　（1階）	□６７　（　階）	□６７　（　階）
Ｄ２２	□７０　（　階）	□７２　（　階）	□９０　（　階）	□９０　（　階）

（単位：ｋＮ）

梁の引張試験荷重	既存コンクリート強度（Ｎ／mm^2）			
アンカー径	１０	１０．５	１８	２１
Ｄ１６	□３７　（　層）	□３８　（　層）	□４６　（　層）	□４６　（　層）
Ｄ１９	■５３　（3層）	■５４（1～2層）	□６７　（　層）	□６７　（　層）
Ｄ２２	□７０　（　層）	□７２　（　層）	□９０　（　層）	□９０　（　層）

（単位：ｋＮ）

（６）目荒し及びアンカー打設の両作業終了後、既存躯体表面の水洗いを行う。

３．３　鋼板加工・取付け工事

（１）鋼板の表面に付着した油膜などの、付着力を低下させる付着物は除去する。

（２）鋼板１ピースあたり、４本以上のアンカーにより取付ける。

（３）鋼板の取付けは、４本以上のアンカーに対して鋼板の両側からナット・座金を用いて軸方向に対して最も外端にあるアンカーを固定する。また、鋼板１ピースの長さが２．０mを越える場合は、２．０m以内に２箇所づつ追加する。その他のアンカーは鋼板の外側にのみ、ナット・座金を使用する。

（４）鋼板取付けのナット締付け量はモンキーレンチなどを用い、手締めとする。締付けトルクは指定しない。

（５）あと施工アンカーと鋼板の孔が合わない場合は、原則としてあと施工アンカーを台直しして収める。やむを得ず、鋼板の孔をふかす場合は、工事監理者の承認を得ることとし、ふかしが大きくなる場合は欠損部に相当する添え板を鋼板面に溶接補強する。

（６）建て入れ直しは以下による。

ａ）面内方向

建て入れ直しは、レバーブロックなどにより行い、建て入れの精度は鋼板接合部が全数取付けられ、所定のかぶり厚さが確保できる範囲であれば、支障はない。

ｂ）面外方向

建て入れ直しは、あと施工アンカーにセットされたナットと座金を用いて行ってもよい。建て入れ直しの精度は、頂部の鋼板から下げ降りを下げるなどして、面外方向の出入りは正規の位置より±３mm以内とする。ただし、既存躯体の精度が悪いときは、工事監理者の指示による。

JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

鋼板内臓RCブレース仕様書-1

DATE　SCAL 1/-　DRAWN　CHEK

S－０３

株式会社 構 建築設計事務所

一級建築士 第295317号 徳田 伸治

鋼板内蔵コンクリート構造による補強工法　特記仕様書　その２　（’06,11,14 更新版）

’09,07,14 改訂

３．４　鉄筋工事

（１）組立筋の継手は、位置は特に規定はしないが、鋼板接合部位置からずらすことが望ましく、定着は３本以上が交差することのない長さとする。３本交差する場合は、梁の組立筋を切断することが望ましい。

（２）Ｕ型割裂防止筋の定着長さはその部材に使用する標準割裂防止筋の長径＋１５０mm以上とする。

（３）打増し部の材軸方向筋とあと施工アンカーとの定着長さは、作業性を考慮し２００mm程度以上が望ましい。

（４）柱・梁共に打増しがある場合、材軸方向筋は原則として、２００mm程度定着させるものとする。

３．５　コンクリート工事

（１）調合はＪＡＳＳ５による。

（２）発注は、レディーミクストコンクリートとする。また、工場はＪＩＳ表示許可を受けていなければならない。

（３）コンクリートの打ち込み、締め固めはＪＡＳＳ５による。

（４）養生は以下による。

ａ）早強ポルトランドセメントおよび普通ポルトランドセメントを使用する場合は、コンクリートの圧縮強度が１０Ｎ／mm^2以上となることを確認すれば、せき板・支保工の撤去および以降の湿潤養生を打ち切ることができる。

ｂ）湿潤養生期間中の上階へのコンクリート打設は、下階の養生状態に対して影響が少ないため連日にわたり行っても良い。但し、直下階の養生は打ち切ってはならない。

ｃ）上階に日々連続してコンクリートを打設する場合も、前日打設したコンクリートに悪影響を与えないよう、作業の管理を行う。

（５）品質管理の検査項目は、ＪＡＳＳ５に規定されている項目のうち、圧縮強度，スランプ，空気量，コンクリート温度，塩化物量とする。

（６）圧縮強度の試験は、コンクリート打設日毎にテストピースを採取し、標準養生の７日，２８日について各３本づつ行う。

３．６　型枠工事

（１）せき板の材料および種類はＪＡＳＳ５による。

（２）型枠の加工および組立ては以下による。

ａ）セパレータの取付けは鋼板を利用してもよい。

ｂ）補強部材には、打ち継ぎ部分には打ち継ぎ目地を設け、また適宜に化粧目地を設ける。

３．７　防水工事

（１）シーリングを必要とする目地は以下による。

ａ）既存躯体と補強体の新旧コンクリートの打ち継ぎ面の目地幅（幅２５mm，深さ２０mm）

ｂ）補強体に設けた、化粧目地（幅１５mm，深さ１５mm）

ｃ）その他、防水上必要と認められる目地および補強体と他材料との接合部

ｄ）笠木などの防護策を講じた場合の防水上必要と認められる目地

（２）シーリング材を充填する目地

ａ）目地幅は、シーリング材がムーブメントに対する追従性を確保できる寸法とし、かつ、シーリング材を十分に充填できる寸法とする。

ｂ）目地深さは、シーリング材の接着性、耐久性を十分に確保でき、硬化阻害を起こさない寸法とし、かつ、シーリング材を十分に充填できる寸法とする。

ｃ）その他、ＪＡＳＳ８に準ずる。

３．８　打増しの規定

（１）補強部材取付けに伴う打増し部分に適用する配筋は打増し厚により以下に規定する。

打増し厚	配　筋　規　定
□　０mm～５０mm未満	配筋不要
■　５０mm以上～１００mm未満	メッシュ筋（φ６@１００シングルクロス）
□　１００mm以上	補強詳細図による

３．９　バルコニーがある場合の規定

（１）補強部材が連層で設置される場合で、庇やバルコニーなどのスラブがある場合は、補強部材が連続するよう、連結部分のスラブを斫り取り、鋼板が連続し応力伝達が可能となるような対処を行わねばならない。

（２）スラブ、片持ち梁の根元を撤去・復旧する場合は、必ず支保工等で充分に養生すること。

（３）バルコニー、庇等のスラブを復旧する場合は、原則として既存のスラブ筋を梁面から３００mm以上残存させ、新たに復旧する鉄筋と片面１０ｄ以上のフレア溶接を行なう。但し詳細は図面による。

３．１０　検査

（１）３．１～３．９の各工事について、ビタコラム工法協会の検査員の検査を受けること。ただし、３．７防水工事は除くものとする。

４．その他

４．１　既存躯体不良の処置

（１）既存躯体の不良については、工事監理者と処置方法を協議する。

４．２　補強部材の仕上げ

（１）小地震時の微小変形やコンクリートの乾燥収縮によるひび割れの対応として、耐久性の確保の為に、仕上げ材は防水形複層塗材Ｅ(JISA6909)を推奨する。

JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

鋼板内臓RCブレース仕様書-2

DATE　SCAL 1/-　DRAWN　CHEK

Ｓ－０４

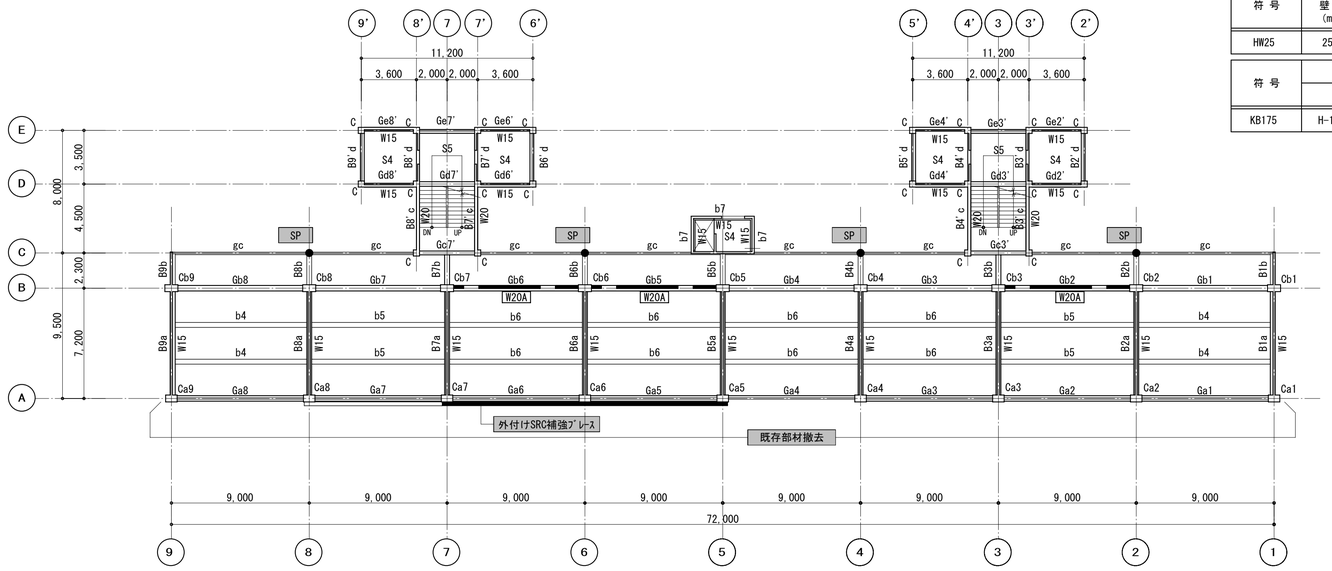
株式会社 構 建築設計事務所

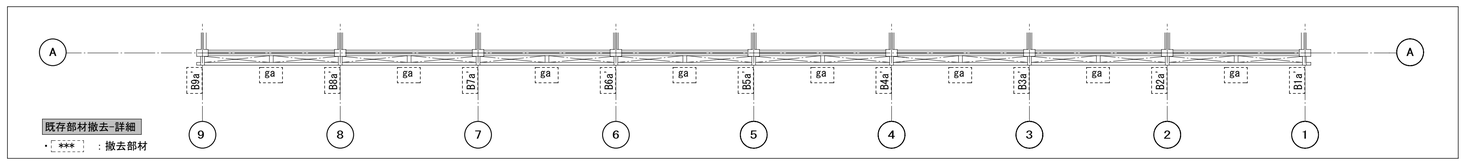
一級建築士　第 295317 号　徳田　伸治

新設壁リスト

符号	壁厚 (mm)	縦筋	横筋	アンカー筋 (接着系)	開口補強筋			備考
					縦筋	横筋	斜め筋	
HW25	250	D13-@200 (ダブル)	D13-@200 (ダブル)	D19-@150 (チドリ)	——	——	——	耐力壁

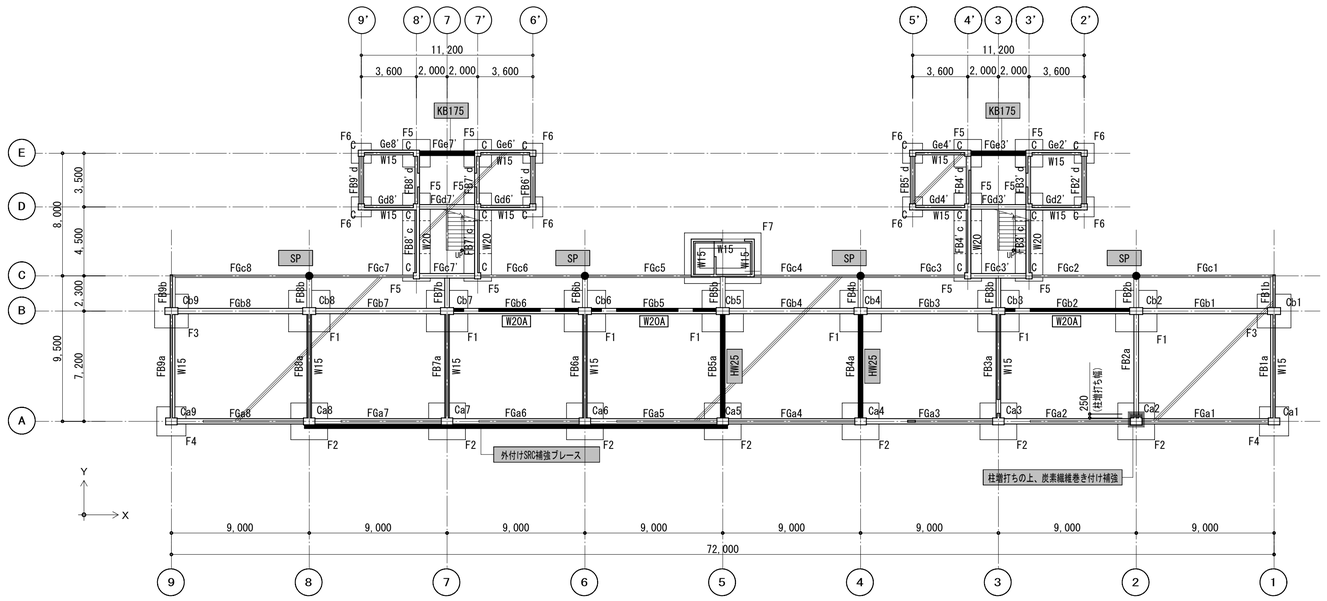
符号	鉄骨枠付きブレース			頭付きスタッド	アンカー筋 (接着系)	備考
	ブレース材	枠材	座屈止め			
KB175	H-175x175x7.5x11	H-175x175x7.5x11	H-175x90x5x8	16φ-@150 (ダブル)	D19-@150 (シングル)	K 型





２階梁伏図 S=1/200

特記なき限り下記による。
・壁 ：W12
・スラブ ：S3
・W20A は、昭和６２年大規模改修時に設けられた ＲＣ増設壁を示す。



基礎及び基礎梁伏図 S=1/200

特記なき限り下記による。
・壁 ： W12
・ ： 土間コンクリートを示す。
・W20A は、昭和６２年大規模改修時に設けられた ＲＣ増設壁を示す。

補強部材凡例

・■ 印は外付けＳＲＣ補強ブレースとする。
・KB175 は鉄骨ブレース補強を示す。(既存W12壁撤去の上、新設)
・HW25 はRC新設壁を示す。(既存W15壁撤去の上、新設)
・ 印はRC柱-炭素繊維巻き付け（３層）補強を示す。
・SP は補強柱（新設）を示す。（腰壁－片持ち梁の間に設置）
（□-150x150x9(STKR400) h=1.4m）

JOB NO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

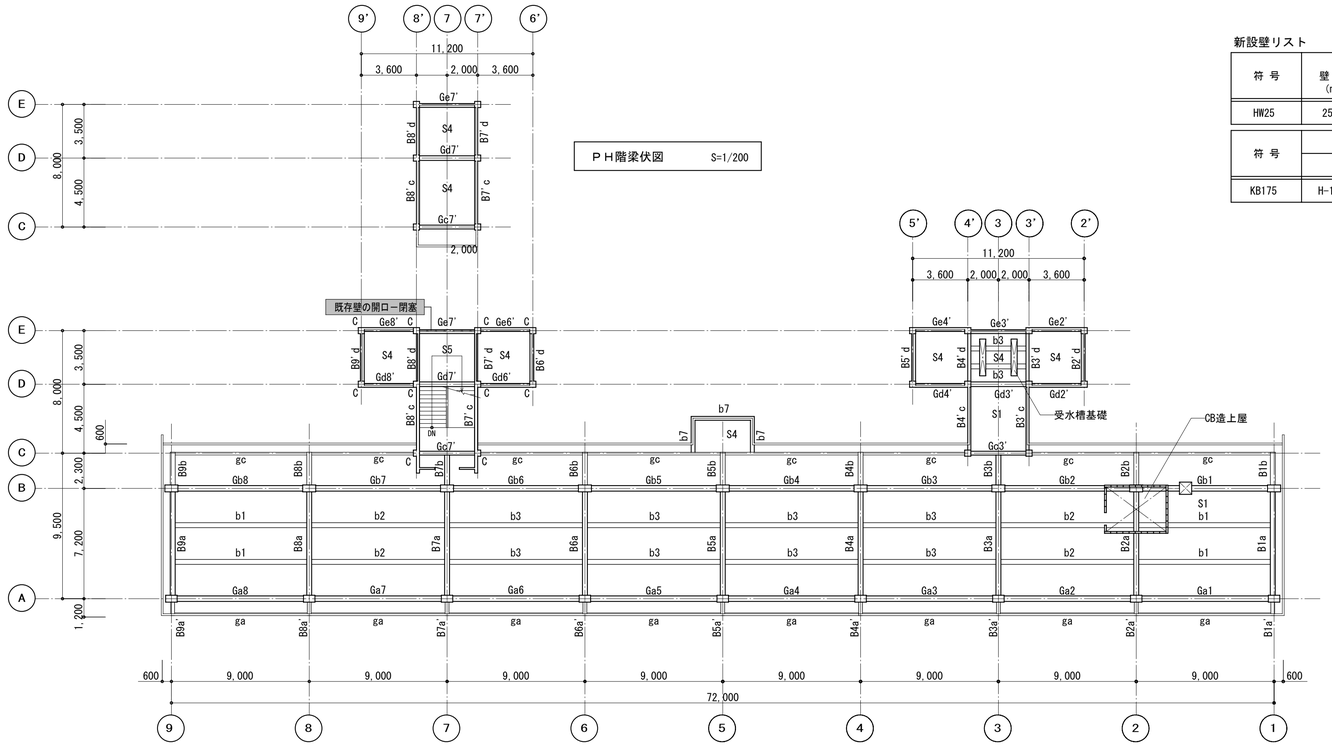
基礎及び基礎梁伏図・
２階梁伏図（補強計画図）

S－０５

DATE SCALE 1/200 DRAWN CHEK

株式会社 構 建築設計事務所

一級建築士 第 295317 号 徳田 伸治



ＰＨ階梁伏図　S=1/200

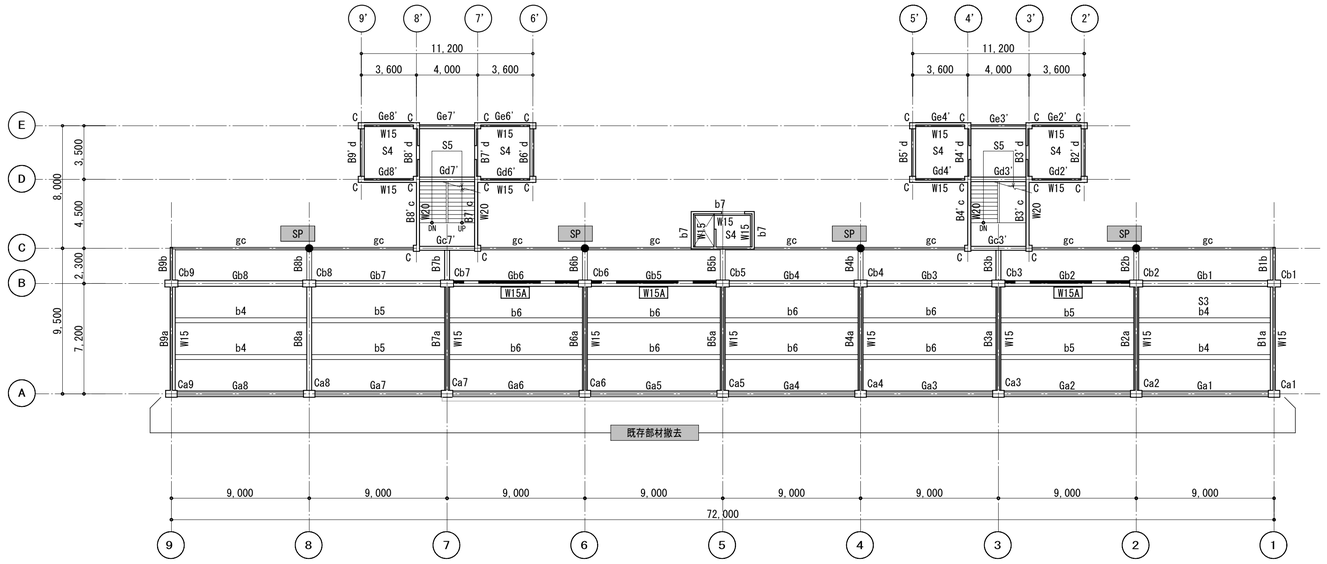
新設壁リスト

符号	壁厚 (mm)	縦筋	横筋	アンカー筋 (接着系)	開口補強筋			備考
					縦筋	横筋	斜め筋	
HW25	250	D13-@200（ダブル）	D13-@200（ダブル）	D19-@150 （チドリ）	——	——	——	耐力壁

符号	鉄骨枠付きブレース			頭付きスタッド	アンカー筋 (接着系)	備考
	ブレース材	枠材	座屈止め			
KB175	H-175x175x7.5x11	H-175x175x7.5x11	H-175x90x5x8	16φ-@150（ダブル）	D19-@150（シングル）	K 型

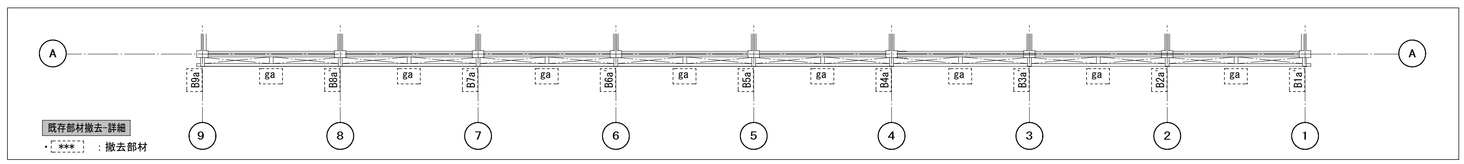
Ｒ階梁伏図　S=1/200

特記なき限り下記による。
・壁　：W12
・スラブ　：S1



３階梁伏図　S=1/200

特記なき限り下記による。
・壁　：W12
・スラブ　：S3
・W15A は、昭和６２年大規模改修時に設けられたＲＣ増設壁を示す。



補強部材凡例

- ■■■ 印は外付けＳＲＣ補強ブレースとする。
- KB175 は鉄骨ブレース補強を示す。（既存W12壁撤去の上、新設）
- HW25 はRC新設壁を示す。（既存W15壁撤去の上、新設）
- ⊠ 印はRC柱-炭素繊維巻き付け（３層）補強を示す。
- SP は補強柱（新設）を示す。（腰壁ー片持ち梁の間に設置）
（□-150x150x9(STKR400)　h=1.4m）

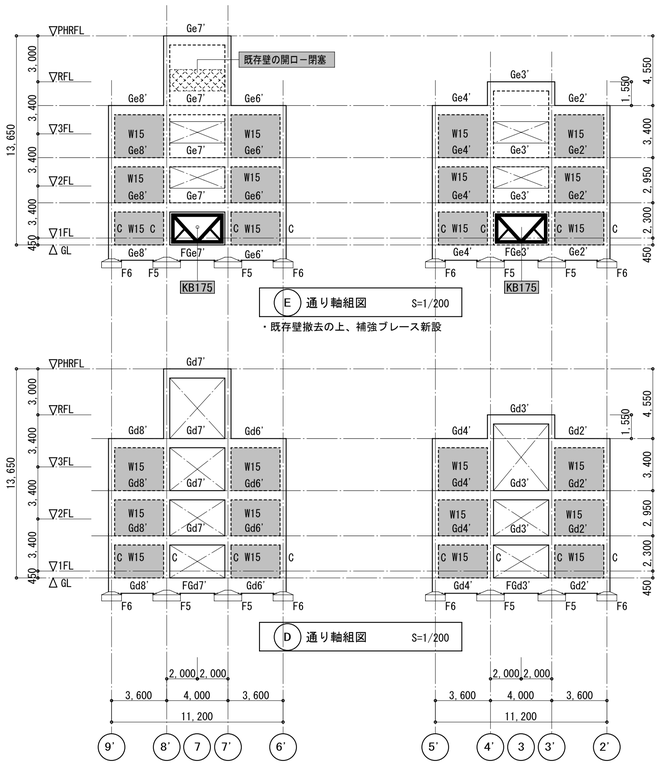
JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

3階梁伏図・R階梁伏図・
PH階梁伏図（補強計画図）　S－06

DATE　SCAL 1/200　DRAWN　CHEK

株式会社 構 建築設計事務所

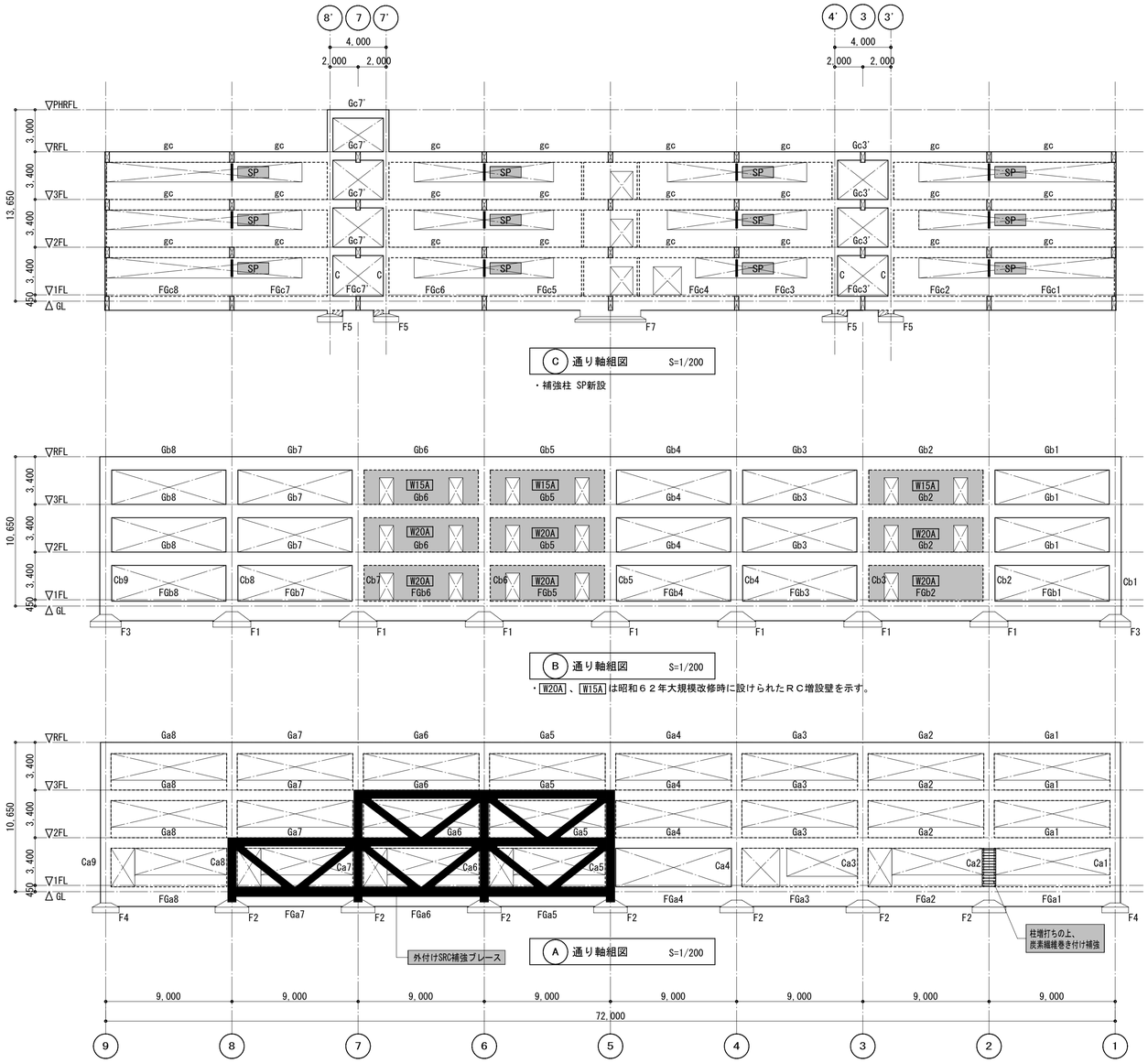
一級建築士 第295317号　徳田 伸治



E 通り軸組図 S=1/200

・既存壁撤去の上、補強ブレース新設

D 通り軸組図 S=1/200



C 通り軸組図 S=1/200

・補強柱 SP新設

B 通り軸組図 S=1/200

・W20A 、 W15A は昭和６２年大規模改修時に設けられたＲＣ増設壁を示す。

A 通り軸組図 S=1/200

共通事項

特記なき限り下記による。

- 壁 ： Ｗ１２
- ▭ ： 耐震壁を示す
- ▨ ： 梁増し打ちを示す

補強部材凡例

- ■ 印は外付けＳＲＣ補強ブレースとする。
- KB175 は鉄骨ブレース補強を示す。
- HW25 はRC新設壁を示す。
- ▤ 印はRC柱-炭素繊維巻き付け（３層）補強を示す。
- SP は補強柱（新設）を示す。（腰壁ー片持ち梁の間に設置）
  （□-150x150x9(STKR400) h=1.4m）

新設壁リスト

符号	壁厚 (mm)	縦筋	横筋	アンカー筋 (接着系)	開口補強筋 縦筋	開口補強筋 横筋	開口補強筋 斜め筋	備考
HW25	250	D13-@200（ダブル）	D13-@200（ダブル）	D19-@150 （チドリ）	——	——	——	耐力壁

符号	鉄骨枠付きブレース ブレース材	鉄骨枠付きブレース 枠材	鉄骨枠付きブレース 座屈止め	頭付きスタッド	アンカー筋 (接着系)	備考
KB175	H-175x175x7.5x11	H-175x175x7.5x11	H-175x90x5x8	16φ-@150（ダブル）	D19-@150（シングル）	K 型

JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

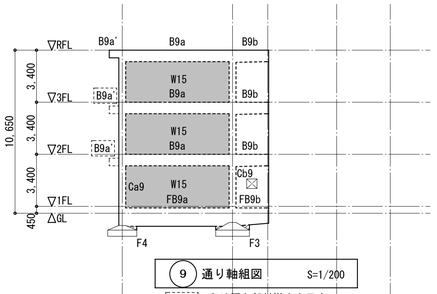
軸組図－１（補強計画図）

DATE SCAL 1/200 DRAWN CHEK

S－０７

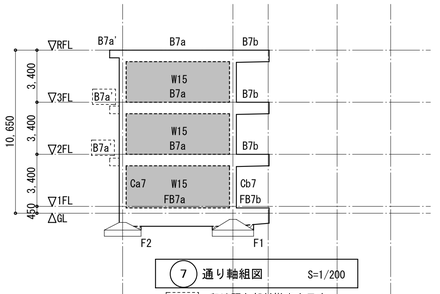
株式会社 構 建築設計事務所

一級建築士 第295317号 徳田 伸治



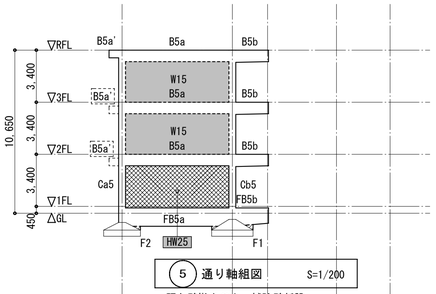
9 通り軸組図 S=1/200

・*** 印は既存部材撤去を示す。



7 通り軸組図 S=1/200

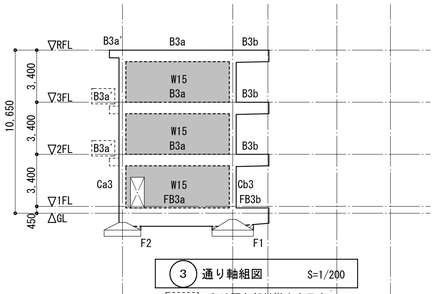
・*** 印は既存部材撤去を示す。



5 通り軸組図 S=1/200

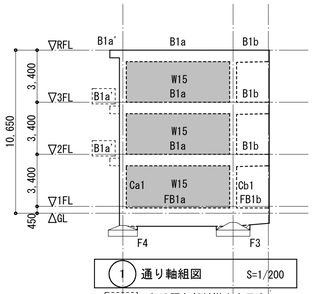
・既存壁撤去の上、補強壁新設

・*** 印は既存部材撤去を示す。



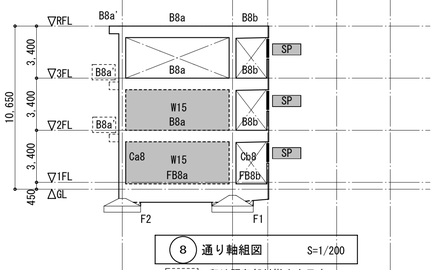
3 通り軸組図 S=1/200

・*** 印は既存部材撤去を示す。



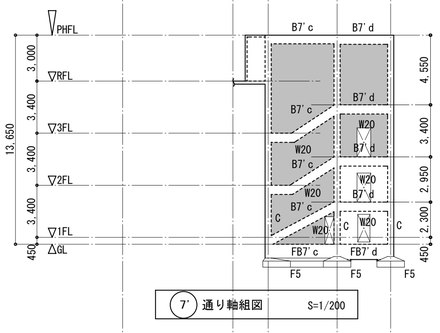
1 通り軸組図 S=1/200

・*** 印は既存部材撤去を示す。

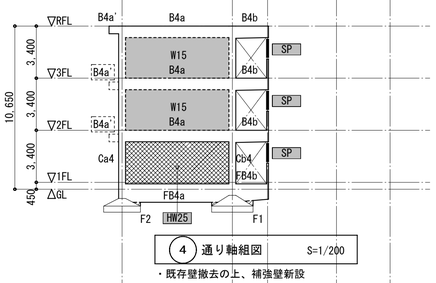


8 通り軸組図 S=1/200

・*** 印は既存部材撤去を示す。

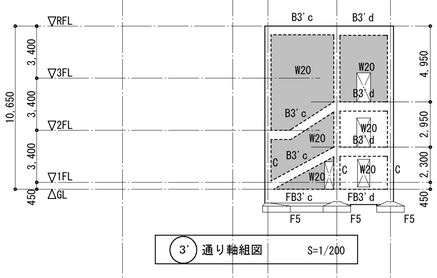


7' 通り軸組図 S=1/200

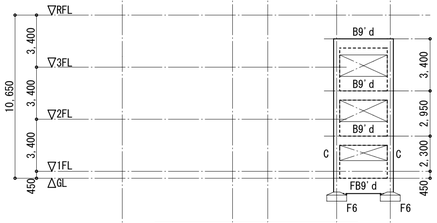


4 通り軸組図 S=1/200

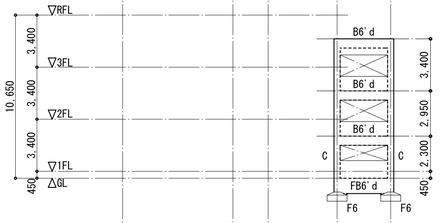
・既存壁撤去の上、補強壁新設



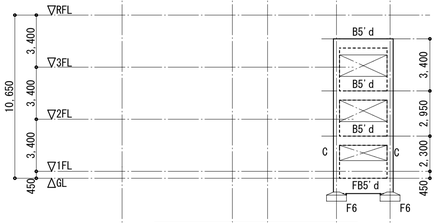
3' 通り軸組図 S=1/200



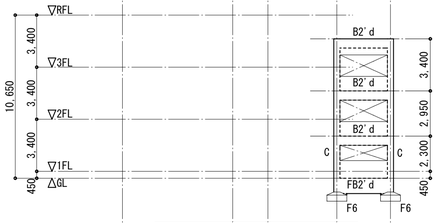
9' 通り軸組図 S=1/200



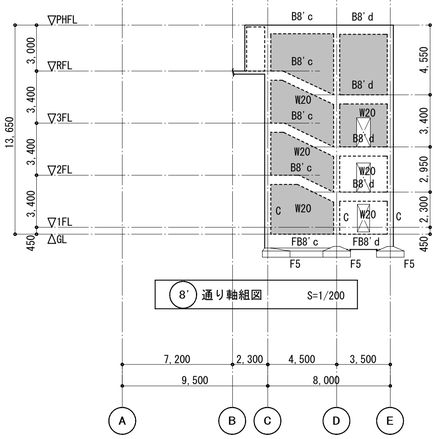
6' 通り軸組図 S=1/200



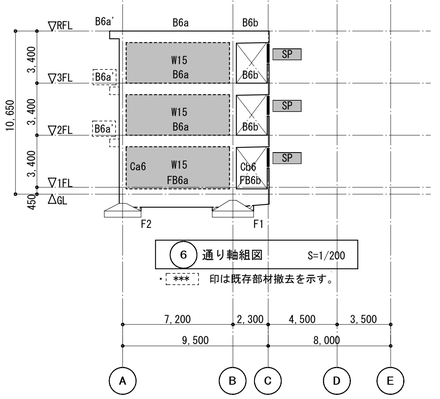
5' 通り軸組図 S=1/200



2' 通り軸組図 S=1/200

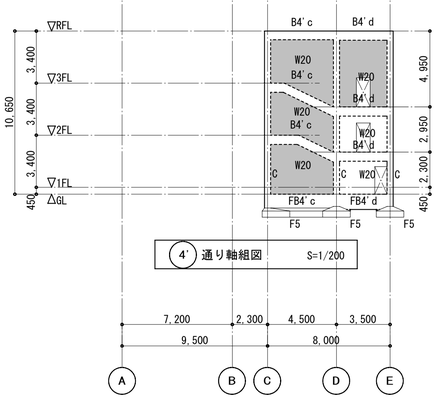


8' 通り軸組図 S=1/200

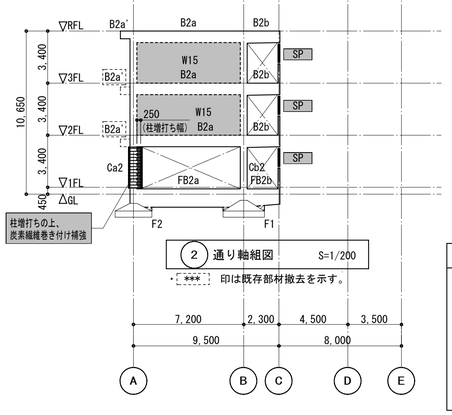


6 通り軸組図 S=1/200

・*** 印は既存部材撤去を示す。



4' 通り軸組図 S=1/200



2 通り軸組図 S=1/200

・*** 印は既存部材撤去を示す。

共通事項

特記なき限り下記による。

- 壁 : Ｗ１２
- ▭ : 耐震壁を示す
- ▨ : 梁増し打ちを示す

補強部材凡例

- ■ 印は外付けＳＲＣ補強ブレースとする。
- KB175 は鉄骨ブレース補強を示す。
- HW25 はRC新設壁を示す。
- ▤ 印はRC柱-炭素繊維巻き付け（３層）補強を示す。
- SP は補強柱（新設）を示す。（腰壁ー片持ち梁の間に設置）
  （□-150x150x9(STKR400) h=1.4m）

新設壁リスト

符号	壁厚 (mm)	縦筋	横筋	アンカー筋 (接着系)	開口補強筋 縦筋	開口補強筋 横筋	開口補強筋 斜め筋	備考
HW25	250	D13-@200（ダブル）	D13-@200（ダブル）	D19-@150 （チドリ）	——	——	——	耐力壁

符号	鉄骨枠付きブレース ブレース材	鉄骨枠付きブレース 枠材	鉄骨枠付きブレース 座屈止め	頭付きスタッド	アンカー筋 (接着系)	備考
KB175	H-175x175x7.5x11	H-175x175x7.5x11	H-175x90x5x8	16φ-@150（ダブル）	D19-@150（シングル）	Ｋ 型

JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

軸組図－２（補強計画図）

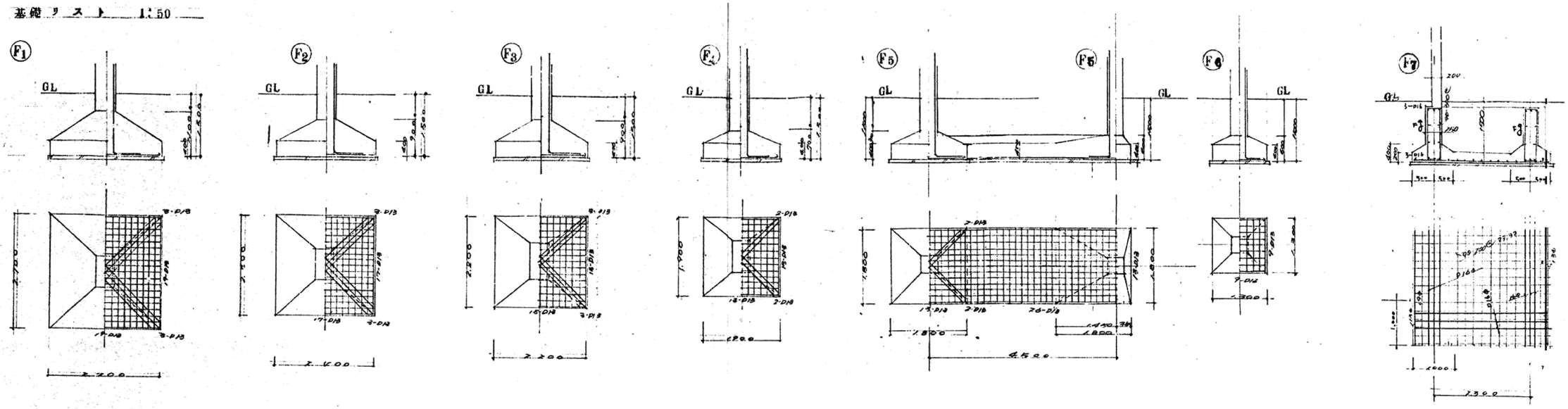
S－０８

DATE SCAL 1/100 DRAWN CHEK

株式会社 構 建築設計事務所

一級建築士 第295317号 徳田 伸治

基礎リスト　1:50



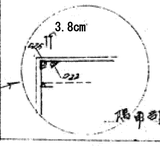
● 地盤支持力：30kN/m²（長期）に設計　載荷試験または杭打ちのヒン　30m以上支持力層まで根入底を確保する事を原則とする　但し地盤状況に応じて基礎及び根入深さの変更ありとする。

柱リスト　1:30

凡例　・●→D25　○—D22　・—D16

	Ca1、Ca9	Ca2	Ca8	Ca3→Ca7	Cb1、Cb9	Cb2	Cb8	Cb3→Cb7
3階	4-D22 6-D16	4-D22 6-D16	4-D22 10-D16	4-D22 6-D16	4-D22 6-D16	4-D25 2-D22 6-D16	4-D25 2-D22 6-D16	4-D25 2-D22 2-D16
2階	4-D22 6-D16	4-D22 6-D16	4-D22 10-D16	4-D22 6-D16	4-D22 6-D16	6-D25 2-D16	6-D25 6-D16	6-D25 2-D16
1階	4-D22 6-D16	4-D22 10-D16	4-D22 10-D16	4-D22 6-D16	8-D22 2-D16	10-D25 4-D22 6-D16	10-D25 4-D22 6-D16	10-D25 4-D22 2-D16

750×450　850×450



（便所梁）

C

8-D16

400×400

（柱リスト）共通事項　Hoop φ9-250@　ｸﾛｽﾌｯｸ φ9-750@
但し 柱頭、柱脚 φ9-125@（柱の最大径）

共通事項	便所梁柱	DIAHOOP	9φ-750@
		HOOP	9φ-250@
		柱頭柱脚	9φ-125@

JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

基礎・柱リスト（既存）

DATE　SCALE 1/50-30　DRAWN　CHEK　S－09

株式会社 構 建築設計事務所

一級建築士 第295317号 徳田 伸治

大梁リスト

記号	Ga1 、Ga8			Ga2 、Ga7 Ga3 ～ Ga6		Gb1 、Gb8			Gb2、Gb7		Gb3～Gb6		B1a～B9a		Be a(音楽室)		B1b～B9b		b1a'～ b9a'	Gc3' 、Ge3' Gc7' 、Ge7'		Gd2'、Gd4'、Gd6'、Gd8' Ge2'、Ge4'、Ge6'、Ge8'			B2' d 、B5' d B6' d 、B9' d		B4' c 、B3' c B8' c 、B7' c		B3' d 、B4' d B7' d 、B8' d			Gd3' 、Gd7'		
	外	中	内	E	C	外	中	内	E	C	E	C	E	C	E	C	内	先	E、C	E	C	外	中	内	E	C	E	C	外	中	内	E	C
P H 階				注) RGa2, RGa7 外端下記見る																							同 左		同 左					
D×D																				250×600							200×600					300×600		
上筋																				3-D16	2-D16						2-D16					3-D16	2-D16	
下筋																				2-D16	2-D16						2-D16					3-D16	3-D16	
スタラップ																				9φ-300@							9φ-300@					9φ-300@		
R 階				外端下記見る																			同 左											
D×D	360×800			360×800		360×950			360×950		360×950		320×750		320×800		320×800	320×750	250×500			250×600			250×600			200×600			300×600		
上筋	3-D19	2-D19	5-D19	4-D19	2-D19	4-D19	2-D19	5-D19	5-D19	2-D19	5-D19	2-D19	3-D19	2-D19	7-D25	4-D25	8-D25	3-D25	3-D19	同 上		2-D16			3-D16	2-D16	同 上		3-D16	2-D16	3-D16	5-D16	3-D16	
下筋	2-D19	3-D19	2-D19	2-D19	3-D19	2-D19	5-D19	2-D19	2-D19	3-D19	2-D19	3-D19	3-D19	3-D19	7-D25	7-D25	8-D25	2-D25	2-D16			2-D16			2-D16	同 左			2-D16	2-D16	2-D16	5-D16	3-D16	
スタラップ	9φ-300@			全 左		全 左			全 左		全 左		全 左		13φ-200@		9φ-200@			9φ-300@													
3 階																																	
D×D	360×750			360×750		360×950			360×950		360×950		320×750		320×750		320×800	320×750	250×500			250×600			250×600			200×600					
上筋	5-D19	2-D19	5-D19	5-D19	2-D19	7-D19	2-D19	7-D19	7-D19	2-D19	6-D19	2-D19	3-D19	2-D19	4-D22	3-D22	7-D22	3-D22	2-D16	同 上		3-D16	2-D16		3-D16	2-D16	同 上		3-D16	2-D16	同 上			
下筋	2-D19	3-D19	2-D19	2-D19	3-D19	3-D19	3-D19	2-D19	2-D19	3-D19	2-D19	3-D19	3-D19	3-D19	4-D22	3-D22	7-D22	2-D22	2-D16			2-D16	3-D16		2-D16	3-D16			2-D16	3-D16				
スタラップ	9φ-300@			全 左		全 左			全 左		全 左		全 左		全 左		9φ-200@			9φ-300@		同 左			同 左			9φ-300@					
2 階																																	
D×D	360×750			360×750		360×950			360×950		360×950		320×750		320×750		320×800	320×750	250×500			250×600			250×600			200×600					
上筋	5-D22	2-D22	5-D22	5-D22	2-D22	7-D22	2-D22	6-D22	6-D22	2-D22	6-D22	2-D22	4-D22	2-D22	4-D22	3-D22	7-D22	3-D22	2-D16	同 上		3-D16	2-D16	3-D16	同 上		同 上		4-D16	2-D16	3-D16	同 上		
下筋	3-D22	3-D22	2-D22	2-D22	3-D22	5-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	4-D22	3-D22	4-D22	3-D22	7-D22	2-D22	2-D16			2-D16	2-D16	2-D16					2-D16	2-D16	2-D16			
スタラップ	9φ-300@			全 左		全 左			全 左		全 左		全 左		全 左		9φ-200@			9φ-300@		同 左			同 左								
地中梁																																	
D×d	350×1,400			350×1,400		350×1,400			350×1,400		350×1,400		300×1,200		300×1,200		300×1,200	320×1,000															
上筋	5-D16	3-D16	3-D16	3-D16	3-D16	5-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	2-D19	3-D19	2-D19	3-D19	2-D19															
下筋	5-D16	3-D16	3-D16	3-D16	3-D16	5-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	2-D19	3-D19	2-D19	3-D19	2-D19															
スタラップ	9φ-300@			全 左		全 左			全 左		全 左		全 左		全 左		全 左															

			300×1,000 2-D16 2-D16 2-D16 2-D16 9φ-300@
			同 左
			同 左
			同 左
			同 左
			同 左
			300×1,000 5-D16 3-D16 5-D16 3-D16 9φ-300@
			250×1,000 2-D16 2-D16 9φ-300@

Gc1～Gc8

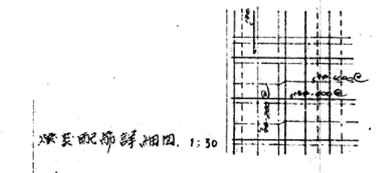
大梁特記事項　特記なき限り　ST　9φ-300@　　肋筋　90°使用、135°止め筋 90°900㎝
定着及継手　——　　高張力異形鉄筋 D29以上 普通丸鋼 (16G 39) 52.4D以上

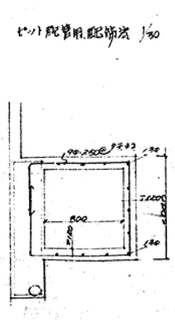
地中大梁下端 地コンクリート下50全て共通

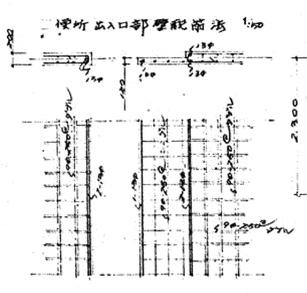
注意事項

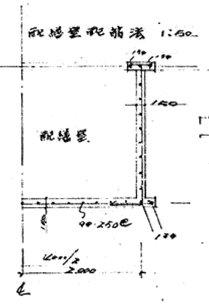
1) 大梁スターラップ 両端全て 90°-150㎝ (900以内)。準。
2) 2B24 配筋方はリスト と異なり ② 通梁断面参照。準。

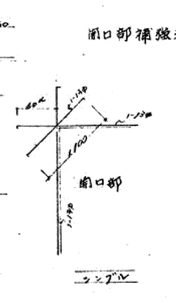
	Ga2	Ga7
肋筋		
5-D19		
3-D19		

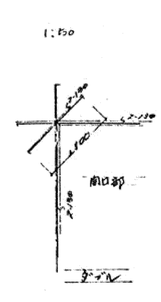








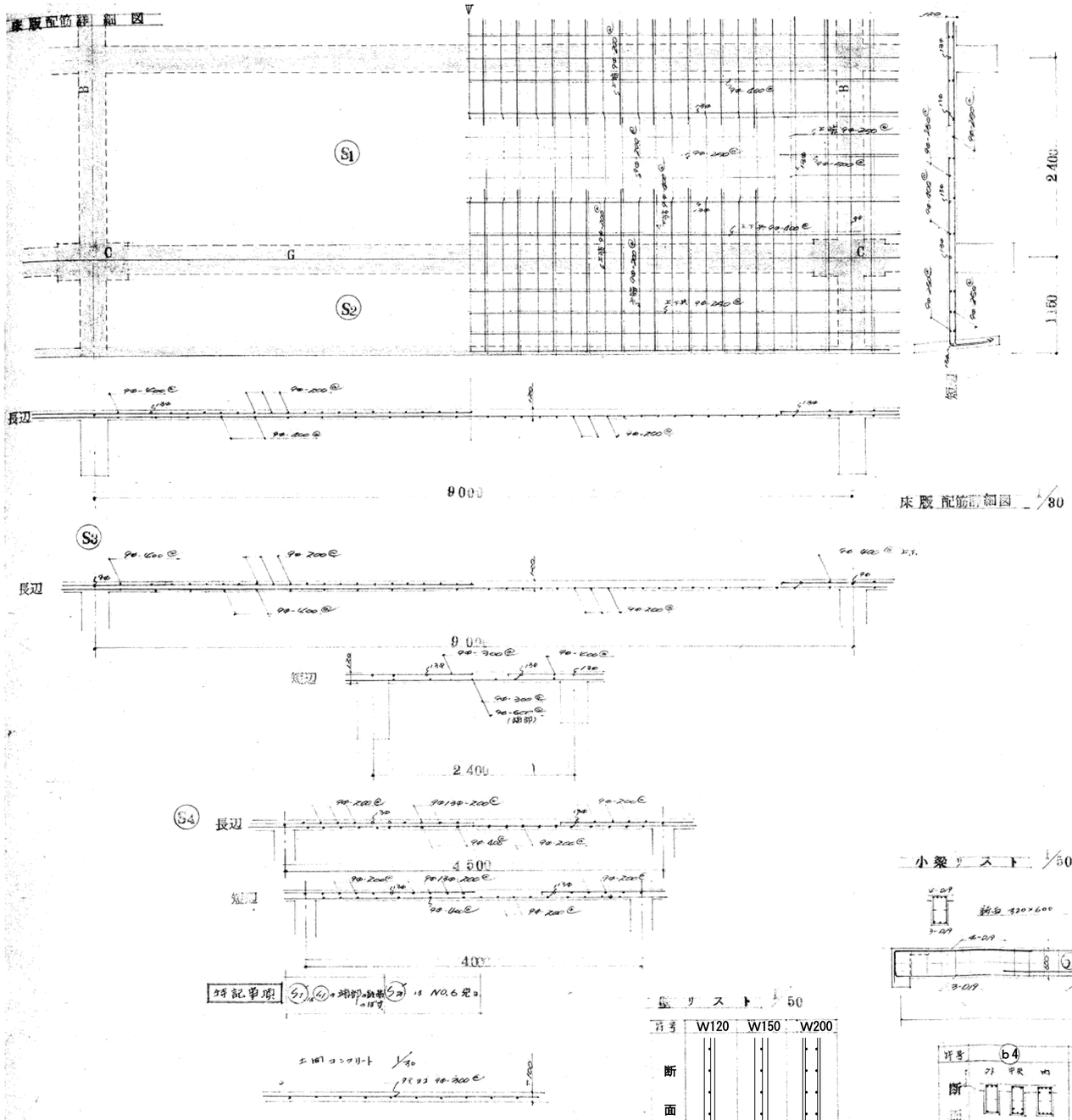




RH 床配筋詳細図 1/30

JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事
大梁リスト（既存）
DATE　SCALE 1/30・50　DRAWN　CHEK
S－10
株式会社 構 建築設計事務所
一級建築士 第295317号 徳田 伸治

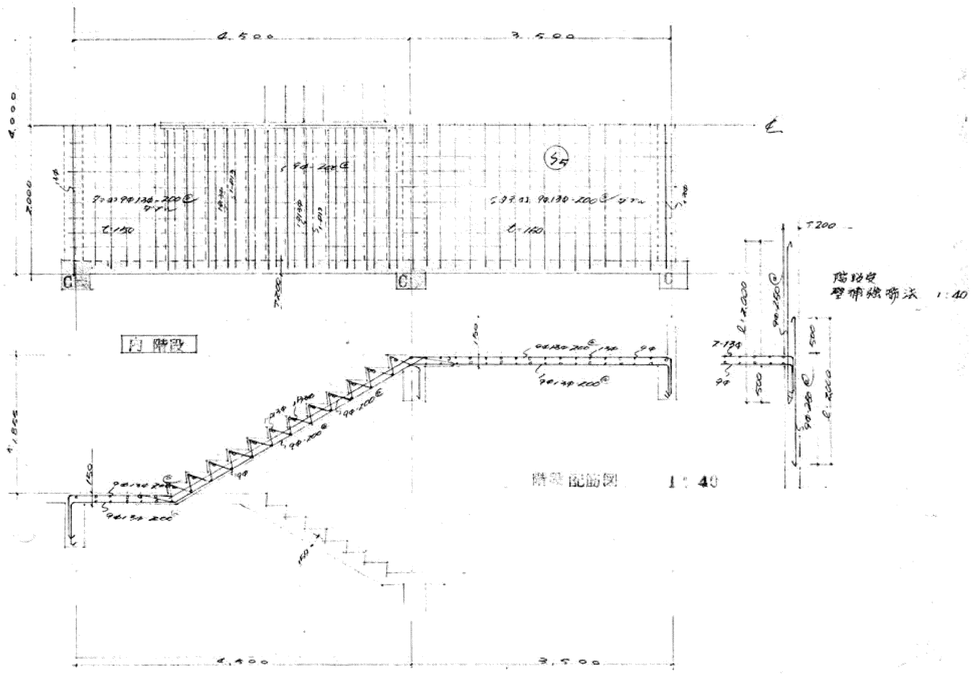
床版配筋詳細図



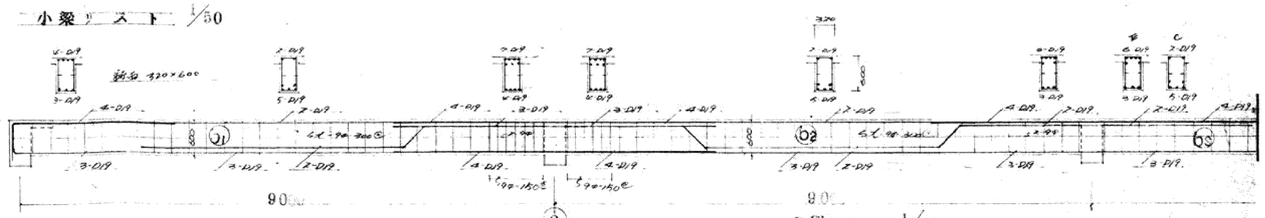
床版配筋詳細図 1/80

壁リスト 1/50

符号	W120	W150	W200
断面			
タテ筋	9φ-250@	同 左	ダブル 同 左
ヨコ筋	9φ-250@	同 左	同 左



小梁リスト 1/50



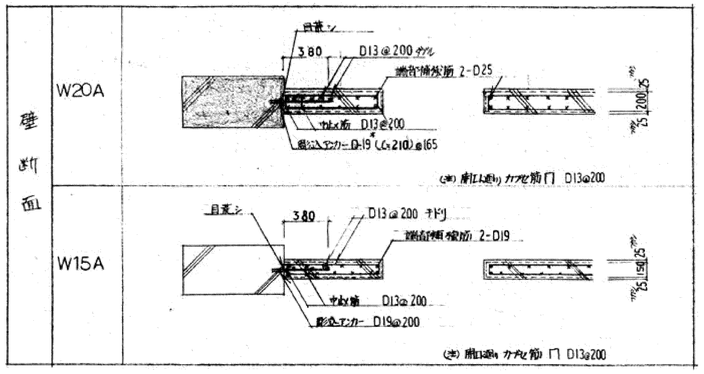
符号	b4	b5	b6	b7	ba
断面	外 甲板 内	外 甲板 内	両端 甲板	全断面	全断面
	320×600	320×600	320×600	250×700	300×500
上端筋	3-D19 2-D19 6-D19	6-D19 2-D19 5-D19	5-D19 2-D19	2-D16	4-D22
下端筋	2-D19 5-D19 4-D19	4-D19 4-D19 3-D19	3-D19 4-D19	2-D16	4-D22
あばら	9φ-300@	同 左	同 左	同 左	9φ-200@ 2 (本増筋)

g梁リスト 1/50

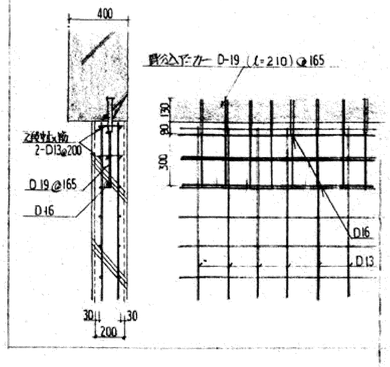
符号	2-3-R gc	2-3 ga	R ga
断面	全断面	全断面	全断面
	180×750	100×700	120×800
上端筋	4-D19	1-D16 1-D13	2-D13
下端筋	4-D19	1-D16 1-D13	2-D13
あばら	9φ-300@	同 左	同 左

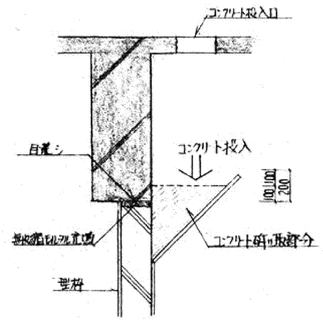
JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事
各部材リスト（既存）
DATE 10-30 SCALE DRAWN CHEK
S－11
株式会社 構 建築設計事務所
一級建築士 第295317号 徳田 伸治

増設壁配筋図 1/30

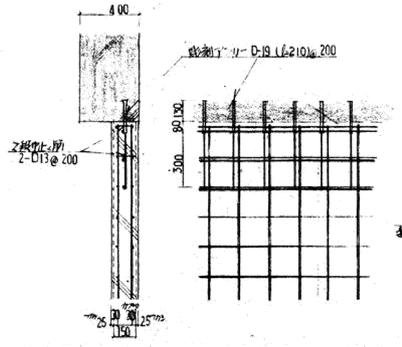


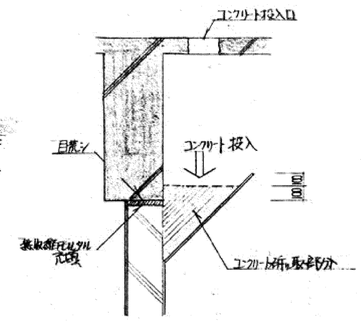
A部詳細図 1/20



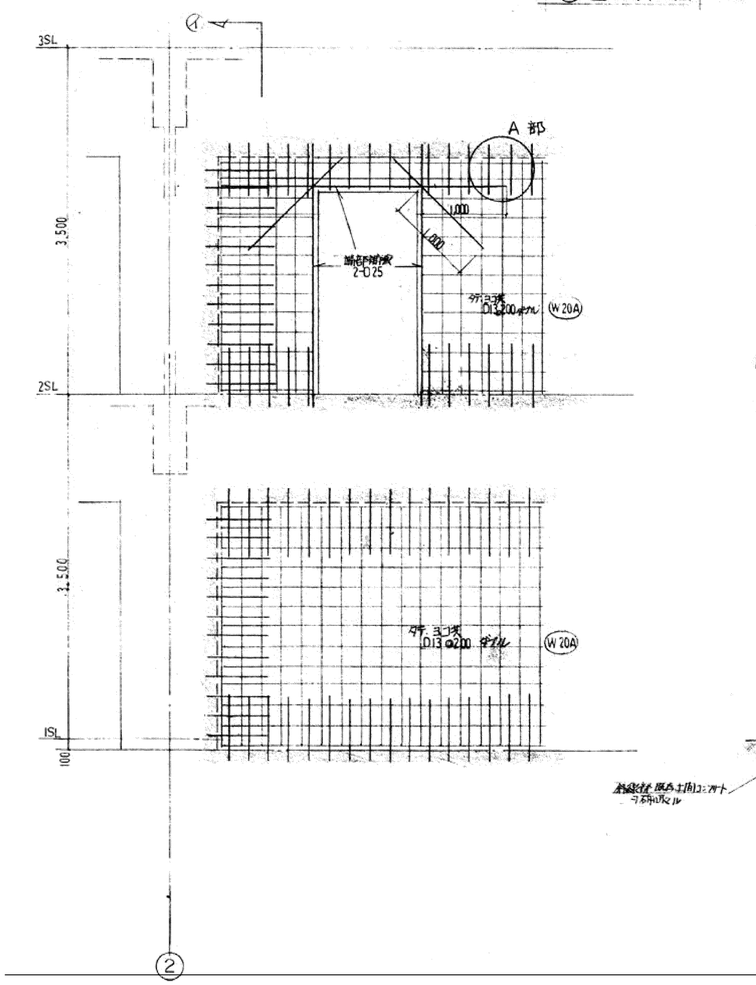


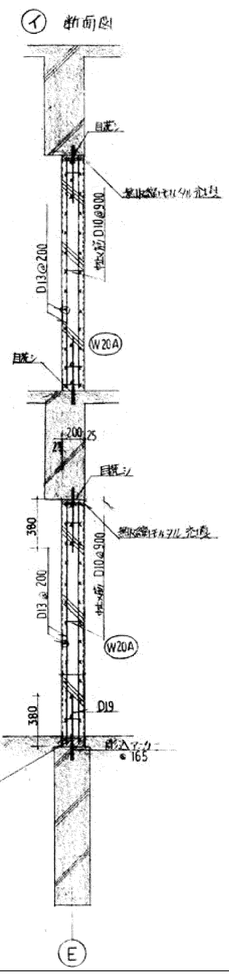
B部詳細図 1/20



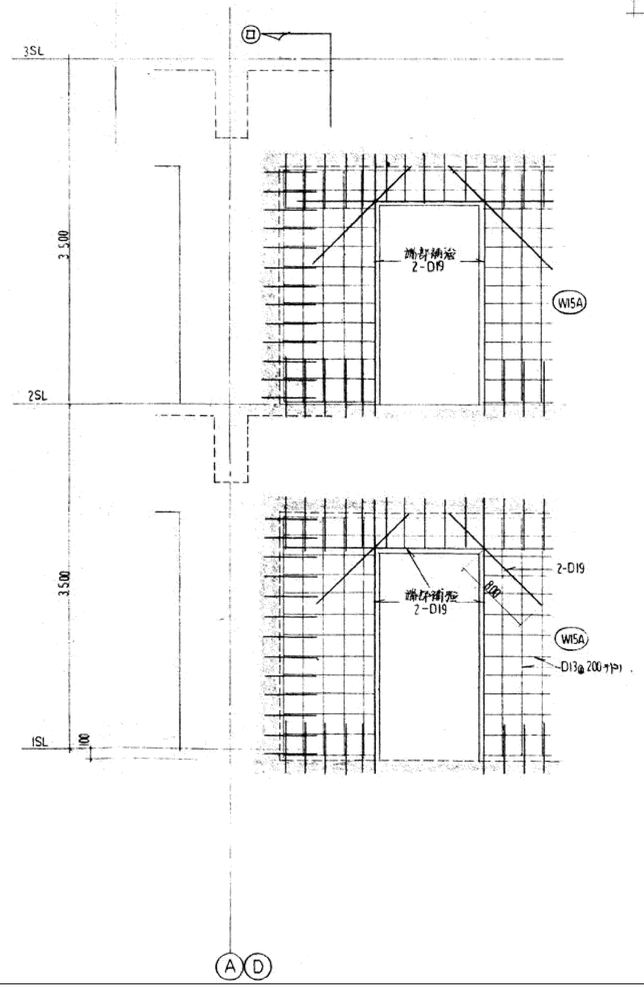


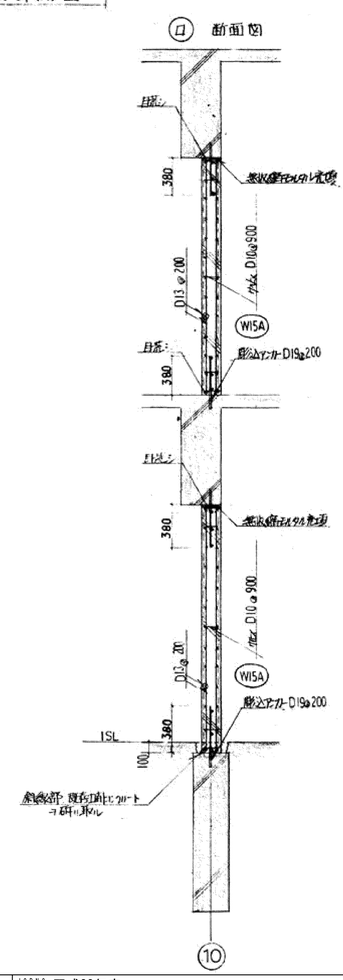
Ⓔ通り詳細図 1/30





⑩通り詳細図





JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

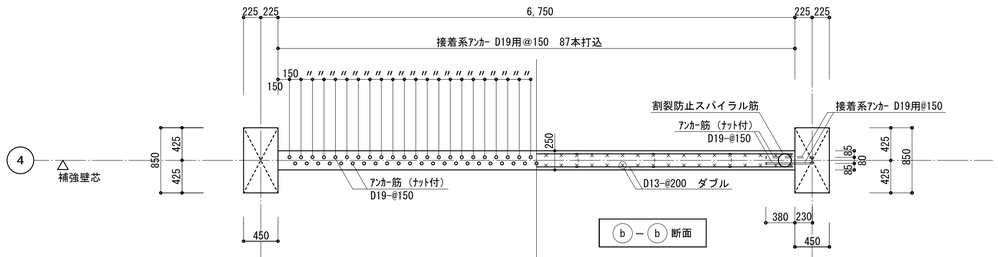
増設壁（W15A・W20A）リスト
（既存）

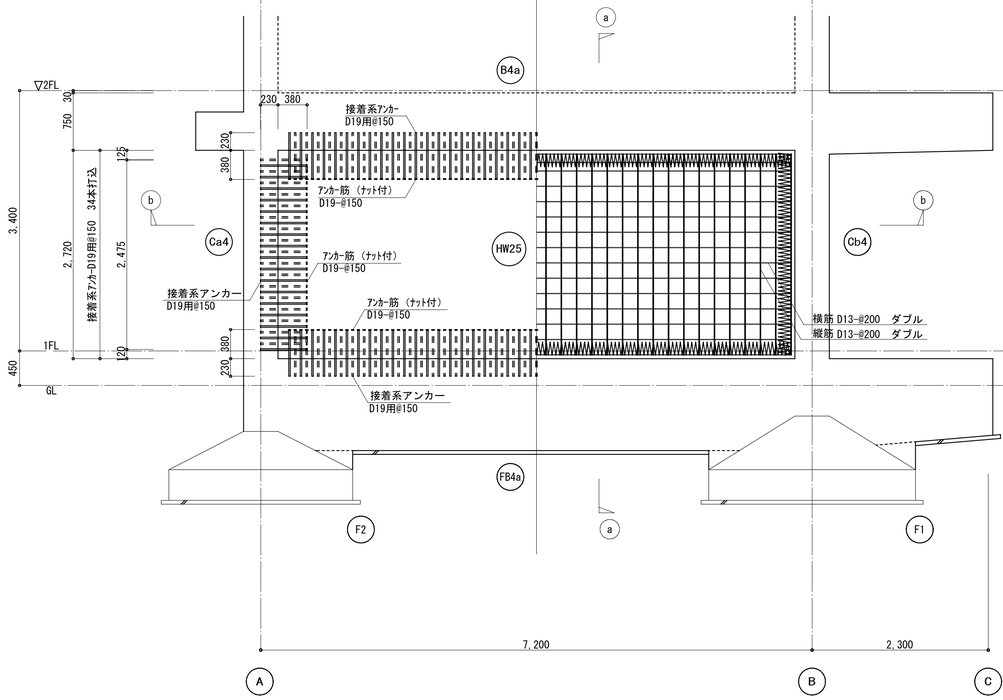
S－12

DATE / SCALE 1/30 / DRAWN / CHEK

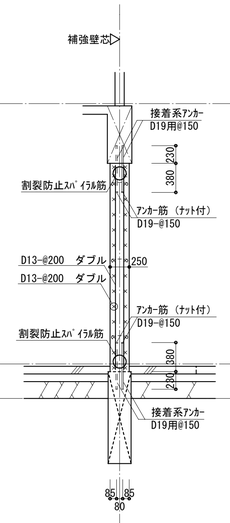
株式会社 構 建築設計事務所

一級建築士 第295317号 徳田 伸治

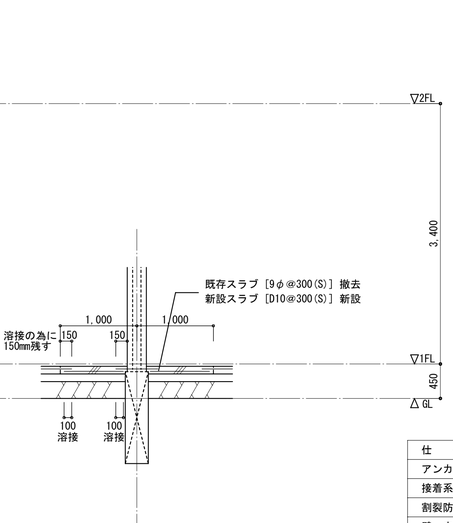




4 通り・ A ～ B 間 S=1/40



a － a 断面



土間撤去・復旧要領

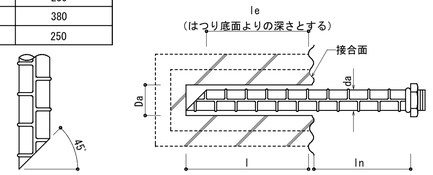
仕　様(HW25)	
アンカー筋（ﾅｯﾄ付）	D19-@150 チドリ
接着系アンカー	D19用@150 チドリ
割裂防止ｽﾊﾟｲﾗﾙ筋	9φ（φ170-@50）
壁　巾止め筋	D10-@1000
壁（新設）縦筋	D13-@200 ダブル
壁（新設）横筋	D13-@200 ダブル
開口補強筋　縦筋	－－－
開口補強筋　横筋	－－－
開口補強筋　斜め筋	－－－

アンカー筋の寸法および先端形状（ナット付）

接着系アンカーリスト（材質SD345）

接着系アンカー	D19 用
da	D19
le	230
ln	380
l	250

※アンカー筋は、施工により有効埋め込み深さが長くなることがあるので、アンカー筋実長に対し、若干長めに製作しておくこと。



特記事項

*地中梁の位置、深さを確認すること。
*無収縮モルタル及び新設コンクリートと接する既存コンクリート部分は目荒しを行うこと。

JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

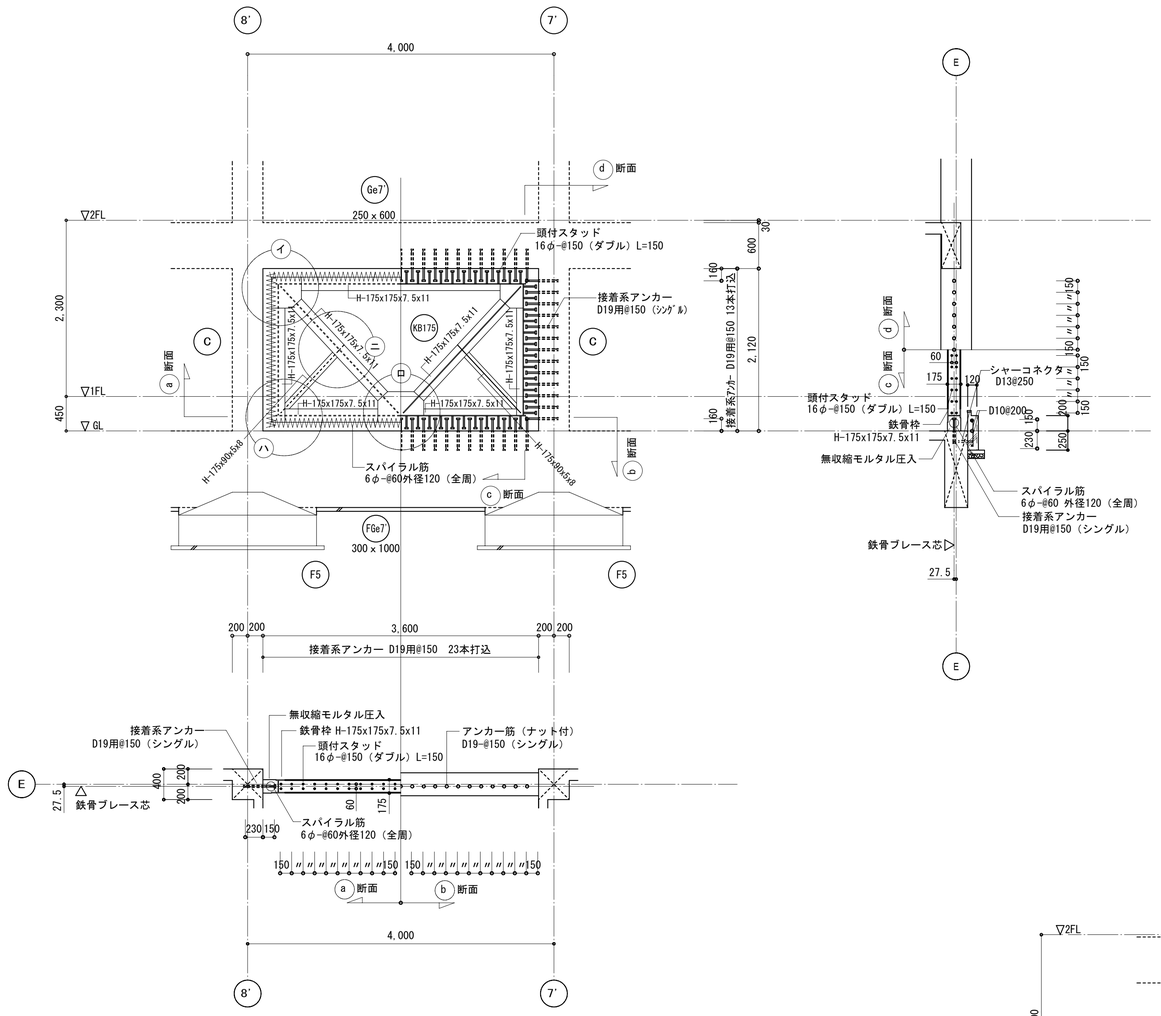
RC新設壁（HW25）詳細図

S－13

DATE　SCALE 1/40　DRAWN　CHEK

株式会社 構 建築設計事務所

一級建築士 第295317号 徳田 伸治

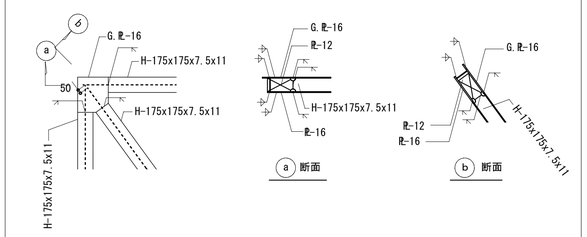


E 通り・ 8' ～ 7' 間　S=1/40

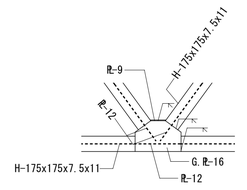
*地中梁の位置を確認すること。
*無収縮モルタルと接する既存コンクリート部分は目荒しを行うこと。

KB175 要領図

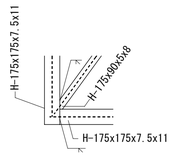
イ 接合部詳細図



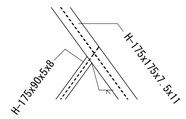
ロ 接合部詳細図



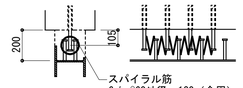
ハ 接合部詳細図



ニ 接合部詳細図

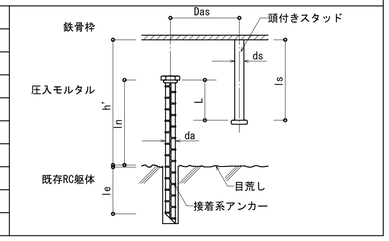


割裂補強納まり図

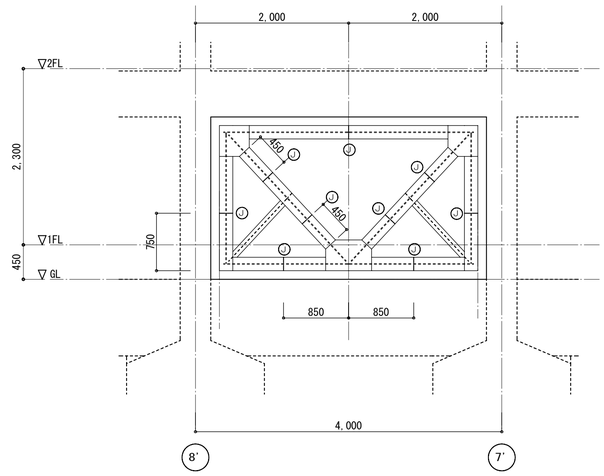


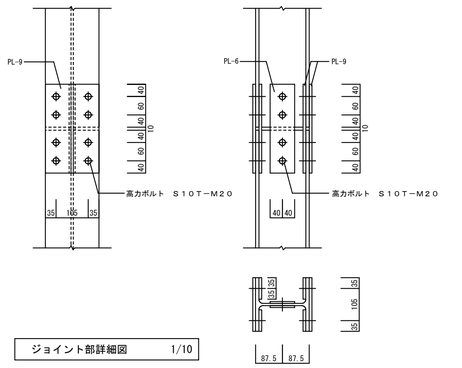
アンカー筋・スタッドの寸法および先端形状

接着系アンカーリスト（材質SD345）	
接着系アンカー	D19用
ds	16φ
da	D19
h'	200
ln	150
ls	150
le	230
L	80以上
Das	75



※ アンカー筋は、施工により有効埋め込み深さが長くなることがあるので、
アンカー筋実長に対し、若干長めに製作しておくこと。



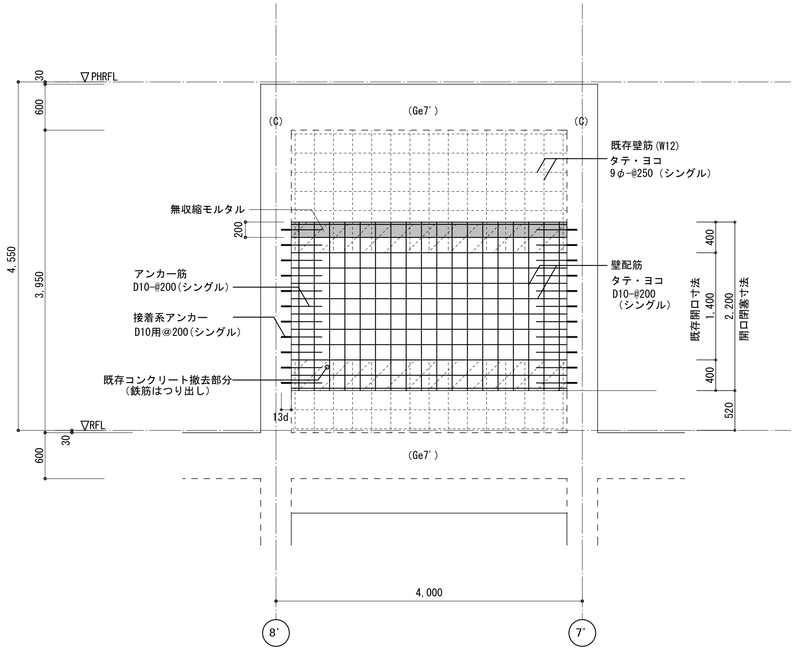


ジョイント部詳細図　1/10

JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事
鉄骨ブレース補強(KB175)詳細図
S－14
DATE　SCAL 1/40　DRAWN　CHEK

株式会社 構 建築設計事務所
一級建築士 第295317号 徳田 伸治

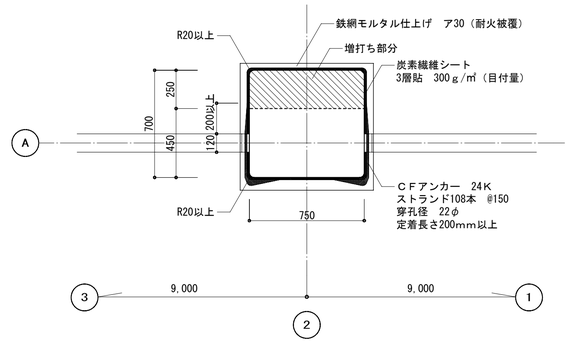
階段室開口閉塞部分要領図



E 通り改修壁配筋詳細図　S=1/40

・----------　は既存鉄筋を示す。
・▨　は既存壁ｺﾝｸﾘｰﾄはつり後、復旧を示す。
・接着系ｱﾝｶｰ打設位置は鉄筋探査を行う事。

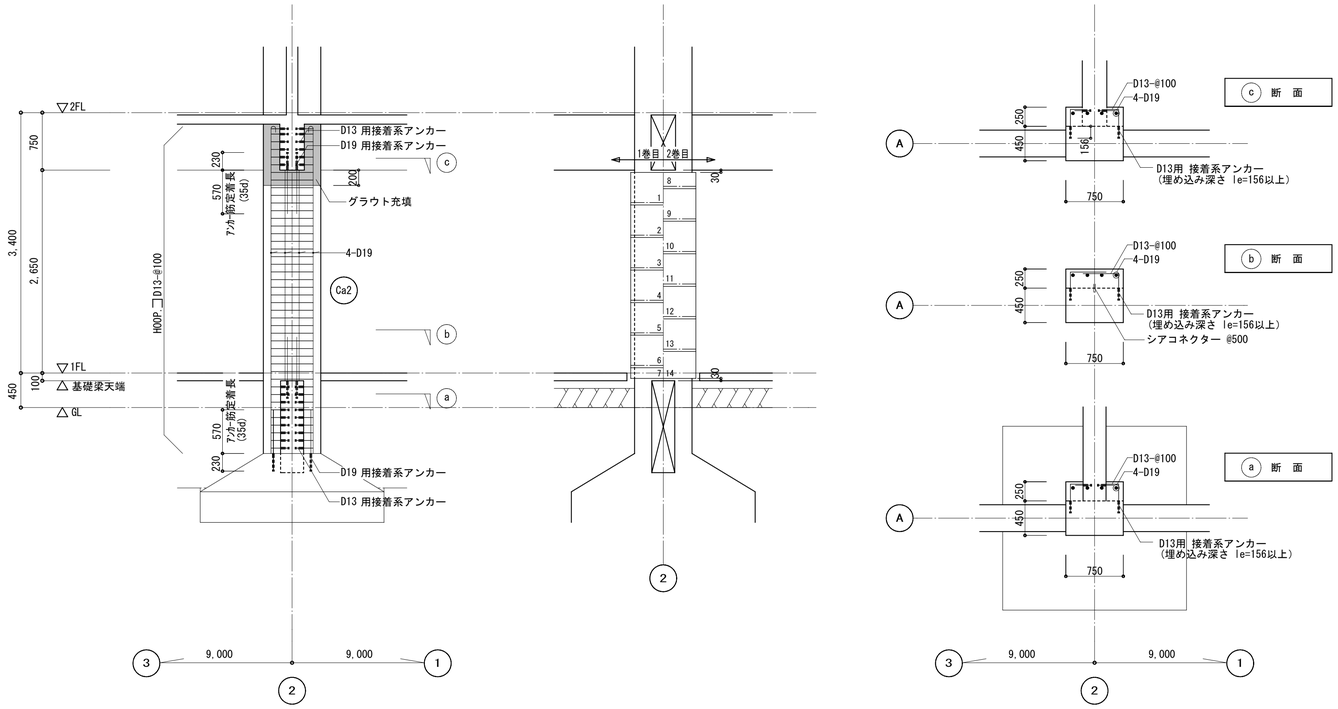
柱補強部分要領図



A 通り・2 軸　柱補強詳細図　S=1/20

炭素繊維補強工事 仕様書

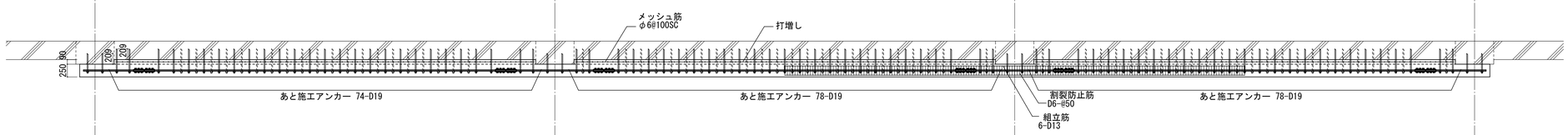
＜ＳＲ－ＣＦ工法＞	本仕様は発行：（財）日本建築防災協会　監修：建設省住宅局建築指導課の「連続繊維補強材を用いた既存鉄筋コンクリート造及び鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計・施工指針」に準拠する。
1．炭素繊維シート（ＣＦシート）による補強工法	ＳＲ－ＣＦ工法（既存建築物の耐震改修設計施工指針）
2．施工業者	（財）日本建築防災協会の「技術評価」を取得している会社もしくは、そこの施工指導を受ける業者、ＳＲ－ＣＦ工法研究会の参加会社の内建設業を主たる業務とする会社の責任施工とする。
3．施工	・施工にあたっては、繊維補修補強協会認定の連続繊維施工管理士及び連続繊維施工士の資格を有する者が施工を行うものとする。 ・隅角部は、面取りを行う。 ・コンクリートのひび割れ、剥落部分は、炭素繊維補強を行う前に、監督員と協議を行う。
4．使用材料	（1）炭素繊維シート ・引張り強度　３，４００ＭＰａ（３５，０００ｋｇｆ／ｃ㎡）以上 ・柱・梁のせん断補強用設計基準強度　２，３００ＭＰａ（２３，５００ｋｇｆ／ｃ㎡） （2）炭素繊維ストランドによるアンカー ・柱ＣＦアンカー　２４Ｋストランド１０８本 （3）炭素繊維シート及プライマー及含浸接着樹脂材料 ・エポサームプライマー　ＸＰＳ－４００ ・エポサームレジン　ＸＬ－８００ ・エポサームレジン（アンカー用）　ＸＬ－７５０ ・リペラーク　３０タイプ（ＭＲＫ－Ｍ２－３０） ・ＣＦストランド（２４Ｋ）

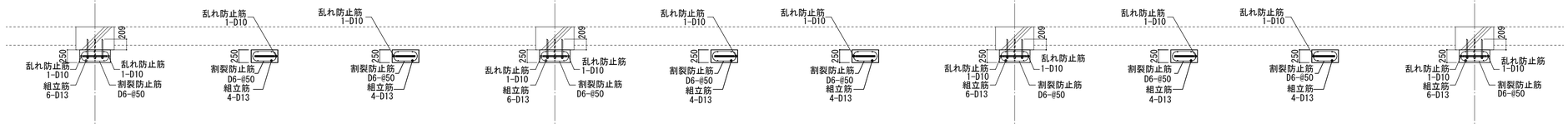


A 通り・2 軸　柱増打ち補強配筋詳細図　S=1/40

JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事
部分補強配筋詳細図
S－15
DATE　SCAL 1/40-20　DRAWN　CHEK

株式会社 構 建築設計事務所
一級建築士 第295317号 徳田 伸治





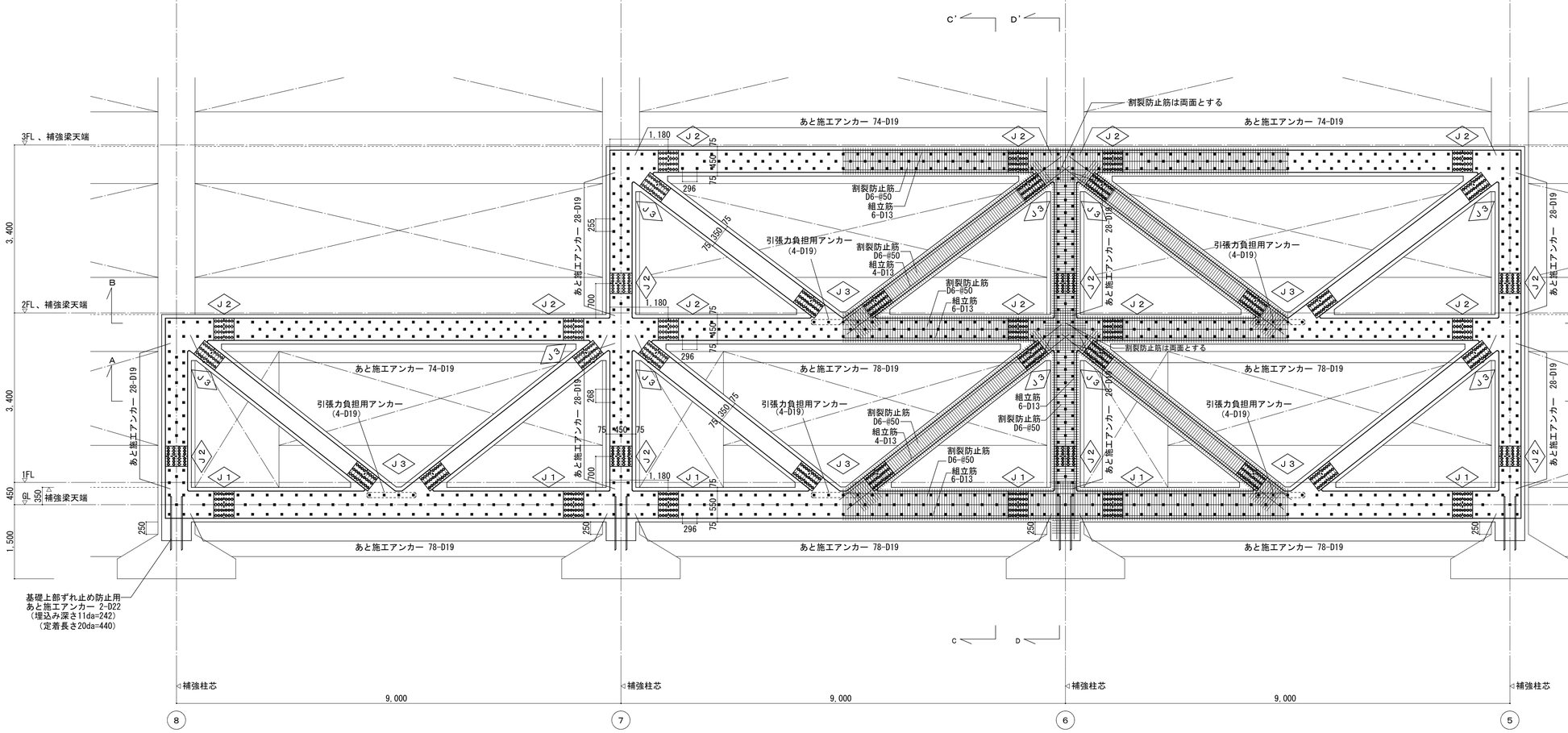
Ｂ－Ｂ’断面図　1:50

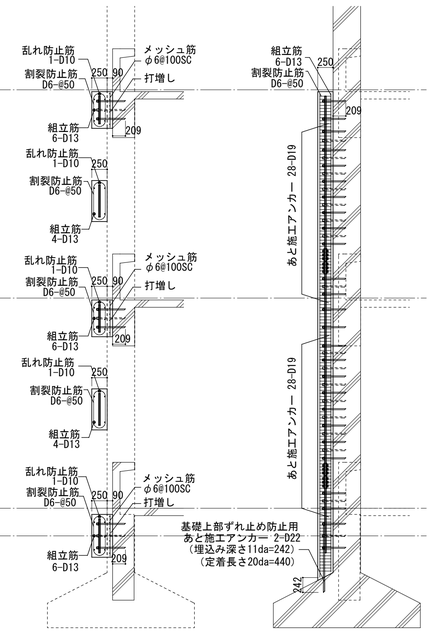
は既設部分を示す。

※既設梁と，補強梁間の打増しコンクリートは
補強部材のコンクリートと同時に打設する

Ａ－Ａ’断面図　1:50

は既設部分を示す。





Ｃ－Ｃ’断面図　1:50

は既設部分を示す。

※既設梁と，補強梁間の打増しコンクリートは
補強部材のコンクリートと同時に打設する

Ｄ－Ｄ’断面図　1:50

は既設部分を示す。

Ａ通り補強詳細図　1:50

※パネルゾーンのアンカーはD19とする
※PLはすべて22mmとする

JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

鋼板内臓RCブレース補強詳細図

S－16

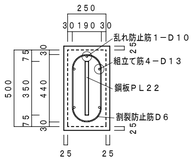
DATE　SCALE 1/50　DRAWN　CHEK

株式会社 構 建築設計事務所

一級建築士 第295317号 徳田 伸治

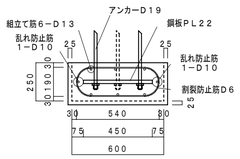
補強ブレースリスト　１：２０

１～２階

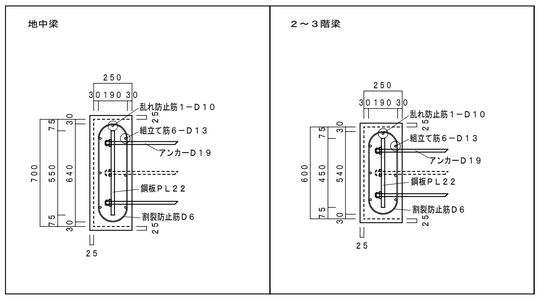


補強柱リスト　１：２０

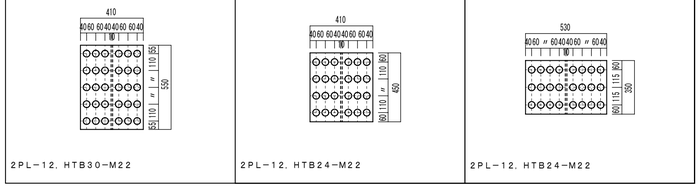
１～２階柱



補強梁リスト　１：２０



継手リスト　１：２０

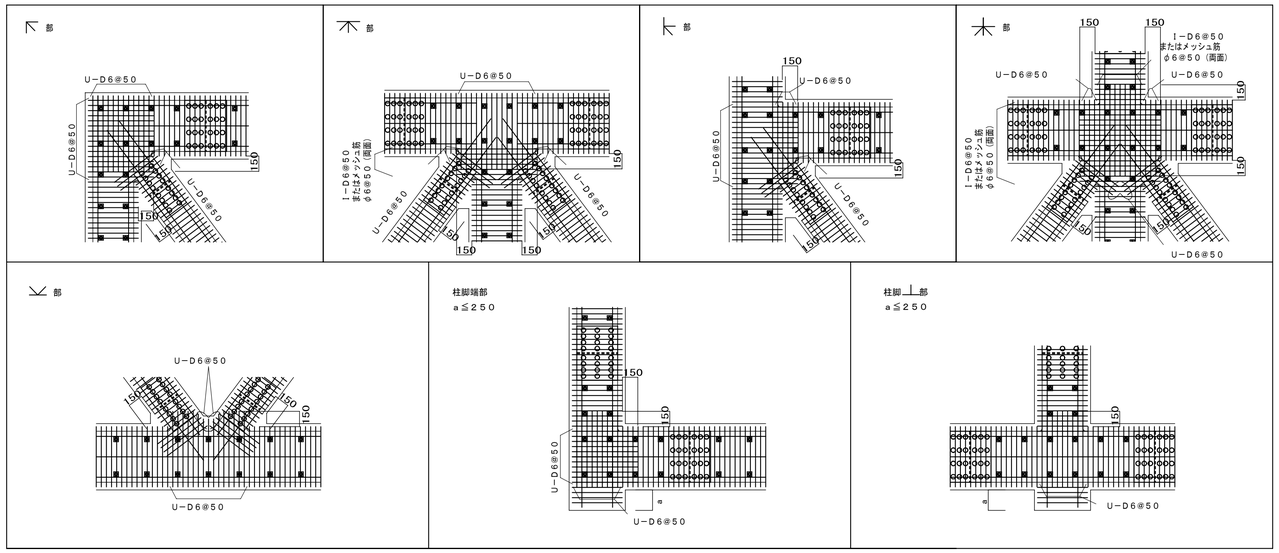


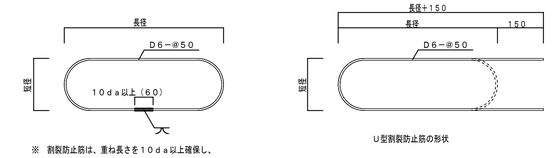
2PL－12，HTB30－M22

2PL－12，HTB24－M22

2PL－12，HTB24－M22

割裂防止筋配筋要領　１：３０

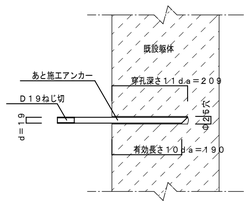




※　割裂防止筋は、重ね長さを１０ｄａ以上確保し、
６ｄａ以上の片面溶接を確保する。

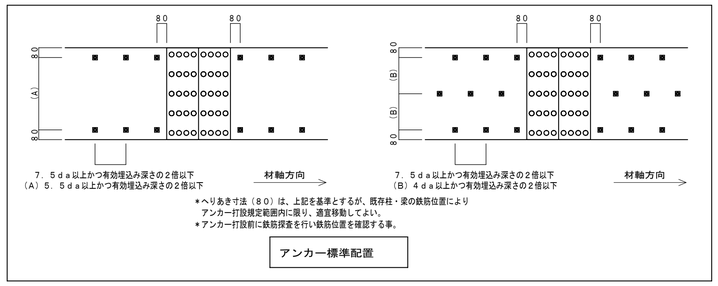
割裂防止筋の形状と溶接

U型割裂防止筋の形状



一般部

あと施工アンカー埋込み長さ



＊へりあき寸法（８０）は、上記を基準とするが、既存柱・梁の鉄筋位置により
アンカー打設規定範囲内に限り、適宜移動してよい。
＊アンカー打設前に鉄筋探査を行い鉄筋位置を確認する事。

アンカー標準配置

１．使用コンクリート	：Ｆｃ＝３０Ｎ／mm^2
２．最大粗骨材寸法	：２０mm又は、２５mm
３．使用混和剤	：高性能ＡＥ減水剤
４．スランプ	：２１ｃｍ
５．使用鉄筋	：ＳＤ２９５Ａ、Ｂ（Ｄ６、Ｄ１０、Ｄ１３）
６．使用アンカー	：ＳＤ３４５（Ｄ１９・有効埋込み深さ１０ｄａ）
７．使用鋼材	：ＳＮ４００Ｂ
８．使用高力ボルト	：Ｓ１０Ｔ（Ｍ２２）
９．目荒らし	：目荒らしは、十分行うものとし、範囲、程度に関しては特記仕様書による。
１０．施工上留意点	：補強部材は薄厚であり、配筋が細かく、高力ボルト接合部もあるためコンクリートの充填性が非常に危惧される。コンクリート打設においては、慎重に行ない、細心の注意が必要である。このため、細径の軽便バイブレータや型枠バイブレータの使用を推奨する。

JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

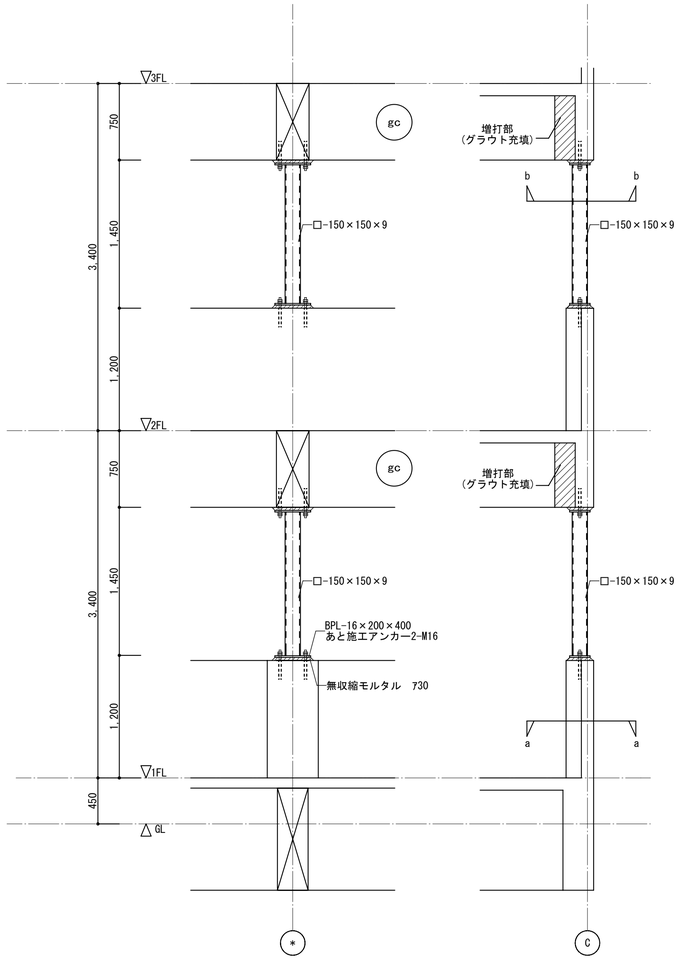
鋼板内臓RCブレース補強部材リスト

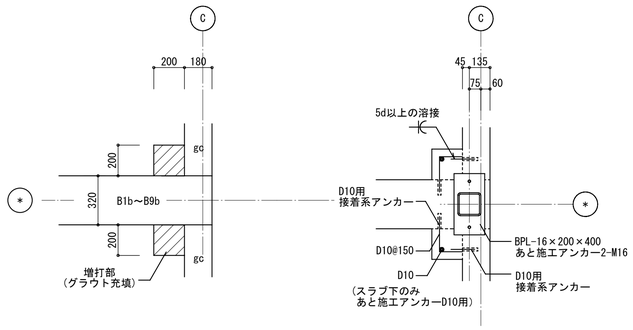
S－17

DATE　SCAL 1/10・30　DRAWN　CHEK

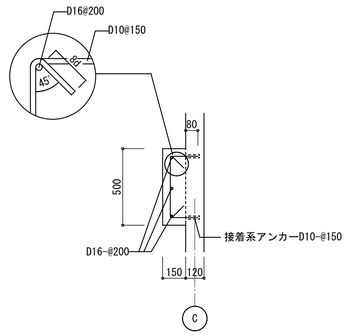
株式会社 構 建築設計事務所

一級建築士　第295317号　徳田　伸治





b-b矢視　断面図　　1/20



a-a矢視　断面図　　1/20

JOBNO
平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

鉄骨柱新設(SP)詳細図

S－18

DATE　SCAL　1/20　DRAWN　CHEK

株式会社 構 建築設計事務所

一級建築士　第295317号　徳田　伸治

電気設備改修工事特記仕様書

Ⅰ．工事概要

1．工事名称　平成22年度松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

2．工事場所　宮城県宮城郡七ヶ浜町松ヶ浜字神明裏５２

3．建物概要

建物名称	構造	階数	延床面積(㎡)	建築面積(㎡)	消防法施行令別表第一による用途区分	備考
校舎	ＲＣ造	3階	２，４５８		７項	

4．工事種目（◎印のついたものを適用する。）

工事種目 ＼ 建物別及び屋外	工事種別 校舎	屋外	備考
◎電灯設備	改設一式		
◎動力設備	改設一式		
・電熱設備			
・雷保護設備			
・受変電設備			
・静止形電源設備			
・発電設備			
・構内情報通信網設備			
・電話配管設備			
・情報表示設備			
・映像・音響設備			
・拡声設備			
・誘導支援設備			
・テレビ共同受信設備			
・監視カメラ設備			
・防犯・入退室管理設備			
◎自動火災報知設備	改設一式		
・中央監視制御設備			
・構内配電線路			外灯設備を含む
・構内通信線路			
・電波障害調査	別紙仕様書による		

5．指定部分　※　なし　・　あり（工　期：平成　年　月　日）
（対象部分：　）

Ⅱ．特記仕様書

1．一般事項

（1）特記仕様書及び図面に記載されていない事項は，すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編，平成１９年版）」及び国土交通省大臣官房官庁営繕部設備・環境課監修の「公共建築設備工事標準図（電気設備工事編，平成１９年版）」による。

（2）機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合，機械設備工事及び建築工事はそれぞれの工事特記仕様書を適用する。なお，機械設備工事の特記仕様書は（　／　）図，建築工事の特記仕様書は（　／　）図による。

2．特記事項

（1）項目は番号に○印のついたものを適用する。

（2）特記事項は，◎印のついたものを適用する。○印の付かない場合は，※印のついたものを適用する。
◎印と※印のついた場合は，共に適用するものとする。

章	項目	特記事項
一般共通事項	① 適用基準等	※　建設工事執行規則（昭和３９年３月宮城県規則第９号） ※　宮城県建築工事写真撮影基領（宮城県土木部制定　平成１２年版） ※　宮城県建設工事元請・下請関係適正化要綱（平成２１年４月１日施行）
	② 機材等	※　本工事に使用する機材等は，設計図書に規定するもの，またはこれらと同等のものとする。ただし，これらと同等のものとする場合は，監督職員の承諾を受けるものとする。 ※　本工事に使用する材料の選定及び施行に当たっては，「県有施設のシックハウスマニュアル」に留意し，揮発性有機化合物の放散による健康への影響に配慮する。 ※　使用する材料のホルムアルデヒド仕様は，日本工業規格及び日本農林規格のＦ☆☆☆☆規格品，壁装材料協会規格適合品または同等品，化学物質等製品安全データシート等（ホルマリン不使用が明示されたもの）とする。
	③ 機材の品質・性能証明	本工事着手前に主要機材メーカーリスト及び機器製作図を提出し，監督職員の承諾を受ける。 また，「建築材料・設備機材等品質性能評価事業」（(社)公共建築協会）によって所要の品質・性能を有することの評価を受けた材料・機材等を使用する場合は，評価書の写しを監督職員に提出するものとする。
	④ 保険	本工事着手前に工事目的物及び工事材料等を，本工事完了後引渡し期日まで火災保険及びその他の保険に付し，写しを監督職員に提出する。
	⑤ 雇用	本工事は，公共職業安定所の紹介する者の雇い入れに努める。
	⑥ 施工計画書・施工図等	工事の着手に先立ち，工事の総合的な計画をまとめた施工計画書を作成し，監督職員に提出する。 工事の施工に先立ち，工種別施工要領書及び施工図等を作成し，監督員の承諾を受ける。
	⑦ 手続き	工事の着手，施工及び完成において，官公署その他関係機関への必要な諸手続き等は監督職員と協議の上，請負者が遅滞なく処理する。なお，当該手続きに係る費用は請負者の負担とする。
	⑧ 施工条件	別途の施工条件明示書による。
	⑨ 工事実績情報の登録（CORINS）	※　適用する（請負額が500万円以上の場合） 受注時，変更時及び完成時にあらかじめ監督職員の確認を受け，登録手続きを行い，工事カルテの受領証を，監督職員に提出のこと。（請負額が2,500万未満の場合は，受注時のみ）
	⑩ 事故報告	・　適用しない 施工中に事故が発生した場合は，直ちに監督職員に通報するとともに，「事故報告書」を別に指示する期日までに監督職員に提出する。
	⑪ 電気保安技術者	電気工作物に係る工事においては，電気保安技術者を置くものとする。
	⑫ 工事用電力，水，他	本工事に必要な工事用電力，水などの費用は引渡まですべて請負者の負担とする。
	⑬ 工事用仮設物	構内につくることが　※　できる　・　できない
	⑭ 監督員事務所	※　設けない　・　設ける（　　号・・建築工事）
	⑮ 足場，さん橋類	・　別契約の関係請負者が設置したものは，無償で使用できる。　・　本工事で設置する。 なお，枠組足場を設ける場合は，「手すり先行工法に関するガイドライン」（厚生労働省平成１５年４月策定）によるものとし，二段手すり及び幅木の機能を有するものでなければならない。
	16．工事表示板	※　設置する　設置枚数　１枚 営繕工事における工事及び表示要領（平成１４年２月６日宮城県土木部営繕課・設備室制定）により設置する。 ・　設置しない
	⑰ 工事用通路	※　指定しない　・指定する（図示）
	⑱ 発生材の処理等	発生材の処理　（国土交通省大臣官房営繕部監修「建築物解体工事共通仕様書（平成１８年版）」による。） ・　引渡を要するもの　（　　） ・　特別管理産業廃棄物　（　・　ＰＣＢ使用機器　・　　） 受入施設名・所在地　： ・　現場において再利用を図るもの（　　） ・　再資源化を図るもの

・　その他安定型廃棄物　（　　）
受入施設名・所在地　：
・　その他管理型廃棄物　（　　）
受入施設名・所在地　：
ＰＣＢを含有する機器等については，飛散，流出がないように適切な場所に保管し，工事完了後，監督職員に引き渡す。

19．残土処理

20．耐震施工

※　構内指示の場所に散き均し　・　構内指示の場所に堆積　・　構外搬出

耐震施工における設備機器の固定は，「建築設備耐震設計・施工指針」（建設省住宅局建築指導課監修）による。本工事の施設分類は（　・　特定の施設　・　一般の施設　）で地域係数は１とし，設計用標準水平震度は下表のとおりとする。なお，（　）内の数値は防震支持の機器の場合に適用する。

設計用標準震度	特定の施設		一般の施設	
設置場所	重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上階層，屋上及び塔屋	2.0 (2.0)	1.5 (2.0)	1.5 (2.0)	1.0 (1.5)
中間層	1.5 (1.5)	1.0 (1.5)	1.0 (1.5)	0.6 (1.0)
一階及び地下層	1.0 (1.0)	0.6 (1.0)	0.6 (1.0)	0.4 (0.6)

重要機器類
・　配電盤　・　発電装置　・　ＵＰＳ装置　・　直流電源装置
・　交換機　・　受信機（自立型）　・　中央監視装置　・　情報通信ラック
重量が１００kg以下の軽量な機器（標準仕様書の適用を受けるものは除く）においても，耐震を考慮し，据付等を行うものとする。前記指針の方法によらなくてもよい。

一般共通事項

㉑ 他工事との工事区分　他工事との工事区分は図面に特記なき場合，「各工事の工事区分表」による。

㉒ 保温，結露防止　外部に面する壁，天井でＦＰ板（スタイロホーム等）打込み箇所に取付ける位置ボックスなどは，保温，結露防止処理を行う。

㉓ 電線類　本工事では環境配慮の観点から，原則としてＥＭケーブルを使用するものとする。なお，標準仕様書第６編　通信情報設備工事　第１章　機材　第１節　電線類等　1.1.1　電線類等　表1.1.1電線類に次の種類を追加する。
（ＥＭ－ＣＥＥＳ，ＥＭ－ＵＴＰ，ＥＭ－ＭＥＥＳ，ＥＭ－ＥＴＴ）

㉔ 合成樹脂製可とう管　合成樹脂製可とう管は，ＰＦ管（一重管）とし，温度による分類はタイプ−25とする。

㉕ 二種金属製可とう管　露出箇所　・　ビニル被覆あり　・　ビニル被覆なし
いんぺい箇所　・　ビニル被覆あり　・　ビニル被覆なし

㉖ 電線本数，管路など　分電盤，制御盤，端子盤などの２次側以降の配線経路，電線太さ，電線本数，管径などは，監督員の承諾を受けて変更してもさしつかえない。

㉗ インサート　鋼鈑製とする。なお，床版で保温板打込み部分は，断熱材用インサート（亜鉛めっき製品）を使用する。

㉘ 呼び線　長さ１ｍ以上の通線しない電線管には，１．２ｍｍ以上のビニル被覆鉄線を通線する。

㉙ フラッシュプレート　図面に特記なき場合，（　※　金属製（ステンレス・新金属も含む）　・　樹脂製　）とする。

㉚ フロアプレート・ベース　※　水平高低調節付（空転防止リング付）　・　砲金製　・　アルミ合金製

㉛ ハンドホール蓋　県章おようだエーン付のものとする。

㉜ 支持金物，固定金物　屋外の機器及び配管に使用する支持金物（ボルト類）はステンレス製（ＳＵＳ３０４）とし，屋外機器のアンカーボルトのナットには，ナットキャップ（樹脂製）を取り付ける。
また，振動をともなう機器の支持金物のナットは，ダブルナットとする。

㉝ あと施工アンカー　施工方法　・　接着系　（　※　有機系　・　接着剤　）
・　金属拡張系　（　※　本体打込式　・　　）
性能・施工確認　※　行わない　・　行う

㉞ 接地極の種別・表示等　接地極は図面に特記なき場合，下表による。なお，ＥＢの長さは１，５００ｍｍとする。
ただし，Ｄ＝１０は１，０００ｍｍ，Ｗ＝３０は１，２００ｍｍとする。
裸荏機器及び屋外灯用接地極の埋設標は不要とする。

接地の種別	記号	接地抵抗値	接地極の規格，数量
雷保護設備用接地	EL	Ω以下	ＥＰ×１
雷保護設備用接地	EL	Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又は(Ｗ＝40)×３連　組
共用接地	EA・ED・ELH	10Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又は(Ｗ＝40)×３連−２組
共用接地	EA・EC・ED	10Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又は(Ｗ＝40)×３連−２組
Ａ種	EA	10Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又は(Ｗ＝40)×３連−２組
Ｂ種	EB	Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又は(Ｗ＝40)×２
Ｃ種	EC	10Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又は(Ｗ＝40)×３連−２組
Ｄ種	ED	100Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又は(Ｗ＝40)×１
構内交換機（端極）用	Et	Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又は(Ｗ＝40)×３連　組
本配線盤の保安装置	EAt	10Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又は(Ｗ＝40)×３連−２組
電話引込線の保安器	EDt	100Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又は(Ｗ＝40)×１
拡声増幅器	EDa	100Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又は(Ｗ＝40)×１
防犯装置用	ES	Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又は(Ｗ＝40)×３連　組
測定用	Eo		ＥＢ(Ｄ＝10又は(Ｗ＝30)×１
避雷器用（低圧用）	ELL	10Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又は(Ｗ＝40)×３連−２組
避雷器用（高圧用）	ELH	10Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又は(Ｗ＝40)×３連−２組
構造体接地			建築構造体利用（通信用も含む）

㉟ 塗装工事　下記部位に使用する外面めっき電線管の露出配管には塗装を施す。
※　屋外　※　厨室　・

㊱ 山留め　切取り面にその箇所の土質に見合った勾配を保って掘削できる場合を除き，掘削の深さが1.5mを超える場合には，山留のを行うものとする。

㊲ 舗装工事　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の公共建築工事標準仕様書（建築工事）２２章（舗装工事）及び建築工事監理指針（舗装工事）による。

㊳ はつり　既存コンクリート床，壁などの配管貫通は，原則としてダイヤモンドカッターによる。

㊴ 再使用機器　再使用する機器は，現場内で清掃，絶縁抵抗測定のうえ，取り付ける。

㊵ 撤去後の補修等　機器撤去後の天井，壁及び床等の補修は，既存仕上げと同等とする。なお，施工に際し，既存設備及び施設に損傷を及ぼした場合は，原状に復旧する。

41．アスベスト　アスベストについては，労働安全衛生法（石綿障害予防規則）・廃棄物処理法等に則り処理を行うこと。
アスベスト使用状況（　　）

電灯設備

① 工事範囲　◎ 配管　◎ 配線　◎ 分電盤類，照明器具撤去

② 電気方式　・ 幹線　単相３線式　１００／２００Ｖ　５０Ｈｚ
・ 分岐　単相３線式　１００／２００Ｖ
◎ 分岐　単相２線式　１００Ｖ

③ 施工方法　幹線　・ 金属管配線　・ ケーブル配線
分岐　電灯　・ 合成樹脂管配線　・ 金属管配線　・ ケーブル配線
コンセント　◎ 合成樹脂管配線　・ 金属管配線　・ フロアダクト配線
屋外露出　・ 合成樹脂管配線　・ 金属管配線　・ ケーブル配線
ボックス　・ 合成樹脂製　◎ 金属製

④ 蛍光灯　蛍光灯器具安定器の種別および点灯方式，力率，定格入力電圧，周波数は図示以外は下記による。

蛍光灯の種類			標準図記号
直管形のランプ	２０形	防雨形器具，防湿形器具，シーリングライト，プルスイッチ付き電池内蔵形非常用照明器具	ＧＬ　１５
		上記以外のもの	ＧＨ　１５
高輝度誘導灯			Ｅ　１５
Ｈｆ形のランプ		ルーバー又は照明カバー付，防雨形，防湿形	ＰＨ　９５
		ルーバー又は照明カバーが取付可能な器具	ＰＴ　９５
		センサー等と組み合わせて連続調光を行う器具	ＰＸ　９５
		連続調光に使用する器具	ＰＺ　９５
		初期照度補正制御を行う器具	ＰＫ　９５
		上記以外の露出形及び下面開放形	ＰＮ　９５
コンパクト形のランプ	一般型	１８Ｗ，２７Ｗ	ＥＬ　１５
	Ｈｆ型	Ｈ１６Ｗ　Ｈ２４Ｗ　Ｈ３２Ｗ　Ｈ４２Ｗ	ＰＮ　９５

⑤ 蛍光ランプ　・ 省エネ形（　・　全部　・　暖房を行う部屋，廊下などに限る。）　・　一般形

⑥ 非常用照明器具　※　電池内蔵形　・　電源別置形

⑦ ハイテンションアウトレット　※　飛び出し形　・　外部固定形
※　鋼合金製　・　アルミ製

⑧ 人感センサーブレート　照明の入感センサー制御を行う部屋には，注意プレートを設置する。

⑨ 予備配管　埋込形分電盤からの立上り予備配管は，予備の配線用遮断器が４個以下の場合は（ＰＦ２２）を１本，５個以上の場合は（ＰＦ２２）を２本以上，天井裏まで立上げる。
梁下に配管・配線スペースのない梁には，１スパンにＶＥ（３６）２本を予備スリーブとして埋込む。

動力設備

① 工事範囲　◎ 配管　◎ 配線　・ 動力盤 撤去

② 電気方式　◎ 幹線　三相３線式　２００Ｖ　５０Ｈｚ
◎ 分岐　三相３線式　２００Ｖ

③ 施工方法　幹線　・ 金属管配線　・ ケーブル配線
分岐　・ 合成樹脂管配線　・ 金属管配線
屋外露出　・ 合成樹脂管配線　◎ 金属管配線　◎ ケーブル配線
ボックス　・ 合成樹脂製　◎ 金属製

④ 警報盤　※　壁掛形（電源装置　※　内蔵　・　別置　）　・

⑤ 電磁開閉器用押釦（遠方操作用）　※　埋込連用形配線器具　・

⑥ 機器への接続　電動機などへの接続は本工事とする。

⑦ 電動機等の接地　図示以外は金属管接地とする。

⑧ 進相用コンデンサ　各負荷ごとに適合するコンデンサを取り付ける。

電熱設備

① 電気方式　幹線　相　線式　Ｖ　５０Ｈｚ
分岐　相　線式　Ｖ

② 施工場所及び面積　・　（　　㎡）　・　（　　㎡）

雷保護設備

① 工事範囲　・ 受雷部　・ 引下げ導線　・ 接地極埋設

② 受雷部　・ 突針　・ 棟上導体　・ 笠木（別途）など

③ 避雷導線　・ 引下げ導線　※　建築構造体利用

④ 接地極　※　接地極埋設　・　建築構造体利用

⑤ 測定用補助接地極　・　設置

受変電設備

① 工事範囲　・ 機器類　・

② 電気方式　・ 高圧　三相３線式　６ｋＶ　５０Ｈｚ
・ 低圧　三相３線式　２００Ｖ　・ 低圧　単相３線式　１００Ｖ／２００Ｖ

③ 引込ケーブル　・ ＥＭ−ＣＥＴ３８°　・ ＥＭ−ＣＥＴ６０°
・ ＥＭ−ＣＥ３８°−３Ｃ　・ ＥＭ−ＣＥ６０°−３Ｃ　・

④ 配電盤　・ 屋内形　・ 屋外形（防塵処理及び結露対策を施す）
・ キュービクル式配電盤　・ 高圧開閉配電盤　・　・

⑤ 主遮断装置　※　限流ヒューズ及び高圧負荷開閉器（ＰＦ−Ｓ）　・　高圧交流遮断器（ＣＢ）
定格遮断電流　ｋＡ

⑥ 高圧機器類　・ 油入式　・ 乾式

⑦ 変圧器　・ 単相変圧器　ｋＶＡ　・ 三相変圧器　ｋＶＡ
（油入式：ＪＩＳ−Ｃ４３０４−２００５適合品 乾式：ＪＩＳ Ｃ４３０６−２００５適合品）

⑧ 進相用コンデンサ　※　低圧　・　高圧　・　６％　・　１３％

⑨ リアクトル　・　６％　・　１３％

⑩ 自動力率制御装置　※　無効電力検出方式　・　力率検出方式

⑪ 測定用補助接地極　・　設置

静止形電源設備

① 直流電源装置　※　非常用照明器具電源，受変電設備制御電源供用　・　受変電設備専用　・　非常用照明器具専用
蓄電池　・ 鉛蓄電池（　・ ＨＳ　・ ＣＳ　・ ＭＳＥ　・　）
・ アルカリ蓄電池（　・ ＡＨ　・ ＡＭＨ　・　）

② 交流無停電電源装置　用途（　）
容量　ｋＶＡ
蓄電池　・ 鉛蓄電池（　・ ＨＳ　・ ＣＳ　・ ＭＳＥ　・　）
・ アルカリ蓄電池（　・ ＡＨ　・ ＡＭＨ　・　）

発電設備

① 工事範囲　・ 機器類　・

② 形式　・ 簡易形　・ キュービクル式　・ オープン形　・
・ 屋内形　・ 屋外形

③ 発電機　電気方式　三相３線式　５０Ｈｚ　電圧　Ｖ　定格出力　ｋＶＡ

④ 原動機　種類　・ ディーゼル　・ ガスタービン　・
定格出力　ｋＷ以上（　・　ＰＳ以上）
始動方式　※　電気式　・　空気式
冷却方式　・ ラジエータ式　・ 水冷循環式

⑤ 燃料　種類　・ 軽油　・ 灯油　・ Ａ重油
燃料小出槽　Ｌ
主貯油槽　・ なし　・ あり（　・ 別途　・ 本工事：　）

⑥ 太陽光発電装置　太陽電池アレイ公称出力　ｋＷ
パワーコンディショナ　相　線式　定格出力　ｋＷ

構内交換設備

① 工事範囲　・ 交換機　・ 電話機　・ 配線（　・　全部　・　端子盤以降　）

② 電話交換機　形式　・ ボタン電話装置　・ ＰＢＸ
回線数　局線　／　回線　内線　／　回線

③ 電話機への配線　電話機１台につき，下記のものを見込む。
・ ＥＭ−ＴＩＥＦＯ　６５−２Ｃ　（　・　２Ｏｍ　・　）
・ ＥＭ−ＥＢＴＯ　４−２Ｐ　（　・　２Ｏｍ　・　）
・ ワイヤープロテクタ　（樹脂製　外形寸法約２０×８）１．５ｍ

④ ローテンションアウトレット（亀甲形）　※　一般電話用　個（　・　納入する　・　取り付ける　）
※　銅合金製　・　アルミ製

⑤ 保安器用接地　※　本工事　・　別途工事

通信・情報設備

① 工事範囲及び施工方法

項目	工事（撤去）範囲 配管	配線	機器類	施工方法 合成樹脂管配線	金属管配線	ケーブル配線
・ 構内情報通信網						
・ 情報表示						
・ 映像・音響						
・ 拡声						
・ 誘導支援						
・ テレビ共同受信						
・ 監視カメラ						
・ 防犯・入退室管理						

ボックス　・ 合成樹脂製　・ 金属製　・

② 構内情報通信網設備　種類　・ １０ＢＡＳＥ−Ｔ　・ １００ＢＡＳＥ−ＴＸ　・ １０００ＢＡＳＥ−Ｔ　・ ＡＴＭ
・　・

③ 情報表示設備　・ 情報表示盤　（　・ 発光ダイオード式　・ 磁気浮動式　・ プラズマ式　・ 液晶式　）
・ 親時計　回線　（　※　壁掛形　・ 自立形　）
（　・ 電子チャイム組込　・ プログラムタイマー組込　）

④ 映像・音響設備　・ 増幅器　Ｗ
・ ＶＴＲ　（　・ ＤＶＤ　・ ＤＶ　・ Ｓ−ＶＨＳ　・　）
・ プロジェクタ（　※　前面投射式　・ 背面投射式　）
・ 音響設備　（　・ ＣＤ　・ ＭＤ　・ カセット　・　）

⑤ 拡声設備　・ 一般放送用　・ 非常放送兼用　・ スピーカ放送
・ 増幅器　Ｗ（　※　卓上形　・ キャビネットラック形）

⑥ 誘導支援設備　・ 身体障害者用インターホン　・ トイレ呼出装置　・ 音声誘導装置

⑦ テレビ共同受信設備　・ テレビアンテナ（　・ ＡＶ−１　・ ＡＵ−１　・ ＢＳＡ−７５　・ ＣＳＡ−　）撤去
・ 地上波アンテナマスト（　※　壁面取付形　・ 自立形　）撤去
・ ＢＳ用アンテナマスト（　・ 壁面取付形　・ 自立形　）

⑧ 監視カメラ設備　・ 白黒方式　・ カラー方式

⑨ 防犯・入退室管理設備　・ 接地工事（　※　本工事　・ 別途　）

火災報知設備

① 工事範囲　・ 配管　・ 配線　◎ 機器類

② 火災報知装置　・ 壁掛形　・ 自立形
・ 受信機　型　級　回線（　アドレス）
・ 複合盤　型　級　回線（火報　回線，自動閉鎖　回線，ガス漏れ　回線）
・ 副受信機　型　級　回線
・ 機器収容箱　・ 専用形（　・ 埋込形　・ 露出形　）　・ 屋内消火栓箱に組込み
・ 感知器類　型用　総数　個（　・ 自動試験機能付　）

③ 非常警報装置　・ 非常ベル（自動式サイレンを含む）　・ 非常放送装置

④ 自動閉鎖装置　・ 連動制御盤　回線（遠方復帰機構　回路）
・ 単独（　壁掛形　・ 自立形）　・ 火災受信機などとの複合盤
・ 自動閉鎖機構　・ 防火戸用（本工事，電磁式又はラッチ式，ＤＣ２４Ｖ，０．６Ａ以下）
・ 防煙ダンパ用（別途，瞬時通電式又は電動式，ＤＣ２４Ｖ，０．６Ａ以下，
遠方復帰機構（電動式），ＤＣ２４Ｖ，０．７Ａ以下）
・ 防火シャッター用（別途，ＤＣ２４Ｖ，０．６Ａ以下）
・ 自動閉鎖機構　・ 排煙ダンパ（別途，排煙機運転用連動機構付）

⑤ ガス漏れ警報装置　・ 受信機　回線（　・ 都市ガス用　・ 液化石油ガス用）
・ 単独（　・ 壁掛形　・ 自立形　）　・ 火災受信機などとの複合盤
・ 感知器
・ 併設　・ 連動
・ 定格電圧　（　・ ＡＣ１００Ｖ　・ ＤＣ２４Ｖ　）
・ ガス検知出力信号（　・ 有電圧出力方式　・ 無電圧接点方式　）

⑥ 消火器類　・ 消火器　種別　・ 数量　本
・ 消火器収納箱　仕様　・ 材質　・ 数量　面

中央監視制御設備

① 工事範囲　・ 配管　・ 配線　・ 機器類

② 監視制御対象設備　・ 動力設備　・ 受変電設備　・ 発電設備　・ 火災報知設備

③ 表示操作盤　・ 壁掛形　・ 自立形
組込み機器

④ 監視制御装置　構成機器　・ グラフィックパネル　・ ミニグラフィックパネル
・ プラズマディスプレイ　・ 操作卓
・ ＣＲＴディスプレイ　（　・ キャラクタ　形　・ グラフィック　形）
・ 中央処理装置
・ 伝送端末局（子局）
・ 作表用印字装置　・ 雑印字装置　形
・ ロギングタイプライタ

構内配電線路

① 工事範囲　・ 管路　・ 配線　・ 機器類

② 電気方式　・ 高圧　三相３線式　６ｋＶ　５０Ｈｚ
・ 低圧　三相３線式　２００Ｖ
・ 低圧　単相３線式　１００／２００Ｖ
・ 低圧　単相２線式　１００Ｖ

③ 布設方法　※　地中埋設式（　・　ＦＥＰ　・　ＰＥ　・　厚鋼電線管　）　・　架空線式

④ 柱上機器　・ 高圧負荷開閉器　※　一般用　・　耐重塩じん用
※　地絡継電器付き（※　方向性　・　無方向性）
・ 避雷器　※　一般用　・　耐塩用
・ 高圧カットアウト，がいしなど　※　一般用　・　耐塩用

⑤ 高圧ケーブルの端末処理　屋外側　※　一般用　・　耐塩用
※　処理者銘板取付（屋内外式，線名，作業日，氏名を表示）

⑥ その他　東北電力（株）供給工事基準（架空線編）に準ずる。

⑦ 外灯設備　・ 変圧器容量　Ｖ　Ｗ

⑧ 沈下対策　地中線路及びハンドホール等沈下が考慮される場合は，沈下対策を施す。（　）

⑨ 標識シート　・ 高圧ケーブル　・ 電力幹線ケーブル

⑩ 予備配管　屋外キュービクルから第１ハンドホールまでの予備配管（ＦＥＰ１００：１本）を設ける。
分電盤，動力盤から建物へのハンドホールまでの予備配管（ＦＥＰ８０：２本）を設ける。

構内通信線路

① 工事範囲　・ 管路　・ 配線

② 用途　・ 電話用　・ 時計，拡声用　・ 火災報知用

③ 施工方法　※　地中埋設式（　・　ＦＥＰ　・　ＰＥ　・　厚鋼電線管）　・　架空線式

④ 標識シート　・ 弱電用

表２「機器取付高さ」　図面に特記なき場合は下表による。ただし，これによりがたい場合は監督員と協議する。

電力設備 名称	測点	取付高（mm）	通信設備 名称	測点	取付高（mm）
取引用計器	地上〜受中心	約 1,800	引込線留め高	地上〜引込点	
引込開閉器	床上〜中心	1,800〜2,200	集合保安器箱	天井下〜上端	200
分電盤	床上〜中心	1,500（上端1,900以下）	端子盤（節下、室内）	床上〜下端	300
〃（和室）	〃	150〜200	〃（ＥＰＳなど）	床上〜中心	1,500
〃（ファン用）	床上〜下端		壁付アウトレット（一般）	床上〜中心	300
〃（厨房）	床上〜中心	800〜1,000	〃（和室）	〃	150〜200
〃（車庫）	〃	1,300			
〃（機械室）	〃	500〜1,000	壁掛形親時計	床上〜中心	1,500（上端2,000以下）
〃（和室）	〃	1,200	〃（和室）	〃	2,300
〃（台上）	台上〜中心	100	壁掛形スピーカ	〃	2,300
〃（ファン用）	床上〜下端	ファン下端	壁付アンテナネータ	〃	1,300
〃（厨房）	床上〜中心	800〜1,000	壁付インターホン（一般）	床上〜中心	1,300
〃（車庫）	〃	1,300	〃（身体障害者）	〃	1,300
〃（機械室）	〃	500〜1,000	壁付アウトレット（一般）	〃	300
ブラケット（一般）	床上〜中心	2,100〜2,300	〃（和室）	〃	150〜200
〃（講場）	〃	2,000〜2,500	表示盤	床上〜中心	2,300
〃（鏡上）	鏡上端〜中心	150	壁付発信機	〃	1,300
避難口誘導灯	床上〜下端	1,500以上	ベル，ブザー，チャイム	〃	2,300
廊下通路誘導灯	床上〜上端	1,000以下	壁付押しボタン（一般）	床上〜中心	1,300
			〃（身体障害者玄関）	〃	900
壁掛形制御盤	床上〜中心	1,500（上端2,000以下）	受信機	床上〜中心	800〜1,500
開閉器箱	〃	1,500	副受信機	〃	800〜1,500
電磁開閉器用ボタン	〃	1,300	機器収容箱	〃	800〜1,500
非常ボタン（便所用）	床上〜中	900	〃	〃	800〜1,500
壁付インターホン（親機）	〃	1,300	表示灯	床上〜中心	2,100
〃（玄関子機）	〃	1,100	ベル	〃	2,300
廊下表示灯（復旧ボタン付）	〃	1,300	浴化石油ガス用検知器	床上〜上端	250
身障表示ランプ	〃	1,500	都市ガス用検知器（軽質）	天井〜上端	150
スイッチ	〃	1,100	〃（重質）	床上〜上端	250

表１「完成書類」　引き渡し時には下記の書類を提出する。

名称	完成書類	部数	名称	完成書類	部数
1　完成調書	営繕工事完成引渡要領 （平成１３年４月１日版）	1部	9　取扱説明書 ①保守に関する案内書 ②機器別取扱説明書 ③緊急連絡先一覧 ④各種保証書	Ａ４版：黒表紙金文字製本 （２　完成図書と合本可）	1部
2　完成図書	Ａ４版：黒表紙金文字製本 （機器完成図，取扱説明書と合本可。ただし，厚さが８０ｍｍを越える場合は分冊とする。）	1部	１０　管理の手引き ①工事概要書 ②機器完成図 ③機器別取扱説明書 ④保守に関する案内書 ⑤緊急連絡先一覧表	Ａ４版：チューブ式ファイル	1部
3　完成原図	三つ折りケース収納	1組			
4　完成図	青焼製本 Ａ１版またはＡ２版の二つ折り	1部			
5　完成図（縮小）	青焼縮小製本 Ａ３版二つ折り うち１部は建設課保管	2部	１１　工事写真 ①施工写真	Ａ４版：チューブ式ファイル （着手前，施工状況，完成の各写真）	1部
6　完成図（電子データ）	JWW又はDXF形式のCADデータもしくはTIFF形式（2000P1程度）	CD 1枚	②完成写真	Ａ４版：ペーパーファイル 完成届に添付	1部
7　施工図	青焼製本 Ａ１版またはＡ２版の二つ折り （施工図の枚数が少ない場合は、４　完成図と合本可）	1部	③マイクロフィルム	３５ｍｍ　ＭＦフォルダー 営繕課保管用	1部
8　機器完成図 ①機器別完成図 ②機材材質証明書 ③機材検査報告書 ④工場試験報告書 ⑤工場立会検査報告書 ⑥現場据付試験報告書 ⑦総合試運転報告書	Ａ４版：黒表紙金文字製本 （２　完成図書と合本可）	1部	１２　工事に関する書類 ①施工計画書 ②施工要領書 ③承諾書・確認書 ④協議書 ⑤打合せ議事録 ⑥工事週報 ⑦安全に関する書類 ⑧廃棄物管理票の写し	Ａ４版：チューブ式ファイル	1部

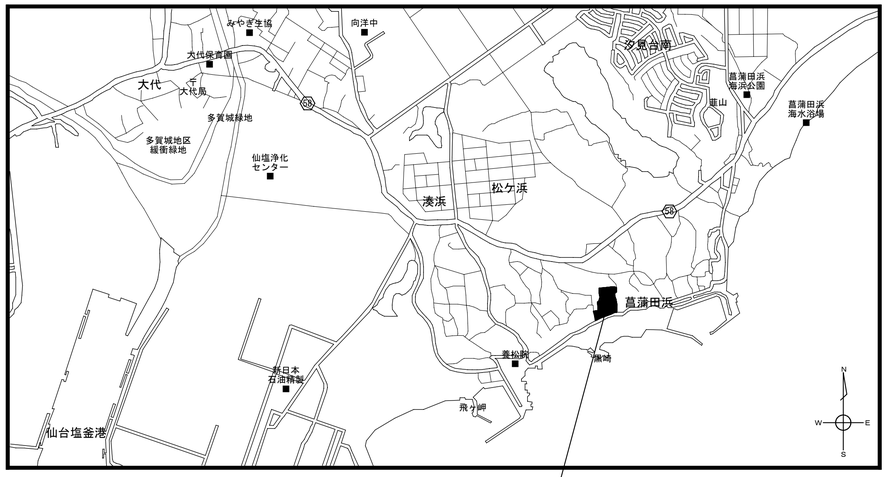
注記　機器参考図について
本図面中で，機器の品質・グレードを規定する目的で機器の寸法形状や諸元を参考図として記載している。
これらのものについては，その品質・性能が図面と同等品もしくはそれ以上のものを使用するものとする。

JOB NO

平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事　電気設備改修工事特記仕様書　Ｅ−１

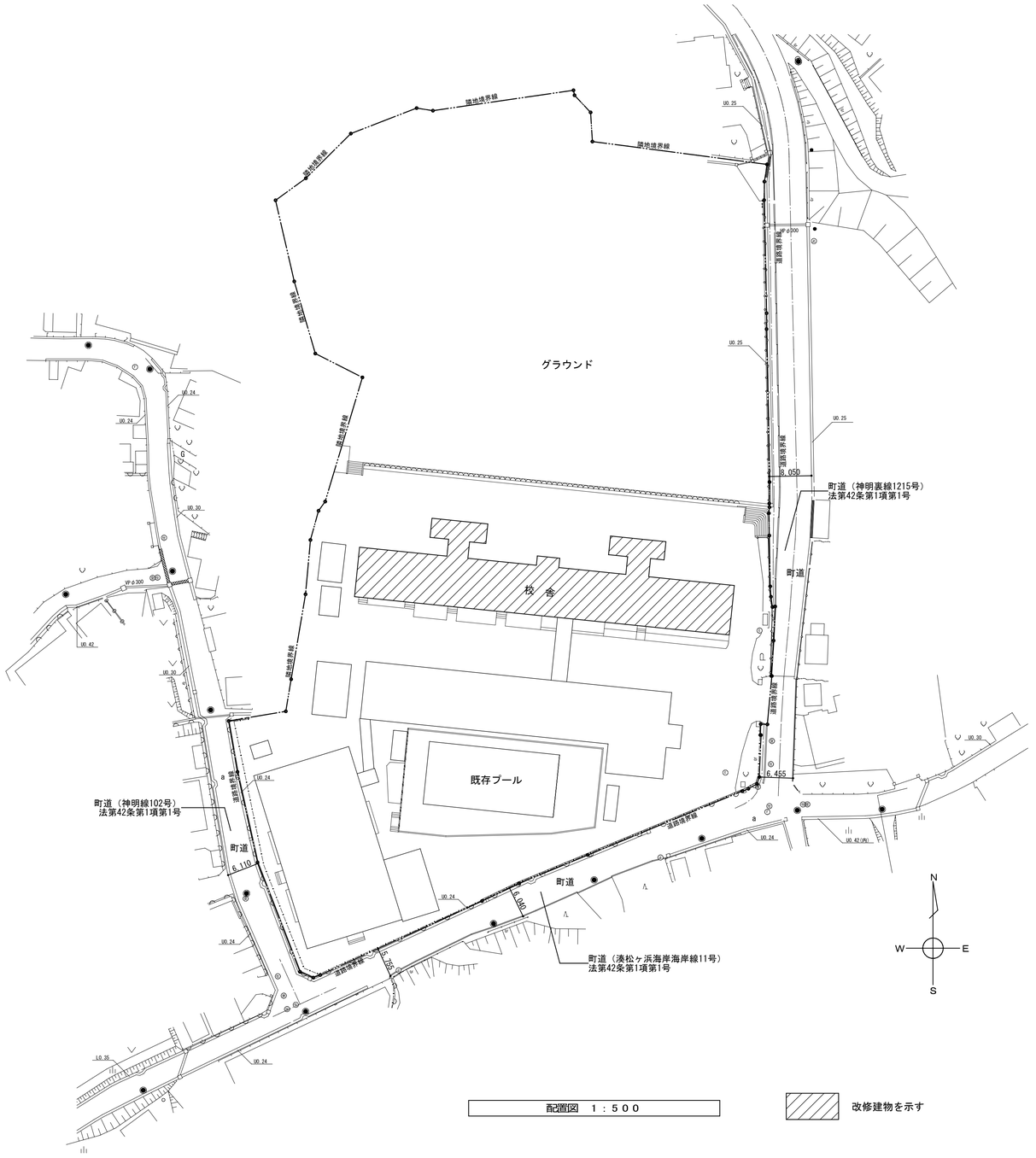
DATE　SCALE　DRAWN　CHECK

株式会社 構 建築設計事務所　一級建築士　第２９５３１７号　徳田　伸治



施行場所：宮城県宮城郡七ヶ浜町松ヶ浜字神明裏５２

案内図



配置図　１：５００

改修建物を示す

JOBNO

平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

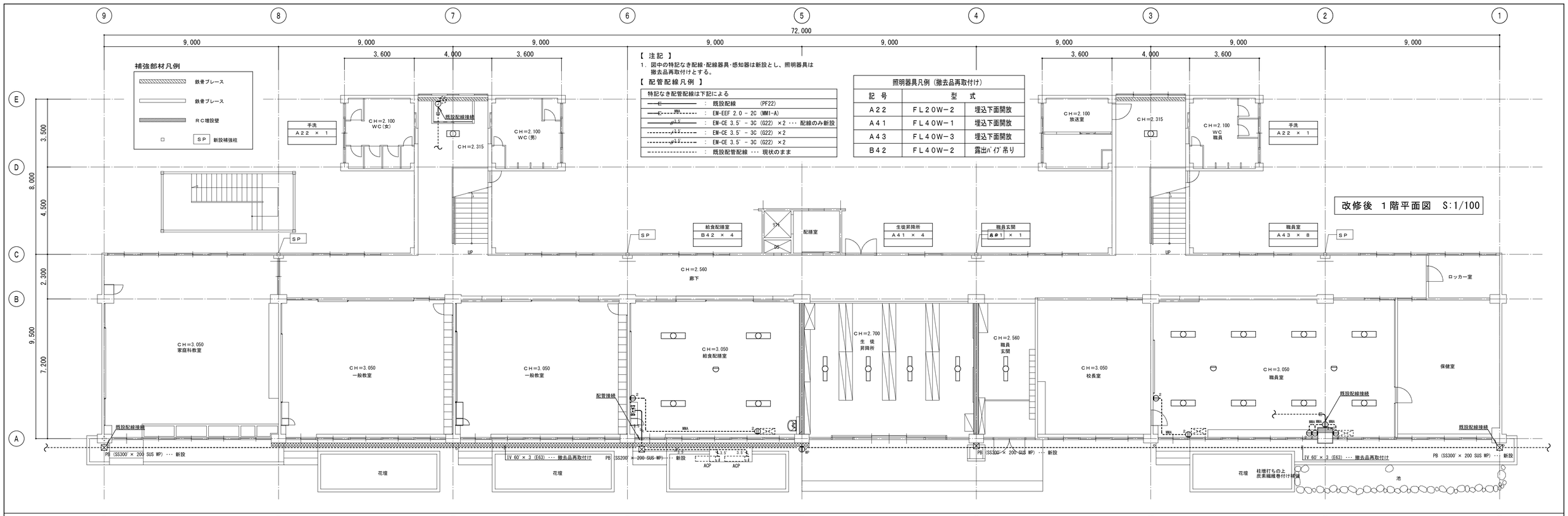
案内図・配置図

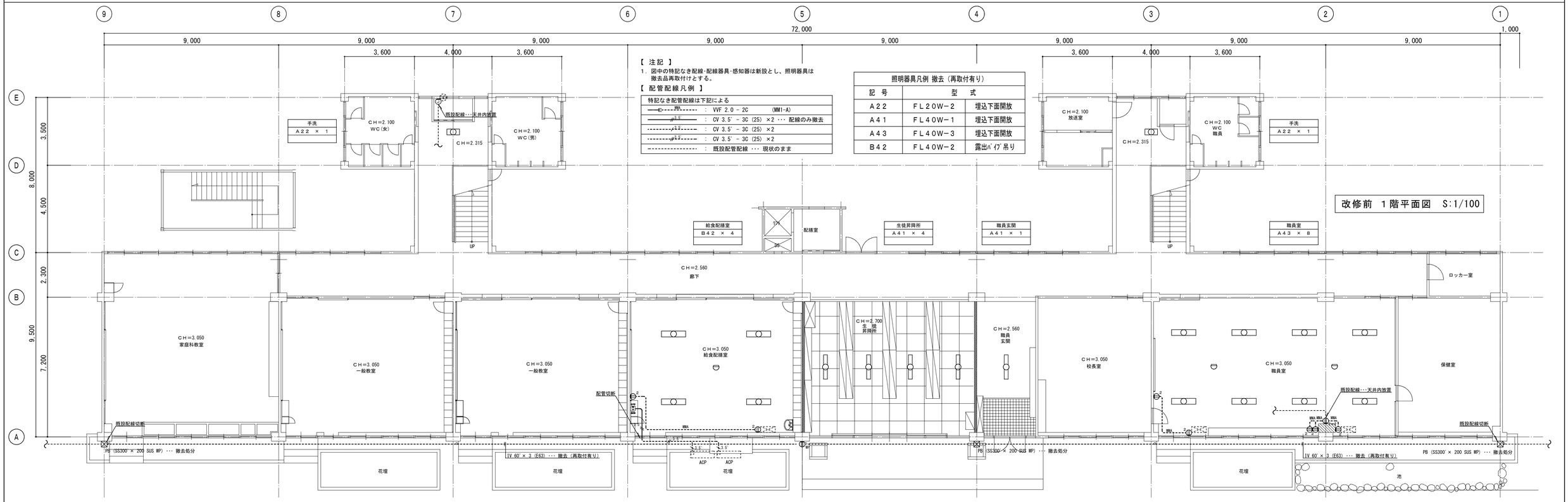
E－2

DATE　SCALE　1:00　DRAWN　CHEK

株式会社 構 建築設計事務所

一級建築士　第 295317 号　徳田　伸治





JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

電気設備 1階平面図 E－3

DATE SCAL 1/100 DRAWN CHEK

株式会社 構 建築設計事務所

一級建築士 第295317号 徳田 伸治

機械設備改修工事特記仕様書

Ⅰ．工事概要

1．工事名称　平成22年度松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

2．工事場所　宮城県宮城郡七ヶ浜町松ヶ浜字神明裏５２

3．建物概要

建物名称	構造	階数	延床面積(㎡)	建築面積(㎡)	消防法施行令別表第一による用途区分	備考
校舎	RC造	3階	2，458		7項	既存校舎

4．工事種目（◎印のついたものを適用する。）

建設別及び工事種目	校舎	工事種別	屋外
◎空気調和設備	改修一式		
・冷房設備			
◎暖房設備	改修一式		
◎換気設備			
・排煙設備			
・自動制御設備			
◎衛生器具設備	改修一式		
◎給水設備	改修一式		
◎排水設備	改修一式		
・給湯設備			
◎消火設備	改修一式		
・厨房機器設備			
・ガス設備			
・ろ過浄化槽設備	別紙仕様書による		
・昇降機設備	別紙仕様書による		

5．指定部分　※　なし　・　あり　（工　期：平成　年　月　日）
（対象部分：　　）

6．設備概要（　◎　印のついたものは、主要方式を示す）

方式	設備概要
空気調和方式等	◎　空気調和　・　全空気方式　・　ファンコイルユニット・ダクト併用方式　◎　パッケージ方式
	◎　温風暖房　◎　温風暖房機　・ ・　全空気方式　・　ファンコンベクター・ダクト併用方式 ・　将来冷房考慮（・　ダクト　・　配管　・　機器）　・考慮外
	・　直接暖房　・　蒸気暖房　・　温水暖房　・
自動制御方式	・　電気式　・　電子式　・　デジタル式　・　空気式　・　中央監視制御
給水方式	・　水道直結方式　◎　高置タンク方式　・　タンクレスブースター方式　・
排水方式 既設配管に接続	建物内の汚水及び雑排水（・　分流式　・　合流式） 建物外の汚水及び雑排水（・　分流式　・　合流式） 放流先　汚水（・　下水道直放流　・　し尿浄化槽） 雑排水　（・　下水道直放流　・　し尿浄化槽　・　側溝　・　別途桝）
給湯方式	◎　局所式　・　中央式
消火設備方式	・　屋内消火栓　（・　湿式　・　乾式）　・　連結送水管　・　泡消化 ・　スプリンクラー　（・　湿式　・　乾式）　・　連結散水　・　粉末消化 ・　二酸化炭素　・　屋外消火栓
ガス設備方式	・　都市ガス　種別（　　）　kJ／m3（N）（供給圧力　Pa）　・　液化石油ガス

Ⅱ．特記仕様書

1．一般事項　（１）特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて「国土交通省大臣官房官庁営繕部整備の公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編、平成１９年版）」（以下「改修標準仕様書」という。）及び国土交通大臣官房官庁営繕部設備・環境課監修の「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編、平成１９年版）」（以下「標準図」という。）による。ただし、改修標準仕様書に記載されていない事項は、国土交通大臣官房官庁営繕部整備の「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）（平成１９年版）」（以下「標準仕様書」という。）による。
（２）電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、電気設備工事及び建築工事はそれぞれの工事仕様書を適用する。なお、電気設備工事の工事仕様書は（　／　）図、建築工事の工事仕様書は（　／　）図による。

2．特記事項　（１）項目は番号に◎印のついたものを適用する。
（２）特記事項は、◎印のついたものを適用する。◎印の付かない場合は、※印のついたものを適用する。
◎印と◎印の付いた場合は、共に適用するものとする。

章	項目	特記事項
一般共通事項	① 適用基準等	◎　宮城県建築工事写真撮影要領（宮城県土木部制定　平成１２年版）。 ◎　建設工事執行規則（昭和３９年３月宮城県規則第９号） ◎　宮城県建設工事元請・下請適正化要綱（平成21年4月1日施行）
	② 機材等	※　本工事に使用する機材等は、設計図書に規定するもの、またはこれらと同等のものとする。ただし、これらと同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受けるものとする。 ※　本工事に使用する材料の選定及び施工に当たっては、「県有施設のシックハウスマニュアル」に留意し、揮発性有機化合物の放散による健康への影響に配慮する。 ※　使用する材料のホルムアルデヒド仕様は、日本工業規格及び日本農林規格のＦ☆☆☆☆規格品、壁装材料協議規格適合品または同等品、化学物質等製品安全データシート等にホルマリン不使用が明示されたものとする。
	③ 機材の品質・性能証明	本工事着手前に主要機材メーカーリスト及び機器製作図を提出し、監督員の承諾を受ける。 また、設備機材は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明資料又は外部機関等が発行する資料等の写しを監督職員に提出して、承諾を受ける。なお、標準仕様書に規定される製作図、試験成績表等を含む。
	④ 保険	本工事着手前に工事目的物及び工事材料等を、本工事完了後引渡し期日まで、火災保険及びその他の保険に付し、写しを監督員に提出のこと。
	⑤ 雇用	本工事は、公共職業安定所の紹介する者の雇い入れに努めること。
	⑥ 施工計画書および施工図等	工事の着手に先立ち、工事の総合的な計画をまとめた総合施工計画書を作成し、監督員に提出する。 工事の施工に先立ち、工種別施工要領書および施工図等を作成し、監督員の承諾を受ける。 また、県が実施する「公共事業環境マネジメントシステム」の対象工事においては、環境配慮計画（実施）書を作成し、監督員に提出する。
	⑦ 工事実績情報の登録	※　適用する（請負額が５００万円以上の場合）　・　適用しない 受注時及び完了時にあらかじめ監督員の承認を受け、登録手続きを行い、工事カルテの受領書を、監督員に提出する。（請負額が２，５００万円未満の場合は、受注時のみ）
	⑧ 手続	工事の着手、施工、完成にあたり、関係官公署その他の関係機関への必要な届出手続等を遅滞なく行う。 なお、当該手続きに係わる費用は、請負者の負担とする。
	⑨ 事故報告	施工中に事故が発生した場合には、直ちに監督職員に通報するとともに、別に指示する「事故報告書」を指示する期日までに監督職員に提出する。
	10．電気保安技術者	※　適用する　・　適用しない
	⑪ 技能士の適用	本工事に下記の当該職種別技能士（・１級・２級）を適用させる。（資格証の写しを提出する） ◎　配管（配管工事）　・　建築板金（ダクト製作及び取付け）　・　熱絶縁施工（保温工事） ・　冷凍空気調和機器施工（チリングユニット、パッケージ形空気調和機の据付及び調整） ・　別契約の関係請負者が定置したものは無償で使用できる。　・　本工事で設置 ◎　別契約の関係請負者が定置したものは無償で使用できる。　・　本工事で設置 枠組足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン（厚生労働省平成１５年４月策定）」によるものとし、二段手すり及び幅木の機能を有するものでなければならない。
	13．監督員事務所	※　設けない　・　設ける（　　号・・・建築工事仕様書）
	14．工事用仮設物	構内に作ることが　※　できる　・　できない
	⑮ 残土処理	・　構外搬出　※　構内指示の場所に敷きならし　・　構内指示の場所にたい積 建設発生土を場外へ搬出する場合　１建設発生土現場管理者（複数可）を選任し、施工計画書に記載し、提出する。２ダンプトラック等管理表を、工事着手前に監督員に提出する。３建設発生土搬出等管理表を、搬出を行う日毎に作成し、1週間毎の集計表を監督職員に提出する。４建設発生土は受入地において、搬出先土量を伝票により管理するとともに、搬出先の土量を確認する。
	⑯ 発生材の処理 建築工事に準拠する	（１）建設リサイクル法の規定に基づく通知義務等の該当　・　なし　・　あり（　　） （２）　冷媒回収費用は（　・　本工事　・　別途工事　） 　冷媒の回収にあたっては、「特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律（フロン回収破壊法）」に従って行い、監督員に第一種フロン類回収業者登録通知書の写し、フロン類回収証明書を提出する。ただし、家庭等のエアコン等で「特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）」の対象となっているものは、法に従ってリサイクル（フロン類の回収を含む）を行い、監督員に、特定家庭用機器廃棄物管理票（家電リサイクル券の写しを提出する。 （３）引渡しを要するもの　※　なし　・　あり（　　） （４）廃棄物は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」等の関係法令を遵守し、、場外搬出の上、適切に処分する。 （ア）特別管理産業廃棄物 ※　なし　・　あり　（　　） （イ）特定建設資材廃棄物の再資源化等を行う施設 ・コンクリート　（　　） ・コンクリート及び鉄から成る建設資材（　　） ・木　　材　（　　） ・アスファルトコンクリート　（　　） （ウ）その他発生材の処分を行う施設 ・　コンクリートガラ等の安定型の産業廃棄物（　　） ・　木くず等の管理型の産業廃棄物　（　　） 建設リサイクル法 ・　対象工事 　落札が決定した業者は、分別解体等省令で定める様式第１号別表１～３のうち当該工事に該当する別表及び工程表を作成し、契約締結前に、契約担当者等に説明書を提出するものとする。また、特定建設資材廃棄物の再資源化等が完了したときは、建設リサイクル法第１８条に基づいて書面により報告すること。 ・　対象外工事

章	項目	特記事項
一般共通事項	⑰ 総合調整	※　本工事において下記の項目の総合調整を行い、報告書を提出する。　・　別途 総合調整の項目 ・　風量調整　◎　水量調整　・　室内外空気の温湿度測定 ・　室内気流及びにんあいの測定　・　騒音の測定　◎　初期運転状態の記録 ◎　来端水栓の残留塩素濃度の測定　・　し尿浄化槽放流水質の測定 ◎　機器の絶縁抵抗の測定　・　水圧調整 測定箇所は、監督員の指示による。
	18．容量等の表示	（１）機器類の能力、容量等は指示された数値以上とする。 （２）電動機出力、燃料消費量及び圧力損失は、原則として表示された数値以下とする。
	⑲ 耐震措置	機器、配管、ダクト等は耐震を考慮し堅固に据え付け、取付け又は支持を行う。 耐震措置の計算及び施工方法は、次に掲げる事項以外すべて建築設備耐震設計施工指針（建設省住宅局建築指導課２００５年版整備）による。

設置場所	設計用標準震度 特定の施設		一般の施設	
	重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上階屋、屋上及び塔屋	2.0（2.0）	1.5（2.0）	1.5（2.0）	1.0（1.5）
中間階	1.5（1.5）	1.0（1.5）	1.0（1.5）	0.6（1.0）
一階及び地下階	1.0（1.0）	0.6（1.0）	0.6（1.0）	0.4（0.6）

注（１）設置場所の区分は標準仕様書による。　注（２）（　）内の数値は防震支持の機器の場合に適用する。
（１）本工事の施設は（・一般の施設　◎特定の施設）とする。
（２）地域係数は1.0とする。
（３）100kg以下の軽量な機器（標準仕様書の適用を受けるものは除く）においても耐震を考慮し、据付又は取付けを行うものとするが、前記指針の方法によらなくてもよい。
（４）重要機器類（高置タンク、受水タンクは機器表による。）
（５）昇降機のつり合おもりブロックの脱落防止は、十分な強度を有する方法で固定し、水平総直方向の地震力に対して、つり合おもりが枠から脱落しないようにした構造とすること。
特記されていない仕様やサイズは、機器付属品を除き機種記載のサイズと同じとする。

⑳ 弁等のサイズ

21．電線類　本工事では環境配慮の観点から、原則としてＥＭケーブルを使用するものとする。なお、標準仕様書第６編　通信・情報設備工事　第１章　機材　第１節　電線類等　1.1.1 電線類等　表1.1.1電線類に次の種類を追加する。
（ＥＭ－ＣＥＥＳ、ＥＭ－ＵＴＰ、ＥＭ－ＭＥＥＳ、ＥＭ－ＥＢＴ）

22．溶接部の非破壊検査　対象配管系統　・　冷温水　・　冷却水　・　消火（水用）　・　油　・　ガス
検査の種類　・　浸透探傷検査（ＰＴ）又は磁粉探傷検査（ＭＴ）　・　放射線透過検査（ＲＴ）

㉓ はつり　既存のコンクリート等の床、壁の配管貫通部等の穴明けは原則として ダイヤモンドカッターによる。

X線検査　※行わない　・　行う

㉔ 支持金物・固定金具　（１）　ポンプ・屋外機器のアンカーボルトのナット及び据付の配管・ダクトに使用する支持金物はステンレス製（SUS304）とし、ポンプ・屋外機器のアンカーボルトのナットにはナットキャップ（樹脂製）を取り付ける。
（２）　振動を伴う機器の支持金物のナットはダブルナットとする。
（３）冷水及び冷温水管の吊バンド等の支持部は、合成樹脂製の支持受けを使用する。

㉕ 埋戻し土・盛土　図面に特記のない場合は下記によるほか共通仕様書第２編による。ただし、各工種毎に下記に指示されたものは除く。
・　根切りまでの中の良質土（ただしヒューム管以外の管の周囲には山砂の類）　・　山砂の類

㉖ 地中埋設標及び埋設表示用テープ　地中埋設標及び埋設用テープは、下記により屋外埋設部分に布設する。なお、地中埋設標の設置場所は図示によるほか、屋外埋設管の分岐及び曲がり部に設置する。

（１）給水管	・　地中埋設標	・　埋設用表示テープ
（２）ガス管	・　地中埋設標	・　埋設用表示テープ
（３）油　管	・　地中埋設標	・　埋設用表示テープ
（４）消火管	◎　地中埋設標	・　埋設用表示テープ

㉗ 保　温
・　主機械室は下記の室とし、他は令階機械室とする。
主機械室
・　ダクトの保温の外装は下記による。内装は（・　ロックウール　・　グラスウール）

屋内露出	倉庫・書庫	・　アルミガラスクロス　・
	各階機械室	・　アルミガラスクロス　・
	主機械室	・　アルミガラスクロス　・
	居室・廊下など	・　カラー亜鉛鉄板　・
屋内隠ぺい	ＰＳＰＮ	・　アルミガラスクロス
屋外露出、多湿箇所		・　ステンレス鋼板　・
（　　）		

◎　配管の保温の外装は下記による。内装は（・　ロックウール　◎　グラスウール　◎　ポリスチレンフォーム）

屋内露出	倉庫・書庫	・　アルミガラスクロス　・
	各階機械室	・　アルミガラスクロス　・
	主機械室	・　アルミガラスクロス　・
	居室・廊下など	・　綿布　・
屋内隠ぺい、ＰＳＰＮ		◎　アルミガラスクロス
屋外露出、多湿箇所		・　ステンレス鋼板　・着色アスファルトプライマー ・アスファルトプライマー
（　　）		

㉘ 塗　装　下記部位に使用する、外面のっき電線管の露出配管には塗装を施す。
※　屋外露出　※　居室

29．防食処理　土中埋設の鋼管（ステンレス鋼管及び外面被覆鋼管は除く）及び金属製継手類（砲金製弁・継手を含む）にはペトロラタム系防食テープ及びプラスチックテープによる防食処理を行う。（埋設配管は原則として、防食処理不要の管材とする。）

30．山留め　切取り面にその面所の土質に見合った勾配を保って掘削できる場合を除き、掘削の深さが1．5mを超える場合には、山留めを行うものとする。

31．舗装工事　国土交通省大臣官房官庁営繕部整備の建築工事標準仕様書22章（舗装工事）及び同監理指針（舗装工事）による。

32．他工事との取り合い　図面に特記なき場合は、表「工事区分表」による。

㉝ 再使用品の清掃　再使用する機器類は現場内で可能な洗剤による水洗等の清掃を行う。

㉞ 火気の使用　建物内での火気の使用は原則として行わない。

35．室内空気中の化学物質の濃度測定　室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレンの濃度を測定し、監督員に報告すること。測定はパッシブ型採取機器により行う。
測定対象室（　　）、測定箇所数（　　）

㊱ 施工図書　◎下記によるほか、改修標準仕様書第１編１．５．１及び１．５．２による。
・施工計画書　◎事前調査
　調査項目（・　　・　　）　調査範囲（給水・排水・ガス設備　）　調査方法（・　　・　　）

37．アスベスト　アスベストについては、労働安全衛生法（石綿障害予防規則）・廃棄物処理法等に則り処理を行うこと。
アスベスト使用状況（　　）

38．あと施工アンカー　（１）あと施工アンカー　※接着系アンカー　（接着剤は有機系とする）
※金属拡張系アンカー　（※本体打込み式　）
（２）試験等　性能確認試験　※行わない　・行う
施工確認　※行う　・行わない
既設インサート及びアンカーボルトを　※使用しない　・使用する

㊴ 既設インサートおよびアンカーボルト

40．宮城県リサイクル製品利用促進について　・　認定品利用対策工事として次の認定製品を使用すること。
（使用製品名：　　使用場所：　　）
※　認定製品使用対象外工事だが、利用の促進に努めること。

41．施工条件　別添の施工条件明示書による。

仮設工事	① 工事用電力、水、その他	本工事に必要な工事用電力、水などの費用、及び官公署等への諸手続きなどの費用は、請負者の負担とする。 既設コンセントの使用　※　不可　・　可 既設給水栓の使用　※　不可　・　可
	2．養生	養生範囲（　　） 養生方法（　　）
空気調和◎冷房◎暖房設備	1．設計温湿度	

	外気				屋内（調整目標値）			
	一般系統				一般系統			
	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)
夏期	℃	%	℃	%	２６℃	５０%	℃	%
冬季	℃	%	℃	%	２２℃	４０%	℃	%

2．ばい煙濃度計　取付箇所は図示による。
3．煙　突　※　別途　・　本工事（鋼板厚　㎜、高さ　ｍ以上）
4．煙　道　※　煙道径300mm以下は鋼板厚3．2mm、300mmを超えるものは4．5mmとする。　・　図示による。
（煙道径が400mmを超えるものには、掃除口に蝶番を取り付ける。）
5．ダクトの区分　低圧とする（高圧１及び高圧２の部位は図示による。）
6．長方形ダクトの工法　・　アングルフランジ工法　・　コーナーボルト工法　（　・　共板　・　スライド）
7．風量測定口　取付け場所は　・　図示した位置　・　送風機吐出ダクト又は吸込ダクト　・　外気取入れダクト
・　風量調整ダンパーの上流又は下流　・　空調機のサブライチャンバーからの分岐ダクト
8．チャンバ　（１）内貼りを施すチャンバーの表示寸法は外法を示す。
（２）空気調和機に取付けるサプライチャンバー及びレタンチャンバーで消音内貼りしたチャンバーには、点検口を設ける。なお点検口の大きさは図示による。
（３）外壁に面するガラリに直接取り付けるチャンバー及びホッパーは雨水の滞留のないように施工する。

排煙設備	1．ダクト	・　亜鉛鋼板製　・　鋼板製（1.6㎜以上）
	2．排煙口の形式	・　可動羽根（スリット共）　・　可動パネル
	3．排煙口解放装置	・　可動羽根（スリット共）　・　可動パネル
	4．排煙風量測定方式	建築設指定期検査業務指導書（　　）、日本建築設備安全センター）の排煙風量の検査方式に準ずる。
自動制御設備	1．中央監視制御	中央監視制御装置の構成機能は別紙による。
	2．計装工事の配線	屋外・屋内露出の配線は、図面に特記のない限り金属管配線とする。
衛生器具設備	1．大便器洗浄弁	不凍結節水弁付とする。
	2．便器洗浄用タンク	※　手洗なし　・　手洗付
	3．小便器節水装置	※　節水装置（機能は別記による）　・　押ボタン式（不凍結節水弁付）
	4．小便器洗浄管	※　埋込　・　露出
	5．付属水栓	吊りこまず（節水こまず）とする。
	6．自動水栓	電源供給方式（　※　ＡＣ１００Ｖ　）
	7．大便器耐火カバー	設ける（ビット内を除く）
	8．注記板	対象器具（　　）
給水設備	1．量水器	（１）親メーター　※　水道事業者支給品　（２）子メータ※　本工事
	2．量水器桝	（１）親メーター用　※　水道事業者の指定品　・　標準図（機材５３） （２）子メーター用　※　標準図（機材５３）　・　水道事業者の指定品
	⑤ 配管材料	（１）一般用 ・　ステンレス鋼管（拡管）　・　塩ビライニング鋼管（・ＶＡ　・ＶＢ） ・　塩ビライニング鋼管（・ＰＡ　◎ＰＢ）　・　ポリ粉体ライニング鋼管（ＰＤ） ◎　ポリ粉体ライニング鋼管（・ＰＡ　◎ＰＢ）　・　ビニル鋼管（ＪＩＳ　Ｋ　６７４２）（ＶＰ） ・　〃　（ＨＩＶＰ） （２）土間配管（厨房、浴室等のシンダー内含む）　◎　ポリエチレン管 ・　ステンレス鋼管（ＳＵＳ３１６）　・　水道用ゴム輪形硬質塩化ビニル管 ・　塩ビライニング鋼管（ＶＤ） ◎　ポリ粉体ライニング鋼管（ＰＤ） （３）屋外土中用 ・　ステンレス鋼管（ＳＵＳ３１６拡管） ・　塩ビライニング鋼管（ＶＤ） ・　ポリ粉体ライニング鋼管（ＰＤ） ・　ビニル管（ＪＩＳ　Ｋ　６７４２）（ＶＰ） ・　〃　（ＨＩＶＰ） ◎　ポリエチレン管 ・　水道用ゴム輪形硬質塩化ビニル管
	4．不凍水栓柱	化粧ケーシング（　・　アルミ合金製　・　合成樹脂製　）
	5．壁埋込型散水栓ﾎﾞｯｸｽ	鍵付とする。
	⑥ 弁類	（１）水道直結部分　※　ＪＩＳ又はＪＶ１０Ｋ　・　水道事業所の規定による　Ｋ （２）その他の部分　※　ＪＩＳ又はＪＶ５Ｋ　・　ＪＩＳ又はＪＶ１０Ｋ
	7．給水栓	（１）屋内（　※　一般水栓　・　耐寒水栓　）　（２）屋外（　※　耐寒水栓　・　一般水栓　） 湯沸室、台所、厨房用水栓は泡沫式とする。
	8．埋設深さ	（１）一般敷地内（　　ｍ以上）　（２）敷地内車両道路（　　ｍ以上） （３）公道部分（　※　水道事業者及び道路管理者規定による　）
	9．保　温	（１）量水器桝内の保温を行う。
	10．埋設弁開閉用ハンドル	本工事に　※　含む（水道事業者管理用以外の弁操作用）　・　含まない
	11．水道加入金等	水道加入金　・　要（　・　本工事　・　別途　）　・　不要 ・　その他（　　）　・　要（　・　本工事　・　別途　）
	12．その他	給水管の最小口径は20mmとする。ただし、器具接続部分を除く。
排水設備	① 配管材料	（１）屋内汚水管 ・　排水用塩ビライニング鋼管 ・　コーティング鋼管 ・　メカニカル形排水鋳鉄管 ・　鉛管 ◎　ビニル管（ＶＰ） ・ （２）屋内雑排水管 ・　配管用炭素鋼鋼管（白） ・　排水用塩ビライニング鋼管（厨房用排水管） ・　排水用タールエポキシ塗装鋼管（厨房用排水管） ◎　ビニル管（ＶＰ） ・　耐火２層管管（ＶＰ）

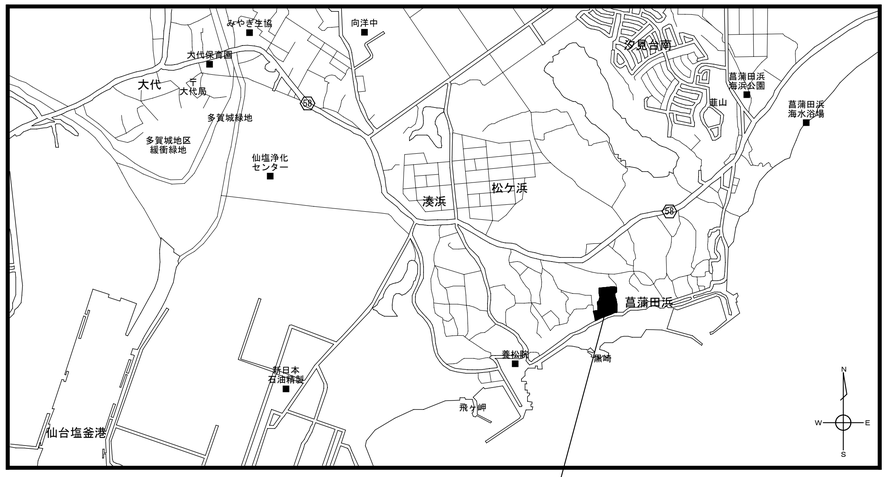
排水設備	2．排水桝	・　桝リストは図面番号（　　） （１）材料　・　ＲＣ　◎　硬質塩化ビニル　・　ポリプロピレン　・　ＳＣ （２）ふた　・鋳鉄製（　・　ＭＨＡ　・　ＭＨＢ　・　Ｔ８Ａ　） ◎樹脂製
	3．グリース阻集器	（３）規格　・　下水道協会（ＪＳＷＡＳ）　・　排水設備用樹脂製桝協会（ＨＭＳ） ・　市町村別基準（　・　有　・　無　） ・ＦＲＰ製（　　Ｌ）　・ＳＵＳ製（　　Ｌ）　詳細は図示。
	4．満水試験継手	（４）土間配管用　・　排水用塩ビライニング鋼管　・　コーティング鋼管　◎　ビニル管（ＶＰ） （５）通気管　・　配管用炭素鋼鋼管（白）　・　排水用塩ビライニング鋼管　・　排水用塩ビライニング鋼管　◎　耐火２層管管（ＶＰ） 図示の箇所に取付け、満水試験を行うこと。
	5．試　験	・　衛生器具などの取付完了後、排水試験又は通水試験を行う。 ・　衛生器具などの取付完了後、煙試験を行う。
	6．放流負担金等	・　不要　・　要（　・　別途工事　・　本工事　）
	7．基礎材	※　再生クラッシャーラン
	8．その他	
給湯設備	1．配管材料	・　ステンレス鋼管（ＳＵＳ３０４拡管）　・　耐熱性ライニング鋼管　・　鋼管　・　被覆鋼管 保温付被覆鋼管　＜断熱管及び補給水タンクよりボイラー等への補給水管を含む。＞
	2．弁　類	給水設備の当該事項による。
	3．湯沸器の排気筒	厚さ0．5mm以上のステンレス鋼板製とする。
	4．保　温	湯沸器の給排気筒（二重管）のいんぺい部保温を行う。（ｈ・（イ）・ＶＩ）
消火設備	① 配管材料	（１）一　般　（２）地中埋設部 ◎　配管用炭素鋼鋼管（白）　・　外面被覆鋼管（ＳＧＰ－ＶＳ） ・　圧力配管用炭素鋼鋼管（Ｓｃｈ40）　◎　〃　（ＳＧＰ－ＰＳ） ・　〃　（ＳＴＰＧ－３７０ＶＳ） ・　〃　（ＳＴＰＧ－３７０ＰＳ）
	2．消火栓開閉弁	・　圧力配管用炭素鋼鋼管（継目無管）（Ｓｃｈ80） ・　ＪＩＳ10Ｋ　・　ＪＩＳ20Ｋ
	② 保　温	（１）屋外露出管については給水管に準ずる。 （２）完水タンクの保温　・　施工しない　・　施工する （３）消火配管の保温　屋内消火栓　・　施工しない　◎　施工する スプリンクラー　・　施工しない　・　施工する
	4．消火器類	（１）消火器　種別　・　数量　（　　） （２）消火器収納箱　仕様　・　材質　・　数量（　　）
厨房機器設備	1．厨房機器類	図示による（材質などは共通仕様書による）。ただし、寸法は参考とする。
	2．付属制御盤	器具付属の制御盤は、製造者規格品とする。
ガス設備	1．配管材料	（１）一般 ※　配管用炭素鋼鋼管（白）　※　ポリエチレン被覆鋼管 ・　圧力配管用炭素鋼鋼管　・　配管用炭素鋼鋼管（白） ・　鋼管　・　塩化ビニル被覆鋼管 ・　ガス用ポリエチレン管
	2．都市ガス	（１）ガスメーター 親メーターはガス事業者の設置、子メーターは本工事とする。 （２）引込み負担金　・　不要　・　要（　・　別途工事　・　本工事　）
	3．液化石油ガス	（１）ガスボンベ　※ガス供給業者50kg設置（・10kg　・20kg　◎50kg　4本） （２）ガスメーター　親メーターはガス供給事業者の設置、子メーター本工事とする。 （３）集合装置　供給者工事 （４）転倒防止等　供給者工事
	4．ガス漏れ警報器	図示の場所に取付ける　（　・　分離形　・　一体形　）　・　別途電気工事 外部出力端子　（　・　あり　・　なし　）
	5．埋設深さ	（１）一般敷地内（　　ｍ以上）　（２）敷地内車両道路（　　ｍ以上）
	6．その他	（３）公道（ガス供給事業者及び道路管理者規定による） 配管工事は、原則として ガス供給事業者の責任施工とする。　供給事業者名（　未定　）

表１「完成書類」　本工事終了後下記の書類を提出すること。

名称	完成書類	部数	名称	完成書類	部数
1 完成調書	営繕工事完成引渡要領 （平成１３年４月１日版） （作成は、主たる請負者が、他のエ事および監督員の協力を得て取りまとめる。）	1部	7 工事写真 ①工事施工写真	Ａ４版 チューブ式ファイル 工事施工写真は、現行写真（着手前写真と完了写真）並びに施工状況写真とで構成される。	1部
			②完成写真	Ａ４版 ペーパーファイル 完成届に添付	1部
2 完成図 ①黒表紙金文字製本	Ａ４版 （Ａ４機器完成図、５ 取扱説明書とまとめて１冊にしてもよいが、厚さ８０㎜を越える場合は分冊とする。）	1部	③マイクロフィルム	３５㎜　ＭＦフォルダー 設備課保管用	1部
②青焼きニつ折り製本	Ａ２版（Ａ１版ニつ折り）	1部	8 工事週報	Ａ４版 チューブ式ファイル	1部
③青焼きニつ折り製本（縮小）	Ａ４版（Ａ３版ニつ折り） １部は設備課保管	2部	9 工事打ち合わせ議事録	Ａ４版 チューブ式ファイル	1部
④原図	三つ折りケース収納	1部	10 工事に関する承諾確認書	Ａ４版 チューブ式ファイル	1式
⑤完成図書電子データ	JWW又はDXF形式のCADﾃﾞｰﾀもしくはTIFF形式（解像度200DPI程度）	CD 1枚			
3 施工図 ①青焼きニつ折り製本	Ａ２版（Ａ１版ニつ折り） （施工図の枚数が少ない場合は、完成図のニつ折り製本と合本可）	1部	11 各種保証書	Ａ４版 チューブ式ファイル	1部
②原図	三つ折りケース収納	1部	12 その他 ①機器試験成績書 ・機材材質証明書 ・機材検査試験報告書 ・工場検査報告書 ・工場立会検査報告書		1部
4 機器完成図	Ａ４版 黒表紙金文字製本 （２ 完成図と合本可）	1部			
5 取扱説明書 ①保守に関する案内書 ②機器別取扱説明書 ③緊急連絡先一覧	Ａ４版 黒表紙金文字製本 （２ 完成図と合本可）	1部			
6 管理の手引き ①工事概要書 ②機器完成図 ③機器別取扱説明書 ④保守に関する案内書 ⑤緊急連絡先一覧表	Ａ４版 チューブ式ファイル	1部	②現場試験成績書 ・エ事別試験報告書 ・総合運転および試験報告書		

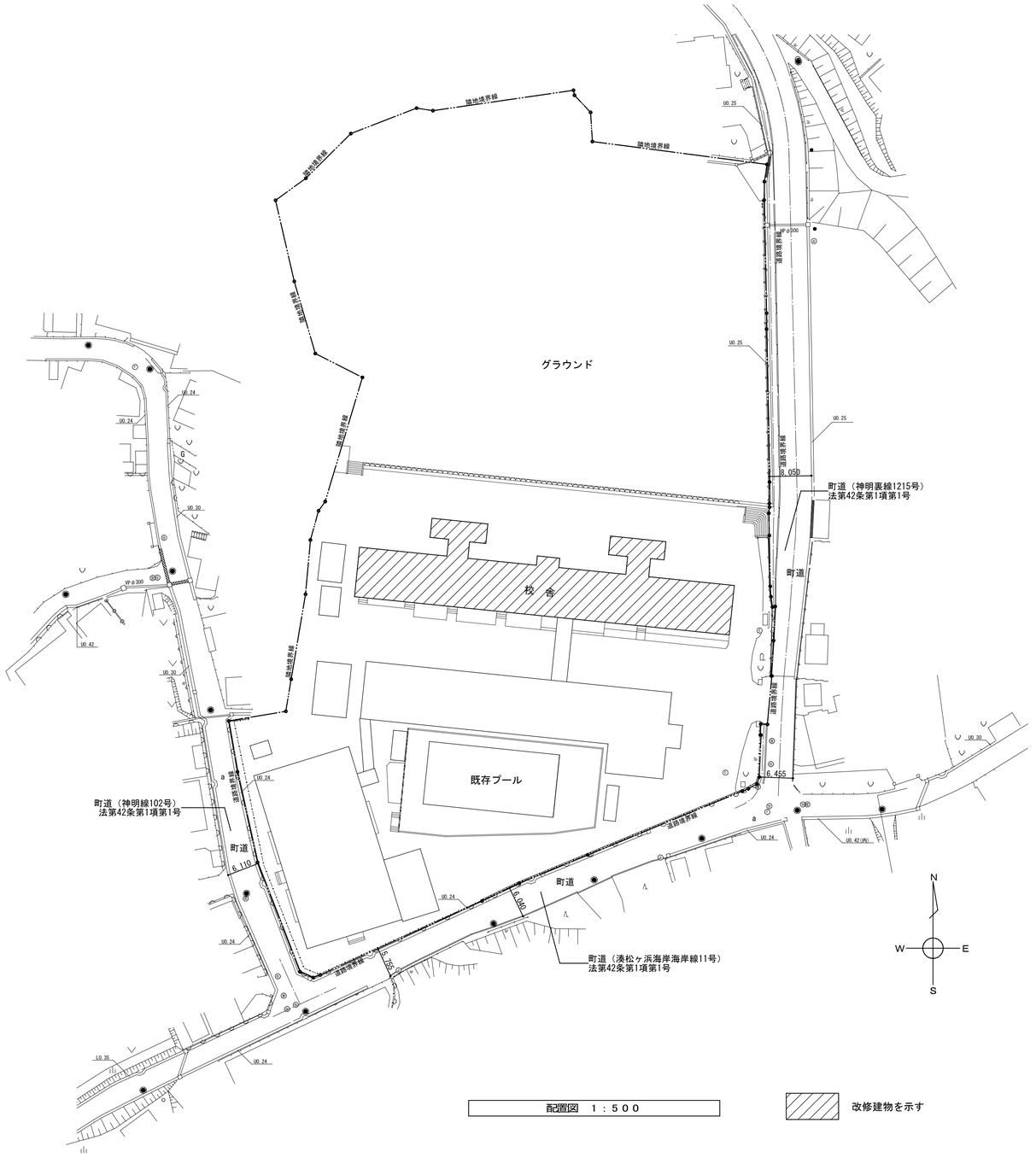
注記：機器及びシステム参考図について
　本図面中で、機器又はシステムの品質・グレードを規定する目的で、対象品の寸法形状、諸元及びシステム構成等を参考図として記載している。
　これらのものについては、その品質・性能が図面と同等品もしくはそれ以上のものを使用するものとする。

JOBNO　平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事　機械設備改修工事特記仕様書
DATE　SCALE　DRAWN　CHECK　M－1
株式会社 構 建築設計事務所　一級建築士　第２９５３１７号　徳田　伸治



施行場所：宮城県宮城郡七ヶ浜町松ヶ浜字神明裏５２

案内図



配置図　１：５００

改修建物を示す

JOBNO

平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

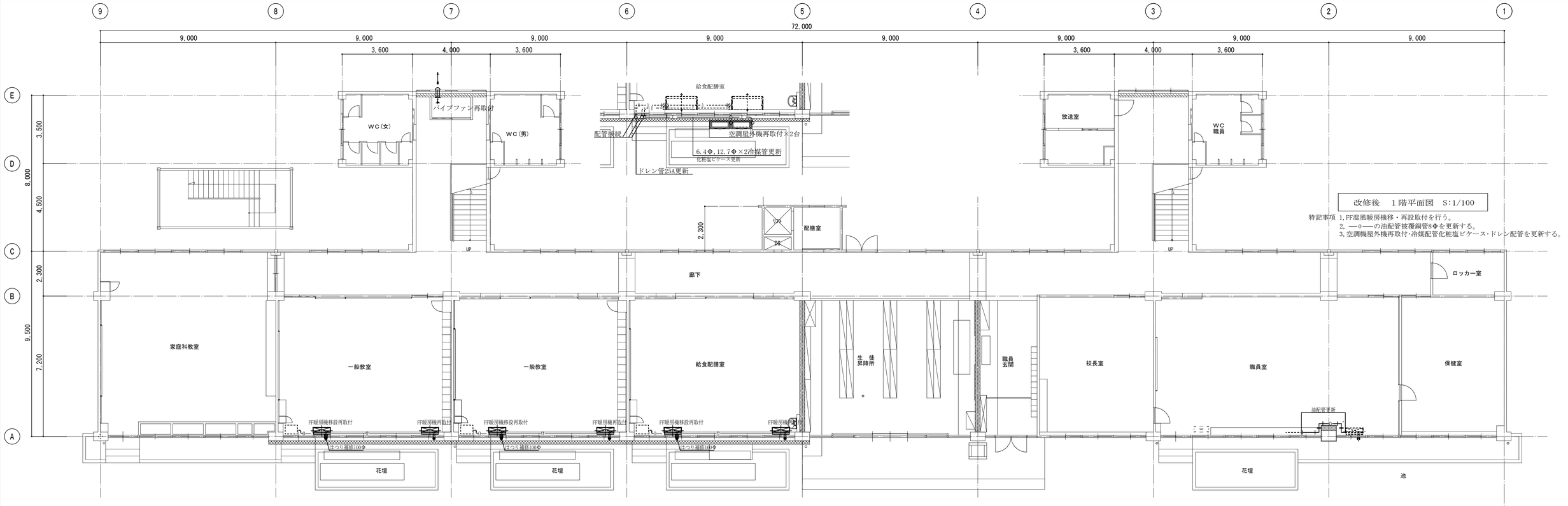
案内図・配置図

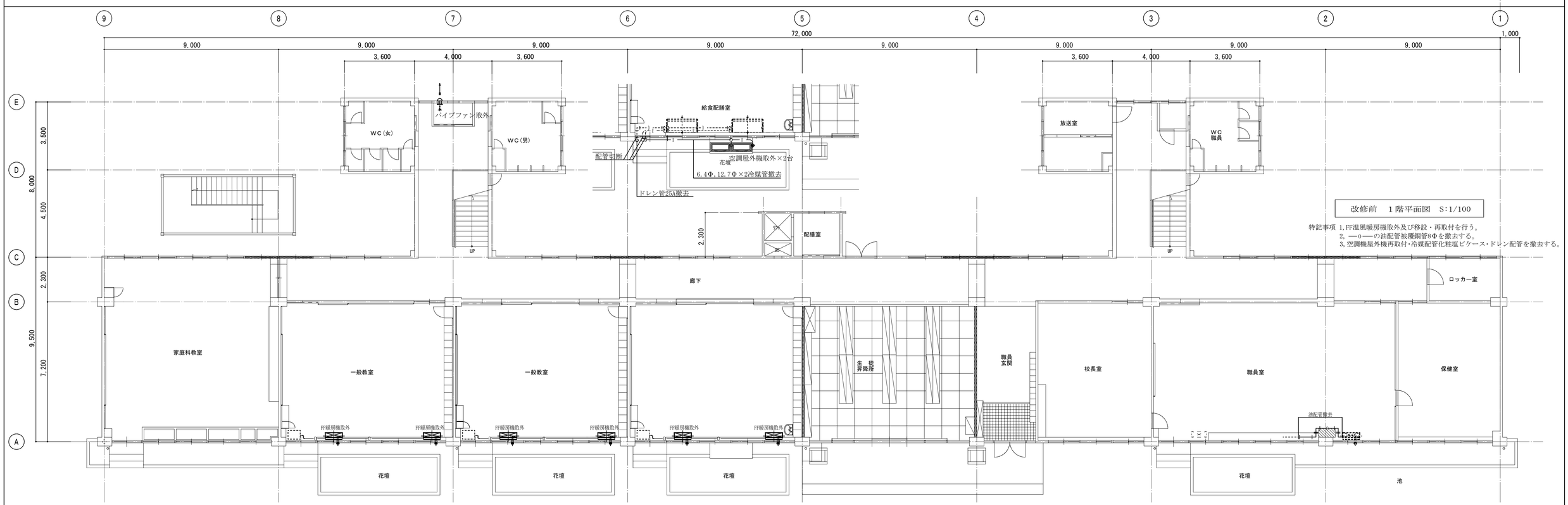
M－２

DATE　SCALE　1:00　DRAWN　CHEK

株式会社 構 建築設計事務所

一級建築士　第 295317 号　徳田　伸治





改修後　１階平面図　S:1/100

特記事項 1,FF温風暖房機移・再設取付を行う。
2,—0—の油配管被覆鋼管8Φを更新する。
3,空調機屋外機再取付・冷媒配管化粧塩ビケース・ドレン配管を更新する。

改修前　１階平面図　S:1/100

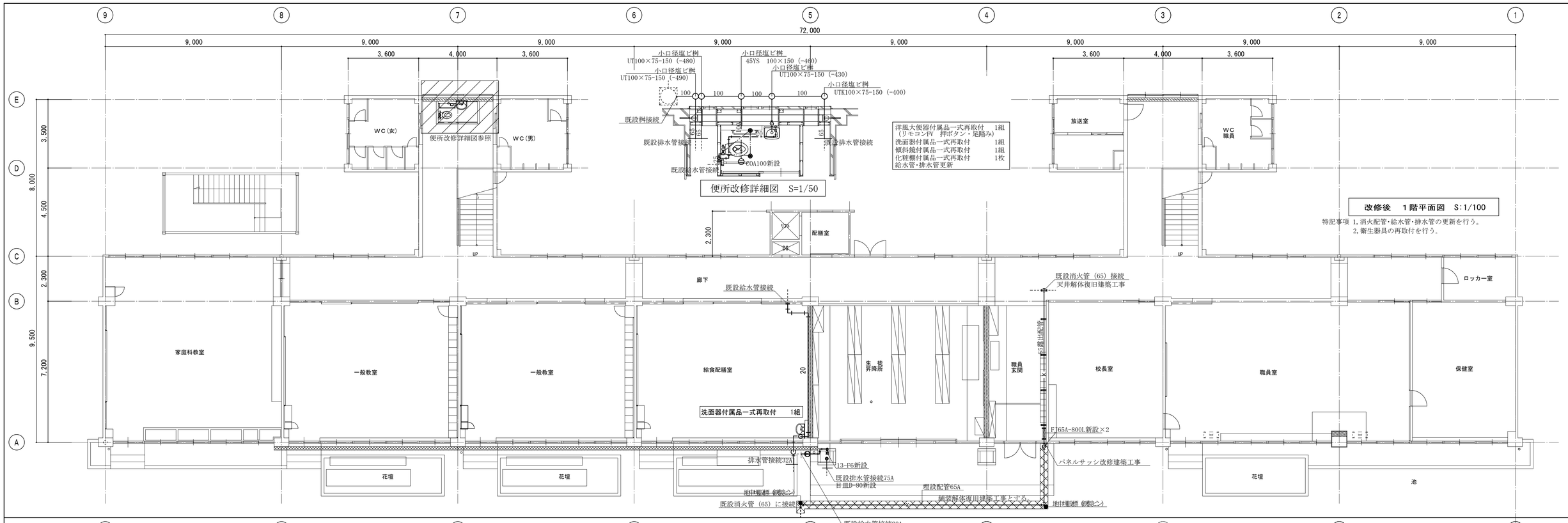
特記事項 1,FF温風暖房機取外及び移設・再取付を行う。
2,—0—の油配管被覆鋼管8Φを撤去する。
3,空調機屋外機再取付・冷媒配管化粧塩ビケース・ドレン配管を撤去する。

JOBNO
平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

空調・暖房設備
改修前・改修後　１階平面図　M－３

DATE　DRAWN　CHECK

株式会社 構 建築設計事務所
一級建築士　第295317号　徳田　伸治



JOBNO 平成22年度
松ヶ浜小学校校舎棟耐震補強及び外壁改修工事

衛生設備
改修前・改修後 1階平面図

M－4

DATE 設計 / 図面 原稿 CHEK

株式会社 構 建築設計事務所

一級建築士 第295317号 徳田 伸治